

学習評価の手引き



平成25年1月

高校教育指導課保 健 体 育 課

はじめに

神奈川県立高等学校においては、平成16年度から「神奈川県立高等学校学習状況調査」、 平成17年度から「生徒による授業評価」、平成19年度から「目標に準拠した評価・観点別 評価」を実施することにより、生徒や学校の学習の実態や課題を把握するとともに、学習 評価をとおして学習指導の在り方を見直すなど、授業改善に取り組み、生徒の確かな学力 の向上を図ることとしています。

平成21年3月に告示された新しい高等学校学習指導要領が平成25年度入学生から年次進行で完全実施されることに伴い、平成22年5月に「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」(文部科学省初等中等教育局長通知)により新しい学習評価の観点及びその趣旨が示され、また、平成24年3月に「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料(高等学校)」(国立教育政策研究所教育課程研究センター)が示されました。

新しい学習評価の観点は、従来の評価の4観点の枠組みを基盤としつつ、基礎的・基本的な知識・技能の習得とこれらを活用する思考力・判断力・表現力等を育成するとともに、学習意欲の向上を図るという学習指導要領の改訂の趣旨を反映し、学力の三つの要素を踏まえて整理されています。

神奈川県教育委員会では、引き続き生徒の確かな学力の向上を図るため、「目標に準拠した評価・観点別学習状況の評価」を着実に実施する必要があることから、平成19年3月に作成した「目標に準拠した評価・観点別評価の手引き【改訂版】」を改訂し、本県における学習評価の基本的な考え方を示すとともに、各学校が単元(題材)等の評価規準を設定したり、「指導と評価の計画」を作成したりする際の留意事項等をまとめた『学習評価の手引き』を作成しました。

平成24年度から全校で取り組んでいる組織的な授業改善の取組においては、「学習状況調査」や「生徒による授業評価」などの分析結果に基づき、学校の実態や課題を踏まえ、学校として生徒に身に付けさせたい力の育成をねらいとした授業づくりを通して日々の授業実践につなげるとともに、年間を通して計画的に行う校内授業研究において学習指導と学習評価を一体のものとして研究し、実践することが重要であることから、本冊子『学習評価の手引き』を参考に取組の推進を図ってください。

各学校においては、新しい評価の観点に基づいた評価の計画も含めた指導計画や指導内容の見直しを行うとともに、学習評価の妥当性、信頼性等を高めるなど、学習評価の改善を図り、指導の充実につなげるようお願いします。

平成25年1月

神奈川県教育委員会教育局参事監兼教育指導部長中岡 正廣

目 次

手引きの目的と活用

学習評価の考え方と進め方	••	1
学習評価の基本的な考え方と見直しの経緯 学習評価とRPDCAサイクル 観点別学習状況の評価を行う意義 観点別学習状況の評価の在り方 各教科・科目の評価の観点について 評価規準の設定について 評価方法について 組織的な授業改善について 評価の総括について 経機的な授業改善について	1 1 2 3 5 7 8 8 12 16 16	
教科別資料(共通教科及び総合的な学習の時間)…	••	23
地理歷史 公民 数学 理科 保健体育 芸術(音楽) 芸術(工芸) 芸術(書道) 外国語 家庭(共通教科) 情報(共通教科) 1 情報(共通教科)	13 120 128 135	
教科別資料(専門教科)	1	46
工業 1 商業 1 水産 1 家庭 (専門教科) 1 看護 1 情報 (専門教科) 1 福祉 1 理数 1 体育 2 音楽 2 美術 2	152 156 163 169 177 184 191 197 200 202 204	
	学習評価の基本的な考え方と見直しの経緯 学習評価とRPDCAサイクル 観点別学習状況の評価を行う意義 観点別学習状況の評価の組点について 評価方法について 指導部の形成について 組評価の総括について 程準の 分科別資料 (共通教科及び総合的な学習の時間) 国語 地理歴史 公民 数学 理科 (保健体育 芸術(美術(工芸) 芸術(書道) 外国語 (共通教科) 情報(共通教科) 情報(共通教科) 情報(共通教科) 情報(共通教科) 農業 工業 商産 、家庭(専門教科) 農業 工業 商業 、家庭(専門教科) 農業 工業 商業 、家庭(専門教科) 農業 工業 商業 、家庭(専門教科) 「専門教科) 「電数 、「東門教科) 「中門教科) 「中野教科) 「中野教科」 「中野教科 「中野教科」 「中野教科」 「中野教科」 「中野教科」 「中野教科」 「中野教科」 「中野教科」 「中野教科 「中野教科」 「中野教科」 「中野教科 「中野教科」 「中野教科」	学習評価の基本的な考え方と見直しの経緯 1 学習評価とRPDCAサイクル 1 観点別学習状況の評価を行う意義 2 観点別学習状況の評価の後方 3 各教科 外目の評価の観点について 8 指導計画の作成について 8 指導計画の作成について 16 Q& A 16 教科別資料(共通教科及び総合的な学習の時間) 1 国語 24 地理歷史 37 公民 48 数科 (主通教科) 64 保健体育 74 芸術(音楽) 88 装術(主通) 10 外国語 120 家庭(書面) 113 外国語 120 家庭(事面) 113 外国語 128 情報(共通教科) 128 情報(共通教科) 128 情報(専門教科) 128 家庭(専門教科) 169 看護 167 家庭(専門教科) 169 看護 177 情報(専門教科) 169 看護 177 情報(専門教科) 169 看護 177 情報 191 理彙

手引きの目的と活用

手引きの目的

本冊子は、学習評価の趣旨及び方法について周知し、すべての神奈川県立高等学校及び神奈川県立中等教育学校後期課程において適切かつ効果的な学習評価が行われることを目的として作成したものです。 学習評価を指導の改善に生かす(指導と評価の一体化)ことは、生徒一人ひとりの確かな学力の向上につながります。

各学校が本冊子を活用し、学習評価の在り方について考え、生徒の ための指導の改善につながる取組としてください。

手引きの活用方法

学習評価全般に関する基本的な事項を確認したい。



第1章「1~10」を参照

「年間指導計画(従前のシラバス)」と「指導と評価の計画」との関連を含め指導計画の立て方を確認したい。



「指導と評価の計画」の作成を校内授業研究の一環として実施することにより組織としての授業改善の推進を図りたい。



学習評価について分からないことを知りたい、調べたい。



第1章「11」を参照

各教科・科目の学習評価に関する留意事項 等を確認したい。



>第2章及び第3章を参照

手引きの作成に当たり、次の資料を参考にしています。 、 については、手引きでは特に必要な場合を除き、次のように省略して表記しています。

「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会 平成22年3月

「小学校,中学校,高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)」 文部科学省初等中等教育局 平成22年5月

「改善通知」

「評価規準の作成,評価方法等の工夫改善のための参考資料(高等学校)」 国立教育政策研究所教育課程研究センター 平成24年3月

「学習評価参考資料」

第1章

学習評価の考え方と進め方

1 学習評価の基本的な考え方と見直しの経緯

- 学習評価は、生徒の学習状況を評価するものであり、各教科については、生徒の学習状況を分析 的に捉える観点別学習状況の評価と総括的に捉える評定とを、目標に準拠した評価として実施する こととされている。
- 学習指導要領の改訂に伴う学習評価に関する見直しの経緯は次のとおりである。

改訂	ねらい	評価	評定
昭和52年 [平成53年]	「知・徳・体」の調和のと れた発達を目ざす	☆集団に準拠した評価 【小・中】 ☆目標に準拠した評価 (観点別学習状況の評価) 【高】	☆集団に準拠して 評価する評定 【小·中】 ☆目標に準拠して
平成元年	社会の変化に対応し主体的 に生きていくことができる資 質や能力を育成する		評価する評定 【 高 】
平成10年 [平成11年] 平成20年 [平成21年]	変化の激しい時代を担う子 どもたちに必要な「生きる 力」を育む	☆目標に準拠した評価 (観点別学習状況の評価) 【小・中・高】	☆目標に準拠して 評価する評定 【 小・中・高 】

[※] 学習指導要領の改訂の上段は小学校学習指導要領の改訂告示の年で示しており、下段[] 内は高等学校学習指導要領の改訂告示の年を示している。

2 学習評価とRPDCAサイクル

- 学習指導要領は、各学校において編成される教育課程の基準として、すべての生徒に対して指導 すべき内容を示したものであり、指導の面から全国的な教育水準の維持向上を保障するものである。
- これに対し、学習評価は、生徒の学習状況を検証し、結果の面から教育水準の維持向上を保障する機能を有するものであることから、学習指導要領に示された目標に照らしてその実現状況を評価する「目標に準拠した評価」を実施する必要がある。

学習指導要領	すべての生徒に対して指導すべき内容を示したものであり、指導 の面から全国的な教育水準の維持向上を保障するもの
学習評価	生徒の学習状況を検証し、結果の面から教育水準の維持向上を保 障する機能を有するもの

○ 各学校における学習評価は、学習指導の改善や学校における教育課程全体の改善に向けた取組と 効果的に結び付け、学習指導に係るRPDCAサイクルの中で適切に実施されることが重要である。 (冊子『組織的な授業改善に向けて』¹の6頁を参照)



今、RPDCAサイクルを踏まえたより効果的な校内授業研究の実践が求められています。

Research (調査):「学習状況調査」、「生徒による授業評価」などを活用し、学校の実態と課題を把握します。

Plan (計画):課題解決に向けて、テーマ(研究テーマ)を設定します。教員同士の共通理解のもと、「より

よい授業づくり」のための研究計画を立てます。

Do _____(実践): 教科等の組織による授業づくりを行います。

Check (評価):「目標に準拠した評価・観点別学習状況の評価」、「生徒による授業評価」など、授業づくりや

研究活動の評価を行います。

Action (改善): 評価の結果を分析して整理し、次の授業づくり(D)へつなげます。また、次年度に向けた

研究活動自体の改善を行い、更なる課題の把握(R)へと発展させます。

3 観点別学習状況の評価を行う意義

【メリット①】

… すべての生徒に確かな学力を身に付けさせる

○ 高等学校においてすべての生徒に確かな学力を身に付けさせるためには、生徒の実現状況に基づいた指導の工夫を行うことが必要である。そのためには、生徒の実現状況を目標に照らして分析的に捉えることが大切であり、目標に準拠した評価により観点別学習状況の評価を行うことが適している。

【メリット②】

… 生徒の学習意欲を向上させる

○ 目標に準拠した評価により観点別学習状況の評価を行うことは生徒一人ひとりの実現状況を確実に把握することが前提であり、それゆえ一人ひとりの進歩したところや他と比べて優れたところなどを把握することが重視される。それらを適宜生徒に伝えることで学習意欲を向上させることにつながる。

^{1 『}組織的な授業改善に向けて』 (平成24年3月 神奈川県教育委員会)

【メリット③】

… 生徒の様々な進路希望の実現につながる

○ 大学や企業等では、思考力をはじめとした多面的な観点から学生や社員を求める取組が行われるようになってきている。観点別学習状況の評価を行うことにより、生徒の思考力や表現力を適切に評価し伸ばしていくことは、これら大学や企業等の受け入れ側が生徒たちに多様な資質・能力を求めていることに応えることにもなり、生徒の様々な進路希望の実現に役立つことになる。

【メリット④】

… 高等学校卒業生についての高等学校における質の保証となる

- 目標に準拠した評価により観点別学習状況の評価を行うことは、生徒に身に付けさせたい資質や 能力を目標設定段階で明確にすることにつながり、授業において評価の機能を生かしながら意図 的・計画的な授業が可能になる。
- 高等学校卒業段階での当該生徒の有する意欲や様々な資質・能力、将来の可能性等を適切に評価することとなり、高等学校卒業生についての高等学校における質の保証となる。

4 観点別学習状況の評価の在り方

○ 学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや、個に応じた指導の充実を図ること、授業 をはじめとした学校の教育活動を組織として改善することが重要である。

「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」における整理

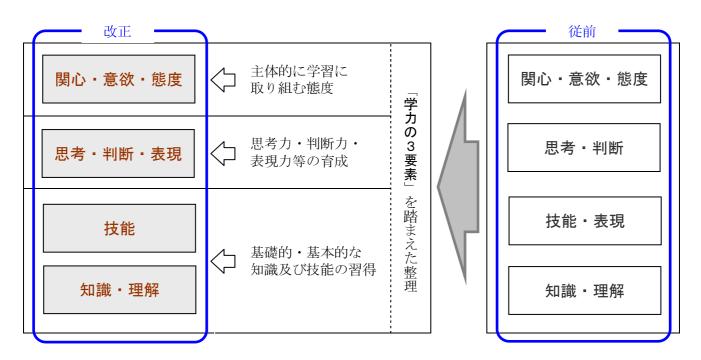
- 学習指導と学習評価を一体的に行うことにより、生徒一人ひとりに学習内容の確実な定着を図り、 授業の改善に寄与する。
- 目標に準拠した評価とは、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を評価することを意味する。

目標に準拠した評価

□ 学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を評価

- 新しい学習指導要領においても「生きる力」の理念を引き継いでいることから、従前の評価の観点を大きく見直す必要はない。ただし、学習指導と学習評価の一体化を更に進めていくためには、 学力の3要素²を踏まえて評価の観点に関する考え方を整理する必要がある。
- そこで、文部科学省は、平成元年の学習指導要領の改訂に伴う指導要録の見直し以降の評価の観点である「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」及び「知識・理解」を、次のような評価の観点に変更した。

² 学校教育法第30条 2 項 (第62条で高等学校に準用) に示された学力の要素で、①基礎的・基本的な知識及び技能の習得、②思考力・判断力・表現力等の育成、③主体的に学習に取り組む態度(学習意欲)の三つをさす。



○ 「**改善通知**」に示された評価の観点の趣旨については、次のように整理することができる。

1 関心・意欲・態度

「関心・意欲・態度」の観点は、これまでと同様、各教科の学習に即した関心や意欲、学習への態度等を対象としたものであり、その趣旨に変更はない。

2 思考・判断・表現

「思考・判断・表現」の観点のうち「表現」については、基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ、各教科の内容に即して考えたり、判断したりしたことを、生徒の説明・論述・ 討論などの言語活動等を通じて評価することを意味している。

つまり「表現」とは、これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく、思 考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて生徒がどのように表出しているかを内容とし ている。

(3) 技能

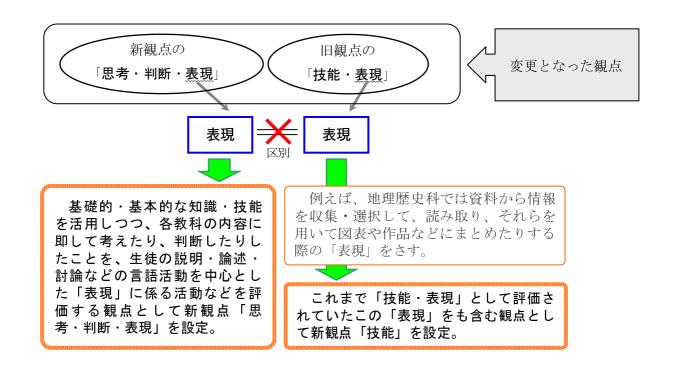
「技能」の観点では、従前の「技能・表現」が対象としていた内容を引き継ぐことになる。これまで「技能・表現」については、例えば地理歴史科では資料から情報を収集・選択して読み取ったりする「技能」と、それらを用いて図表や作品などにまとめたりする際の「表現」とをまとめて「技能・表現」として評価してきた。

今回の改訂で設定された「技能」については、これまで「技能・表現」として評価されていた「表現」をも含む観点として設定されることとなった。

4 知識・理解

「知識・理解」の観点は、これまでと同様、各教科において習得した知識や重要な概念を 理解しているかどうかを内容としたものであり、その趣旨に変更はない。

○ これらのことから、新観点である「思考・判断・表現」の「表現」と、旧観点である「技能・表現」の「表現」が区別されたものであることを押さえることが重要である。



5 **各教科・科目の評価の観点について**(「改善通知」より一部抜粋)

(1) 各教科の評価の観点の変更

教科	改 正	従 前
	関心・意欲・態度	関心・意欲・態度
	話す・聞く能力	話す・聞く能力
国語	書く能力	書く能力
	読む能力	読む能力
	知識・理解	知識・理解
T7 L16	関心・意欲・態度	関心・意欲・態度
及 び 理	思考・判断・表現	思考・判断
び公民	資料活用の技能	資料活用の技能・表現
~ ~	知識・理解	知識・理解
	関心・意欲・態度	関心・意欲・態度
数 学	数学的な見方や考え方	数学的な見方や考え方
学	数学的な技能	表現・処理
	知識・理解	知識・理解
	関心・意欲・態度	関心・意欲・態度
理	思考・判断・表現	思考・判断
科	観察・実験の技能	観察・実験の技能・表現
	知識・理解	知識・理解

教科	改 正	従前		
	関心・意欲・態度	関心・意欲・態度		
及保	思考・判断	思考・判断		
(専) 及び体育 保健体育	運動の技能	運動の技能		
育育	知識・理解	知識・理解		
	音楽への関心・意欲・態度	関心・意欲・態度		
び音術		芸術的な感受や表現の工夫		
び音楽	音楽表現の創意工夫	音楽的な感受や表現の工夫(専)		
(専)	音楽表現の技能	創造的な表現の技能		
及	鑑賞の能力	鑑賞の能力		
共	美術への関心・意欲・態度	関心・意欲・態度		
び美術(美		芸術的な感受や表現の工夫		
	発想や構想の能力 	 発想や構想の能力(専)		
(専) 術	創造的な技能	創造的な表現の技能		
及	鑑賞の能力	鑑賞の能力		
	工芸への関心・意欲・態度	関心・意欲・態度		
立 芸	発想や構想の能力	芸術的な感受や表現の工夫		
(工芸)	創造的な技能	創造的な表現の技能		
	鑑賞の能力	鑑賞の能力		
	書への関心・意欲・態度	関心・意欲・態度		
(書 芸)	書表現の構想と工夫	芸術的な感受や表現の工夫		
道術	創造的な書表現の技能	創造的な表現の技能		
	鑑賞の能力	鑑賞の能力		
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	関心・意欲・態度		
外 国	外国語表現の能力	表現の能力		
語	外国語理解の能力	理解の能力		
	言語や文化についての知識・理解	知識・理解		
理	関心・意欲・態度	関心・意欲・態度		
数	思考・判断・表現	思考・判断		
(専)	技能	観察・実験の技能・表現		
	知識・理解	知識・理解		
英 語	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	関心・意欲・態度		
_	英語表現の能力	表現の能力		
(専)	英語理解の能力	理解の能力		
	言語や文化についての知識・理解	知識・理解		
	関心・意欲・態度	関心・意欲・態度		
$\stackrel{\wedge}{\Rightarrow}$	思考・判断・表現	思考・判断		
	技能	技能・表現		
	知識・理解	知識・理解		

[☆] 家庭、情報、農業(専)、工業(専)、商業(専)、水産(専)、家庭(専)、看護(専)、情報(専)、福祉(専)

^{※ (}専)は、専門教科を示す。

(2) 教科内で観点の数が異なる科目をもつ教科

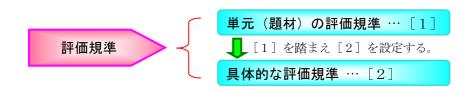
科目	観点の数	評価の観点								
教科:国語		関心・意 欲・態度	話す・聞く 能力	→ < F		読む能力	J	知識・理解		
国語総合 現代文B	5	0	0			0		0		
国語表現	4	0	0)			\circ		
現代文A 古典A 古典B	3	0				0		0		
教科:保健体育		関心・意欲・ 態度	思考・当	判断 運動の技能		の技能	þ	印識・理解		
体育	4	0	0	0		0		0		0
保健	3	0	0	\bigcirc				\circ		
教科:外国語		コミュニケー: ョンへの関心 意欲・態度	1 V(1+1=++7+10				V	言語や文化 こついての 知識・理解		
コミュニケーション英語基礎 コミュニケーション英語 I コミュニケーション英語 II コミュニケーション英語 III 英語会話	4	0	0	0 0		0		0		
英語表現 I 英語表現 II	3	0	0					0		

6 評価規準の設定について

○ 「評価規準」の意味やその必要性に関しては、次のとおりである。

評価規準 とは	学習評価を適切に実施するためには、各教科・科目の目標だけでなく、学習 指導のねらいが明確になっていること、 学習指導のねらいが生徒の学習状況と して実現されたとはどのような状態をさすかを具体的に想定することが必要で ある。このような状況を具体的に示したものが評価規準である。各学校におい て、観点ごとの「おおむね満足できる」状況を評価規準として設定する。
評価規準 設定の意義	生徒の学習状況を判断する際の目安が明らかになり、指導と評価を着実に実施することにつながる。

- 評価規準は、必履修科目など「**学習評価参考資料**」に示されている科目は「**学習評価参考資料**」 を参考にし、また、これ以外の科目に関しては、学習指導要領の各教科並びに各科目の目標及び内 容のほかに、当該部分の学習指導要領解説の記述などを基に、各学校において設定する。
- 評価規準には、単元(題材)ごとに設定する「**単元(題材)の評価規準**」と、「指導と評価の計画」を作成する際に設定する「**具体的な評価規準**」がある。(10~12頁を参照)



- ※ 教科によっては、[1]、[2]を分けずに「単元(題材)の評価規準」として一つで示したり、[2]を「学習活動に即した評価規準」ということで示したりしている。
- 評価規準の設定方法については、「**単元(題材)の評価規準**」については14頁の④、「**具体的な評価規準**」については14~15頁の⑤の中で例示しているので、参照する。
- <u>学習評価をその後の学習指導の改善に生かすとともに、授業をはじめとした学校の教育活動全体</u> の改善に結び付けることが重要である。



- ・ 評価規準の適切な設定
- ・ 評価方法の工夫改善の推進
- ・ 評価結果の教科等の組織内における検討
- 実践事例の継承
- ・ 授業研究等を通じた教師一人ひとりの力量向上への取組

〈校長のリーダーシップのもと学校として組織的に取り組むことが重要〉

7 評価方法について

- 評価方法の例として、**観察、生徒との対話、ノート、ワークシート、学習カード、作品、レポート、ペーパーテスト、質問紙、面接**などがある。また、生徒による自己評価や生徒同士の相互評価を工夫することも考えられる。
- ペーパーテストは、評価方法の一つとして有効であるが、ペーパーテストにおいて得られる結果 が、目標に準拠した評価における学習状況のすべてを表すものではない。
- 「関心・意欲・態度」については、授業中の挙手や発言の回数といった表面的な状況のみに着目 することにならないよう、また、ある程度長い区切りの中で評価を行うよう留意する必要がある。
- 評価方法を評価規準と組み合わせて設定することが必要であり、**評価規準と対応するように評価 方法を準備**することによって、評価方法の妥当性、信頼性等が高まる。
- 1単位時間の中で四つの観点すべてについて評価規準を設定し、そのすべてを評価し学習指導の 改善に生かしていくことは、現実的には困難であると考えられる。1単元(題材)の中で各観点を バランスよく評価できるよう「指導と評価の計画」を作成することが望ましい。

8 指導計画の作成について

- 指導計画の作成に当たっては、はじめに学習指導要領に示された科目の目標及び「**改善通知**」に示された「教科の評価の観点及びその趣旨」に基づき「**科目の評価の観点の趣旨**³」を設定する。
- 次に「科目の評価の観点の趣旨」に基づき、内容のまとまり又は単元(題材)の評価規準を設定

³ 評価規準を作成する際に必要なものである。「**改善通知**」に掲載されているのが「**教科の評価の観点及びその趣** 旨」であり、これと科目の目標を踏まえたものが、「**科目の評価の観点の趣旨**」である。

する。

○ 「科目の評価の観点の趣旨」については、第2章及び第3章で必履修科目などについて例示を掲載しているが、例示がない科目については、次の作成方法を参考に、各学校で設定する。

※ 「教科の評価の観点及びその趣旨」 (<u>第2章及び第3章に掲載</u>) 例) 数学

	W 31 H 3		
関心・意欲・態度	数学的な 見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
数学の論理や体系	事象を数学的に考	事象を数学的に表	数学における基本
に関心をもつととも	察し表現したり,思	現・処理する仕方や	的な概念,原理・法
に、数学のよさを認	考の過程を振り返り	推論の方法などの技	則などを体系的に理
識し、それらを事象	多面的・発展的に考	能を身に付けてい	解し、知識を身に付
の考察に積極的に活	えたりすることなど	る。	けている。
用して数学的論拠に	を通して、数学的な		
基づいて判断しよう	見方や考え方を身に		
とする。	付けている。		

※ 「科目の目標」 (学習指導要領に掲載)

例)数学Ⅱ

いろいろな式,図形と方程式,指数関数・対数関数,三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ,基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り,事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに,それらを活用する態度を育てる。

ゴシック及び網掛けは抜き出した箇所を表す。

〈 「科目の評価の観点の趣旨」 〉 例)数学Ⅱ

関心・意欲・態度 いろな式、図形と方程式、指数関数、三角関数を 対数関か、積分の考えの 考えに関心をも事 が微えたに、それらて の考察に活がいて り しようとする。

いろいろな式、図形 と方程式、指数関数・ 対数関数、三角関数及 び微分・積分の考えに おいて、事象を数学的 に表現・処理する仕方 や推論の方法などの技 能を身に付けている。

数学的な技能

いろいろな式,図形と方程式,指数関数・ 対数関数,三角関数及び微分・積分の考えに おける基本的な概念, 原理・法則などを体系 的に理解し,知識を身 に付けている。

知識・理解

「教科の評価の観点及のでである。 でいるでである。 でいるでは、

する。

「数学Ⅰ」を例に「年間指導計画(従前のシラバス)」と「指導と評価の計画」を示す。 \bigcirc

平成××年度 年間指導計画

「年間指導計画」の例

		学年	第1学年	教科書 ××堂「改新編 数学 I 」
教科·科目	数学·数学 I	単位数	4単位	副教材 ××出版「問題精査 数学 I 」 ××書店「反復演習 数学 I 」

数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基礎的な知識や技能を習得します。また、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにします。さらに、それらを活用する態度を身に付けることを目標としま 目 す。 標

- 学 ○ 授業における課題に対して自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行います。○ 授業においては数学専用の演習ノートを利用します。
- 習 方
- 家庭学習における課題を定期的に提出してもらいます。最後まであきらめずに取り組みましょう。 法

		評価の観点	※①			
	a	関心·意欲·態度	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。			
学習 b 数学的な見方や考え方 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすること て、数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析における数学的な見方や考え方を身に						
評価	С	数学的な技能	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論 の方法などの技能を身に付けている。			
	d	知識•理解	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。			
1 1	\•/	+				

※ 定期テストに関しては、上記四つの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。

学 期	内容のまとまり	単元(題材)	学習内容		-)観』	_	※⑤ 単元(題材)の評価規準	評価方法
	*2	実数	実数 ※4 絶対値 根号を含む式の計算	0	0	0	7	たもち、それらを数の考察に活用しようとしている。 b:数を拡張してきた過程や四則計算の可能性について考察することができる。 c:簡単な無理数についての四則計算ができる。 d:数を実数まで拡張することの意義や実数が直線	・レポート・確認テスト・観察・単元テスト
前期	(1)数と式	集合	集合		0	7	0	を命題の考察に活用しようとしている。	・レポート ・確認テスト
241		/ %3 \	命題と条件 逆・対偶・裏	þ	0			U 44 0 U 1 - F 2 10 - F 2 3 0 F2 11 - 2 F 2 11 1 4 5 1	観察ワークシート単元テスト
		\	命題と論証	<i>,</i>	0	0		ることができる。 d:集合に関する基本的な用語・記号や命題と集合と の関係付けを理解している。	
	/	鋭角の三角状	三角比		0			は、ボスシー内は、一月にシーロエ関いに関わまし ち、それらを直角三角形の計量に活用しようとしている。	・レポート ・確認テスト ・観奈 ・単元テスト
前期	(2)図形と計量	11頁参照	上角比の利用 7			0	0	比を角との関係で捉えたり、三角比の相互関係について考察し表現したりすることができる。 c:直角三角形を用いて計量の問題を三角比の記号を用いて表現し処理したり、三角比の相互関係を用	 -767 7 11
			三 角比の相互関係	0	0	0		いて未知の三角比の値を求めたりすることができる。 d:正弦、余弦及び正接の直角三角形の辺の比と角 との関係としての理解や、三角比の相互関係につい ての理解など、基礎的な知識を身に付けている。	

- < ※ 年間指導計画 (例) 作成上の留意点について >
- ※① ・・・ 単元の評価規準作成の基になるもの。8~9頁参照。
- ※② … 当該科目のすべての学習内容におけるバランスを考え、単元(題材)を設定する。
- ※③ … 学習内容の欄には、小単元(単元を構成する小さな単元)を記載する場合もある。
- ※④ … 原則として一つの単元(題材)ですべての観点について評価することとなるが、学習内容 (小単元) の各項目において特に**重点的に評価を行う観点**(もしくは重み付けを行う観点)に○ を付けている。

- 注) 内容のまとまり・単元 (題材)・学習内容等の区分けは、教科によって異なる。
- ※⑤ … 「学習評価参考資料」に掲載の「評価規準に盛り込むべき事項」、「評価規準の設定例」を 参考に作成するが、基本的には学習指導要領の各教科の目標・各科目の目標及び内容並びに当該 部分の学習指導要領解説の記述、当該科目の評価の観点の趣旨などを基に作成する。単元(題 材)の評価規準の設定方法については、14頁の④の例示を参照する。

指導と評価の計画(単元名:鋭角の三角比)

「指導と評価の計画」の例

(「学習評価参考資料」より一部改編)

10

頁

か

	\sim								
時	学習内容	学習活動	asi	関	考	技	知	評価規準	評価大法
1	/校舎◆木	4人ずつ10グループ	木♥建物の高さ		0	,		図形の相似の考え方を用いて、	レポート
	の高さを	に分かれ、校舎や木	など直接測量で					直角三角形の辺の比を角との関	
1 /	求めよう	の离さを求める。┃	きないものの高さ					係で捉えることができる。 \	
$\perp \parallel$	\		対測量する方法						
$\perp \parallel$			 孝考えることがで					\	
\mathbb{H}			ま る。		$/\!$				
2	三角比と	主角比の定義に ・	上角比の定義は	/				図形の相似の考え方を用いて、	観察
	は	いてグループごとは	ついて理解する。					直角三角形の辺の比を角との関	
\vdash		説明し合う。		\perp				係で捉えることができる。	/m. f.
В	三角比の	・三角比の表を基に	三角比の表を用				0	正弦、余弦及び正接を直角三角	観察
	利用	して三角比の特徴を	いて、いろいろな					形の辺の比と角との関係として理	確認テス
Ш		述べる。	図形の計量をす					解し、基礎的な知識を身に付けて	F1
		いろいろな図形の	ることができる。	ļ				いる。	!
		計量を三角比を用い				\circ		直角三角形を用いて考えられる	
		て表現し求める。						計量の問題を、三角比の記号を	
								用いて表現し処理することができ	
4	一名山の	・三角比の表から、	 三角比の相互関		0			る。 三角比の相互関係について考察	観察
		・三角比の表がら、 正弦、余弦、正接の	三角比の相互関 係について理解					二角比の相互関係について与祭しすることができる。	観祭
	作旦.関係	正弦、景弦、正接の	休について埋解 する。					9 DECN (500)	X 4
		れば他の値が決まる	9 00						
* (1)		ことに気付く。							!
		・三角比の相互関係						*3	
		について説明する。	×2	\setminus					
5	三角比の	三角比の相互関係	三角比の相互関	1			0	三角比の相互関係について理解	観察
$ \cdot $	相互関係	を用いて三角比を求	係を用いて、与え	\				し、基礎的な知識を身に付けてい	確認テス
$ \cdot $	の利用	kz.	られた三角比の	\	\			る。	F2
$ \cdot $		*5,	値から残りの三角		$\setminus $	0		三角比の相互関係を用い、考えら	
$ \ \ $		/ /	比の値を求めると					れた三角比の値から残り∳三角	
			とができる。					比の値を求めることができる。	
6	鋭角の左	節末問題の解答を	本単元の学習内	0		\setminus		鋭角の三角比や三角比の相互関	単元テオ
	角比の利	板書し自ら説明す	容を振り返り、そ					係に関心をもち、それらを直角三	
	\m /	る。 \	の定着を確認す					角形の計量に活用しようとしてい	$ \setminus / $
			る。 \					₹ .	

**1) 表中の観点について \rightarrow 関 … 関心・意欲・態度 考 … 数学的な見方や考え方

技 … 数学的な技能 知 … 知識・理解

※2) 第2章のすべての教科及び第3章の一部の教科で「指導と評価の計画」を例示している。

< 「指導と評価の計画」 (例) 作成上の留意点 >

※① … 各単元 (題材) における1単位時間ごとの学習内容を配列する。ただし、一つの学習内容が 複数単位時間となる場合など、必ずしも授業時数の区切りによる学習が適切であるとは限らない ため、「1 時、2 時、 \cdots 」ではなく「1 次、2 次、 \cdots 」(「時」ではなく「 γ 」)とする方法もある。

- ※② … 各単元 (題材) の学習内容に応じて具体的なねらいを考える。
- ※③ … 各単元(題材)の具体的な評価規準 4 を設定する。各単元(題材)の学習内容及びねらいに 応じて、単元(題材)の評価規準を踏まえ、どのような評価の観点及び評価規準を設定するのか を検討する。単元(題材)全体を見渡し、指導の流れなども踏まえ適切に設定する。例えば、まず「関心・意欲・態度」及び「思考・判断・表現」をどの学習内容に設定するかを考え、その他 を「技能」及び「知識・理解」で配分するなどの方法もある。

「学習評価参考資料」に、必履修科目などの科目における単元(題材)の評価規準の設定例が掲載されているので、これらを参考に作成する。また、設定例のない科目に関しては、学習指導要領の各教科の目標・各科目の目標及び内容、当該部分の学習指導要領解説の記述及び当該科目の評価の観点の趣旨などを基に作成した単元(題材)の評価規準を踏まえ検討する。具体的な評価規準の設定方法については、14~15頁の⑤の例示を参照する。

なお、単元(題材)の総括の資料とする場合(評価結果として記録する評価)は◎、しない場合(指導に生かす評価)は○とすることも考えられる。

- **※④** … 評価方法については、評価規準と組み合わせ、どのような方法で見取ることが適切か検討し、 設定する。
- **※⑤** ・・・・ 学習活動については、評価規準や評価方法を踏まえ、どのような具体の活動が有効か検討する。

9 組織的な授業改善について

校内授業研究とは、共通のテーマ(研究テーマ)を基にした学校全体としての組織的な取組そのものであるといえます。教科ごとに定期的に研究会をもち、各教員がもつ指導法や知識の共有化を図り、よりよい授業の構築を図ります。(『組織的な授業改善に向けて』6頁より)

- 平成20年1月に示された中央教育審議会答申 ⁵ においても、授業研究を、**授業の質を高めようとする教師同士の取組**としており、教科等の組織で単元(題材)の研究を通して学習評価をその後の学習指導の改善に生かすことはたいへん重要なことである。
- 組織的な授業改善の推進を図る上で、校内授業研究において単元(題材)の指導内容についての研究を組織として行う場合の実践例を示す。(『組織的な授業改善に向けて』の10~11頁を参照する。)

① 〔研究テーマの設定〕

- 4 「**学習評価参考資料**」の芸術教科など一部の教科では「学習活動に即した評価規準」ということで示されている。また、「**学習評価参考資料**」では、単元(題材)の評価規準を細分化して示し、これらを具体的な評価規準として「指導と評価の計画」に直接盛り込む教科の事例(「単元(題材)の評価規準」と「具体的な評価規準」が同じである。)も多く掲載されている。
- 5 「幼稚園,小学校,中学校,高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)」(平成20年1月 文部科学省中央教育審議会)

冊子『組織的な授業改善に向けて』の1頁「組織的な授業改善の概観図」に掲載の「各学校の果 たすべき役割」及び「はぐくみたい生徒像」を踏まえ、日常の生徒の様子や、「学習状況調査」、 「生徒による授業評価」、生徒・保護者へのアンケートなどから学校の実態と課題を把握し、これ らを基に学校としての研究テーマを設定する。

〔単元(題材)の目標の設定〕

学習指導要領に示された科目の目標と内容、学校としての研究テーマや前単元までの学習状況等 を踏まえ、設定する。

例 > 数学 [

【科目の目標】

数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図 り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態 度を育てる。

※ 単元、題材、小単元など、教科等によって指導計画を作成する際の「学習内容のまとまり」の 捉え方が異なるため、各教科の特性を踏まえて指導計画上の目標を設定することが大切である。

<u>例</u> 数学 I 単元名「鋭角の三角比」(「(2)図形と計量」)

【単元の目標】

鋭角の三角比の意味と相互関係について理解し、それらを図形の計量に活用することができる。

〔単元(題材)で身に付けさせたい力の設定〕

校内授業研究の研究テーマを基に、各教科の目標・テーマから各単元(題材)で身に付けさせ たい力を設定し、このことを意識しながら具体的な単元(題材)の構想を練る。

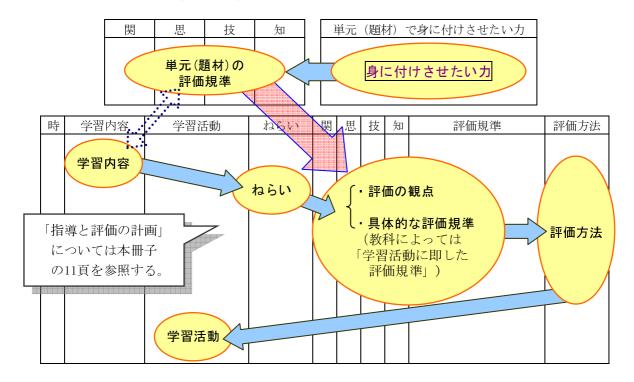
例

数学 I 単元名「鋭角の三角比」(「(2)図形と計量」)

【身に付けさせたい力】

事象に対して自ら課題意識をもって分析を行う力

※ 身に付けさせたい力を踏まえた単元(題材)の構想の手順(例)の概要は次のとおりである。



4

〔単元(題材)の評価規準の設定〕

※ 単元 (題材) の評価規準の設定方法についての具体的な例を示す。 [数学 I 単元名 「鋭角の三角 比」(「(2) 図形と計量」)]

学習指導要領の掲載事項

(2) 図形と計量(学習指導要領より一部抜粋) 三角比の意味やその基本的な性質について 理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性 を認識するとともに、それらを事象の考察に 活用できるようにする。

ア 三角比

(ア) 鋭角の三角比

鋭角の<u>三角比の意味と相互関係</u>について理解すること。

学習指導要領解説の記述

ア 三角比 (学習指導要領解説より一部抜粋) (ア) 鋭角の三角比

鋭角について、正弦、余弦及び正接を直角三角 形の辺の比と角の大きさとの間の関係として導入 し、身近な事象とも関連付けてそれらの意味を理 解させるとともに、その有用性を認識させる。ま た、鋭角の三角比についての相互関係を扱い、三 角比の値のいずれか一つが決まれば、他の三角比 の値を計算できることを理解させる。

生徒の学習状況として「おおむ ね満足できる状況」を考える。

1

2

(3)

【評価規準(数学的な見方や考え方)】 図形の相似の考え方を用いて直角 三角形の辺の比を角との関係で捉え たり、三角比の相互関係について考 察し表現したりすることができる。

(作成例)

「数学 I 」評価の観点の趣旨

数学的な見方や考え方

事象を数学的に考察し表現したり, 思考の過程を振り返り多面的・発展的 に考えたりすることなどを通して,数 と式,図形と計量,二次関数及びデー タの分析における数学的な見方や考え 方を身に付けている。

①~③の三つの材料を参考に作成する。 ここでは、下線部を用いて作成。

※ 作成例を参考に残りの3観点についても同様の方法で作成する。

例

∕∕〈単元の評価規準〉

関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
【鋭角の三角比】			
・鋭角の三角比や三角	・図形の相似の考え方	・直角三角形を用いて	・三角比を直角三角形
比の相互関係に関心を	を用いて直角三角形の	計量の問題を三角比の	の辺の比と角との関係
もち、それらを直角三	辺の比を角との関係で	記号を用いて表現し処	として理解し、また三
角形の計量に活用しよ	捉えたり、三角比の相	理したり、三角比の相	角比の相互関係につい
うとしている。	互関係について考察し	互関係を用いて未知の	て理解し、それらの基
	表現したりすることが	三角比の値を求めたり	礎的な知識を身に付け
	できる。	することができる。	ている。

5

〔教科等の組織による「指導と評価の計画」の作成〕

単元(題材)の指導内容について、教科等の組織により、単元(題材)の流れや評価の観点及び具体的な評価規準などの設定をはじめとしたいわゆる単元研究を行い、この中で単元(題材)の「指導と評価の計画」を作成する。(11頁「指導と評価の計画」を参照)

※ 具体的な評価規準の設定方法についての例を示す。

- 1 単元(単元名:鋭角の三角比)の最初の2時間は、それぞれ「校舎や木の高さを求めよう」、「三角比とは」という学習内容である。(11頁「指導と評価の計画」を参照)
- ② 身に付けさせたい力「事象に対して自ら課題意識をもって分析を行う力」を育成させるためめに、本単元においては、最初の2時間は、考えさせる時間を配置したい。よって、評価の観点として「数学的な見方や考え方」を設定する。
- ③ 単元(題材)の評価規準(数学的な見方や考え方)を参考に作成する。

図形の相似の考え方を用いて直角三角形の辺の比を角との関係で捉えたり、三角比の相 互関係について考察し表現したりすることができる。(14頁の④を参照)

図形の相似の考え方を用いて、直角三角形の辺の比を角との関係で捉えることができる。

前述3の下線部を引 用し作成。

時	学習内容	学習活動	ねらい	関	考	技	知	評価規準	評価方法
1	校舎や木 の高さを 求めよう	4人ずつ10グループ に分かれ、校舎や木 の高さを求める。	木や建物の高さなど直接測量できないものの高さを測量する方法を考えることができる。		9		A	図形の相似の考え方を用いて、 直角三角形の辺の比を角との関係で捉えることができる。	レポート
2	三角比とは	三角比の定義につ いてグループごとに 説明し合う。	三角比の定義について理解する。		0		X	図形の相似の考え方を用いて、 直角三角形の辺の比を角との関 係で捉えることができる。	観察

(※ 11頁の「指導と評価の計画」より一部抜粋)

6 〔指導計画を基にした授業実践〕

「指導と評価の計画」(11頁の「指導と評価の計画」を参照)を基に授業を行う。

⑦ 〔観点ごとの総括〕

単元(題材)におけるそれぞれの評価の観点の総括を行う。

8 [指導内容の改善]

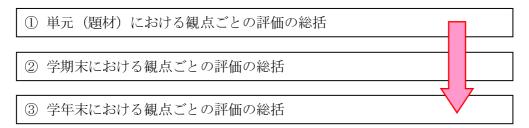
授業の振り返りを通して単元(題材)の指導内容を改善する。このことに伴い、「指導と評価の計画」を修正し、次年度の「年間指導計画」作成に生かす。

⑨ 〔研究授業ないしは研究発表会における検証〕

単元(題材)の研究成果を研究授業ないしは研究発表会で検証する。単元(題材)で身に付けさせたい力の育成につながったか、単元(題材)の目標はどの程度達成されたかなどを確認し、校内授業研究の一環として行う研究協議会(研究授業のあとに行う事後協議会)の中で授業の評価を行い、よりよい改善につなげる。その際、ワークシートなどの生徒の振り返りや、単元ごとの「生徒による授業評価」等も資料として加え、結果の分析を行う。

10 評価の総括について

○ 観点別学習状況の評価の総括の場面とその流れは次のように3段階である場合が多いと考えられる。



(例) 単元(題材)・学期末・学年末に行う観	点ごとの評価記録が複数ある場合の総括の方法
評価結果のA、B、Cの数	評価結果のA、B、Cを数値に表す
A、B、Cの数の多いものが、その観点の学習	A、B、Cを、例えば、A=3、B=2、C=1
の実現状況を最もよく表しているとする総括方	のように数値によって表して、合計したり、平均
法。例えば、「ABB」ならばBと総括する。	したりすることで総括する方法。



学期末及び学年末の評定への総括

※ 評定が各教科・科目の目標や内容に照らして学習の実現状況を総括的に評価するものであるのに対し、観点別学習状況の評価は各教科・科目の目標や内容に照らして学習の実現状況を分析的に評価するものであり、観点別学習状況の評価が評定を行うための基本的な要素となる。

11 Q&A

<基本的な考え方>

Q 1 目標に準拠した評価とはどのようなことか。

A1 高等学校における目標に準拠した評価は、学習指導要領に示す各教科・科目の目標に基づき、 学校が生徒の実態に即して定めた当該教科・科目の目標や内容に照らしてその実現状況を捉える ものです。3頁を参照してください。

Q2 観点別学習状況の評価とはどのようなことか。

A 2 各教科・科目の目標や内容に照らして、生徒の実現状況がどのようなものであるかを、観点ごとに評価し、生徒の学習の状況を分析的に捉えるものです。

新しい学習指導要領のもとにおける評価の観点については、3~7頁を参照してください。

Q3 評価規準の設定は、どのようにしたらよいか。

A 3 評価規準とは、「学習指導のねらいが生徒の学習状況として実現された状態」を具体的に示したもので、各学校において設定するものです。

評価規準の設定は、学校として行われるべきものなので、教科等の組織でよく検討し、評価規準を適切に設定することが必要です。

実際に授業を考える際の評価規準の設定には、おおむね次のような手順が考えられます。

- ①単元(題材)の目標や身に付けさせたい力を設定する。
- ②単元(題材)の評価規準を設定する。
- ③単元(題材)の授業で実際に用いる具体的な評価規準を設定し、「指導と評価の計画」に 位置付ける。
- ④言語活動など目標を実現するのにふさわしい学習活動、教材等を取り上げる。

評価規準を設定する際には、「**学習評価参考資料**」を参考にするとよいでしょう。「評価規準 に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」が具体的に示されています。

評価規準の設定については、 $7 \sim 8$ 頁を参照してください。また、単元(題材)の評価規準の設定方法の具体例については14 頁の⑤の中を参照してください。

Q4 「評価規準に盛り込むべき事項」、「評価規準の設定例」とは、どのようなことか。

A 4 「**学習評価参考資料**」に示されている「評価規準に盛り込むべき事項」は、新しい学習指導要 領の各教科の目標、各科目の目標及び内容、「**改善通知**」で示されている各教科の評価の観点及 びその趣旨を踏まえて設定する「科目の評価の観点の趣旨」などを基に内容のまとまりごとに作 成されています。

また、「評価規準の設定例」は、「評価規準に盛り込むべき事項」をより具体化したものであり、原則として新しい学習指導要領の各教科の目標、各科目の目標及び内容のほかに、当該部分の学習指導要領解説の記述を基に作成されています。

なお、「評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」は、評価の観点別に「おおむね満足できる」状況を示すものです。したがって、この状況を実現していれば、「おおむね満足できる」状況であり、実現していなければ「努力を要する」状況となります。さらに、「おおむね満足できる」状況と判断される生徒のうち、学習の実現状況に質的な高まりや深まりをもっていると判断されるとき、「十分満足できる」状況という評価になります。

Q5 単元(題材)と内容のまとまりの違いがよく分からない。

A 5 「内容のまとまり」とは、「**学習評価参考資料**」において、学習指導要領に示されている学習 の内容等を基にしてくくられた一つのまとまりのことで、「評価規準に盛り込むべき事項」及び 「評価規準の設定例」は、この「内容のまとまり」ごとに示されています。

例えば、「国語総合」では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の一つひとつが「内容のまとまり」であり、「コミュニケーション英語 I」は「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」が「内容のまとまり」です。

また、「世界史B」では、学習指導要領の内容の(1)、(2)、(3)、(4)、(5)の 大項目を「内容のまとまり」としており、数学、理科なども学習指導要領の大項目を「内容のま とまり」としています。 一方、単元(題材)は、実際に授業を行う際の指導と評価の単位としてくくられた一つのまとまりであり、大単元、小単元と細分化する場合もあります。

例えば、「世界史B」では、「ヨーロッパの拡大と大西洋世界」などが一つの単元となり、「コミュニケーション英語 I」では、レッスンの一つひとつが単元となります。また、「音楽 I」では、複数の内容のまとまりを関連付け構成した「日本歌曲の味わい」なども一つの題材となります。詳しくは、第2章及び第3章を参照してください。

Q6 単元(題材)における観点別学習状況の評価の留意点は、どのようなことか。

A 6 ある単元(題材)において、あまりにも多くの評価規準を設定したり、多くの評価方法を組み合わせたりすることは、評価を行うこと自体が大きな負担となり、その結果を後の学習指導の改善に生かすことが十分できなくなるおそれがあります。「学習評価参考資料」では、評価結果を記録する機会を過度に設定することのないよう、1単元(題材)内で平均すると1単位時間当たり1~2回の評価回数となるよう指導と評価の計画例が示されています。

また、授業改善のための評価(指導に生かす評価)は、日常的に行われることが重要ですが、 指導後の生徒の状況を記録するための評価(記録に残す評価)を行う際には、単元(題材)等の ある程度長い区切りの中で適切に設定した時期において、「おおむね満足できる」状況等にある かどうかを評価することが必要です。

Q7 評価方法の工夫改善は、どのように進めたらよいか。

A 7 学習評価を進めるに当たっては、指導の目標及び内容と対応した形で評価規準を設定すること や評価方法を工夫する必要があります。

特に、評価方法を検討する際には、評価の観点で示される資質や能力等を評価するのにふさわしい方法を選択する必要があります。

また、評価方法と評価規準を組み合わせて設定することが必要であり、評価規準と対応するように評価方法を準備することが大切です。

さらに、学校全体として評価の妥当性、信頼性等を高めるためには、組織による校内授業研究 の活用が有効です。

評価方法については、8頁を、組織による校内授業研究については、12~15頁を参照してください。

Q8 「関心・意欲・態度」は、どのように見取ればよいのか。

A8 「関心・意欲・態度」は、学力の3要素のうちの学習意欲を評価する観点であり、評価については、表面的な状況のみに着目することにならないよう留意するとともに、教科の特性や学習指導の内容等も踏まえつつ、ある程度長い区切りの中で適切な頻度で「おおむね満足できる」状況等にあるかどうかを評価するなどの工夫を行うことが重要です。

つまり、提出物や忘れ物の有無、挙手の回数等、一時的に表出する事象を見るのではなく、学 習内容に着目し、獲得した知識や技能を積極的に活用しようとする「態度」に焦点をあてること が必要です。

例えば、ワークシートや振り返りシートなどに記載された生徒の記述に意欲的な記述が見られる、論述課題に自分なりの考え方を説明しようとする記述や興味ある関連事項を自主的に調べて説明しようとする記述が見られるかどうかなどについて評価することもできます。

また、各教科の学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度は、単元(題

材)の学習全体を通じて育まれるものであることから、**ある程度長い区切りの中で見取ることが 必要**です。

Q9 提出課題や作品から学習状況を見取るときの留意点は、どのようなことか。

A 9 評価方法の一つとしての提出課題には、ノート、ワークシート、学習カード、作品、レポート、質問紙、アイディアスケッチなど教科・科目によって様々なものが考えられます。

提出課題から学習状況を見取る際には、単元(題材)で身に付けさせたい力を踏まえ、目的を 整理・確認し、評価の観点及び評価規準を明確にした上で課題を課すようにすることが大切です。

Q10 ペーパーテストで学習状況を見取るときの留意点は、どのようなことか。

A10 ペーパーテストには、授業時に行う小テスト、定期テストなどがありますが、観点別学習状況 の評価においては、観点別の評価規準が達成できたかどうかを見取るために、ペーパーテストの 方法を工夫する必要があります。

また、ペーパーテストをすることで、生徒が自分自身の学習状況を把握し、自身の学習の改善につなげたり、教師が生徒の解答状況を見て、自身の授業改善の資料として活用したりすることもできます。ペーパーテストによって明確になった成果や課題から、教科や科目の担当者で協議や意見交換を行うなど、授業改善につなげることも大切です。

このようなことからも、同一の教科・科目においては、統一のテスト問題とするよう学校全体で取り組むことが必要です。

なお、ペーパーテストにおいては、どの観点で見取るのかを明確にするために、各設問に観点の記載を行ってください。

Q11 観点別学習状況の評価の観点ごとの総括の方法には、どのような方法があるか。

- A11 観点別学習状況の評価の観点ごとの総括の流れは、おおむね次のとおりです。
 - ①単元(題材)における観点ごとの評価の総括
 - ②学期末における観点ごとの評価の総括
 - ③学年末における観点ごとの評価の総括

単元(題材)における観点ごとの評価の総括では、観点によって重み付けすることも考えられます。16頁にも評価の総括について記載がありますので、参照してください。

Q12 重み付けを行う際の留意点はどのようなことか。

A12 四つの観点を踏まえた評定とするためには、極端な重み付けは不適切です。ある単元の指導において、次の例のように特定の観点を重視することも考えられますが、学期末や学年末の総括においては、一つの観点の重みの上限は50%を目安とする等、バランスの取れた評価の総括となるようにしましょう。

<「理科」における重み付けの一例>

	中心となる学習活動	関心・意欲・態度	思考·判断·表現	観察・実験の技能	知識・理解
単元1	演示実験を観察し、考えた ことや感想等をワークシー トに記載する。	40%	25%	15%	20%
単元 2	班ごとに計画を立てて実験 し、レポートを作成する。	10%	25%	55%	10%
重みの平均値		25%	25%	35%	15%

前頁の表のように、ある単元の指導で、特定の観点を重視して指導した場合には、その単元に おいては、重視した観点の重みを大きく設定することができます。しかし、そのような指導と重 み付けを行った場合でも、学期や学年の評価の総括においては、極端な重み付けにならないよう に配慮することが必要です。

Q13 総合的な学習の時間の評価の留意点はどのようなことか。

A13 各学校が定めた総合的な学習の時間の目標、内容に基づき、各学校が定めた評価の観点を踏ま えて、生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、生徒にどのような 力が身に付いたかを文章で記述します。

評価の観点については、学習指導要領等に示す目標を踏まえ、各学校において具体的に定めた 目標、内容に基づいて設定します。第2章を参照してください。

Q14 習熟度別学習における評価の留意点はどのようなことか。

A14 習熟の程度に応じて学習集団ごとに学習する内容や教材が異なる場合でも、同一の評価規準で評価を行う必要があります。ただし、複数の教員で指導することが考えられることから、生徒一人ひとりに応じたきめ細かい指導とともに、組織的な授業改善の観点からも教員間の情報交換や共通理解を図ることが必要となります。

Q15 「技能·表現」が「技能」と変更されたが、「表現」については評価しなくてよいのか。

A15 「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」によると、基本的には従前の「技能・表現」で評価している内容は引き続き「技能」で評価することが適当であるとされています。 そのため、資料から情報を読み取る「技能」や図表やグラフ等にまとめる「表現」は、これまで通り「技能」で評価することとなります。4~5頁を参照してください。

Q16 「思考・判断」が「思考・判断・表現」と変更されたが、「表現」が追加されたのはなぜか。

A16 「表現」については、基礎的・基本的な知識・技能を活用して思考・判断したことを説明・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味しており、これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく、思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて生徒がどのように表出しているかを内容としているためです。 4~5頁を参照してください。

Q17 すべての教科・科目で言語活動の充実を図ることとなっているが、言語活動の評価はどのようにして行うのか。

A17 各教科においては、言語活動自体を身に付けさせることが目標ではなく、あくまで、思考力・ 判断力・表現力等を育むための学習活動としての言語活動を充実させることが大切です。したが って、言語活動そのものを評価するのではなく、言語活動を通して育成される思考力・判断力・ 表現力等を、評価の観点「思考・判断・表現」で見取ることとなります。

参考事項の内容	参考文献
「各教科等において,記録,要約,説明,論述といった言語活動」	「中央教育審議会答申」
	(平成20年1月)
「高等学校教育では、討論、解説、創作、批判、編集などの言語活動	「高等学校学習指導要領解説
を例示」、「生徒による発表、討議、ノート記述、レポート作成など	総則編」
の言語活動」	(平成21年11月)

Q18 10頁に掲載されている「年間指導計画」とはシラバスのことか。

A18 シラバスは、本来、講義の摘要、概要、要旨、教授細目、時間割など講座に関する多くの情報を含んだものであるといわれる場合もあり、現在各学校において作成し、生徒及び保護者等に公表しているシラバスについては「年間指導計画」という名称の方が適切であるという判断から、この手引きから「年間指導計画」という言葉を用いています。

Q19 新課程の科目に旧課程の生徒を加えて指導した場合、旧課程の生徒の評価の観点は新旧のどちらで行うのか。

A19 原則として生徒の入学年度に応じた教育課程を保障しなければなりません。例えば、新課程の「物理基礎」と旧課程の「物理I」は、別々に設置しなければいけません。ただし、教育課程編成上やむを得ない事情がある場合は、旧課程の生徒に「物理基礎」を履修させた上で、不足する内容を補填することが考えられます。この場合は、旧課程の生徒についても新課程の科目で学習させた上で、旧課程の科目の不足する内容を補填したこと、学習評価については新しい観点で評価したことを記載した別紙(様式は任意)を指導要録に添付することが考えられます。

Q20 評価結果の通知方法についての留意点を教えてほしい。

A20 評価結果の通知方法としては、従来どおり学期ごとに通知表に併せて記載する方法の他、例えば、教科や科目ごと、単元や内容のまとまりごとに通知する方法、定期テストの時期などに複数の単元や内容のまとまりを総合して通知する方法などが考えられます。各学校の創意工夫により適切な方法を検討してください。その際、教科間や教科担当者ごとに異なった対応となることがないよう学校として通知方法を統一しましょう。

また、従来の通知方法と異なる方法で通知する場合であっても、学年末等における評定及び修得単位の認定を通知する際は、従来どおり、観点別学習状況の評価結果(総括)を通知表に併せて記載するか、又は、すべての教科・科目の観点別学習状況の評価結果を記載した観点別学習状況評価表などにより、生徒・保護者に通知してください。

なお、従来の通知方法と異なる方法により通知する場合には、あらかじめ通知方法の変更について生徒・保護者に周知をしてください。

<「学習評価参考資料」について>

Q21 「学習評価参考資料」の構成を教えてほしい。

A21 「**学習評価参考資料**」は、教科ごとに作成されており、各教科とも、2編ないしは3編から構成されています。

第1編は、総説として、新しい学習指導要領を踏まえた学習評価を進めていくポイント等が掲

載されています。

第2編及び第3編は、各教科における評価規準の作成、評価方法等の工夫改善として、教科の目標、教科の評価の観点及びその趣旨、また、科目の目標、科目の評価の観点の趣旨、内容のまとまりごとの評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例が掲載されています。さらに、評価に関する事例も掲載されており、具体的な評価場面や評価方法などが調べられます。

Q22 「学習評価参考資料」にはすべての科目の評価の例が掲載されているのか。

A22 必履修科目などの科目について掲載されています。

各教科に掲載されている科目名は、次のとおりです。

国 語:国語総合

地理歴史 : 世界史B、日本史B、地理B

公 民 : 現代社会、倫理、政治·経済

数 学:数学 I

理 科:物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎

保健体育 : 体育、保健

芸 術:音楽 I、美術 I、工芸 I、書道 I

外国語:コミュニケーション英語 I

家 庭 : 家庭総合情 報 : 情報の科学

Q23 「学習評価参考資料」の例をそのまま使用してよいか。

A23 使用して構いません。

高等学校の場合、学校目標や学習内容は各学校で定めることになっていますが、それは学習指導要領の内容を踏まえたものなので、基本的に、「**学習評価参考資料**」の例が使えます。各学校の科目の学習目標や学習内容が学習指導要領と同じであるなら、全く問題ありません。

その際、生徒の状況や学校の状況を踏まえて、より適切なものに改善すると、なおよいと考えます。

なお、「学習評価参考資料」に掲載されていない科目については、「学習評価参考資料」を参考にして、学習指導要領に定められた目標や内容、「改善通知」で示されている各教科の評価の観点及びその趣旨などを踏まえて、各学校で適切に評価規準を設定し、評価を行ってください。単元(題材)の評価規準の設定方法の具体例については14頁の④を、具体的な評価規準の設定方法の例示については14~15頁の⑤の中を参照してください。

第2章

教科別資料(共通教科及び 総合的な学習の時間)

掲載内容

(1)教科の目標

各教科の学習指導要領で示された教科の目標を掲載している。

- (2)教科の評価の観点及びその趣旨 各教科の評価の観点及びその趣旨について掲載している。
- (3)科目の評価の観点の趣旨 教科内の主要な科目における評価の観点の趣旨を掲載している。
- (4)単元(題材)の評価規準について

「学習評価参考資料」には、評価規準を作成する際の参考事項として<u>評価規準に盛り込むべき事項</u> ¹及び<u>評価規準の設定例</u> ² の二つが示されており、ここではその一部を紹介している。

- (5)単元(題材)の指導と評価の計画について ある単元(題材)の「指導と評価の計画」を例示している。
- (6)教科としての評価に関する留意事項

教科別に、評価を行う際の留意事項について解説している。観点別学習状況の評価の総括の具体的方法等を含め、取組の推進につながる話を盛り込んでいる。

(7)Q&A

1「評価規準に盛り込むべき事項」

新しい学習指導要領の各教科の目標、各科目の目標及び内容、「改善通知」で示されている「教科の評価の観点及びその趣旨」を踏まえた「科目の評価の観点の趣旨」を基に内容のまとまりごとに示したものである。

2「評価規準の設定例」

「評価規準に盛り込むべき事項」をより具体化したものである。新しい学習指導要領の各教科の目標、各科目の目標及び内容の他に、当該部分の学習指導要領解説の記述を基に示したものである。

1 国語

(1)教科の目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、 思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心 を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

(2)教科の評価の観点及びその趣旨

25	ζ IE	従 前				
関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を	関心・意欲・態度	国語や言語文化に対			
	進んで高めるととも		する関心を深め,国語			
観点名変更なし	に , 言語文化に対する		を尊重してその向上を			
	関心を深め,国語を尊		図り,進んで表現した			
	重してその向上を図ろ		り理解したりするとと			
	うとする。		もに,伝え合おうとす			
		<u>}</u>	る。			
話す・聞く能力	目的や場に応じて効	話す・聞く能力	自分の考えをまとめ			
	果的に話し的確に聞き		たり深めたりして,目			
観点名変更なし	取ったり,話し合った		的や場面に応じ,筋道			
	りして,自分の考えを		を立てて話したり的確			
	まとめ,深めている。		に聞き取ったりする。			
書く能力	相手や目的,意図に	書く能力	自分の考えをまとめ			
	応じた適切な表現によ		たり深めたりして,相			
観点名変更なし	る文章を書き , 自分の		手や目的に応じ,筋道			
	考えをまとめ,深めて		を立てて適切に文章に			
	いる。	<u> </u>	書く。			
読む能力	文章を的確に読み取	読む能力	自分の考えを深めた			
	ったり,目的に応じて		り発展させたりしなが			
観点名変更なし	幅広く読んだりして,		ら,目的に応じて様々			
	自分の考えを深め,発		な文章を的確に読み取			
	展させている。		ったり読書に親しんだ			
			りする。			
知識・理解	伝統的な言語文化及	知識・理解	表現と理解に役立て			
	び言葉の特徴やきま		るための音声,文法,			
観点名変更なし	り,漢字などについて		表記,語句,語彙,漢			
	理解し,知識を身に付		字等を理解し , 知識を			
	けている。		身に付けている。			

☆ 改訂のポイント

各教科の観点は、今回の学習評価の改善では、その特性等を踏まえて、「関心・意欲・ 態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の4観点を基本としている。 これに対し、国語科では、4観点のうち「思考・判断・表現」と「技能」とが密接、不離の関係にあり、個々に分けて評価することは困難であることから、「思考・判断・表現」と「技能」の2観点を、「話す・聞く能力」、「書く能力」、「読む能力」の3観点に再構成し、これに「関心・意欲・態度」と「知識・理解」を加えた5観点としている。

「関心・意欲・態度」は、主体的に学習に取り組む態度を評価する観点である。国語科の各科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら学ぼうとする意欲や態度を身に付けているかどうかを評価する。したがって各科目のすべての指導事項と関わる。

「知識・理解」は、基礎的・基本的な知識・技能を評価する観点である。学習指導要領 上の「国語総合」の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕にほぼ基づいている。

(3)科目の評価の観点の趣旨(「学習評価参考資料」より)

国語科では、科目によって設定する評価の観点が異なるので、注意を要する。 5 観点すべてを設定するのは「国語総合」と「現代文B」のみ。

国語科の観点は、「関心・意欲・態度」及び「知識・理解」に「国語総合」の内容を構成する領域による能力の観点(3観点)を加えた5観点としているが、科目によっては、その科目で指導する内容に対応して、5観点のうち1~2観点を評価しない。例えば「国語表現」では「読むこと」が指導内容ではないので、「読む能力」を評価しない。

	国語総合	国語表現	現代文A	現代文 B	古典A	古典B
関心・意欲・態度						
話す・聞く能力						
書く能力						
読む能力						
知識・理解						

学習指導要領では「国語総合」以外の各選択科目の内容を領域別に示していないが、「内容」や「内容の取扱い」の記述に沿って、観点の趣旨は以下の表のとおりとしている。

国語総合				
関心・意欲・態度 話す・聞く能力		書く能力	読む能力	知識・理解
国語で伝え合	目的や場に応	相手や目的,	文章を的確に	伝統的な言語
う力を進んで高	じて効果的に話	意図に応じた適	読み取ったり,	文化及び言葉の
めるとともに,	し的確に聞き取	切な表現による	目的に応じて幅	特徴やきまり,
言語文化に対す	ったり,話し合	文章を書き,自	広く読んだりし	漢字などについ
る関心を深め ,	ったりして,自	分の考えをまと	て,自分の考え	て理解し,知識
国語を尊重して	分の考えをまと	め,深めてい	を深め,発展さ	を身に付けてい
その向上を図ろ	め,深めてい	る。	せている。	る。
うとする。	る。			
国語表現				
関心·意欲·態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語で伝え合	目的や場に応	相手や目的,		言葉の特徴や
う力を進んで高	じて効果的に話	意図に応じた適		きまり,役割な
めるとともに ,	し的確に聞き取	切かつ効果的な		どについての理

国語を尊重して ったり、話し合 ったりして、自 分の考えを深 が、発展させている。 別代文A 「関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 節む能力 知識・理解を身に付けている。 ともに、、我が国の伝統と文章を味りいる。 まま・聞くの考えを で いる。 ともに、、我が国の伝統と文章を味りいる。 まま・聞く能力 お典的にに関 たりのをうとしている。 まま・聞く能力 まとまりのの考えを で いる。 まま・聞く能力 お典的にに関 たりのをうとしている。 まま・聞く能力 まとまりのの考えを で いる。 まとまりのの考えを で いる。 まま・聞く能力 お典的にに関 たりの確りしたりの確りしたりい。 ないののものが表したりい。 まて、のの知識を身に付けている。 まとまりのの考えを で いる。 まま・聞く能力 が表にありいました。 は、おきを専 重してそのもともに関 たりのでする。 ままりのの考えを で は、おきを明 を で で のりが強に対する力をと で したりのではり、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	1	I	ı	N	
対の表えを深め、発展させている。 対の考えを深め、発展させている。 現代文A 関心・整欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 目的に応じ 言語文化及び 言葉の特徴深め、自	国語を尊重して	_	表現による文章		解を深め,知識
現代文A 開心意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 問的に応じ 言語文化及び 言葉の特徴など もに,言語文化 に対する関心を専	その向上を図ろ	ったりして,自	を書き,自分の		を身に付けてい
現代文A 関心・意欲・態度 書に親しむとともに、言語文化の位に対する関心を意欲・態度 国語で理解してるの向上をのであるとともに、国語を尊重してその向上をのであるとともに、国語を尊重しておりしたりのの確解を形成で高めるとともに、国語を尊重してその向上をのであるとともに、国語を尊重しておりしたりの確にに関き、とまりののを表えをである。としている。 現代文B 関心・意欲・態度 国語で理解しまんで高めるとともに、国語を尊重しておりのでは、一般のでは、、一般のでは、一般のでは、一般のでは、一般のでは、、一般のでは、、一般のでは、、一般のでは、一般のでは、、一般のでは、、一般のでは、、一般のでは、、、一般ので	うとしている。	分の考えを深	考えを深め,発		る。
現代文A 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 知識・理解 言語文化及び 言葉の特徴など の理解を深め,国語を専 重してその向上を図ろうとしている。 現代文B 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 きまりの でに応じての現解を深め,発展させている。 現代文B 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 きまりの でに応じての現理解を表してものの自力を進んで高めるとともに、自当の考えを深め、発展させている。 現代文B 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 きまりなど情報を 取ったりり に応じていりの確に関 的、課題に応じていた適なな事を言れている。 古典A 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 知識・理解を表についての理解を深め、発展させている。 古典A 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 知識・理解 を決め、発展させている。 古典 を読む楽しきを味わい、古典に親しむとともに、我が国の伝統と文化に対する関心を深めようしている。 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 知識・理解を深め、発展させている。 古典 を読む楽しきを味わい、古典に親しむとともに、我が国の伝統と文化に対する関心を深めようしている。 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 気に統的な言葉のが発展させている。 諸文能力 知識・理解 を深め、発展させている。 古典を読むみ、まりの考えを深め、発展させている。 古典を読むみに表しませている。 古典を読むかきない知識・理解 を深め、発展させている。 古典を読むからな言葉の が発展させている。 「古典を読むか」を進んで高める に続いる言語 なんので意味のである。 これの表に表しましている。 これの表に表しましましましましましましましましましましましましましましましましましまし		め,発展させて	展させている。		
関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 調・理解 言語文化及び言葉の特徴などもに、言語文化 に対する関心・意欲・態度 も で、自分の考えを関している。		いる。			
文章を読む楽しさを味わい読書に親しむとともに,言語文化 (現代文A				
しさを味わい読書に親しむとともに,言語文化に対する関心を深め,国語を尊重してその向上を図ろうとしている。 現代文B 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 近代以降の文育集の特徴などの表現する力を進んで高めるとともに,自動を専重してその向上を図ろうとしている。 地で高めるとともに、力が表現にでして、一般の考えを深め,発展させている。 はて、自分の考えを変われた思想を対して、自分の考えを深め,発展させている。 はなどにつるうとしている。 はなどの考えを深め、対域を見いに、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
書に親しむとともに,言語文化に対する関心を深め,国語を尊重してその向上を図ろうとしている。 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 巻取ったり、 カー	文章を読む楽			目的に応じ	言語文化及び
もに、言語文化に対する関心を察め、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。 現代文B 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 巻変な情報を 近て効果的に話	しさを味わい読			て , まとまりの	言葉の特徴など
に対する関心を	書に親しむとと			ある近代以降の	の理解を深め,
深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。 現代文B 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 が表現する力を進んで高めるととしたり的確に聞きない。 とでいる。 としたり的確に問いた。 はいれて、国語を尊さしたりの強にのです。 とでいる。 というのも、 とでいる。 というのも、 とでいる。 というのも、 とでいる。 というのも、 とでいる。 というのきれた。 といる。 というのきれた。 というのきれた。 というのきれた。 というのきれた。 というのきれた。 というのきれた。 というのきれた。 というのきない。 というのも、 というのきない。 というのも、 という	もに,言語文化			文章を読み,自	知識を身に付け
理してその向上 を図ろうとしている。 現代文B 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 知識・理解 言語文化及び 言葉の特徴やき まりなどについ た適切な表現に に応じて幅広く を図ろうとしている。 せている。 せている。 せている。 とではいる。 を深め、発展させている。 おす・聞く能力 書く能力 読む能力 知識・理解 きゅんで高めるとと したり的確に聞いた適切な表現に に応じて幅広く での理解を深め、発展させている。 を深め、発展させている。 おす・聞く能力 書く能力 読む能力 知識・理解 ある古典を読み、古典を読み、古典を読むれ、方典に親しむとともに、我が国の伝統と文化に対する関心を深めようしている。 おもりしている。 おもりのではないる。 おもりしている。 おもりにないる。 おもりにないる。 はいる。 おもりにないる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 は	に対する関心を			分の考えを深	ている。
現代文B	深め,国語を尊			め,発展させて	
明代文B 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 知識・理解 国語で理解し 長現する力を じて効果的に話 が高めるとと したり的確に間 もに、国語を尊 き取ったりした 造 切な表現に に応じて幅広く で、自分の考えを深め、発展させている。 とでいる。 とびきを味がい、古典に親しむとともに、我が国の伝統と文化に対する関心を深めようしている。 おもみ の まと文化に対する関心を深めようしている。 おもみ の まと文化に対する関心を深めようしている。 おもの の の の の の の の の の の の の の の の の の の	重してその向上			いる。	
現代文B 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 知識・理解 国語で理解し 目的や場に応 必要な情報を 近代以降の文 言語文化及び言葉の特徴やき したり的確に関 的 , 課題に応じ 取ったり したり的確に関 た適切な表現に に応じて幅広く よる文章を書 読んだりして , 自分の考え を深め , 発展さ せている。 を深め , 発展させている。 せている。 を深め , 発展させている。 を深め , 発展させている。 を深め , 発展させている。 まりを読む楽しさを味わい , 古典に親しむとともに , 我が国の伝統と文化に対する関心を深めようしている。 古典B 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 な流統・の理解を分に分がきまれた思想を表れた思想の伝統と文化に対する関心を深めようしている。 古典B	を図ろうとして				
関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 知識・理解 言語文化及び 言葉の特徴やき	いる。				
国語で理解し 目的や場に応 必要な情報を 近代以降の文 言語文化及び言葉の特徴やき もに、国語を尊 き取ったりし た適切な表現に に応じて幅広く まりなどについての理解を別してその向上 を図ろうとしている。 を深め、発展させている。 古典A 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 まとまりのある古典を読み、古典に親しむとともに、我が国の伝統と文化に対する関心を深めようしている。 古典B 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 に表れた思想を深め、知識を国の伝統と文化に対する関心を深めようしている。 古典 B 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 に表れた思想を深め、知識を 自分の考えを深め、発展させている。 おので表えを深め、発展させている。 おので表えを深め、発展させている。 おので表えを深め、知識を目の伝統と文化に対する関心を深めようしている。 おりしている。 まりに対している。 おりに対している。 まりに対している。 まりに表している。 まりにないる。 まりに	現代文 B				
表現する力を進して効果的に話用い、相手や目で高めるととしたり的確に関われて高めるととでは、自分の考えを図るうとしている。といる。といる。といる。というのというではなが、態度を強いしたでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	関心· 意欲· 態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
んで高めるとと したり的確に関 的,課題に応じ 取ったり,目的 まりなどについ での理解を深重してその向上 を図ろうとしている。 を深め,発展させている。 さっ自分の考えを深め,発展させている。 お典A 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 まとまりのある古典を読む楽しさを味わい,古典に親しむとともに,我が国の伝統と文化に対する関心を深めようしている。 古典B 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 に応じて幅広く おの考えを深め,発展させている。 なっ発展させている。 なったりりして、 おいの考えを深め,発展させている。 なったりの考えを深め、発展させている。 ないではなどの理解を深め,知識を身に付けている。 おりの考えを深め,発展させている。 おりの考えを深め,発展させている。 おりの考えを深め,発展させている。 おりの考えを深め,発展させている。 おりの考えを深め,発展させている。 おりの考えを深め,発展させている。 おりの考えを深め,知識を身に付けている。 おりの考えを深め,発展させている。 おりの考えを深め,発展させている。 はいる。 ないのでは、 おいのでは、 かいのでは、 かいのでは	国語で理解し	目的や場に応	必要な情報を	近代以降の文	言語文化及び
************************************	表現する力を進	じて効果的に話	用い,相手や目	章を的確に読み	言葉の特徴やき
重してその向上 で、自分の考え よる文章を書 読んだりして、	んで高めるとと	したり的確に聞	的,課題に応じ	取ったり,目的	まりなどについ
を図ろうとして を深め、発展さ き、自分の考えを深 め、発展させて けている。 古典A 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 まとまりのあ 古典を読む楽しさを味わい、古典に親しむとともに、我が国の伝統と文化に対する関心を深めようしている。 古典B 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 知識・理解 を深め、知識を 身に付けている。 古典を読む力を進んで高める き、自分の考えを深 は、	もに,国語を尊	き取ったりし	た適切な表現に	に応じて幅広く	ての理解を深
いる。 せている。 を深め,発展さ が,発展させて けている。 古典A 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 知識・理解 古典を読む楽しさを味わい, 古典に親しむとともに,我が国の伝統と文化に対する関心を深めようしている。 古典B 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 知識・理解 下典に表れた思想 特徴などの理解を深め,知識を の不分の考えを深 身に付けている。 カース の で で で で で で で で で で で で で で で で で で	重してその向上	て,自分の考え	よる文章を書	読んだりして,	め,知識を身に
古典A 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 知識・理解 古典を読む楽しさを味わい,古典に親しむとともに,我が国の伝統と文化に対する関心を深めようしている。 古典B 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 古典を読んで 日典を読んで 日本の記述	を図ろうとして	を深め,発展さ	き,自分の考え	自分の考えを深	付けている。
古典A 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 知識・理解 古典を読む楽しさを味わい, 古典に親しむとともに,我が国の伝統と文化に対する関心を深めようしている。 古典B 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 知識・理解 古典を読む力を進んで高める 書く能力 読む能力 知識・理解 古典を読む力を進んで高める このは、 このは、 このは、 このは、 このは、 このは、 このは、 このは、	いる。	せている。	を深め,発展さ	め,発展させて	
関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 知識・理解 古典を読む楽しさを味わい , 古典に親しむとともに , 我が国の伝統と文化に対する関心を深めようしている。 古典B 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 古典を読む力を進んで高める まとまりのあるに統的な言語文化及び言葉の特徴などの理解を深め , 知識を自分の考えを深め , 知識をりかる考えを深め , 発展させている。 いる。 お典 は まく能力 まく能力 お典を読んで 伝統的な言語 思想や感情など 文化及び言葉の			せている。	いる。	
古典を読む楽しさを味わい, 古典に親しむとともに,我が国の伝統と文化に対する関心を深めようしている。 古典B 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力	古典A	_			
しさを味わい, 古典に親しむと ともに,我が国 の伝統と文化に 対する関心を深 めようしてい る。 古典B 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
古典に親しむと ともに,我が国 の伝統と文化に 対する関心を深 めようしてい る。 古典B 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 知識・理解 古典を読む力 を進んで高める まれた思想 特徴などの理解 を深め,知識を 身に付けてい る。 いる。 コ典を読む力 古典を読んで 伝統的な言語 思想や感情など 文化及び言葉の	古典を読む楽			まとまりのあ	伝統的な言語
ともに,我が国の伝統と文化に対する関心を深めようしている。や感情を捉え、自分の考えを深身に付けている。対する関心を深めようしている。いる。古典B関心・意欲・態度話す・聞く能力書く能力読む能力知識・理解古典を読む力を進んで高める古典を読んで伝統的な言語思想や感情など文化及び言葉の	しさを味わい,			る古典を読み,古	文化及び言葉の
の伝統と文化に 対する関心を深 めようしてい る。自分の考えを深 め,発展させて いる。身に付けてい る。古典B関心・意欲・態度 古典を読む力 を進んで高める話す・聞く能力 書く能力読む能力 古典を読んで 伝統的な言語 思想や感情など 文化及び言葉の	古典に親しむと			典に表れた思想	特徴などの理解
対する関心を深めようしている。 め,発展させている。 古典B 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 知識・理解 古典を読む力を進んで高める 古典を読んで 伝統的な言語 思想や感情など 文化及び言葉の	ともに,我が国			や感情を捉え,	を深め,知識を
めようしている。 いる。 古典B 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 競む能力 知識・理解 古典を読む力を進んで高める 古典を読んで伝統的な言語思想や感情など文化及び言葉の	の伝統と文化に			自分の考えを深	身に付けてい
る。 古典B 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 知識・理解 古典を読む力 古典を読んで 伝統的な言語 を進んで高める 思想や感情など 文化及び言葉の	対する関心を深			め,発展させて	る。
古典 B 関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 知識・理解 古典を読む力 を進んで高める 古典を読んで 思想や感情など 伝統的な言語 文化及び言葉の	めようしてい			いる。	
関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 知識・理解 古典を読む力 を進んで高める	る。				
古典を読む力 を進んで高める 古典を読んで 伝統的な言語 思想や感情など 文化及び言葉の	古典B				
を進んで高める 思想や感情など 文化及び言葉の	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	古典を読む力			古典を読んで	伝統的な言語
とともに,古典 を的確に捉えた 特徴やきまりな	を進んで高める			思想や感情など	文化及び言葉の
	とともに,古典			を的確に捉えた	特徴やきまりな

についての理解 や関心を深めよ うとしている。

り,その価値を │どの理解を深 考察したりし め , 知識を身に て、自分の考え「付けている。 を深め、発展さ せている。

「A」科目と「B」科目の違いは、標準単位数ではなく、指導する内容にある。 観点が同じである「古典A」と「古典B」でも内容は異なる。

「現代文A」と「現代文B」、「古典A」と「古典B」の特色については「高等学校学習指導要領 解説 国語編(平成22年6月 文部科学省)」(以下「解説 国語編」とする。)の第1章第3節 の3に詳説されているので参照のこと。

(4)単元の評価規準について(「学習評価参考資料」より一部抜粋)

「国語総合」の内容のまとまり「C 読むこと」の評価規準に盛り込むべき事項を後の表のとお り例示する。

【科目の目標(国語総合)】

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、 思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心 を深め,国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。(「国語総合」の科目の目標 は、国語科の教科の目標と同一である)

「国語総合」において、学習指導要領の内容のうち〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事 項〕については、学習指導要領の「2 内容」のうち「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこ と」、「C 読むこと」の3領域の指導を通して指導することとなっていることから、これらの3 領域を内容のまとまりとし、各内容のまとまりの中に、関連する事項を含めている。

事項の末尾に付した「ア」などの記号は、学習指導要領の「国語総合」の「2 内容」の(1)の指 導事項との対応を示し、「〔事項〕のア(ア)」などの記号は、同じく「2 内容」の〔伝統的な言語 文化と国語の特質に関する事項〕の指導する事項との対応を示している。

「 C 読むこと」における評価規準に盛り込むべき事項

関心・意欲・態度|・伝統的な言語文化への興味・関心を広げようとしている。[事項](1)のア(ア) 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読もうとしている。 ア 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ろうとしている。 文章の内容を必要に応じて要約しようとしている。 イ

文章の内容を必要に応じて詳述しようとしている。 イ

文章に描かれた人物,情景,心情などを表現に即して読み味わおうとしてい

文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価しようとしてい

文章の構成や展開を確かめ,書き手の意図を捉えようとしている。 エ 幅広く本や文章を読み,情報を得て用いようとしている。 オ 幅広く本や文章を読み,ものの見方,感じ方,考え方を豊かにしようとして いる。オ

と対応 している。

次頁の

読む能力	文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読んでいる。 ア
	文章の内容を叙述に即して的確に読み取っている。 イ
	文章の内容を必要に応じて要約している。 イ
	文章の内容を必要に応じて詳述している。 イ
	文章に描かれた人物,情景,心情などを表現に即して読み味わっている。 ウ
	文章の構成や展開を確かめ,内容や表現の仕方について評価している。 エ
	文章の構成や展開を確かめ,書き手の意図を捉えている。 エ
	幅広く本や文章を読み,情報を得て用いている。 オ
	幅広く本や文章を読み,ものの見方,感じ方,考え方を豊かにしている。 オ
知識・理解	・言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き、伝統
	的な言語文化について理解している。〔事項〕(1)のア(ア)
	・文語のきまり,訓読のきまりなどを理解している。〔事項〕(1)のア(イ)
	・国語における言葉の成り立ち,表現の特色及び言語の役割などを理解してい
	る。〔事項〕(1)のイ(ア)
	・文や文章の組立て,語句の意味,用法及び表記の仕方などを理解し,語彙を
	豊かにしている。 (事項)(1)のイ(イ)
	・常用漢字の読みに慣れている。〔事項〕(1)のウ(ア)
	・主な常用漢字が書けている。 (事項)(1)のウ(ア)

「国語総合」の内容のまとまり「C 読むこと」の指導事項をそのまま<u>単元として設定した場合</u>の評価規準の設定例を示す。

関心・意欲・態度 読む能力 知識・理解

以下に示す「評価規準の設定例」は、近代以降の文章、古典のいずれにも該当する。

〔事項〕(1)のア(ア)

言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き伝統的な言語文化への興味・関心を広げること。

- ・ 伝統的な言語文化へ多様な方面から迫り,我が国の言語文化の独自の性格やその価値に気付こうとしている。
- ・ 我が国の言語文化は,中国をはじめとする外国の文化の受容とその変容とを繰り返しつつ築かれてきたことに気付こうとしている。

(必要に応じて内容の(1)のアからオの設定例と組み合わせる。)

内容の(1)のア

文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。

- ・ 文学的な文章(又は,論理的な文章,実用的な文章)を,表現の技法 や語句の使い方など書き手の工夫を 捉えて読もうとしている。
- ・ 文学的な文章(又は,論理的な文章,実用的な文章)を,文章の種類 や類型,書きぶりの違いなどを踏ま えて読もうとしている。
- ・ 文学的な文章(又は,論理的な文章,実用的な文章)を,表現の技法 や語句の使い方など書き手の工夫を 捉えて読んでいる。
- ・ 文学的な文章(又は,論理的な文章,実用的な文章)を,文章の種類 や類型,書きぶりの違いなどを踏ま えて読んでいる。

[事項](1)のア(ア)

- ・ 伝統的な言語文化へ 多様な方面から迫り, 我が国の言語文化の独 自の性格やその価値に 気付いている。
 - (例えば,「作品一つ 一つに表れている個性 と価値」,「作品を集 合的に捉えた時代全体 の特質」などと,指導 事項と関連させた具体 的な内容を入れること もできる。)
- ・ 我が国の言語文化は、中国をはじめとする外国の文化の受容と その変容とを繰り返し つつ築かれてきたこと に気付いている。

内容の(1)のイ

文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳 述をしたりすること。

- 語句や表現に注意して文脈を捉 え,書き手の考えなどを,間違いな く,過不足なく読み取ろうとしてい
- 目的に応じて、文章全体をまとめ (又は,特定の項目についてまと め)ようとしている。
- 目的に応じて、詳しく解説(又 は,分かりやすく説明)しようとし ている。
- 語句や表現に注意して文脈を捉 え,書き手の考えなどを間違いな く,過不足なく読み取っている。
- ・ 目的に応じて,文章全体をまとめ (又は,特定の項目についてまとめ) ている。
- 目的に応じて,詳しく解説(又 は,分かりやすく説明)している。

内容の(1)のウ

文章に描かれた人物,情景,心情などを表現に即して読み味わうこと。

- 文章に描かれている人物の心情を 表現に即して読み,異なる立場から 読み深めようとしている。
- 文章に描かれている情景を,文や 文章, 語句などから離れないように して読み,人物の言動や状況を捉え る手掛かりとしようとしている。
- 人物,情景,心情などを,どのよ うに書き手が描いているのかを捉 え,言葉の美しさや深さに気付こう としている。
- 人物,情景,心情などを,どうし て書き手がこのように描いているの かを捉え,象徴,予兆などに果たし ている効果に気付こうとしている。

- 文章に描かれている人物の心情を 表現に即して読み,異なる立場から 読み深めている。
- 文章に描かれている情景を, 文や 文章, 語句などから離れないように して読み,人物の言動や状況を捉え る手掛かりとしている。
- 人物,情景,心情などを,どのよ うに書き手が描いているのかを捉 え,言葉の美しさや深さに気付いて いる。
- 人物,情景,心情などを,どうし て書き手がこのように描いているの かを捉え,象徴,予兆などに果たし ている効果に気付いている。

内容の(1)のエ

文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書 き手の意図をとらえたりすること。

- 文章の組立てや骨組みを的確に捉 えようとしている。
- 考えの進め方や , 情景や心情の推 移など,文章の筋道を的確に捉えよ うとしている。
- 文章の構成や展開を確かめ、情景 や心情が効果的に表現できているか どうかを考察しようとしている。
- 文章の構成や展開を確かめ,文章 の内容にふさわしい文体や語句,表 現の技法が用いられているかどうか を考察しようとしている。
- 文章に表れている書き手の思考の 流れに目を向け、なぜこの文章を書 いたのか,なぜこのように書いたの かなどに迫ろうとしている。

- 文章の組立てや骨組みを的確に捉 えている。
- 考えの進め方や,情景や心情の推 移など,文章の筋道を的確に捉えて
- 文章の構成や展開を確かめ,情景 や心情が効果的に表現できているか どうかを考察している。
- 文章の構成や展開を確かめ,文章 の内容にふさわしい文体や語句,表 現の技法が用いられているかどうか を考察している。
- 文章に表れている書き手の思考の 流れに目を向け、なぜこの文章を書 いたのか, なぜこのように書いたの かなどに迫っている。

[事項](1)のア(イ)

- 古文を読むことに役 立つ,文語のきまりを 身に付けている。
- 漢文を読むことに役 立つ,訓読のきまりを 身に付けている。 (指導事項と関連さ せ, 文語のきまりや, 訓読のきまりの具体的 な内容を入れることも

[事項](1)のイ(ア)

できる。)

国語の言葉は、歴史 的にみてどのように成 立し変遷してきたかを 理解している。

(例えば,「漢語の流 入と定着,西洋からの 外来語の流入と定着と いう, 語彙の歴史的な 経緯について理解して いる。」などと,指導 事項と関連させ一層具 体化することもでき る。)

- 語句(又は,語彙) の構造的な仕組みにつ いて理解している。
- 文章の形態や文体の 違いによる特色につい て理解している。 (例えば,文章の形態 による特色としては, 「歌物語における和歌 の修辞や,語句の用い 方について理解してい る。」などと,指導事 項と関連させ一層具体 化することもでき る。)
- 国語の音韻(又は, 文字,表記,語句,語 彙 , 文法) の特色につ いて理解している。
- 言語が個人や社会の 中で果たしている役割 について理解してい る。

(例えば、「生活や文 化の伝統を維持するは たらき」などと,指導 事項と関連させた具体 的な内容を入れること もできる。)

内容の(1)のオ

幅広く本や文章を読み,情報を得て用いたり,ものの見方,感じ方,考 え方を豊かにしたりすること。

- ・ 幅広い形態,内容,分野の本や文 章を読み,情報を得ようとしてい る。
- 幅広い方法で,幅広い場から本や 文章を手に入れ,情報を得ようとしている。
- ・ 情報源を選択し,そこから得た情報を評価したり,目的に応じて適切に加工したりしようとしている。
- 様々な本や文章の書き手の意図を 捉え,共感したり,疑問に思ったり,思索したりしようとしている。
- ・ 様々な本や文章を読み,人間,社 会,自然などについて,自分なりの 考えを形成しようとしている。

- ・ 幅広い形態,内容,分野の本や文 章を読み,情報を得ている。
- ・ 幅広い方法で、幅広い場から本や文章を手に入れ、情報を得ている。
- ・ 情報源を選択し,そこから得た情報を評価したり,目的に応じて適切に加工したりしている。
- ・ 様々な本や文章の書き手の意図を 捉え,共感したり,疑問に思ったり,思索したりしている。
- ・ 様々な本や文章を読み,人間,社 会,自然などについて,自分なりの 考えを形成している。

言語が文化の享受や 発展にどのように関わっているのかについて 理解している。

[事項](1)のイ(イ)

- ・ 読むことに必要な文 の組立て(又は,文章 の組立て , 語句の意 味 , 語句の用法 , 表記 の仕方)について理解 している。
- 正しく理解し,使いこなせる言葉の数を増 やしている。

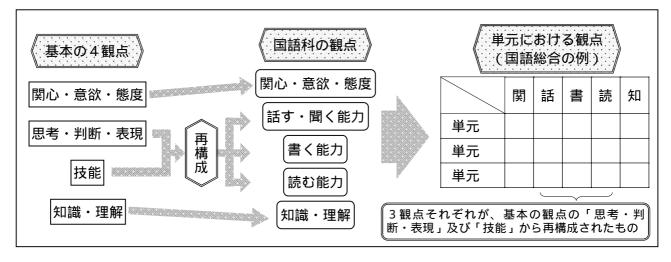
[事項](1)のウ(ア)

- ・ 常用漢字の音訓を正 しく読んでいる。
- ・ 主な常用漢字を文脈 に応じて正しく書いて いる。

「国語総合」の他のすべての内容のまとまりにおける<u>評価規準に盛り込むべき事項及び指導事項</u> (単元)の評価規準の設定例は、「学習評価参考資料」に記載されている。

(5)単元の指導と評価の計画について(「学習評価参考資料」を一部改編)

国語科以外の教科等の学習評価では、一つの単元で「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」及び「知識・理解」の4観点を設定していることが多いが、国語科では、「関心・意欲・態度」及び「知識・理解」と、さらに一つの観点を加えた3観点で作成することとなる。



これは、「(2)評価の観点及びその趣旨」の「改訂のポイント」に記したように、国語科の観点である「話す・聞く能力」、「書く能力」及び「読む能力」は、基本の観点の「思考・判断・表現」と「技能」とを不可分のものとして再構成した結果の観点であり、これらの観点の一つと「関心・意欲・態度」及び「知識・理解」を評価することにより、他教科と同じように4観点分の評価を行うことになると考えられるからである。(前頁の図を参照)

「国語総合」の内容のまとまり「C 読むこと」の中の指導事項(1)のエ「文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。」の「指導と評価の計画」を例示する。

次	学習内容	学習活動	ねらい	関	話	書	読	知	評価規準	評価方法
1	文章の構成を読み取る	・やに体と葉葉にべ・の化に持素が表 な問る応文現しのもや、つるグ展と進ち」、に 第か票(じき語が容、か歌て 一を「要後当系と 次にに師回続訳らを気らの、 プ、気素戻た列めで点しは答み等文捉にな修個 で場持」りるでる解をて、するかを章えない辞人 、所ち、す部分。淚、提必る脚参のるる言なで、文のが「る分か」し「出要)注考大と言 ど調 章変先気要とる し質すに。	用法及び表 記の仕方な どを理解						歌 け 修 句 に 解 る い ら に 解 る い ら に 解 、 い て い て い こ の 語 方 理	記述の点検
2	文章の構成や展開を確認する	・表ごる・いーにがう・に箇正 第をと。双、プ、反か本照所に で、六 実たっない。 で、六 実たっない を分作みしく を分作みしく での双たるるや とののいす成本の は、付 が、ののは でのので、 でのので、 でのので、 でのので、 でのので、 でのので、 でのので、 でのので、 でのので、 でのので、 でのので、 でのので、 でのので、 でのので、 でのので、 でのので、 でのので、 でのので、 で。 でので、 でので、	文章の構成や展開を確かめる。						文章の構成 や展開を確 かめてい る。	行動の観察
3	文章の効果 的な表現に ついて考察 する	・成行点と・考場と沿かをこれのか、相る六本物にがいれる。や文にがいるででである。では、おいるのでは、おいるのでは、おいるのででは、ないがでは、ないがでは、ないのででは、ないのででは、ないのででは、ないのではないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないので	文やかや方評りのらえの開、現つし書図たりのでは、意えたのいたきをりる。						文やあいの構を開いているでは、からいでは、はいかでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	記述の分析

		めさせる。) さらに、グループでの話合いの結果を持ち寄り、クラス全体で、文章の構成や展開の仕方の効果について考える。					
4	学習の振り返り	・単元を通して学んだ、文章の構成や展開、表現の効果について自分の考えをまとめる。	文やかや方評りのらよるの開、現つし書図たとのは、意えう。のはないたきをりすがないをある。			文 や か や 来 で か 考 と る の 構 を 景 効 明 に て か 考 と し 。 で か ま い か よ い か よ い か よ い か よ い か よ い か よ い か よ い か よ い か よ い か よ い か よ い か よ の で か ま か ま か 現 る を う	記述の分析

1)表中の観点について

関 … 関心・意欲・態度 話 … 話す・聞く能力 書 … 書く能力

読 … 読む能力 知 … 知識・理解

- 2)「指導と評価の計画」については第1章「8 指導計画の作成について」(8~12頁参照)の中でその作成に係る留意点等について解説しているので参照する。
- 3)第1次では「知識・理解」を観点とし、その「評価規準」は「(4)単元の評価規準について」の「評価規準の設定例」の「知識・理解」の欄の「(事項)(1)のイ(ア)」にあるように、指導事項と関連させ一層具体化させた例を用いている。第2次及び第3次では同様に「読む能力」欄の「内容の(1)の工」の3番目の項目、第4次は「関心・意欲・態度」欄の「内容の(1)の工」の3番目の項目となっている。

(6)教科としての評価に関する留意事項

「国語総合」の各単元の目標設定に際しての工夫

単元の目標 当該単元での目標を重点化し、学習指導要領の指導事項(内容の(1))から一つを取り上げ、その文言をほぼそのまま用いる。

「(5)単元の指導と評価の計画について」の例には、単元の目標の記載を省略している。ただし、第3次の「ねらい」を「文章の構成や展開を確かめ,内容や表現の仕方について評価したり,書き手の意図を捉えたりする。」としているのは、単元の目標を「C 読むこと」の「2内容」の(1)の工をそのまま用いて「文章の構成や展開を確かめ,内容の表現の仕方について評価したり,書き手の意図を捉えたりすること。」としたことに対応したものである。

~ 単元の目標設定と学習指導要領の指導事項との関係について ~

各教科・科目の指導は学習指導要領に基づいて行うのであるから、単元の目標と学習指導要領の目標とが同じ文言となることは、ある意味では必然であるともいえる。しかし、学校や生徒の実態によっては、学習指導要領に示された指導事項を更に分割して段階的に指導をしたり、反対に複数の指導事項を関連させて指導したりした方が有効である場合もあり得る。そのような場合には学習指導要領に沿いつつ、目標を分割したり複数を関連させたりすることも考えられる。

なお、新しい学習指導要領において、「特に必要がある場合には,(中略)教科及び科目の目標の趣旨を損なわない範囲内で,各教科・科目の内容に関する事項について,基礎的・基本的な事項に重点を置くなどその内容を適切に選択して指導することができる」(第1章第5款の2の(4))とされていることに基づいた指導を行う場合にも同様のことが考えられるが、「特に必要がある場合には」と付されていることから、内容の一部省略は十分に慎重を期すことが求められていることに留意する必要がある。

「関心・意欲・態度」の目標 当該単元で最も重点をおく「目標」 に関心をもち、自ら学ぼうとする意欲や態度を身に付けることを目標とする。したがって、 の文末の「……する、…… している」を「……しようとする、……しようとしている」に改めるだけにする。

「(5)単元の指導と評価の計画について」の例では、「C 読むこと」に重点を置いているので、第4次においた「関心・意欲・態度」の目標は、□で述べた単元の目標の文末を改めて、「文章の構成や展開を確かめ,内容や表現の仕方について評価したり,書き手の意図をとらえたりしようとする。」としている。

____「知識・理解」の目標」 「国語総合」においては、学習指導要領の「2 内容」で示された 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕から、当該単元で重点を置く指導事項に関連し たものを用いている。

「(5)単元の指導と評価の計画について」の例では、第1次で「知識・理解」を目標とし、この単元で重点を置く「C 読むこと」に関連する「文や文章の組立て,語句の意味,用法及び表記の仕方などを理解し,語彙を豊かにする。」としているが、これは〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の(1)のイの(1)を用いている。

国語科の各選択科目の観点別の目標について

「国語総合」以外の各科目の学習指導要領の「2 内容」の(1)の指導事項では、領域や事項が明示されていないが、「国語総合」の各領域の指導事項を踏まえ、「学習評価参考資料」では次の表のように各観点の目標が示されている。(「関心・意欲・態度」はすべての指導事項が対応)

科目	各能力等に対応する学習指導要領の指導事項(「2 内容」の(1))						
観点	国語表現	現代文A	現代文 B	古典A	古典B		
話す・聞く能力	ア , イ , エ , オ		工,才(後段)				
書く能力	ア , ウ , エ , オ		工,才(後段)				
読む能力		ア , イ(前段) , エ(前段)	ア,イ,ウ	ア , イ(前段) , エ(前段)	イ,ゥ,エ		
知識・理解	カ	イ(後段) , ウ , エ(後段)	オ(前段及び後 段の前半)	イ(後段),ウ, エ(後段)	ア , エ(前段) , オ		

これらをまとめたものを「(3)科目における評価の観点の趣旨」に示した。なお、参考に、「知識・理解」について、学習指導要領の当該箇所を示すと次のようになる。(各科目の「2内容」の(1)の抜粋)

「国語表現」「	カ 国語における言葉の成り立ち,表現の特色及び言語の役割などについて理
1	<u>解を深めること</u> 。」 カ
「現代文A」「	イ 文章特有の表現を味わったり, <u>語句の用いられ方について理解を深めたり</u>
	<u>すること</u> 。」 イ(後段)
Γ	ウ 文章を読んで,言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係につ
	<u>いて理解すること</u> 。」 ゥ
r	エ 近代以降の言語文化についての課題を設定し,様々な資料を読んで探究し
	て, <u>言語文化について理解を深めること</u> 。」 エ(後段)
⁻ 現代文 B 」「	オ 語句の意味,用法を的確に理解し,語彙を豊かにするとともに,文体や修
j	<u>辞などの表現上の特色をとらえ</u> ,自分の表現や推敲に役立てること。」
	オ(前段及び後段の前半)
古典 A」「	イ 古典特有の表現を味わったり, <u>古典の言葉と現代の言葉とのつながりにつ</u>
	<u>いて理解したりすること</u> 。」 イ(後段)
Γ	ウ 古典などを読んで,言語文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係
	について理解すること。」 ウ

- 「エ 伝統的な言語文化についての課題を設定し,様々な資料を読んで探究して, 我が国の伝統と文化について理解を深めること。」…… エ(後段)
- 「古 典 B」……「ア <u>古典に用いられている語句の意味,用法及び文の構造を理解すること</u>。」 …… ア
 - 「エ <u>古典の内容や表現の特色を理解し</u>て読み味わい,作品の価値について考察すること。」...... エ(前段)
 - 「オ 古典を読んで,我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深めること。」…… オ

ここで注意すべきことは、「国語総合」を含めた各科目各観点の目標は、すべて学習指導要領の「2 内容」の(1)を基にしており、「2 内容」の(2)は目標としていないことである。「2 内容」の(2)とは各科目の指導事項(「国語総合」においては各領域及び事項)を指導する際の言語活動の例示であり、指導事項そのもの(目標)ではない。学習指導要領の「2 内容」に「(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導する」と記述されている所以である。

例えば、学習指導要領の「国語総合」の「2 内容」の「C 読むこと」の(2)で例示されている言語活動に、「ウ 現代の社会生活で必要とされている実用的な文章を読んで内容を理解し、自分の考えをもって話し合うこと。」や「工 様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、<u>感想を述べたり批評する文章を書いたりすること</u>。」とある。これらは「読むこと」を目標として行う学習活動としての言語活動であって、たとえ実際に効果的に話し合ったり、あるいは的確に批評する文章を書いたりしていたとしても、目標はあくまでも「読むこと」であり、それらがそのための活動(目標)である以上、「目標に準拠した評価」という考え方に立てば、(その単元においては)それらの活動について「話す・聞く能力」や「書く能力」として高く評価することは適切ではない。(ただし、「話す・聞く能力」を観点とした単元であれば、「A 話すこと・聞くこと」の指導事項(「2 内容」の(1))に、例えば「ウ 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うこと。」とあることから、「効果的な話し合い」を高く評価することは可能であり、「書く能力」が観点であれば、「B 書くこと」の指導事項に「ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。」などがあることから、「的確に批評する文章」を評価することはできる。)

評価規準について

目標の設定を受けて、その目標に対する評価の規準を設定する。「(4)単元の評価規準について」の「評価規準の設定例」に具体的な評価規準を示している。ちなみに「(5)単元の指導と評価の計画について」に例示した「指導と評価の計画」で「評価規準」の欄にも、「評価規準の設定例」に記載されたものをそのまま記載している。(「(5)単元の指導と評価の計画について」の3)を参照。)なお、第1章20頁のQ17にあるように、評価の規準には言語活動(学習指導要領の「2内容」の(2)に記述されたもの)に関することは含めないことになる。

評価規準は、観点ごとに、目標に対して「おおむね満足できる」状況(評価結果 B)を示したものである。この状況は、目標の実現を図るために行う教員の意図的・計画的な指導によって、すべての生徒が身に付けるべき資質・能力を観点ごとに「おおむね満足できる」状況(B)として設定する。(「学習評価参考資料」の13頁に関連の記述)

教材について

これまでの国語科の指導では、実態としては、学習活動や教材を先に設定することが多かった。

たとえば、「1年次の夏休み前に『水の東西』を扱うこととし、グループでの話合いを取り入れて、「話す・聞く能力」を身に付けさせる。」という流れである。しかし、この場合、仮に「水の東西」を収録していない教科書を使用する場合には、指導計画を立て直さなければならなくなる。

これに対し、目標として身に付けさせたい能力と評価規準、取り入れる言語活動等を確定し、それにふさわしい教材を教科書から選ぶという流れであれば、仮に教科書が変わって収録教材が変わったら、選定する教材を入れ替えることによって対応できる。「教科書で教える」ということの具体化である。

評価方法について

国語科の指導は、言語活動の場面を通して指導事項について指導するという枠組みをとっている。 したがって、評価も言語活動の場面を通して行うことになる。(言語活動ができているかどうかを 表面的に評価するものではないことに留意する。)

評価の方法は、原則として次の3段階で設定されている。

観察、点検(発言や行動の観察、記述の点検)

確認 (発言や行動、記述などの内容の確認)

分析 (「発言や行動の観察、記述の点検」や「発言や行動、記述などの内容の確認」 を踏まえた分析)

一つの単元における評価機会について

「学習評価参考資料」の「事例1」(46頁)や「事例2」(48頁)では、指導事項を重点化するとともに各観点の評価の機会も1回としている。これは指導すべき事項を明確にし、単元終了時の評価総括の負担を軽減することにもつながる。

しかし、学校や生徒の実態に応じて指導事項を分割し、段階的に指導することとした結果、評価機会が2回以上になることも考えられる(「(5)単元の指導と評価の計画について」の例示では、段階的な指導により「読む能力」の評価の機会を2回としている。)。なお、その場合には、2回以上の評価の結果を平均するのか、最終の評価を単元の評価とするのかについて、指導の状況、学校や生徒の実態を踏まえて、最終的に評価を総括する際に適切に決定する必要がある。

「関心・意欲・態度」の評価方法について

「関心・意欲・態度」の評価に際しては、まず、「関心・意欲・態度」の対象が何であるかを明確に認識することが重要である。ある単元における「関心・意欲・態度」は、その単元で対象とする学習内容(「話す・聞く」「読む」「書く」)に関心をもち、自ら学ぼうとする意欲や態度を生徒が身に付けているかどうかを評価するものである。

評価の具体的な方法としては、授業等における発言や行動等、ワークシートやレポートの作成、 発表などを観察、確認、分析することによって評価することになる。なお、その際には、授業中の 挙手や発言の回数といった表面的な状況のみに着目することにならないように留意する。

なお、ノートやワークシート等の提出状況を、学期間、年間等を通じて別個に積算して「関心・ 意欲・態度」の評価記録としている例も見られるが、各単元における評価の記録として用いるのが 本来の姿である。たとえば、「学習評価参考資料」の事例のように、「関心・意欲・態度」の評価 機会を単元の振り返りの段階(最終の「次」)に設定し、ノートやワークシートの記述を確認・点 検・分析して、その単元における主たる学習内容(目標)に関心をもち、自ら学ぼうとする意欲や 態度を身に付けているかどうかを評価するというものである。

- Q 1 一つの単元の目標は、必ず一つの領域でなければならないか。
- A 1 国語科においては、必ずしもそうしなければならないわけではありません。学校や生徒の実態を十分に考えた上で、目標の実現、内容の習得のために、生徒の学習に無理がなく、教員が意図的、計画的に指導できるのであれば、複数の目標を掲げても構いません。ただし、一般的には、多くの目標を設定し、その実現のための指導を十分に行い、すべての生徒の実現の状況を「おおむね満足できる状況」にすることは困難であることが予想されますし、その上、仮に実施できたとしても指導にかける時間が長くなって散漫になってしまうことが懸念されます。
 - 一方、目標を一つに絞った場合には、1単元、1単位時間での指導を明確に意識することや生徒が学習の見通しをもつことにつながると考えることができます。
- Q 2 「読む能力」を観点とし、「文章に描かれた人物,情景,心情などを表現に即して読み味わ う。」を目標とした単元で、評価材料として作文を書かせたところ、不十分な表現が多い生徒が いたが、「書く能力」を観点としていなければ、指導することはできないのか。
- A 2 「国語総合」を例にとれば、学習指導要領上の「書くこと」の指導内容の(1)のアに「文章の形態や文体,語句などを工夫して書くこと。」とありますので、「書く能力」を観点として、これを指導目標としている場合には、当然、指導し、評価することができます。(「(6)教科としての評価に関する留意事項」のを参照。)

ただし、単元の指導内容に位置付けて、目標とし、評価する場合には、全生徒が対象となりますので、ここでの問いのように一部の生徒のみを対象とする場合は、個別の指導として実施することになります。そうした指導を行うことは構いませんし、むしろ必要なことだといえますが、そのことによってその生徒だけを対象とする評価を行うことは、他の生徒との評価機会の公平性の面から配慮が必要です。

- Q3 「国語総合」の毎回の授業の導入時に漢字の小テストを実施している。生徒に自己採点(又は、 生徒同士のペアで交換して採点)を行っているが、この小テストの結果を評価に加える際の留意 点は何か。
- A 3 「国語総合」で常用漢字の指導を行う場合、学習指導要領上における「2 内容」の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)のウ(ア)を指導する中で実施しますが、「学習評価参考資料」では、(事項〕(1)のウ(ア)は「知識・理解」の観点として記載されています(30・33・35・38頁)。なお、このような毎回の常用漢字指導を評価の材料とする場合には、教員が意図的、計画的に指導し評価することになりますので、個々の単元の「指導と評価の計画」等により生徒、保護者へ説明しておくなどの工夫が必要です。また、ある程度の長期間(学期、年度)等にわたって小テストによる漢字指導をする場合、その間に指導するすべての単元それぞれに関連させて「知識・理解」として無理に漢字学習を位置付けるのではなく、その期間を通じて指導する単元(「帯単元」と呼ばれます)として、別に単元の指導計画を立てて示すことも可能です。

また、生徒自身又は生徒同士の評価の結果を常用漢字の学習成果の評価として活用する場合、生徒の採点結果をそのまま活用するのではなく、教員による丁寧な指導と確認や分析を行うことも必要です。学習指導において評価を行う主体となるのは、あくまでも教員です。

なお、生徒間で行う評価(活動)は、生徒が自分や他の生徒のテスト結果を確認するという作業を行うことによって「常用漢字の読みに慣れ,主な常用漢字が書けるようになること。」を目標として行う学習活動の一つであると考えられます。したがって、評価をするという活動自体は評価の対象にはなりません。

2 地理歴史

(1)教科の目標

我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め,国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う。

(2)教科の評価の観点及びその趣旨

改	正	従	前
関心・意欲・態度	歴史的・地理的事	関心・意欲・態度	歴史的・地理的事
	象に対する関心と課		象に対する関心と課
観点名変更なし	題意識を高め,意欲		題意識を高め,意欲
	的に追究するととも		的に追究するととも
	に,国際社会に主体		に,国際社会に主体
	的に生き国家・社会		的に生きる国家・社
	を形成する日本国民		会の一員としての責
	としての責務を果た		任を果たそうとす
	そうとする。		る。
思考・判断・表現	歴史的・地理的事	<u>思考・判断</u>	歴史的・地理的事
	象から課題を見いだ		象から課題を見いだ
	し,我が国及び世界		し,我が国及び世界
	の形成の歴史的過程		の形成の歴史的過程
	と生活・文化の地域		と生活・文化の地域
	的特色を世界的視野		的特色を世界的視野
	に立って多面的・多		に立って多面的・多
	角的に考察し、国際		角的に考察するとと
	社会の変化を踏まえ	,	もに,国際社会の変
	公正に判断して,そ		化を踏まえ公正に判
	の過程や結果を適切	}	断する。
	に表現している。	J	
資料活用の技能	歴史的・地理的事	資料活用の技能・表	諸資料を収集し,
A	象に関する諸資料を	<u>現</u>	有用な情報を選択し
	収集し,有用な情報		て活用することを通
	を適切に選択して,		して歴史的・地理的
	効果的に活用してい		事象を追究する方法
	る。	J	を身に付けるととも
			に,追究し考察した
			過程や結果を適切に
			表現する。

知識・理解	我が国及び世界の	知識・理解	我が国及び世界の
	形成の歴史的過程と		形成の歴史的過程と
観点名変更なし	生活・文化の地域的		生活・文化の地域的
	特色についての基本		特色についての基本
	的な事柄を理解し,		的な事柄を理解し,
	その知識を身に付け		その知識を身に付け
	ている。		ている。

世界中 Δ

改訂のポイント

「思考・判断・表現」の観点の中の「表現」については、従前の「資料活用の技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく、思考・判断した過程や結果を説明・論述・討論などの言語活動等を通じて、生徒がどのように表出しているかを内容としている。

「技能」の観点では、従前の「技能・表現」が対象としていた内容を引き継ぐことになる。これまで「技能・表現」については、例えば地理歴史科では資料から情報を収集・選択して読み取ったりする「技能」と、それらを用いて図表や作品などにまとめたりする際の「表現」とをまとめて「技能・表現」として評価してきた。今回の改訂で設定された「技能」については、これまで「技能・表現」として評価されていた「表現」をも含む観点として設定されることとなった。

(3)科目の評価の観点の趣旨(「学習評価参考資料」より抜粋)

世界史A			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
近現代史を中心とす	現代世界の諸課題を	近現代史を中心とす	近現代史を中心とす
る世界の歴史に対する	歴史的観点から考察	る世界の歴史に関する	る世界の歴史について
関心と課題意識を高	し,国際社会の変化を	諸資料を収集し,有用	の基本的な事柄を地理
め,意欲的に追究する	踏まえ公正に判断し	な情報を選択して,読	的条件や日本の歴史と
とともに,国際社会に	て,その過程や結果を	み取ったり図表などに	関連付けながら理解
主体的に生き国家・社	適切に表現している。	まとめたりしている。	し,その知識を身に付
会を形成する日本国民			けている。
としての責務を果たそ			
うとする。			
世界史 B			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
世界の歴史に対する	世界の歴史から課題	世界の歴史に関する	世界の歴史について
関心と課題意識を高	を見いだし,文化の多	諸資料を収集し,有用	の基本的な事柄を地理
め,意欲的に追究する	様性・複合性や現代世	な情報を選択して,読	的条件や日本の歴史と
とともに,国際社会に	界の特質を多面的・多	み取ったり図表などに	関連付けながら理解
主体的に生き国家・社	角的に考察し,国際社	まとめたりしている。	し,その知識を身に付
会を形成する日本国民	会の変化を踏まえ公正		けている。
としての責務を果たそ	に判断して,その過程		
うとする。	や結果を適切に表現し		
	ている。		
	<u> </u>	<u> </u>	

日本史A			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
我が国の近現代の歴	我が国の近現代の歴	我が国の近現代の歴	我が国の近現代の歴
史の展開に対する関心	史の展開から課題を見	史の展開に関する諸資	史の展開についての基
と課題意識を高め,意	いだし,国際環境と関	料を収集し,有用な情	本的な事柄を,国際環
欲的に追究し,国際社	連付けて多面的・多角	報を適切に選択して,	境と関連付けて理解
会に主体的に生き国	的に考察し,国際社会	読み取ったり図表など	し , その知識を身に付
家・社会を形成する日	の変化を踏まえ公正に	にまとめたりしてい	けている。
本国民としての責任を	判断して,その過程や	る。	
果たそうとする。	結果を適切に表現して		
	いる。		
日本史 B			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
我が国の歴史の展開	我が国の歴史の展開	我が国の歴史の展開	我が国の歴史の展開
に対する関心と課題意	から課題を見いだし,	に関する諸資料を収集	についての基本的な事
識を高め,意欲的に追	国際環境と関連付けて	し,有用な情報を適切	柄を , 国際環境と関連
究し,国際社会に主体	多面的・多角的に考察	に選択して,読み取っ	付けて総合的に理解
的に生き国家・社会を	し我が国の文化と伝統	たり図表などにまとめ	し,その知識を身に付
形成する日本国民とし	の特色についての認識	たりしている。	けている。
ての責任を果たそうと	を深め,国際社会の変		
する。	化を踏まえ公正に判断		
	して,その過程や結果		
	を適切に表現してい		
	る。		
地理A			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代世界の地理的な	現代世界の地理的事	地図や統計,画像な	現代世界の地理的な
諸課題に対する関心と	象から課題を見いだ	ど地域に関する諸資料	諸課題についての基本
課題意識を高め,それ	し,それを地域性や歴	を収集し,有用な情報	的な事柄や追究の方法
を意欲的に追究し,国	史的背景,日常生活と	を選択して,読み取っ	を理解し,その知識を
際社会に主体的に生き	の関連を踏まえて多面	たり図表などにまとめ	身に付けている。
る日本国民としての責	的・多角的に考察し,	たりしている。	
任を果たそうとする。	国際社会の変化を踏ま		
	えて公正に判断して,		
	その過程や結果を適切		
	に表現している。		
地理 B			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代世界の地理的事	現代世界の地理的事	地図や統計,画像な	現代世界の地理的事
象に対する関心と課題	象から課題を見いだ	ど地域に関する諸資料	象についての基本的な
意識を高め,それを意	し,それを系統地理的	を収集し,有用な情報	事柄や追究の方法を理

欲的に追究し,国際社	に考察したり、歴史的	を選択して,読み取っ	解し,その知識を身に
会に主体的に生きる日	背景を踏まえて地誌的	たり図表などにまとめ	付けている。
本国民としての責任を	に考察したりし,国際	たりしている。	
果たそうとする。	社会の変化を踏まえて		
	公正に判断して,その		
	過程や結果を適切に表		
	現している。		

神奈川県の独自科目である「郷土史かながわ」、「近現代と神奈川」の評価の観点の趣旨を例示する。

(神奈川県教育委員会作成)

郷土史かながわ			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
「郷土かながわ」及	「郷土かながわ」の	「郷土かながわ」に	我が国の歴史の展開
び我が国の歴史や文化	歴史や文化を通して、	関する諸資料を収集	についての基本的な事
に対する興味・関心を	我が国の歴史について	し、有用な情報を読み	柄を、「郷土かなが
高めるとともに、国際	多面的・多角的に考察	取ったり図表などにま	わ」の歴史や文化を通
社会に主体的に生き国	し、国際社会の変化を	とめたりしている。	して理解し、その知識
家・社会を形成する日	踏まえて公正に判断し		を身に付けている。
本国民としての責務を	て、その過程や結果を		
果たそうとする。	適切に表現している。		
近現代と神奈川			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
我が国及び神奈川県	神奈川の題材を取り	近現代史を中心とす	我が国の近現代の歴
の歴史や文化に対する	入れながら、近現代史	る我が国の歴史の展開	史の展開についての基
興味・関心を高めると	を中心とする我が国の	にかかわる神奈川の題	本的な事柄を、神奈川
ともに、国際社会に主	歴史の展開から課題を	材を収集し、有用な情	の題材を通して理解
体的に行き国家・社会	見いだし、現代社会か	報を読み取ったり図表	し、その知識を身に付
を形成する日本国民と	らの視点や、世界的視	などにまとめたりして	けている。
しての責務を果たそう	野に立ったグローバル	いる。	
とする。	な視点から、多面的・		
	多角的に考察し、国際		
	社会の変化を踏まえて		
	公正に判断して、その		
	過程や結果を適切に表		
	現している。		

(4)単元の評価規準について

「日本史B」においては、学習指導要領の内容の(1)~(6)の大項目を内容のまとまりとした。そのうち、「(4)近代日本の形成と世界」における単元の評価規準に関する例示を行う。学習指導要領で示された科目の目標を踏まえ、「評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を示している。

【科目の目標(日本史B)】 ——

我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ,我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって,歴史的思考力を培い,国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

「日本史B」の内容のまとまり(学習指導要領の大項目)「(4)近代日本の形成と世界」における評価規準に盛り込むべき事項である。(「学習評価参考資料」より一部抜粋)

「(4)近代日本の	「(4)近代日本の形成と世界」における評価規準に盛り込むべき事項					
関心・意欲・態度	態度 近代国家の形成と社会や文化の特色に対する関心と課題意識を高め,意欲的に追					
	究している。					
思考・判断・表現	近代国家の形成と社会や文化の特色から課題を見いだし,国際環境と関連付けて					
	多面的・多角的に考察するとともに,国際社会の変化を踏まえ公正に判断して,そ					
	の過程や結果を適切に表現している。					
資料活用の技能	近代国家の形成と社会や文化の特色に関する諸資料を収集し,有用な情報を適切					
	に選択して,読み取ったり図表などにまとめたりしている。					
知識・理解	近代国家の形成と社会や文化の特色についての基本的な事柄を,国際環境と関連					
	付けて総合的に理解し,その知識を身に付けている。					

「日本史 B」の内容のまとまり「(4)近代日本の形成と世界」の評価規準の設定例を示す。

この大項目では、ペリー来航から明治時代末期までを扱い、近代国家の形成過程を、社会や文化 の特色に留意し、国際環境と関連付けて総合的に考察させることをねらいとしている。

「ア 明治維新と立憲体制の成立」「イ 国際関係の推移と立憲国家の展開」「ウ 近代産業の発展と近代文化」の三つの中項目がある。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
関心・意欲・態度 ・近代国家の形成と社会や文化の特色に対する関心と課題意識を高めている。 ・近代国家の形成と社会や文化の特色について意欲的に追究している。	・の課幕ど響連に際正やい・てだ日ジ係面と化き、 ・の課幕ど響連に際正やい・てだ日ジ係面と化き、 ・の課題府欧や付考社に結る我のし露アの的とを、 ・の過,明思変・も踏そ表 国題,前国付考社に際正の計算に際正の諸連に際正の諸連に際正の諸連に際正の諸連に際正の諸連に際正の諸連に際正の諸連に際正の諸連に際正の計算を表 は、ない国化のと角、え過し と見清ののですの断 のの問題を表 は、ない国に、 は、ない国に、ない国に、 は、ない国に、ない国に、 は、ない国に、ない国に、ない国に、ない国に、ない国に、ない国に、ない国に、ない国に	資料活用の技能 ・近代国家の形成と社会 ・近代の特色に関するに関する。 ・質料を適切に選択の形成との形成との の形成の形成の形成の形成の形成の形成の形成の形成のででででででである。 ・でででである。	知識・国に柄亡の国付しけ・て的日後とけのる・理解の進的府ど影とに身 国開柄日ジ係合を 国て約と欧と解別の基と化想変的会識 憲い条争び移理付別のである。 のにを露アの的身家の改そ米関してが程事滅米や連解付 し本,前国付そのる。
	れていた ではまれな に対している。 ・近代でないの発展の経 が近代でする。 ・近代代文でのがは が近代ででいる。 ・近代ででいる。 ・近代ででいる。 が近代ででいる。 が近れたいででは、 を超れている。 が近れている。 が近れている。 が近れている。 が近れている。 が近れている。 が近れている。 がはいだし、 はいたは、 はいたは、 はいたは、 はいたが、 はいが、 はい		・近代産業の発展の経緯 や近代文化の特色とその 成立の背景についての基 本的な事柄を,国民生活 の向上と社会問題の発 生,学問の発展や教育制 度の拡充と関連付けて総

角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。		合的に理解し,その知識 を身に付けている。
---	--	--------------------------

「日本史B」の他のすべての内容のまとまりにおける評価規準に盛り込むべき事項及び単元の評価規準の設定例は、「学習評価参考資料」に記載されている。

「日本史B」の評価規準の設定について、各観点の「評価規準の設定例」の文言は、およそ次のようになる。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
・と社会や文化の特	・から課題を見いだ	・と社会や文化の特	・についての基本的
色に対する関心と課題意		色に関する諸資料を収集	な事柄を、と関連付
識を高めている。	面的・多角的に考察(す	し、有用な情報を適切に	けて総合的に理解し、そ
	るとともに、国際社会の	選択している。	の知識を身に付けてい
・と社会や文化の特	変化を踏まえ公正に判		る。
色について意欲的に追究	断)し、その過程や結果	・ と社会や文化の特	
している。	を適切に表現している。	色に関する情報を読み取	
		ったり図表などにまとめ	
		たりしている。	

各学校では、上に示された「評価規準の設定例」を参照しつつ、あくまでもそれぞれの学校独自の指導計画や授業実践に基づき、また生徒の実態に応じて評価規準を設定して、目標に準拠した観点別学習状況の評価を適切に進める必要がある。

(5)単元の指導と評価の計画について(「学習評価参考資料」を一部改編)

「日本史B」の内容のまとまり「(4)近代日本の形成と世界」の中の単元「近代産業の発展と資本主義の確立」の「指導と評価の計画」を例示する。

次	学習内容	学習活動	ねらい	関	思	技	知	評価規準	評価方法
第一次(1時間扱い)	近の現(題と見代発代学の学通と 選発習し	・示覧らる本のと代設とか柄ワさ情の特の関とに立す、をう会ら期現や読、が経何浮したのそ関の済取の社す必ぶに一れわ日とる時をる要事に一れわ日とる時をる要事	諸用在産の連ら代展対とをる資しの業様付、ののす課高。料て日や子け明産特る題めを、本経とな治業色関意さ活現の済関が時発に心識せ					・各会社の業種と創業の時期との関係や現在の日本の産業や経済との関連、創業当時の時代背景を読み取ってまとめている。 ・近代産業の発展と産業基盤の整備に対する関心と課題意識を高めている。	・シの ワーは述 ・シのワート述ク 1000000000000000000000000000000000000

第二次(1時間扱い)	近の経(解代発達を受けるというでは、一般には、一般には、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	・会要け年交術に教びま歴位し記がの事が財・教す書しめの付簡すで設柄ら政通制出ど一そ開けないに連治融、な事ら表ら中解章しに連治融、な事ら表ら中解章をはが付初、技どを選にをに釈で	諸釈てのの緯盤つさ(釈資を、近発とのいせ歴)の通が産の業備理。の解し国業経基に解解	・教科書などの諸資料から、近代産業の整備に関まる有用な情報を適切に選択して、一覧表や簡潔な文章にまとめている。	シート 2 の記述 ・ワーク
		・の代関学る産び代的るに鉄な産り記のすりで地の付産な、代し、世界のでは、大学がは、大学がは、大学がは、大学がは、大学がは、大学が、大学がは、大学が、大学が、大学が、大学が、大学が、大学が、大学が、大学が、大学が、大学が		・統計資料や地域社会の 事例などと結び付けなが ら、我が国の近代産業の 発展の経緯を理解してい る。	内容・ノート
第三次(2時間扱い)	資の社の(説本確会発歴明主立問生史)	をにうそる ・をの資働ぞたがが代め、営影 は目開本者れ上発確のと」理整 の討定表がを代本明立とを由理 解論しとそ述産主治場とを由理 解論しとそ述産主治場とをは、 は、	諸用が産しがい社らい様かてる(明資し国業資確く会課だ々ら説。歴)料てでが本立時情題(な考明)史を、近発主し期勢をし立察さ)の活我代展義てのか見、場しせ(説	・明治は、	シ · 述 ・シ · 述 ・シ · 述 ・シ · 述 ・シ · 述 ・シ · 述 ・シ · 述
		しての考えを述べ る。 ・ペーパーテスト の実施		明している。 	

1)表中の観点について

関 ...関心・意欲・態度思 ...思考・判断・表現技 ...資料活用の技能知 ...知識・理解

2)「指導と評価の計画」については第1章「8 指導計画の作成について」(8~12頁参照)の中でその作成に係る留意点等について解説しているので参照する。

<第一次で使用するワークシート1の例>

次の表1と表2を比べて、下の問いに答えよう。

表 1	現在の会社名	創業年等	創業当時の会社名等	ĺ
	東洋紡績株式会社	1882(明治15)年	大阪紡績株式会社	
,	ユニチカ株式会社	1889 (明治22)年	有限責任尼崎紡績会社	ĺ
,	••••	•••••	•••••	

表 2	現在の会社名	創業年等	創業当時の会社名等
	新日本製鐵株式会社	1901(明治34)年	官営八幡製鉄所(創業開始)
	• • • • •	•••••	•••••
	株式会社日立製作所	1910 (明治43)年	久原鉱業所日立鉱山付属修理工場

- 問1 表1と表2の会社は、それぞれどのような産業の会社ですか。 表1と表2の会社の創業年を比べると、どのようなことが言えますか。
- 問2 表1と表2の会社が創業した時期は、今からどれくらい前ですか。 そのことから、どのようなことが言えますか。
- 問3 表1と表2の会社が創業した時期には、どのような出来事がありましたか。 そのことから、日本の産業発展の特色についてどのようなことが言えますか。

<第二次で使用するワークシート2の例>

教科書などを参照して、明治初年における次の分野に関する事柄を選び出して表にまとめるとともに、前次で思い浮かべた会社を設立し経営するのに必要な事柄と関連させて、日本の資本主義の確立に必要なことをワークシート3 - 2 にまとめよう。

分野	教科書などから選び出した事柄	会社設立等に必要な事	日本の資本主義の確立に必要な何をもたらし
7723	を記入しよう	柄	<u></u> たのか、文を完成させよう
財政	1872年 国立銀行条例 など	お金(資金)など	日本の資本主義の確立に必要な
金融			
交通			日本の資本主義の確立に必要な
通信			
教育			日本の資本主義の確立に必要な
制度			
• • • • •	•••••	•••••	•••••

<単元全体で使用するワークシート3の例> この時代にあなたが会社を設立して経営するとしたら、どのようなものが必要になるだろうか。思い浮か 第 ぶものを自由に記述しよう。 次 第 2 「資本主義の確立に必要なこと」を、簡潔な文章にまとめて記述しよう。 次 3 労働者が置かれた具体的な状況や「夜業」についてまとめよう。 4 社会問題の解決を目ざした討論会が開催されることになりました。 資本家の代表と労働者の代表それぞれの主張を考えて記述するともに、近代産業が発展し資本主義が確立 第 するこの時代の政府としての考えを記述しよう。 \equiv [資本家の代表の主張] 次 [労働者の代表の主張] [政府の考え]

<第三次で使用する資料プリントの例>

次の二つの課題について、ワークシート3 - 3 に記述しよう。

1903年に農商務省がまとめた『職工事情』の記述(現代語訳)から、労働者の置かれた状況を、労働時間、賃金、労働環境などに分けて整理しよう。

・紡績工場に女性及び年少者が多いことは争うことのできない事実である。...試みに紡績連合会の調査した統計によって紡績職工の男女別の割合を見てみると、その率は次のとおりである。

女工 七割八分 男工 二割二分

- ・昼業部は午前六時に開始し午後六時に終了し、夜業部は午後六時に開始し、翌日午前六時に終了することを通例としている。...
- ・休憩時間については、各職工に食事時間三十分、及び午前午後に十五分ずつ与えるのを通例としている。...

......

『職工事情』の記述から、「夜業」を行う経営上の理由やその健康等への影響を整理しよう。

[明治三十四年四月、某紡績家談話]

- ・労働時間は、当社創業の頃は十二時間で昼業のみであったが、製品の売れ行きがよく、利益が多かったため、何としても生産額を増加させるため夜業も始めた。
- ・夜業が衛生上有害であることは議論するまでもない。...

[ポイント]

- ・多面的・多角的に考察しその結果を文章で表現させる。
- ・ワークシートに記載したのは綿糸紡績の分野であるが、製糸や鉄工などの分野の資料を取り上げたり互いを比較したりすることも考えられる。
- ・グループで話し合ったあと再び自分の考えを書くなどの学習活動も考えられる。
- ・生徒の気付きを補足する形で、教師が簡単な説明を加えることも考えられる。

(6)教科としての評価に関する留意事項

観点別学習状況の評価は、毎時の授業等において適切な頻度で継続的に行われるが、その結果は単元ごとの評価として確実に記録に残していく必要がある。そして、学期末や学年末には、それらを踏まえた総括的な評価が行われる。ここでは、学期ごとの評価の総括について具体的に示した上で、学年末の評価や評定への総括について言及する。

《学期ごとの観点別学習状況の評価の例(3学期制の2学期を想定)》

単 元 名			評価の	D 観 点	
半 九	73	関・意・態	思・判・表	技 能	知・理
近世国家の形成		С	В	В	С
産業経済の発展		В	В	В	В
幕藩体制の変容		В	Α	В	Α
明治維新と立憲体制の	明治維新と立憲体制の成立		В	Α	В
国際関係の推移と立憲	国際関係の推移と立憲国家の展開		Α	Α	В
近代産業の発展と資本	主義の成立	Α	В	Α	Α
近代文化の特色		Α	Α	Α	Α
	A の個数	4	3	4	3
評価結果の集計	Bの個数	2	4	3	3
	C の個数	1	0	0	1
2 学期末の評価		Α	В	Α	В

学期ごとに行う評価の総括について、ここでは「(5)単元の指導と評価の計画について」で示した単元ごとの評価の蓄積を基に行う方法について記す。

上の表は、ある生徒の各単元の評価を集計して第2学期末に行う総括を想定して示したものである。七つの単元それぞれの評価を蓄積し、基本的にはA、B、Cのうち個数のより多いものをその観点の学期ごとの評価としている。

表中、「知識・理解」の観点でAとBが同数であるのに、学期の評価はBとなっている。これは、各単元の学習成果全体を振り返って、AとBのいずれに近いと考えられるかで判断したものである。 もしも、いずれかの単元の内容に重み付けを行うのであれば、それを考慮すべきであろう。

一方、「思考・判断・表現」や「技能」のようにその成果が積み上げられていく性質の観点については、時間的に後の方の評価を重視することも考えられる。また、ここでは評価のA、B、Cの個数を基本とする方法で総括を行っているが、例えばA=3、B=2、C=1というように数値で表して総括する方法も考えられる。

次に、学期ごとの評価を学年の評価に総括する方法であるが、これには各学期の評価に基づく方法と、年間を通して単元ごとの評価を総括する方法とが考えられる。例えば、各学期で学習した単元の数や互いの比重が異なるということに着目すれば、年間を通した単元ごとの評価に基づく方法が妥当だと判断されることになる。この場合にも、A、Bなどが互いに同数になることがありえようが、学期ごとの総括と同様の方法を用いることができる。

文部科学省が示した高等学校の指導要録の参考様式には、小学校や中学校の場合と違って観点別学習状況の欄はないものの、生徒の学習の成果である評価は評定に総括して示していく必要がある。評定への総括は、学年末に行われることが多い。観点別学習状況が学習の実現状況を分析的に示すものであるのに対し、評定は学習の実現状況を総括的に評価するものである。観点別学習状況の評価は、評定を行うための基本的な要素となるのである。

総括に際しては、四つの観点相互の重み付けはあってよいが、「知識・理解」に偏ることのないように留意する必要がある。各学校では、観点ごとの総括や評定への総括の考え方や方法についての工夫改善を進め、その共通理解を図るとともに、生徒及び保護者に十分説明し理解を得ることが大切である。

(7)Q&A(地理歴史)

- Q 1 地理歴史における「関心・意欲・態度」はどのように評価すればよいのか。
- A 1 この観点については、学習の深まりにつれて関心・意欲が高まっていくという面に留意し、比較的長いスパンの中で評価を行うことや、単元の後半における関心や学習意欲の高まりを重視して評価していくことが大切です。

評価に当たっては、授業中の行動や発言内容の観察、ワークシートを活用して行う学習課題の 取組状況、自分の考えを論述させる学習等を設定して、様々な学習場面において実施していくな どの工夫が必要です。

- |Q2 ワークシートの記述や論述させた文章を、どのように評価すればよいのか。
- A 2 「(5)単元の指導と評価の計画について」第三次の「ワークシート3-4」を例として考えてみましょう。

【「思考・判断・表現」の評価】(第三次)

社会問題について資本家と労働者それぞれの代表による主張を述べた上で、当時の政府としての考えを述べる。

なお、第三次は、「歴史の説明」の学習として位置付けている。すなわち、歴史的事象には複数の歴史的解釈が成り立つことに気付かせ、それぞれの根拠や論理を踏まえて、筋道立てて考えを説明させる学習である。ここでは、資本家と労働者、政府それぞれの立場の根拠や論理を考えさせる。

評価規準 明治時代の労働者が置かれた状況から課題を見いだし、資本家と労働者、政府それぞ (思) れの立場から考察して、考えを説明している。

【「おおむね満足できる」状況(B)と評価される例】

資本家と労働者それぞれが望むことや望まないことを推察して述べ、両者の内容を踏まえながら

政府としての考えを述べている。

【「十分満足できる」状況(A)と評価される例】

資本家と労働者それぞれの主張の共通点や対立点を明確にし、それに対する政府としての考えを 根拠を示しながら述べている。

資本家と労働者の主張、政府の考えを、当時の国際環境や社会情勢などを踏まえながら述べている。

【「努力を要する」状況(C)と評価される生徒の例と教師の指導】

生徒の状況	教師の指導
* 資本家と労働者いずれかの主張しか述べていない。 * 政府としての考えを述べることができない。	資本家と労働者それぞれにとっての利害が何かに着目して考察するよう促す。 資本家と労働者それぞれの主張の異同に着目し、その調整や解決を図る方向で考えるよう促す。

- Q 3 「郷土史かながわ」及び「近現代と神奈川」における内容のまとまりは何か。
- A 3 「郷土史かながわ」及び「近現代と神奈川」に関しては、「神奈川県立高等学校教育課程編成 基準」に示した「内容」を内容のまとまりとします。
- Q4 「郷土史かながわ」及び「近現代と神奈川」において、評価規準に盛り込むべき事項は何を参照すれば良いのか。
- A 4 「郷土史かながわ」の内容のまとまり(「神奈川県立高等学校教育課程編成基準」に示した 「内容」)「(9)近代産業と交通の発達」における<u>評価規準に盛り込むべき事項</u>を例として次 に示します。

「(9)近代産業	「(9)近代産業と交通の発達」における評価規準に盛り込むべき事項				
関心・意欲・態	近代産業の発展期における本県の産業の特色に対する関心と課題意識を高め、意				
度	欲的に追究している。				
思考・判断・表	地域の近代化遺産や鉄道、人物から、近代産業の発展期における本県の産業にか				
現	かわる課題を見いだし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察するととも				
	に、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現してい				
	る。				
資料活用の技能	近代産業の発展期における本県の産業の特色に関する諸資料を収集し、有用な情				
	報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。				
知識・理解	近代産業の発展期における本県の産業の特色についての基本的な事柄を、国際環				
	境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。				

- Q 5 「郷土史かながわ」及び「近現代と神奈川」に関し、フィールドワークなどのために、いくつかの内容(単元)を組み合わせて題材を構成して指導する場合の評価規準の設定はどのようにすればよいか。
- A 5 例えば、「郷土史かながわ」のいくつかの内容(単元)にまたがる「この時代の地域別学習例」から、学校近辺の題材を取り上げてフィールドワークを実施する場合は、事前学習と事後学習を含めて「フィールドワークの評価規準」とし、フィールドワークの指導目標を明確にして、複数の内容の「評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を参考にして設定します。
- Q6 「郷土史かながわ」及び「近現代と神奈川」における先行実施校では、評価方法としてどのような工夫がみられたか。
- A 6 生徒同士で課題探究の学習の成果を発表させる際に生徒による自己評価・生徒同士の相互評価・教師による観察シートを組み合わせる、フィールドワークで学習した成果を「歴史新聞」の形にまとめさせる、様々な資料を比較する学習の際に思考・判断した結果をポスターの形で表現させるなどの事例がみられました。

3 公民

(1)教科の目標

広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。

(2)教科の評価の観点及びその趣旨

改	IE .	従	前
関心・意欲・態度	現代の社会と人間	関心・意欲・態度	現代の社会と人間
	にかかわる事柄に対		にかかわる事柄に対
観点名変更なし	する関心を高め,意		する関心を高め,意
	欲的に課題を追究す		欲的に課題を追究す
	るとともに,平和で		るとともに , 民主
	民主的なよりよい社		的・平和的なよりよ
	会の実現に向けて参		い社会の実現に向け
	加,協力する態度を		て参加,協力する態
	身に付け人間として		度を身に付け人間と
	の在り方生き方につ		しての在り方生き方
	いての自覚を深めよ		についての自覚を深
	うとする。		めようとする。
思考・判断・表現	現代の社会と人間	<u>思考・判断</u>	現代の社会と人間
A	にかかわる事柄から		にかかわる事柄から
	課題を見いだし,社		課題を見いだし,社
	会的事象の本質や人		会的事象の本質や人
	間の存在及び価値な		間の存在及び価値な
	どについて広い視野		どについて広い視野
	に立って多面的・多		に立って多面的・多
	角的に考察し,社会		角的に考察するとと
	の変化や様々な考え		もに,社会の変化や
	方を踏まえ公正に判	\ \ \	様々な考え方を踏ま
	断して,その過程や		え公正に判断する。
	結果を適切に表現し		
	ている。	J	
<u>資料活用の技能</u>	現代の社会と人間	資料活用の技能・表	諸資料を収集し、
A	にかかわる事柄に関	<u>現</u>	有用な情報を主体的
	する諸資料を収集		に選択して活用する
	し,有用な情報を適		とともに,追及し考
	切に選択して,効果	}	察した過程や結果を
	的に活用している。	J	適切に表現する。

知識・理解	現代の社会的事象の知識・理解	現代の社会的事象
	と人間としての在り	と人間としての在り
観点名変更なし	方生き方とにかかわる	方生き方とにかかわ
	る基本的な事柄を理	る基本的な事柄を理
	解し,その知識を身	解し,その知識を身
	に付けている。	に付けている。



改訂のポイント

「思考・判断・表現」の観点の中の「表現」については、従前の「資料活用の技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく、思考・判断した過程や結果を説明・論述・討論などの言語活動等を通じて、生徒がどのように表出しているかを内容としている。

「資料活用の技能」の観点は、従前の「資料活用の技能・表現」が対象としていた内容を引き継いでおり、これまで「資料活用の技能・表現」として評価されていた「表現」をも含む観点として設定されている。

(3)科目の評価の観点の趣旨(「学習評価参考資料」より抜粋)

現代社会			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代社会の基本的問	現代社会の基本的問	現代社会の基本的問	現代社会の基本的問
題と人間に関わる事柄	題と人間に関わる事柄	題と人間に関わる事柄	題と人間としての在り
に対する関心を高め,	から課題を見いだし,	に関する諸資料を様々	方生き方とに関わる基
意欲的に課題を追究す	社会的事象の本質や人	なメディアを通して収	本的な事柄や , 学び方
るとともに,社会的事	間としての在り方生き	集し,有用な情報を適	を理解し,その知識を
象を総合的に考察しよ	方について広い視野に	切に選択して,効果的	身に付けている。
うとする態度と平和で	立って多面的・多角的	に活用して学び方を身	
民主的なよりよい社会	に考察し,社会の変化	に付けている。	
の実現に向けて参加、	や様々な立場,考え方		
協力する態度を身に付	を踏まえ公正に判断し		
け,現代社会に生きる	て,その過程や結果を		
人間としての在り方生	様々な方法で適切に表		
き方について自覚を深	現している。		
めようとする。			
倫理			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
人間尊重の精神と生	他者と共に生きる主	青年期における自己	青年期における自己
命に対する畏敬の念に	体としての自己の確立	形成や人間としての在	形成や人間としての在
基づいて,青年期にお	について広く課題を見	り方生き方などに関す	り方生き方などに関わ
ける自己形成について	いだし , 人間の存在や	る諸資料を様々なメデ	る基本的な事柄を,他
関心を高め , 人格の形	価値などについて多面	ィアを通して収集し,	者と共に生きる主体と
成と他者と共に生きる	的・多角的に考察し探	有用な情報を適切に選	しての自己確立の課題
主体としての自己の確	究するとともに,良識	択して,これらを他者	とつなげて理解し , 人
立に努める実践的意欲	ある公民として広い視	と共に生きる主体とし	格形成に生かす知識と
をもつとともに , これ	野に立って主体的かつ	ての自己の確立に資す	して身に付けている。

らに関わる諸課題を探	公正に判断して,その	るよう活用している。	
究する態度を身に付	過程や結果を様々な方		
け,人間としての在り	法で適切に表現してい		
方生き方について自覚	る。		
を深めようとする。			
政治・経済			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代の政治,経済,	現代の政治,経済,	現代の政治,経済,	現代の政治,経済,
国際関係に対する関心	国際関係に関わる事柄	国際関係に関わる諸資	国際関係に関する基本
を高め,意欲的に課題	から課題を見いだし,	料を様々なメディアを	的な事柄や,本質,特
を追究するとともに,	その本質や特質,望ま	通して収集し,有用な	質及び動向を捉える基
国家・社会の一員とし	しい解決の在り方につ	情報を適切に選択し	本的な概念や理論を理
て平和で民主的な社会	いて広い視野に立って	て,効果的に活用して	解し,その知識を身に
生活の実現と推進につ	多面的・多角的に考察	いる。	付けている。
いて客観的に考察しよ	し,社会の変化や様々		
うとしている。	な立場,考え方を踏ま		
	え公正に判断して,そ		
	の過程や結果を様々な		
	方法で適切に表現して		
	いる。		

(4)内容のまとまりごとの評価規準について

「現代社会」の中の三つの大項目 ¹ のうち、「(1)私たちの生きる社会」における単元の評価 規準に関する例示を行う。学習指導要領で示された科目の目標を踏まえ、「評価規準に盛り込むべ き事項」及び「評価規準の設定例」を示している。

-【科目の目標(現代社会)】 ---

人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

「現代社会」の大項目「(1)私たちの生きる社会」における<u>評価規準に盛り込むべき事項</u>である。(「学習評価参考資料」より一部抜粋)

「(1)私たちの生きる社会」の評価規準に盛り込むべき事項				
関心・意欲・態度	現代社会の諸課題に対する関心を高め,それらを意欲的に追究し,自己の			
	生き方と関連させながら考察しようとしている。			
思考・判断・表現	現代社会の諸問題について自己との関わりに着目して課題を見いだし,幸			
	福,正義,公正などの観点から多面的・多角的に考察し,いかに生きるかにつ			
	いて社会の変化や様々な立場,考え方を踏まえ公正に判断して,その過程や			
	結果を様々な方法で適切に表現している。			

¹ 現代社会においては、学習指導要領の内容(1)及び(3)については大項目を内容のまとまりとし、(2)については中項目(例:「(2)ア 青年期と自己の形成」などの中項目)を内容のまとまりとしている。

資料活用の技能	現代社会の諸問題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し,学習
	に役立つ情報を適切に選択して,効果的に活用している。
知識・理解	現代社会の諸問題の現状や課題,社会の在り方を考察する基盤としての幸
	福,正義,公正などについて理解し,その知識を身に付けている。

「現代社会」の内容のまとまり「(1)私たちの生きる社会」における<u>評価規準の設定例</u>を示す。 (「学習評価参考資料」より一部抜粋)

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代社会における生命の課題	・生命科学や科学技術と 生の科学が表示を は関する。 ・生に関立を ・生のに をのので をので を	・現代社会にいる自然を主いている自ている自ている。現代をはいいでは、はいいでは、はいいでは、はいいでは、はいいでは、はいいでは、はいいでは、は、は、は、	・現代社会におまな 生命 の問題などに関するという はない はいない はい	・生命科学技術の生命をはいいます。 生命をはいいはいいはいいはいいはいいはいいはいいはいないないが生が生が出いが生が生がないが生が生が生が生が出います。 生物のはいるのは、 生物のは、 はいないは、 はいないないは、 はいないは、 はいないないは、 はいないは、 はいないは、 はいないは、 はいないは、 はいないは、 はいないはいないは、 はいないは、 はいないはいないは、 はいないは、 はいないは、 はいないはいは、 はいないは、 はいないは、 はいないはいはいないは、 はいないはいはいは、 はいないはいは、 はいないはいはいは、 はいないはいはいは、 はいないは、 はいないはいはいはいは、 はいないはいはいはいはいはいはいはいはいはいはいはいはいはいはいはいはいはいは
現代社会における情報の課題	・情報化社会における情報の活用や情報に関わる課題に対する関心が高まっている。 ・情報に関わる課題を意欲的に追究している課題をの情報に関わる課題をしまる。 ・情報に登力と関連させいる。	・現代社会になる情報と問題りにはない、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	・現代社会における情報 の問題に関すする。 様集している。 ・収集集している。 ・特報に関すのの中したでは 情報に関する学習にとして 情報を適切に選している。 対果的に活用している。	・情報化社会において は多彩なメディアが伝える情報なながにはないではないがある。 が成ることを身に付けている。 ・情報に関わるはいる。 ・情なる基盤とないのの でである。 ・情なののでは、 でである。 ・情なののでは、 でのでのでは、 でのでのでは、 でのでのでは、 でのでのでは、 でのでのでは、 でのでのでは、 でのでのでは、 でのでのでは、 でのでのでは、 でのでのでのでは、 でのでのでは、 でのでのでは、 でのでのでは、 でのでのでは、 でのでのでは、 でのでのでは、 でのでのでは、 でのでのでは、 でのでのでは、 でのでのでのでのでのでは、 でのでのでは、 でのでのでのでは、 でのでのでのでのでいる。 でのでのでのでのでのでのでは、 でのでのでのでのでのでいる。 でのでのでのでのでのでいる。 でのでのでのでのでいる。 でのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでいる。 でのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでの
現代社会における環境の課題	・環境問題に関わる様々な 課題に対する関心があまっている。 ・環境に関わる課題を意 欲的に追究している。 ・環境に関わる課題を さい環境に関わる課題を さいでである。 ・環境に関わる課題を さいである。 ・環境に関わるまましている。	・現代社会における現代社会における間別の関わりにもいるでは、しているでは、しているでは、は、いるのでは、は、いるのでは、は、いるのでは、は、いるのでは、ないのでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ない	・現代社会における環境 の問題に対する。 様々なメディアる。 収集集してい資料ののしたで 環境に関するというでは 環境に関するというで 関に関するというで 関に関するというで 関に対して が課 のいた のいした のいし が 関に 関い に 関い に 関い に 対 に 対 に は し に 対 に は に は に は に は に は に は し に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に れ に	・環境に関わる政治・経済体制や倫理観について検討を深めし、その大切さを身に付けている。・環境に関わる課題を考察する基盤としどの表別では、で理解し、その知識を身に付けている。

「現代社会」の他のすべての内容のまとまりにおける評価規準に盛り込むべき事項及び単元の評価規準の設定例は、「学習評価参考資料」に記載されている。

(5)単元の指導と評価の計画について(「学習評価参考資料」を一部改編)

「現代社会」の大項目「(1)私たちの生きる社会」における生命、情報、環境に関わる諸課題のうち、「環境(熱帯林の伐採・保全)に関わる課題」の展開例を例示する。

	フラ、 坂が T	(M. 15 1 1 25 15034)	水土 / に倒りるの				171.7 00	1
次	学習内容	学習活動	ねらい		D観点 技	-	評価規準	評価方法
第三次(2時間扱い)	環帯採全わに(然の・に課い)	能と役割、現状と課題について、既存の知識を用いてクラス	機能と役割	- *** - *** *** *** *** *** *** *** ***	 - 護を様用の崩	- 2収保非剰、- 動・・ 動・・ 動・・ 動・・ をし全伝採住・・ しょ	別、現状と課題 気候変動を緩和する? の役割など 統的な焼畑農業による 取による減少など エー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	る減少、
	環帯採全わに(熱伐保関題で	既存の国際的な 合意を踏まえ、 熱帯林の伐採・ 保全について、	熱採主るの察し義にさ、本全対の方基福正で、のな立解を盤、な理のないる。				熱全況つ義点角者公そワ切る帯に解い、か的の正の一にのわの幸な面察を断や一人採対り、の・、まて果にて保状に正観多両え、を適い保状に正観多両え、を適い	

て、どのような 合意の修正が可 対 立 ある国家の「幸福」 他の国家の「幸福」 能か考察する。 経済活動を優先し 環境保全を優先し × 熱帯林伐採を容認 熱帯林伐採を否定 各自で考えた合 公 意修正案を、ワ 正 ークシートに記 入する。 解決策を考える 「正義」について考える 熱帯林の伐採・ 保全に関わる課 現代社会の在り方 題について、幸 を考察する基盤と して幸福、正義、 福、正義、公正 などの観点をど 公正などについて 理解し、その知識を身に付けてい のように用いて 考察したか、ワ ークシートに記

- 1)表中の事例については、「(1)私たちの生きる社会」における第三次「環境(熱帯林の 伐採・保全)に関わる課題」に係る事例である。第一次及び第二次は「学習評価参考資料」を参照する。
- 2)表中の観点について

入する。

関 … 関心・意欲・態度 思 … 思考・判断・表現

技 … 資料活用の技能 知 … 知識・理解

- 3)「指導と評価の計画」については第1章「8 指導計画の立て方について」(8~12頁参照)の中でその作成に係る留意点等について解説しているので参照する。
- <第三次「環境(熱帯林の伐採・保全)に関わる課題」で使用するワークシートの工夫例>

資料「読書メモ」

ブラジリアを後にしてバスで数時間もすると,森は急速に減少して外の景色は牧場一色になった。森が開発のために焼かれている。ここ数年,年間東京ドーム 1 万 2 千個分の広さがなくなっている。森が何に変わっているかというと牧場,大豆畑,サトウキビ畑,鉱物採掘場等だ。・・・そしてここ数年,石油の代替燃料として,サトウキビを原料とするエタノールに,日本を始めとする先進国が目をつけ,アマゾンの森をサトウキビ畑に変える動きが急速に広がってきた。・・・あくまで利潤追求の経済優先システムの論理に基づき,森は消えていく。

『アマゾン、森の精霊からの声』南 研子著 ほんの木 より

・熱帯林の伐採・保全について対立する二つの立場の国々の主張を,次の図に書き込んでみよう。

「経済活動を優先する立場」の国家: その理由は・・・

.



「環境保全を優先する立場」の国家: その理由は・・・

•

- ・両国の主張を取り入れた,あなたが考えられる合意修正案を記入しよう。【思考・判断・表現】
- <記述例>利潤追求を最優先することなく,かといって環境保全一辺倒で一切の熱帯林伐採を禁止するなどといった極端な主張にとらわれることなく,両国の「幸福」が共に成り立ちうる範囲で熱帯林伐採の在り方についての方法について交渉する場を設ける。
- ・熱帯林の伐採・保全に関わる課題について,幸福,正義,公正などの観点をどのように用いて考察したか,記入しよう。【知識・理解】

(6)教科としての評価に関する留意事項

「(5)単元の指導と評価の計画について」に示した評価規準のうち、「知識・理解」の「幸福、正義、公正」についての評価の進め方を例示する。なお、現代社会における「(1)私たちの生きる社会」は、大項目全体を一つの単元として扱っていることや、学習評価を効果的・効率的に推進するという考え方に即して、毎時間、また各課題を扱う毎次ごとに4観点すべてを評価するのではなく、それぞれの観点について、単元全体を通して適切に設定した時期において「おおむね満足できる」状況(B)等にあるかどうかを評価するよう工夫している。

「幸福、正義、公正」については、『高等学校学習指導要領解説 公民編』では、現代社会における諸課題を捉える枠組みとして相互に関連させて扱うことが求められており、個別に取り上げて、「『幸福』とは何か」、「『正義』とは何か」などと考察させることは想定されていない。そして、生命、情報、環境の三つの課題を考察させる学習活動を通して、それぞれの課題を捉える枠組みとしての「幸福、正義、公正」について理解できるように単元構成を工夫する。本事例では、「幸福、正義、公正」を理解させるために、環境に関わる課題を取り上げ、「知識・理解」の観点における「幸福、正義、公正」の評価について、第三次「環境(熱帯林の伐採・保全)に関わる課題」の最終段階において行っている具体的な評価活動と指導の手立てを例示する。

【評価規準】知識・理解

現代社会の在り方を考察する基盤として幸福,正義,公正などについて理解し,その知識を身に付けている。

【「おおむね満足できる」状況(B)と判断できる生徒の主な記述内容】

「経済活動を優先する立場」の国家,「環境保全を優先する立場」の国家は共にそれぞれの利益を求めてそのような主張をしていること(「幸福」),両国を含んだ社会全体にとって正しい解決策は何かと考える際に(「正義」),両国が互いに対等に主張でき,両国の立場が共に幾分かは認められた解決策となるよう配慮されること(「公正」),が大切である,といった内容を記述している。

【「十分満足できる」状況(A)と判断した生徒の記述例】

- 熱帯林を伐採するか,保全するかという課題に完全な解決策はないと思う。なぜなら,両国 ・が考える利益,すなわち両国にとっての「幸福」は異なっており両国の「幸福」を同時に,か - つ完全に満たすことはあり得ないからだ。更に付け加えると,両国の中でも経済活動優先の立 - 場の人々と環境保全優先の立場の人々がいるため,たとえ両国の政府間で解決策を合意できた - としても,必ず国内に不満は残る。

それでも両国は社会全体にとって望ましい,より正しい解決策を考え続ける必要がある。その際,国際社会は両国だけで構成されているわけではないことを忘れてはいけない。この課題は,世界中のあらゆる国,あらゆる立場の人々に影響が及ぶものだ。まだ生まれていない将来世代の人々のためにも,両国は他の利害関係者をも交えて対等な立場で解決策を出し合い,譲れるところは互いに譲り合い,多数派も,少数派も,皆の意見が反映されるような解決策を見付け出していくことが求められるのではないだろうか。政府任せにするのではなく,私は今のはなで何ができるか,考え続けていきたい。

【「十分満足できる」状況(A)と判断した根拠】

利益が対立する両国それぞれの中においても様々な対立状況があることを指摘しており,また,解決策を考える際に必要となる公正さの確保の観点においても,様々な他者を想定できている上, それらをよく整理して記述している。

【「努力を要する」状況(C)と判断した生徒とその指導と手立て】

生徒 S は「国家間で対立が生じた場合には,国際連合総会に諮り,すべて多数決で解決すればよい」という趣旨の記述をしていた。

両国にとっての利益の違いに言及できておらず,正しい解決策を国際連合総会での決定に一任してしまっている点で,「幸福,正義,公正」についての理解が「おおむね満足できる」状況(B)に達しておらず,「努力を要する」状況(C)と判断した。

生徒Sに対しては、国際連合の在り方に関する指導を行うことと合わせて、環境のみならず生命、情報に関わる課題についての学習活動を振り返らせ、「幸福、正義、公正」の観点から課題を捉えて考察するよう指導した。

本単元で取り上げた生命、情報、環境に関わる課題は、「現代社会」の大項目(1)において「幸福、正義、公正」などについて理解させるための手立てとして取り扱うことが求められた課題である。本単元では、単元の評価規準として「知識・理解」については、「現代社会において生命、情報、環境に関わる様々な課題が生じていることを理解し、その知識を身に付けている。」、「現代社会の在り方を考察する基盤として幸福、正義、公正などについて理解し、その知識を身に付けている。」という二つの評価規準を設けている。したがって、観点別学習状況の評価の総括に当たっては、「知識・理解」の観点内において重み付けを行い、「」に比して「」を重視することが考えられる。

こうした考え方により、本単元の各観点及び総括の評価を行った例を表で示す。各観点の総括評価において「A」と「B」が同数となった生徒が見られるが、本単元が位置付けられている大項目(1)のねらいを踏まえ、「知識・理解」の観点の総括評価を重視して単元の総括評価を行った。なお、各学校において実施する観点別学習状況の評価は、きめの細かい学習指導と生徒一人ひとりの学習の確実な定着を図ることにつながるよう活用することが求められる。

	関	関心・意欲・態度 思考・判断・表現 資料活用の技能		:	知識	・理解	単元							
				観点総括			観点総括			観点総括			観点総括	総括
生徒S	В	В	В	В	Α	В	В	В	В	В	Α	В	В	В
生徒T	В	Α	Α	Α	В	Α	Α	Α	Α	Α	В	Α	Α	Α
生徒U	Α	В	Α	Α	В	В	В	Α	Α	Α	Α	В	В	В

(注)「B」は「努力を要する」状況(C)の生徒を指導した結果の評価を表す。また、 印の番号は、それぞれの観点の評価規準の数を表している。たとえば「知識・理解」は と の 二つの評価規準を設けており、前述のとおり の評価規準を重視した重み付けを行って評価 している。

(7)Q&A(公民)

- Q 1 「思考・判断・表現」の評価に際しての実践例には、どのようなものがあるか。
- A 1 平成23年度「高等学校教育課程研究集録」に、「政治・経済」、「倫理」、「現代社会」における事例を紹介してあるので、参照してください。
- Q2 思考力・判断力・表現力等を評価するためには、どのような活動が考えられるか。
- A 2 例えば、 事実を正確に理解し伝達する活動、 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり 活用したりする活動、 情報を分析・評価し、論述する活動、 互いの考えを伝え合い、自らの 考えや集団の考えを発展させる活動などが考えられます。

4 数学

(1)教科の目標

数学的活動 ¹ を通して,数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め,事象を数学的に考察し表現する能力を高め,創造性の基礎を培うとともに,数学のよさを認識し,それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。

(2)教科の評価の観点及びその趣旨

改	IE S	従	前
関心・意欲・態度	数学の論理や体系	関心・意欲・態度	数学的活動を通し
	に関心をもつととも		て,数学の論理や体
観点名変更なし	に,数学のよさを認		系に関心をもつとと
	識し,それらを事象		もに,数学的な見方
	の考察に積極的に活		や考え方のよさを認
	用して数学的論拠に		識し,それらを事象
	基づいて判断しよう	j	の考察に積極的に活
	とする。		用しようとする。
数学的な見方や考え	事象を数学的に考	数学的な見方や考え	数学的活動を通し
方	察し表現したり,思	方	て,数学的な見方や
観点名変更なし	考の過程を振り返り)	考え方を身に付け、
	多面的・発展的に考		事象を数学的にとら
	えたりすることなど		え,論理的に考える
	を通して,数学的な		とともに思考の過程
	見方や考え方を身に		を振り返り多面的・
	付けている。	J	発展的に考える。
数学的な技能	事象を数学的に表	表現・処理	事象を数学的に考
	現・処理する仕方や		察し,表現し処理す
	推論の方法などの技		る仕方や推論の方法
	能を身に付けてい		を身に付け,よりよ
	る。		く問題を解決する。
知識・理解	数学における基本	知識・理解	数学における基本
	的な概念,原理・法		的な概念 , 原理・法
観点名変更なし	則などを体系的に理		則 , 用語・記号など
	解し,知識を身に付		を理解し , 知識を身
	けている。		に付けている。

¹ 数学的活動とは、<u>数学学習にかかわる目的意識をもった主体的活動</u>のことである。数学的活動が重視されるのは、本来、数学はそのような主体的活動を通して学ばなければ理解の深まりはなく、したがって様々な場面で学んだ知識や技能を活用することなどは難しいと考えられるからである。



改訂のポイント

従前記載のあった「数学的活動」という言葉が削除されたが、新しい学習指導要領ではより一層数学的活動を重視している。

数学的な見方や考え方のよさに限定せずに数学自体のよさ(数学の概念や原理・法則のようとで数学的な表現や処理の仕方のようなども含める。)を認識させるべきであるとした。数学のようを積極的に活用するだけでなく、数学的論拠に基づいて合理的に判断しようとする態度を見取ることとなった。

「数学的な見方や考え方」を身に付けることにより考えることにつながるのではなく、考えることを通して「数学的な見方や考え方」が育成されるという理解となった。

数学を様々な場面で活用できるようにするためには、知識の体系的な理解が必要である。

(3)科目の評価の観点の趣旨(「学習評価参考資料」より抜粋)

数学			
関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
数と式,図形と計	事象を数学的に考察	数と式,図形と計	数と式,図形と計
量,二次関数及びデー	し表現したり,思考の	量,二次関数及びデー	量,二次関数及びデー
タの分析の考え方に関	過程を振り返り多面	タの分析において,事	タの分析における基本
心をもつとともに,数	的・発展的に考えたり	象を数学的に表現・処	的な概念,原理・法則
学のよさを認識し,そ	することなどを通し	理する仕方や推論の方	などを理解し , 知識を
れらを事象の考察に活	て,数と式,図形と計	法などの技能を身に付	身に付けている。
用しようとする。	量,二次関数及びデー	けている。	
	タの分析における数学		
	的な見方や考え方を身		
	に付けている。		
数学			
関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
関心・意欲・態度 いろいろな式 , 図形	数学的な見方や考え方 事象を数学的に考察	数学的な技能 いろいろな式,図形	知識・理解 いろいろな式,図形
いろいろな式,図形	事象を数学的に考察	いろいろな式,図形	いろいろな式,図形
いろいろな式,図形 と方程式,指数関数・	事象を数学的に考察 し表現したり,思考の	いろいろな式,図形 と方程式,指数関数・	いろいろな式,図形 と方程式,指数関数・
いろいろな式,図形 と方程式,指数関数・ 対数関数,三角関数及	事象を数学的に考察 し表現したり,思考の 過程を振り返り多面	いろいろな式,図形 と方程式,指数関数・ 対数関数,三角関数及	いろいろな式,図形 と方程式,指数関数・ 対数関数,三角関数及
いろいろな式,図形 と方程式,指数関数・ 対数関数,三角関数及 び微分・積分の考えの	事象を数学的に考察 し表現したり,思考の 過程を振り返り多面 的・発展的に考えたり	いろいろな式,図形 と方程式,指数関数・ 対数関数,三角関数及 び微分・積分の考えに	いろいろな式,図形 と方程式,指数関数・ 対数関数,三角関数及 び微分・積分の考えに
いろいろな式,図形と方程式,指数関数・対数関数,三角関数及び微分・積分の考えの考え方に関心をもつと	事象を数学的に考察 し表現したり,思考の 過程を振り返り多面 的・発展的に考えたり することなどを通し	いろいろな式,図形 と方程式,指数関数・ 対数関数,三角関数及 び微分・積分の考えに おいて,事象を数学的	いろいろな式,図形 と方程式,指数関数・ 対数関数,三角関数及 び微分・積分の考えに おける基本的な概念,
いろいろな式,図形と方程式,指数関数・対数関数,三角関数及び微分・積分の考えの考え方に関心をもつとともに,それらを事象	事象を数学的に考察 し表現したり,思考の 過程を振り返り多面 的・発展的に考えたり することなどを通し て,いろいろな式,図	いろいろな式,図形と方程式,指数関数・対数関数,三角関数及び微分・積分の考えにおいて,事象を数学的に表現・処理する仕方	いろいろな式,図形と方程式,指数関数・ 対数関数,三角関数及 び微分・積分の考えに おける基本的な概念, 原理・法則などを体系
いろいろな式,図形と方程式,指数関数・対数関数,三角関数及び微分・積分の考えの考え方に関心をもつとともに,それらを事象の考察に活用して数学	事象を数学的に考察 し表現したり,思考の 過程を振り返り多面 的・発展的に考えたり することなどを通し て,いろいろな式,図 形と方程式,指数関	いろいろな式,図形と方程式,指数関数・ 対数関数,三角関数及 び微分・積分の考えに おいて,事象を数学的 に表現・処理する仕方 や推論の方法などの技	いろいろな式,図形と方程式,指数関数・ 対数関数,三角関数及 び微分・積分の考えに おける基本的な概念, 原理・法則などを体系 的に理解し,知識を身
いろいろな式,図形と方程式,指数関数・対数関数,三角関数及び微分・積分の考えの考え方に関心をもつとともに,それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断	事象を数学的に考察 し表現したり,思考の 過程を振り返り多面 的・発展的に考えたり することなどを通し て,いろいろな式,図 形と方程式,指数関 数・対数関数,三角関	いろいろな式,図形と方程式,指数関数・ 対数関数,三角関数及 び微分・積分の考えに おいて,事象を数学的 に表現・処理する仕方 や推論の方法などの技	いろいろな式,図形と方程式,指数関数・ 対数関数,三角関数及 び微分・積分の考えに おける基本的な概念, 原理・法則などを体系 的に理解し,知識を身
いろいろな式,図形と方程式,指数関数・対数関数,三角関数及び微分・積分の考えの考え方に関心をもつとともに,それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断	事象を数学的に考察 し表現したり,思考の 過程を振り返り返り ・発展的に考えたり することなどを式 て,いろ行程式,指数関数 数及び微分・積分の考	いろいろな式,図形と方程式,指数関数・ 対数関数,三角関数及 び微分・積分の考えに おいて,事象を数学的 に表現・処理する仕方 や推論の方法などの技	いろいろな式,図形と方程式,指数関数・ 対数関数,三角関数及 び微分・積分の考えに おける基本的な概念, 原理・法則などを体系 的に理解し,知識を身

数学			
関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
平面上の曲線と複素	事象を数学的に考察	平面上の曲線と複素	平面上の曲線と複素
│ │数平面,極限,微分法	し表現したり,思考の	 数平面,極限,微分法	│ │数平面,極限,微分法
及び積分法に関心をも	過程を振り返り多面	 及び積分法において ,	及び積分法における基
つとともに , それらを	的・発展的に考えたり	事象を数学的に表現・	本的な概念,原理・法
事象の考察に積極的に	することなどを通し	処理する仕方や推論の	則などを体系的に理解
活用して数学的論拠に	て,平面上の曲線と複	方法などの技能を身に	し,知識を身に付けて
基づいて判断しようと	素数平面,極限,微分	付けている。	いる。
する。	法及び積分法における		
	数学的な見方や考え方		
	を身に付けている。		
数学A			
関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
場合の数と確率,整	事象を数学的に考察	場合の数と確率,整	場合の数と確率,整
数の性質又は図形の性	し表現したり,思考の	数の性質又は図形の性	数の性質又は図形の性
質の考え方に関心をも	過程を振り返り多面	質において,事象を数	質における基本的な概
つとともに,数学のよ	的・発展的に考えたり	学的に表現・処理する	念,原理・法則などを
さを認識し,それらを	することなどを通し	仕方や推論の方法など	理解し,知識を身に付
事象の考察に活用しよ	て,場合の数と確率,	の技能を身に付けてい	けている。
うとする。	整数の性質又は図形の	る。	
	性質における数学的な		
	見方や考え方を身に付		
	けている。		
数学B			
関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
確率分布と統計的な	事象を数学的に考察	確率分布と統計的な	確率分布と統計的な
推測,数列又はベクト	し表現したり,思考の	推測,数列又はベクト	推測,数列又はベクト
ルに関心をもつととも	過程を振り返り多面	ルにおいて,事象を数	ルにおける基本的な概
に,それらを事象の考	的・発展的に考えたり	学的に表現・処理する	念,原理・法則などを
察に活用して数学的論	することなどを通し	仕方や推論の方法など	体系的に理解し,知識
拠に基づいて判断しよ	て,確率分布と統計的	の技能を身に付けてい	を身に付けている。
うとする。	な推測,数列又はベク	る。	
	トルにおける数学的な		
	見方や考え方を身に付		
	けている。		

数学活用			
関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
数学と人間のかかわ	数学と人間のかかわ	数学と人間のかかわ	数学と人間のかかわ
りや数学の社会的な有	りを調べたり,事象を	りや数学の社会的な有	りや数学の社会的な有
用性に関心をもつとと	数理的に考察したりす	用性の学習を通して,	用性について理解して
もに,それらを事象の	ることなどを通して,	事象を数学的に表現・	いる。
考察に積極的に活用し	数学的な見方や考え方	処理する仕方や推論の	
ようとする。	を身に付けている。	方法などの技能を身に	
		付けている。	

(4)単元の評価規準について

「数学」の中の四つの内容のまとまりのうち、「(2)図形と計量」における単元の評価規準に関する例示を行う。学習指導要領で示された科目の目標を踏まえ、「評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を示している。

【科目の目標(数学)】 ―

数と式,図形と計量,二次関数及びデータの分析について理解させ,基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り,事象を数学的に考察する能力を培い,数学のよさを認識できるようにするとともに,それらを活用する態度を育てる。

「数学」の内容のまとまり「(2)図形と計量」における<u>評価規準に盛り込むべき事項</u>である。 (「学習評価参考資料」より一部抜粋)

「(2)図形と計量」における評価規準に盛り込むべき事項					
関心・意欲・態度	角の大きさなどを用いた計量に関心をもつとともに,それらの有用性を認識				
	し,事象の考察に活用しようとしている。				
数学的な見方や考	事象を三角比を用いて考察し表現したり,思考の過程を振り返ったりするこ				
え方	となどを通して,角の大きさなどを用いて計量を行うための数学的な見方や考				
	え方を身に付けている。				
数学的な技能	事象を三角比を用いて表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付				
	けている。				
知識・理解	直角三角形における三角比の意味,三角比を鈍角まで拡張する意義及び図形				
	の計量の基本的な性質を理解し,知識を身に付けている。				

「数学」の内容のまとまり「(2)図形と計量」は、四つの単元で構成されている。これらの単元の評価規準の設定例を示す。(「学習評価参考資料」より一部抜粋)

関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
【鋭角の三角比】 ・鋭角の三角比や三角比 の相互関係に関心をも ち,それらを直角三角形 の計量に活用しようとし ている。	・図形の相似の考え方を用いて,直角三角形の辺の比を角との関係で捉えることができる。 ・三角比の相互関係について考察することができる。	・直角三角形を用いて考えられる計量の問題を、三角比の記号を用いてきる。 ・三角比の相互関係を用いできる。 ・三角比の相互関係を用いたら残りの三角比の値から残りの三角比の値を求めることができる。	・正弦,余弦及び正接を 直角三角形の辺の比と角 との関係として理解し, 基礎的な知識を身に付け ている。 ・三角比の相互関係につ いて理解し,基礎的な知 識を見に付けている。

【鈍角の三角比】 ・鋭角の三角比を鈍角まで拡張する考えに関心をもち,それらを図形の性質の考察に活用しようとしている。	・鈍角まで拡張した三角 比について考察すること ができる。	・90°までの三角比の表 を用いて鈍角の三角比の 値を求めることができ る。	・鈍角まで拡張した三角 比の意義を理解している
【正弦定理・余弦定理】 ・正弦定理・余弦定理が 有用であることを認識 し,それらを図形の計量 に活用しようとしてい る。	・正弦定理・余弦定理を 導く過程を考察すること ができる。	三角形の決定条件が与えられたとき,三角形の残りの要素を求めることができる。	・正弦定理・余弦定理を 三角形の決定条件と関連 付けて理解している。
【図形の計量】 ・三角比や正弦定理・余弦定理などを平面図形や空間図形の計量に活用しようとしている。	・平面図形や空間図形の 計量に活用するために正 弦定理・余弦定理の式を 多面的に見ることができ る。	・三角比や正弦定理・余弦定理を用いて平面図形や空間図形の計量をすることができる。	・正弦定理・余弦定理の 利用の仕方及び三角形の 面積の求め方について基 礎的な知識を身に付けて いる。

「数学」の他のすべての内容のまとまりにおける<u>評価規準に盛り込むべき事項</u>及び<u>単元の評価</u> 規準の設定例は、「学習評価参考資料」に掲載されている。

(5)単元の指導と評価の計画について(「学習評価参考資料」を一部改編)

「数学」の内容のまとまり「(2)図形と計量」の中の単元「鋭角の三角比」の「指導と評価の計画」を例示する。

時	学習内容	学習活動	ねらい	関	考	技	知	評価規準	評価方法
1	校舎や木 の高さを 求めよう	4 人ずつ10グ ループに分か れ、校舎や木 の高さを求め る。	木や建物の高さ など直接測量で きないものの高 さを測量する方 法を考えること ができる。					図形の相似の考え方を用いて、直角三角形の辺の比を角との関係で捉えることができる。	レポート
2	三角比とは	三角比の定義 についてグル ープごとに説 明し合う。	三角比の定義について理解する。					図形の相似の考え方を用いて、直角三角形の辺の比を角との関係で捉えることができる。	観察
3	三角比の利用		三角比の表を用 いて、いろいろ な図形の計量を することができ る。					正角のでは、大学のは、大学のでは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学の	観察確認テスト1
4	三角比の 相互関係	・か余いがのこく・互での弦接のがある。 こく・互のないがのこく・互のいない 角係のではま気 のつる。 の値他る付 相いる。	三角比の相互関 係について理解 する。					三角比の相互関係につい て考察することができ る。	観察

5	三角比の 相互関係 の利用	三角比の相互 関係を用いて 三角比を求め る。	三角比の相互関 係を用いて角 えられた三角比 の値から残りの 三角比の値を求 める。	 	 	三角比の相互関係について理解し、基礎的な知識を身に付けている。 三角比の相互関係を用い、与えられた三角比の値から残りの三角比の値を求めることができる。	観察 確認テスト2
6	鋭角の三 角比の利 用	節末問題の解 答を板書し自 ら説明する。	本単元の学習内 容を振り返り、 その定着を確認 する。			競角の三角比や三角比の 相互関係に関心をもち、 それらを直角三角形の計 量に活用しようとしてい る。	単元テスト

1)表中の観点について

関 … 関心・意欲・態度 考 … 数学的な見方や考え方

技 … 数学的な技能 知 … 知識・理解

2)「指導と評価の計画」については第1章「8 指導計画の作成について」(8~12頁参照)の中でその作成に係る留意点等について解説しているので参照する。

(6)教科としての評価に関する留意事項

関心・意欲・態度の評価については次の3点を見ることが必要である。

- ・ 数学の論理や体系に関心をもっているか。
- ・ 数学のよさを認識しているか。
- ・ 事象の考察に学習した内容を活用して(判断しようとして)いるか。

これらを見るためには、授業、確認テスト、単元テストやレポートなどで次のように問う方法が ある。

- ~を学習して考えたことをその内容に関連させて(簡潔に)述べなさい。
- ~ を学習して疑問に思ったことをその内容に関連させて具体的に述べなさい。
- ~ を学習して面白いと思った考え方などを述べなさい。また、その理由を簡潔 に述べなさい。
- ~ で学習した内容を活用して解決できると考えられる場面を述べなさい。また、どのように活用して解決するのかを述べなさい。

総括テスト(単元テスト、中間テストや期末テストなど)の出題に際しては、四つの観点を踏まえる。ただし、関心・意欲・態度については総括テストでは出題せずに、観察や確認テストなどで評価することも考えられる。

ある単元の評価資料における各観点別の配点について

ある単元	レポート1	確 認 テ 1	単元 テ 1	確 認 テ 2	単元 テ 2	定期テスト(重み付け	総点	・確認テ 「確認テスト」のこと ・単元テ 」「単元テスト」のこと
関心・意欲・態度		2	2	2	2	12	(イ+ウ+エ+オ)×3+カ	36	
数学的な見方や考え方	2	2	2		4	40	(ア+イ+ウ+オ)×2+カ	60	両テストともに原
数学的な技能			2		2	36	(ウ+オ)×2+カ	44	「十分満足」2点
知識・理解			4	2	2	12	(ウ+エ+オ)×1+カ	20	< 「おおむね満足」1点
満点	2	4	10	4	10	100		160	
	ア	1	ウ	エ	オ	カ			

「B(おおむね満足)」の範囲の設定

関心・意欲・態度について、「B」の範囲を設定する。

- ・(イ,ウ,エ,オ,カ,総点)=(2,2,2,2,12,36) 各項目の満点及びそれらの合計(総点)
- ・(イ,ウ,エ,オ,カ,総点)=(1,1,1,1,6,18) 「おおむね満足」の得点

定期テストの観点別学習状況の評価の基準							
観点	関	考	技	知			
配点	12	40	36	12			
「十分満足」	9	25	20	8			
「おおむね満足」	6	20	18	6			
「努力を要する」	3	15	16	4			
関 関	心・意	欲・態度	ŧ				
考 数	学的な!	見方やを	ぎえ方				
技 数	学的な	技能					

知 … 知識・理解

よって以上の結果より、関心・意欲・態度における「B」の範囲は、12 B 24 となる。 これらの方法で各観点における「B」の範囲を求める。

観点	総点		В	
関心・意欲・態度	36	12	В	24
数学的な見方や考え方	60	23	В	37
数学的な技能	44	18	В	26
知識・理解	20	7	В	13
合計	160	60	В	100

本単元の各観点における「B(おおむね満足)」の範囲は上表のようになる。また、この後の評定については、「B」と評価する得点の範囲に基づいて評定3の範囲を決めることから、60及び100がそれぞれ評定3の下限及び上限の数値となる。

つまり、 60 (評定3) 100 と表される。

他の評定値についても「B」の範囲である評定3の範囲を基準とし決定する。

総計の得点(各観点の総点の合計得点)から5段階評定の基準を設定

総計の得点	評定
131以上	5
101以上130以下	4
60以上100以下	3
30以上59以下	2
29以下	1

前述した評定3の範囲を基にして5段階評定の基準を設定する。 評定2の下限と、評定4の上限の値を、評定3の範囲などを参考に しながら決める。

その際、各観点の評価(A、B、C)と5段階評定の結果に大きなずれがないように、適宜総計の得点の基準値を調整することも考えられる。

重み付けによる学習評価を行う場合については、様々な方法があるので、各学校で極端な重み付けにならないように留意しながら適切な方法で実施することが大切である。

これらを基にした一人の生徒(例)の観点別学習状況の評価の総括及び評定への総括

ある単元における 一人の生徒(例)の 得点等評価の記録	レポート1	確認テ1	単元テ1	確認テ2	単元テ2	定期テスト	総点
関心・意欲・態度		2	2	1	2	10	31
数学的な見方や考え方	2	1	1		2	36	48
数学的な技能			2		0	16	20
知識・理解			2	2	2	12	18
得点	2	3	7	3	6	74	117

一人の生徒(例)の評価の総括・評定					
観点別学習 状況の評価	評定				
A (31)					
A (48)	4				
B (20)	(117)				
A (18)					
 	観点別学習 状況の評価 A (31) A (48) B (20)				

授業は、授業の目標と、その目標が実現されているか否かをどのような様子や姿で見るか(評価規準)を明確にして実施し、目標が実現されていないと判断したときには「目標が実現されるにはどのような取組が必要か」を考え、即座に指導を改善していくことが大切である(指導と評価の一体化)。したがって、「分かる」授業にするためには指導と評価を一体化することと、評価もそれに適したものに改善していくことが必要である。

(7)Q&A(数学)

- Q 1 数学的な「思考・判断」を評価することは可能なのか。
- A 1 数学においては、「思考・判断・表現」に該当する観点を「数学的な見方や考え方」という形で示しています。「思考・判断」は「表現」することを通して評価するので、あくまで「思考・判断・表現」という観点、つまり「数学的な見方や考え方」で評価してください。
- Q 2 数学における「関心・意欲・態度」はどのように評価すればよいのか。
- A 2 61頁に掲載の具体例の通り、授業、確認テスト、単元テストやレポートなどでの問い方を工夫 することにより、有効な評価の実践につながります。

5 理科

(1)教科の目標

自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め,目的意識をもって観察,実験などを行い,科学的に探究する能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め,科学的な自然観を育成する。

(2)教科の評価の観点及びその趣旨

改	ΙĒ	従	前
関心・意欲・態度	自然の事物・現象	関心・意欲・態度	自然の事物・現象
	に関心や探究心をも		に関心や探究心をも
観点名変更なし	ち,意欲的にそれらを	\$	ち,意欲的にそれら
	探究しようとするととも		を探究するととも
	に,科学的態度を身		に,科学的態度を身
	に付けている。	<u> </u>	に付けている。
思考・判断・ <u>表現</u>	自然の事物・現象	思考・判断	自然の事物・現象
	の中に問題を見いだ		の中に問題を見いだ
	し,探究する過程を		し,観察,実験など
	通して,事象を科学		を行うとともに,事
	的に考察し,導き出		象を実証的,論理的
	した考えを的確に表		に考えたり,分析
	現している。		的・総合的に考察し
			たりして問題を解決
			し,事実に基づいて科
			学的に判断する。
観察・実験の技能	観察,実験を行い,	観察・実験の技能・	観察,実験の技能
A	基本操作を習得する	表現	を習得するととも
	とともに , それらの		に,自然の事物・現
	過程や結果を的確に		象を科学的に探究す
	記録,整理し,自然		る方法を身に付け,
	の事物・現象を科学		それらの過程や結果
	的に探究する技能を		及びそこから導き出し
	身に付けている。		た自らの考えを的確に
		<u> </u>	表現する。
知識・理解	自然の事物・現象	知識・理解	観察,実験などを
	について,基本的な		通して自然の事物・
観点名変更なし	概念や原理・法則を		現象についての基本
	理解し,知識を身に		的な概念や原理・法
	付けている。		則を理解し,知識を
			身に付けている。



改訂のポイント

これまで「観察・実験の技能・表現」の観点で評価していた創意工夫を伴う報告書の作成 や発表については、新たに「思考・判断・表現」の観点で評価する。「表現」が加わった趣旨 は、言語活動等の表現を通して思考・判断した過程や結果を評価することである。

観察、実験の過程や結果を表、図などを使って的確に記録、整理するということについて は引き続き「観察・実験の技能」の観点で評価する。

(3)科目の評価の観点の趣旨(「学習評価参考資料」より抜粋)

科学と人間生活			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
自然と人間生活との	自然と人間生活との	自然と人間生活との	自然と人間生活との
関わり及び科学技術が	関わり及び科学技術が	関わり及び科学技術が	関わり及び科学技術が
人間生活に果たしてき	人間生活に果たしてき	人間生活に果たしてき	人間生活に果たしてき
た役割について興味・	た役割について問題を	た役割に関する観察 ,	た役割について ,観察 ,
関心をもち,意欲的に	見いだし,観察,実験	実験などを行い , 基本	実験などを通して理解
探究しようとするとと	などを通して,事象を	操作を習得するととも	し,知識を身に付けて
もに,科学的な見方や	科学的に考察し,導き	に,それらの過程や結	いる。
考え方を身に付けてい	出した考えを的確に表	果を的確に記録,整理	
る。	現している。	し,自然の事物・現象	
		を科学的に探究する技	
		能の基礎を身に付けて	
		いる。	
物理基礎			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
日常生活や社会との	物体の運動と様々な	物体の運動と様々な	物体の運動と様々な
関連を図りながら物体	エネルギーに関する事	エネルギーに関する観	エネルギーについて,
の運動と様々なエネル	物・現象の中に問題を	察,実験などを行い,	基本的な概念や原理・
ギーについて関心をも	見いだし,探究する過	基本操作を習得すると	法則を理解し , 知識を
ち,意欲的に探究しよ	程を通して,事象を科	ともに , それらの過程	身に付けている。
うとするとともに,科	学的に考察し,導き出	や結果を的確に記録 ,	
学的な見方や考え方を	した考えを的確に表現	整理し,自然の事物・	
身に付けている。	している。	現象を科学的に探究す	
		る技能を身に付けてい	
		る。	

物理			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
物理学的な事物・現	物理学的な事物・現	物理学的な事物・現	物理学的な事物・現
象に関心や探究心をも	象の中に問題を見いだ	象に関する観察,実験	象に関する基本的な概
ち,主体的に探究しよ	し,探究する過程を通	などを行い,基本操作	念や原理・法則につい
うとするとともに,科	して,事象を科学的に	を習得するとともに,	て理解を深め,知識を
学的態度を身に付けて	考察し,導き出した考	それらの過程や結果を	身に付けている。
いる。	えを的確に表現してい	的確に記録,整理し,	
	る。	自然の事物・現象を科	
		学的に探究する技能を	
		身に付けている。	
化学基礎			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
日常生活や社会との	物質とその変化の中	物質とその変化に関	物質とその変化につ
関連を図りながら物質	に問題を見いだし,探	する観察,実験などを	いて,基本的な概念や
とその変化について関	究する過程を通して,	行い,基本操作を習得	原理・法則を理解し,
心をもち,意欲的に探	事象を科学的に考察	するとともに , それら	知識を身に付けてい
究しようとするととも	し,導き出した考えを	の過程や結果を的確に	る。
に,科学的な見方や考	的確に表現している。	記録,整理し,自然の	
え方を身に付けてい		事物・現象を科学的に	
る。		探究する技能を身に付	
		けている。	
化学			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
化学的な事物・現象	化学的な事物・現象	化学的な事物・現象	化学的な事物・現象
に関心や探究心をも	の中に問題を見いだ	に関する観察,実験な	に関する基本的な概念
ち,主体的に探究しよ	し,探究する過程を通	どを行い,基本操作を	や原理・法則について
うとするとともに , 科	して,事象を科学的に	習得するとともに,そ	理解を深め,知識を身
学的態度を身に付けて	考察し,導き出した考	れらの過程や結果を的	に付けている。
いる。	えを的確に表現してい	確に記録,整理し,自	
	る。	然の事物・現象を科学	
		的に探究する技能を身	
		に付けている。	
生物基礎			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
日常生活や社会との	生物や生物現象の中	生物や生物現象に関	生物や生物現象につ
関連を図りながら生物	に問題を見いだし,探	する観察,実験などを	いて,基本的な概念や
や生物現象について関	究する過程を通して,	行い,基本操作を習得	原理・法則を理解し,
心をもち,意欲的に探	事象を科学的に考察	するとともに , それら	知識を身に付けてい
究しようとするととも	し,導き出した考えを	の過程や結果を的確に	る。
に,生物の共通性と多	的確に表現している。	記録,整理し,自然の	

様性を意識するなど,		事物・現象を科学的に	
科学的な見方や考え方		探究する技能を身に付	
を身に付けている。		けている。	
生物		1) ((18)	
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
生物や生物現象に関	生物や生物現象の中	生物や生物現象に関	
心や探究心をもち、主	に問題を見いだし,探	する観察,実験などを	する基本的な概念や原
体的に探究しようとす	究する過程を通して ,	一行い,基本操作を習得	理・法則について理解
るとともに、科学的態	事象を科学的に考察	するとともに、それら	を深め,知識を身に付
度を身に付けている。 	し,導き出した考えを	の過程や結果を的確に	けている。
	的確に表現している。 	記録,整理し,自然の	
		事物・現象を科学的に	
		探究する技能を身に付	
		けている。	
地学基礎 	T	1	1
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
日常生活や社会との	地球や地球を取り巻	地球や地球を取り巻	地球や地球を取り巻
関連を図りながら地球	く環境に関する事物・	く環境に関する観察、	く環境について,基本
や地球を取り巻く環境	現象の中に問題を見い	実験などを行い,基本	的な概念や原理・法則
について関心をもち、	だし,探究する過程を	操作を習得するととも	を理解し , 知識を身に
意欲的に探究しようと	通して,事象を科学的	に,それらの過程や結	付けている。
するとともに,地学的	に考察し,導き出した	果を的確に記録,整理	
な事物・現象を一連の	考えを的確に表現して	し,自然の事物・現象	
時間の流れの中でとら	いる。	を科学的に探究する技	
えるなど,科学的な見		能を身に付けている。	
方や考え方を身に付け			
ている。			
地学	,	,	,
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
地学的な事物・現象	地学的な事物・現象	地学的な事物・現象	地学的な事物・現象
に関心や探究心をも	の中に問題を見いだ	に関する観察,実験な	に関する基本的な概念
ち,主体的に探究しよ	し,探究する過程を通	どを行い,基本操作を	や原理・法則について
うとするとともに,科	して,事象を科学的に	習得するとともに,そ	理解を深め,知識を身
学的態度を身に付けて	考察し,導き出した考	れらの過程や結果を的	に付けている。
いる。	えを的確に表現してい	確に記録,整理し,自	
	る。	然の事物・現象を科学	
		的に探究する技能を身	
		に付けている。	

理科課題研究			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
科学に関する課題を	科学に関する課題を	科学に関する課題を	課題を設定し探究す
設定し,主体的に探究	設定し探究する過程を	設定し探究する過程を	る過程を通して , 科学
しようとするととも	通して,事象を科学的	通して,観察,実験な	に関する基本的な概念
に,科学的態度を身に	に考察し,導き出した	どの基本操作を習得す	や原理・法則について
付けている。	考えを的確に表現して	るとともに , それらの	理解を深め,知識を身
	いる。	過程や結果を的確に記	に付けている。
		録,整理し,自然の事	
		物・現象を科学的に探	
		究する技能を身に付け	
		ている。	

(4)単元の評価規準について

「生物基礎」の中の三つの内容のまとまりのうち、「(3)生物の多様性と生態系」における単元の評価規準に関する例示を行う。学習指導要領で示された科目の目標を踏まえ、「評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を示している。

- 【科目の目標(生物基礎)】

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め,目的意識をもって観察,実験などを行い,生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに,生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ,科学的な見方や考え方を養う。

「生物基礎」の内容のまとまり「(3)生物の多様性と生態系」における<u>評価規準に盛り込むべき</u> 事項である。(「学習評価参考資料」より一部抜粋)

「(3)生物の多様	「(3)生物の多様性と生態系」における評価規準に盛り込むべき事項			
関心・意欲・態度	生物の多様性と生態系に関する事象について関心をもち,意欲的に探究しよう			
	とするとともに,科学的な見方や考え方を身に付けている。			
思考・判断・表現	生物の多様性と生態系に関する事象の中に問題を見いだし,探究する過程を通			
	して,事象を科学的に考察し,導き出した考えを的確に表現している。			
観察・実験の技能	生物の多様性と生態系に関する事象について観察,実験などを行い,基本操作			
	を習得するとともに,それらの過程や結果を的確に記録,整理し,科学的に探究			
	する技能を身に付けている。			
知識・理解	生物の多様性と生態系に関する事象について,基本的な概念や原理・法則を理			
	解し,知識を身に付けている。			

「生物基礎」の内容のまとまり「(3)生物の多様性と生態系」は、三つの単元で構成されている。 これらの単元の評価規準の設定例を示す。(「学習評価参考資料」より一部抜粋)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
【植生の多様性と分布】 ・植生と遷移について関 心をもち,意欲的に探究 しようとする。	・陸上には草原や森林など様々な植生がみられ、それらは不変ではなく、長期的に移り変わっていくことを考察し、導き出した考えを表現している。	・植生と遷移について観察,実験,資料収集などを行い,基本操作を習得するとともに,それらの過程や結果を的確に記録,整理している。	・陸上には様々な植生が みられ,植生は長期的に 移り変わっていくことを 理解し,知識を身に付け ている。

・気候とバイオームにつ いて関心をもち , 意欲的 に探究しようとする。	・気温と降水量の違いに よって,地球上では様々 なバイオームが成立して いることを考察し,導き 出した考えを表現してい る。	・気候とバイオームについて観察,実験,資料収集などを行い,基本操作を習得するとともに,それらの過程や結果を的確に記録,整理している。	・気温と降水量の違いに よって様々なバイオーム が成立していることを理 解し,知識を身に付けて いる。
【生態系とその保全】 ・生態系と物質循環につ	・生態系において物質が	・生態系と物質循環につ	│ │・生態系では,物質が循
いて関心をもち、意欲的	循環すること及びそれに	いて観察、実験、資料収	環するとともにエネルギ
に探究しようとする。	伴ってエネルギーが移動	集などを行い,基本操作	ーが移動することを理解
	することを考察し,導き	を習得するとともに,そ	し,知識を身に付けてい
	出した考えを表現してい	れらの過程や結果を的確	る。
・牛熊系のバランスにつ	る。 ・生態系のバランスにつ	に記録 , 整理している。 ・生態系のバランスにつ	 ・生態系のバランスにつ
いて関心をもち,意欲的	いて考察し,生態系を保	いて観察,実験,資料収	いて理解し,知識を身に
に探究しようとする。	全することが重要である	集などを行い,基本操作	付けるとともに、生態系
	ことを認識し,導き出し	を習得するとともに,そ	の保全の重要性について
	た考えを表現している。	れらの過程や結果を的確	認識している。
【生物の多様性と生態系		に記録,整理している。	
【主物の多様性と主態系 に関する探究活動】			
・「生物の多様性と生態	・「生物の多様性と生態	・「生物の多様性と生態	・課題とした「生物の多
系」に関する探究活動を	系」に関する探究活動を	系」に関する探究活動を	様性と生態系」に関する
行い,意欲的に探究しよ	行い,事象や結果を考察	行い,生物学的に探究す	事象についての基本的な
うとする。	し,導き出した考えを表	る方法を習得するととも	概念や原理・法則を理解
	現している。	に,それらの過程や結果 を的確に記録,整理して	│し,知識を身に付けてい │る。
		いる。	.⊘.

「生物基礎」の他のすべての内容のまとまりにおける<u>評価規準に盛り込むべき事項</u>及び<u>単元の評価</u> 規準の設定例は、「学習評価参考資料」に記載されている。

(5)単元の指導と評価の計画について(「学習評価参考資料」を一部改編)

「生物基礎」の内容のまとまり「生物の多様性と生態系」の中の単元「植生の多様性と分布」の「指導と評価の計画」を例示する。

時	学習内容	学習活動	ねらい	関	思	技	知	評価規準	評価方法
1	様々な植生	陸上の植生に ついて、 も も も り も り い で の 観 い で の 観 生 の 観 ま の 、 の 観 生 の の も り る り る り る り る り る り る ら る ら る ら る ら る	陸上には、森林 や草原など様々 な植生があるこ と に 関 心 を も つ。					陸上の様々な植生に ついて関心をもって いる。	発表の仕 方・行動観 察
2	植生の遷移 とその仕組 み	植生のではないではないでは生のではないではないではないではないではないではないできませる。	植生は不変では なく、 長期 で も で き き き き き で き で き で き で き で き で き					植生が長期的に移り 変わっていく様子を 理解している。	発表の仕 方・行動観 察
3	森林の変化 と生物の多 様性	森いの原との生ので で、考にで をもののの をもののの 生変を を を を を を を を を を を を を を り の の の の の	森やプよれたると性と、、成破かがそのでででででいる。なこでがでいる。ないがそのすがのがののすがののすがのがあるないがのがあるないがでいます。					森林が破壊され、そこから新たに遷移が始まることについてその理由と仕組みを考察し、説明することができる。	方・ワーク シートの

				根拠を基に考察 する。			
	4	気候条件とバイオーム	「 バ に つ	「バ気けとが成立は、一人と関す、一人と関す、一人とが成立が成が、科学には、一段を表がない。		各バイオームが成立 する理由を考察し、説 明することができる。	ワークシ ートの容 分析
	5	世界のバイ オームとそ の分布	世界のバイオ ームとその分 布について学 ぶ。	世界のバイオー ムとその分布及 び各バイオーム の特徴について 理解する。		各バイオームの特徴 と具体的な植物種を 把握できる。	ワークシ ートの記 述内容の 分析
	6	日本のバイ オームとそ の分布	日本のバイオームと及び水のでのででである。からでででででいる。	日本のバイオーに かのは 事のでのは 事のでのいい 事のでも ののでも ののでも ののでも ののでも ののでも ののでで ののでも ののでも ののでも ののでも ののでも ののでも ののでも ののでも ののでも ののでも ののでも ののでも ののでも ののででも ののでででできる。 では では では では では できる。 では できる。 では できる。 では できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。		植生の成り立ちや日本や世界のが関心をもいて、関心をもっている。 日本各地域の垂直分布と、日本全体のが表について、気候との関連があるまりに付けている。	ワー述分 ワー述分 クの容 クの容 クの容
- 1	7 8	身近な植物 とバイオー ムとの関連	身 バの て 察 行 が ム つ し 考 を と と い 考 を	バイタ イオ身 が な 葉 を に を を を を を の の の で を を の の の の の の の の の の の の の		これを では、学校木ム に、学校木ム に、学校木ム に、学校木ム に、学校木ム に、学校木ム できるできした。 できるできした。 では、できるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできる。 は、では、できるできる。 にには、のは、できるできる。 に、、できるできる。	ワー述分 ワー述分 ワー述分発方ート内析 ート内析 ート内析 ート内析表 クの容 のいる のいる か記の 仕

1)表中の観点について

関 … 関心・意欲・態度 思 … 思考・判断・表現

技 … 観察・実験の技能 知 … 知識・理解

2) 「指導と評価の計画」については第1章「8 指導計画の作成について」(8~12頁参照)の中でその作成に係る留意点等について解説しているので参照する。

3)表中の の評価は総括の資料とするが、 は指導に生かす評価であり、総括に用いない。

(6)教科としての評価に関する留意事項

理科における観点別学習状況の評価について

平成 21 年 3 月改訂高等学校学習指導要領の理科において重視する力を生徒に着実に身に付けさせるためにも、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「観察・実験の技能」、「知識・理解」

の四つの観点から評価を行い、生徒の学習の状況を的確に捉えて指導に生かしていくことが求められている。このことにより、授業が改善され、生徒の学力の定着へとつながっていくことが期待される。

平成 21 年 3 月改訂高等学校学習指導要領の理科で重視すること

- ア 科学に対する関心をもち続ける態度の育成
- イ 探究的な学習活動のより一層の充実
- ウ 科学的な概念の理解など基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着



- ・自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、学習に取り組む。
- ・目的意識をもって観察、実験などに取り組む。
- ・科学的な概念の理解など基礎的・基本的な知識や技能を身に付ける。

各観点の特性への配慮について

関心・意欲・態度

生徒が自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、 科学的態度を身に付けている状況を、行動の観察、発言や記述内容の分析などから把握する。

思考・判断・表現

生徒が自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に思考している状況を、発言や記述内容の分析、ペーパーテストなどから把握する。

観察・実験の技能

観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理するなど、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている状況を、行動の観察や記述内容の分析、ペーパーテストなどから把握する。

知識・理解

生徒が自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているかを、発言や記述内容の分析、ペーパーテストなどから把握する。

総括テスト(単元テスト、中間テストや期末テストなど)は、四つの観点を踏まえて作成する。ただし、関心・意欲・態度については総括テストでは出題せずに、観察や確認テストなどで評価することも考えられる。

単元における観点ごとの総括方法について、三つの例を示す。さらに、各方法において資料ごとに 重み付けを行う方法も考えられる。

〔例1〕評価結果のA、B、Cの数を基に総括する方法

ある観点でいくつかのまとまりごとに何回か行った評価結果のA、B、Cの数が多いものが、その 観点の学習の実現状況を最もよく表しているとする考え方に立つ総括方法である。例えば、「ABB」 ならばBと総括する。なお、「AABB」の総括結果をAとするかBとするかなど、同数の場合や三 つの記号が混在する場合の総括の仕方をあらかじめ決めておく必要がある。

[例2]評価結果のA、B、Cの数を数値化して総括する方法

ある観点でいくつかのまとまりごとに何回か行った評価結果の A、 B、 C を、例えば、 A = 3、 B = 2、 C = 1 のように数値によって表し、合計したり、平均したりすることで総括する方法である。このとき、総括の結果を B とする判断の基準を [1.5 平均値 2.5] とすると、「 A B B 」の平均値は、約2.3 [(3+2+2)÷3]で総括結果は B となる。

- 〔例3〕評価結果の点数化による満点に対する割合から総括する方法

例えば、Aを3点、Bを2点、Cを1点とし、次のように合計点の満点に対する割合から観点ごとに総括する。

80%以上 「十分満足できる」状況と判断されるもの : A 50%以上80%未満 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの : B 50%未満 「努力を要する」状況と判断されるもの : C

学年末(学期末)における観点ごとの評価の総括方法について、二つの例を示す。さらに、各方法において資料ごとに重み付けを行う方法も考えられる。

〔例1〕各観点のA、B、Cの組合せから総括する方法

評価結果のA、B、Cの数が多いものが、その観点の学習の実現状況を最もよく表しているとする考え方に立って総括する。

A、B、Cの組合せ		評定
AAAA	「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断	5
	されるもの	
AAAB, AABB	「十分満足できる」状況と判断されるもの	4
ABBB, BBBB,	「おおむね満足できる」状況と判断されるもの	3
ВВВС		
ВВСС, ВССС	「努力を要する」状況と判断されるもの	2
СССС	「努力を要すると判断されるもののうち、特に程度が低い」	1
	状況と判断されるもの	

[例2] 各観点の総括の際の点数の達成率を基に総括する方法

例えば、Aを3点、Bを2点、Cを1点とし、次のように合計点の満点に対する割合から観点ごとに総括する。

達成率の平均		評定
90%以上	「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断	
	されるもの	
80%~90%未満	「十分満足できる」状況と判断されるもの	4
50%~80%未満	「おおむね満足できる」状況と判断されるもの	3
40%~50%未満	「努力を要する」状況と判断されるもの	2
40%未満	「努力を要すると判断されるもののうち、特に程度が低い」	1
	状況と判断されるもの	

観点別学習状況の評価の留意点

- ・評価資料が評価規準に対して明確に対応していること。
- ・年間指導計画に評価規準や評価方法を明確に位置付けること。
- ・学習のねらい、内容及び評価などの情報を生徒に分かりやすく提示すること。
- ・教師の主観に流れて妥当性や信頼性を欠くことのないよう、学校全体で取り組むこと。
- ・生徒のよい面を見付け伸ばしていくために、複数の評価方法、評価資料を用いること。
- ・観点別学習状況の評価の評定への総括は、知識や技能のみの評価など一部の観点に偏した評定が 行われることのないよう各観点による評価を十分踏まえること。
- ・総括の際、点数の合計が同じ場合でも、学習が進むにつれ評価が向上しているときと、逆に低下しているときがあり、このような側面からも総括した評価が適切であるかを検討すること。また、評定についても、生徒の学習状況を反映したものになっているか、評価方法やその総括の方法についても検討すること。

小・中・高等学校を通じた理科の内容の構造化について

小・中・高等学校を通じた理科の内容の構造化を図り、小学校、中学校及び基礎を付した科目について、「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」を柱とした内容の構成となっている。

高等学校における教科・科目の評価の観点は、小・中学校との連続性に配慮しつつ、新しい学習 指導要領の趣旨に沿って整理して設定することが適当である。

(7)Q&A(理科)

- Q 1 探究活動について、実験設備や授業時間数の関係で、生徒が考えた仮説を検証する実験が実施できない場合はどのよう評価にしたらよいか。
- A 1 生徒が考えた実験による検証が実施できなかったとしても、仮説を検証するための実験方法を検討する活動そのものが探究活動であり、「思考・判断・表現」の観点を把握する際の参考とすることができます。
- Q 2 従前の「観察・実験の技能・表現」が「観察・実験の技能」に変わったが、従前あった「表現」 はどこで評価するのか。
- A 2 「技能」の観点では、従前の「技能・表現」が対象としていた内容を引き継ぐことになります。これまで「観察・実験の技能・表現」の観点で評価していた創意工夫を伴う報告書の作成や発表については、新たに「思考・判断・表現」の観点で評価することになりますが、観察・実験の過程や結果を表、図などを使って的確に記録、整理するということについては引き続き「観察・実験の技能」の観点で評価します。

6 保健体育

(1)教科の目標

心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。

(2)教科の評価の観点及びその趣旨

Ī	改 正	従前		
関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを	関・意欲・態度	運動の楽しさや喜び	
	深く味わうことができる		を深く味わうことがで	
観点名変更なし	よう,運動の合理的,計		きるよう自ら進んで計	
	画的な実践に主体的に取		画的に運動しようとす	
	り組もうとする。また,		る。また,個人生活や	
	個人生活及び社会生活に		社会生活における健	
	おける健康・安全につい	S	康・安全に関心をも	
	て関心をもち,意欲的に		ち,意欲的に学習に取	
	学習に取り組もうとする。		り組もうとする。	
思考・判断	生涯にわたる豊かなス	思考・判断	自己の能力と運動の	
	ポーツライフの実現を目		特性に応じた課題の解	
観点名変更なし	指して、自己や仲間の課		決を目指して,運動の	
	題に応じた運動の取り組		合理的な行い方や計画	
	み方や健康の保持及び体		的な活動の仕方を考	
	力を高めるための運動の		え , 工夫している。ま	
	計画を工夫している。ま		た,個人生活や社会生	
	た,個人生活及び社会生		活における健康・安全	
	活における健康・安全に	J	について , 課題の解決	
	ついて,課題の解決を目		を目指して考え,判断	
	指して考え,判断し,そ		している。	
	れらを表している。			
運動の技能	運動の合理的な実践を	運動の技能	自己の能力と各種の	
	通して,運動の特性に応	<u>} </u>	運動の特性に応じた技	
観点名変更なし	じた段階的な技能を身に		能を高め,運動の楽し	
	付けている。		さや喜びを深く味わう	
	}		とともに,体力を高め	
	}		るための運動の合理的	
	}		な行い方を身に付けて	
			いる。	
知識・理解	運動の合理的,計画的	知識・理解	生活における運動の	
観点名変更なし	な実践に関する具体的な	<u> </u>	意義や必要性及び運動	

事項及び生涯にわたって 豊かなスポーツライフを 継続するための理論につ いて理解している。ま た,個人生活及び社会生 活における健康・安全に ついて,課題の解決に役 立つ基礎的な事項を理解 している。 の特性と合理的な行い 方を理解し、知識を身に付けている。また、 個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を 理解し、知識を身に付けている。



改訂のポイント

保健体育及び体育における評価の観点に変更はないため、趣旨のポイントについて記載する。

小学校、中学校及び高等学校を見通した指導内容の体系化が図られたことを受け、中学校第3学年・高等学校入学年次は「自主的に」、高等学校のその次の年次以降は「主体的に」取り組めるようにすることが大切であることを示している。

多くの運動の中から、自らに適した領域を選択し、卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを 継続するために、自らの課題に加えて仲間やチームの課題にも視野を広げるとともに、運動を継続 するために必要となる課題の解決が求められることを示している。

『学習指導要領解説(保健体育・体育)』には、領域の内容ごとに「入学年次」と「その次の年次以降」といった2年間のまとまりで段階に分け、指導内容の例示等を示している。

中学校の内容を踏まえた系統性のある指導ができるよう「体育理論」の内容を精選したことに伴い、各領域との関連で指導することが効果的な内容については、各領域で取り上げるよう整理し示している。

ヘルスプロモーションの考え方を生かし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく 思考力・判断力などの資質や能力を育成する観点から、小学校は「身近な生活」、中学校は「個人 生活」、そして高等学校は「個人生活及び社会生活」における健康・安全に関する内容を重視した 改善が図られたことを示している。

(3)科目の評価の観点の趣旨(「学習評価参考資料」より抜粋)

体育			
関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
運動の楽しさや喜び	生涯にわたる豊かな	運動の合理的な実践	選択した運動の技術
を深く味わうことがで	スポーツライフの実現	を通して,運動の特性	(技)の名称や行い
きるよう,公正,協	を目指して,自己や仲	に応じて勝敗を競った	方,体力の高め方,課
力,責任,参画などに	間の課題に応じた運動	り,攻防を展開した	題解決の方法,練習や
対する意欲をもち,健	を継続するための取り	り,表現したりするた	発表の仕方,スポーツ
康・安全を確保して学	組み方を工夫してい	めの各領域の運動の特	を行う際の健康・安全
習に主体的に取り組も	る。また,自己や仲間	性に応じた段階的な技	の確保の仕方について
うとする。	の状況に応じて体力を	能を身に付けている。	の具体的な方法,スポ
	高めるための運動を継		ーツの歴史,文化的特
	続するための計画を工		性や現代のスポーツの
	夫している。		特徴,運動やスポーツ
			の効果的な学習の仕方
			及び豊かなスポーツラ

			イフの設計の仕方を理
			解している。
保健			
関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
現代社会と健康,生	現代社会と健康,生		現代社会と健康,生
涯を通じる健康,社会	涯を通じる健康,社会		涯を通じる健康,社会
生活と健康について関	生活と健康について,		生活と健康について,
心をもち、意欲的に学	課題の解決を目指して総		課題の解決に役立つ基
習に取り組もうとす	合的に考え、判断し、		礎的な事項を理解して
ప 。	それらを表している。		いる。

(4)から(6)については、科目「体育」と「保健」を分けて掲載する。

科目「体育」

(4)単元の評価規準について

科目の目標を踏まえて示された、「評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を「陸上競技」領域で例示する。

- 【科目の目標(体育)】 ―

運動の合理的,計画的な実践を通して,知識を深めるとともに技能を高め,運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし,自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て,公正,協力,責任,参画などに対する意欲を高め,健康・安全を確保して,生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

評価規準に盛り込むべき事項(「学習評価参考資料」より一部抜粋)

【入学年次】

「C 陸上競技」 <i>の</i>	「C 陸上競技」の評価規準に盛り込むべき事項				
関心・意欲・態度	陸上競技の楽しさや喜びを味わうことができるよう,勝敗などを冷静に受け止				
	め、ルールやマナーを大切にしようとすること、自己の責任を果たそうとすること				
	などや,健康・安全を確保して,学習に自主的に取り組もうとしている。				
思考・判断	生涯にわたって陸上競技を豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り				
	組み方を工夫している。				
運動の技能	陸上競技の特性に応じた,各種目特有の技能を身に付けている。				
知識・理解	技術の名称や行い方,体力の高め方,運動観察の方法を理解している。				

【その次の年次以降】

「C 陸上競技」の評	平価規準に盛り込むべき事項
関心・意欲・態度	陸上競技の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう,勝敗などを冷静に受け
	止め、ルールやマナーを大切にしようとすること、役割を積極的に引き受け自己の
	責任を果たそうとすること , 合意形成に貢献しようとすることなどや , 健康・安全
	を確保して,学習に主体的に取り組もうとしている。
思考・判断	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して,自己や仲間の課題に応じ
	た陸上競技を継続するための取り組み方を工夫している。
運動の技能	陸上競技の特性に応じた,各種目特有の技能を高めて,身に付けている。
知識・理解	技術の名称や行い方,体力の高め方,課題解決の方法,競技会の仕方などを理解
	している。

【入学年次】

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
・陸上競技の学習	・自己の課題に応じた運動の行	・短距離走・リレーでは,中間	・技術の名称や
に自主的に取り組	い方の改善すべきポイントを見	走のつなぎを滑らかにするなど	行い方につい
もうとしている。	付けている。	して速く走ることができる。	て,学習した具
・勝敗などを冷静	・自己の課題に応じて,適切な	・長距離走では,自己に適した	体例を挙げてい
に受け止め,ルー	練習方法を選んでいる。	ペースを維持して走ることがで	る。
ルやマナーを大切	・仲間に対して,技術的な課題	きる。	・陸上競技に関
にしようとしてい	や有効な練習方法の選択に関し	・ハードル走では,スピードを	連した体力の高
る。	て指摘している。	維持した走りからハードルを低	め方について,
・自己の責任を果	・健康や安全を確保するため	く越すことができる。	学習した具体例
たそうとしてい	に , 体調に応じて適切な練習方	│・走り幅跳びでは , スピードに	を挙げている。
る。	法を選んでいる。	│乗った助走から力強く踏み切っ	・運動観察の方
・互いに助け合い	・陸上競技を継続して楽しむた	て跳ぶことができる。	法について,理
教え合おうとして	めの自己に適した関わり方を見	・走り高跳びでは,リズミカル	解したことを言
いる。	付けている。	な助走から力強く踏み切り滑ら	ったり書き出し
・健康・安全を確		かな空間動作で跳ぶことができ	たりしている。
保している。		る。	

【その次の年次以降】

単元の評価規準については、ここで示した単元の評価規準の設定例を参考に作成する。

「陸上競技」領域以外の内容のまとまりごとにおける<u>評価規準に盛り込むべき事項</u>及び<u>評価規準の設定</u> 例は、「学習評価参考資料」に掲載されている。

(5)単元の指導と評価の計画について(「学習評価参考資料」を一部改編)

「陸上競技」領域のそれ以降の年次(3年次)における「指導と評価の計画」を例示する。

前述の単元の評価規準例を踏まえ、単元の評価規準を示す。

学習指導要領及び解説と同様に、単元の評価規準の設定例についても、2年間のまとまりで指導内容が示されている。そこで、その次の年次(2年次)の指導内容とそれ以降の年次(3年次)の指導内容を整理した上で、評価規準を設定する必要がある。

ここでは、その次の年次(2年次)の評価規準・、それ以降の年次(3年次)の評価規準 、と表示した。なお、運動の技能については、2年間共通した内容を指導することとして設定した。

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
陸上競技の学習に	・これまでの学習を踏まえて,	短距離走・リレーでは,中間走	技術の名称や行
主体的に取り組もう	自己や仲間の挑戦する課題を設	の高いスピードを維持して速く走	い方について,学
としている。	定している。	ることができる。	習した具体例を挙
・勝敗などを冷静に	課題解決の過程を踏まえて,	長距離走では , ペースの変化に	げている。
受け止め、ルールや	自己や仲間の課題を見直してい	対応するなどして走ることができ	陸上競技に関連
マナーを大切にしよ	る。 	3.	した体力の高め方
うとしている。	・グループで活動する場面で,	(ハードル走では , スピードを維)	について,学習し
・役割を積極的に引	状況に応じた自己や仲間の役割	持した走りからハードルを低くリ	た具体例を挙げて
き受け自己の責任を	を見付けている。	ズミカルに越すことができる。	いる。
果たそうとしてい	練習や競技の場面で、自己や	走り幅跳びでは,スピードに乗	・課題解決の方法
3.	仲間の危険を回避するための活	一った助走と力強い踏み切りから着	について,理解し
合意形成に貢献し		地までの動きを滑らかにして跳ぶ	たことを言ったり
ようとしている。	陸上競技を生涯にわたって楽	ことができる。	書き出したりして
互いに助け合い高		三段跳びでは,短い助走からリ	いる。
め合おうとしてい	↑ 方を見付けている。	ズミカルに連続して跳ぶことがで	開放会の仕方に
る。	とに示す「指導と評価の計画」の評	きる。 (なわりばるは、 さもりばかじか	ついて,学習した
・「健康・ 価規進は	「学習活動に即した評価規準」で	砲丸投げでは,立ち投げなどか こねれた窓を出しておばることが	具体例を挙げてい
	こには、生徒の具体的な姿を示すた	ら砲丸を突き出して投げることが	る。
	の評価規準を手がかりに、各学校の	(できる。	審判の方法につ
1 - 9	ぶさせて設定する。 合意形成に貢献しようとしている 」		いて,学習した具 休 例 ち 巻 げ て い
	「グループの話合いに、責任をもっ		体例を挙げてい
	て関わろうとしている。」		る。
		\ .	

それ以降の年次(3年次)の「指導と評価の計画」

学習活動に即した評価規準(15頁を参照)

時	学習内容	学習活動	ねらい	関	思	技	知	評価規準	評価方法
1	・学習の進め方	オリエンテー	・選択し					・関連した体力の高	(知)学習
	・体力の高め方 ←	<u>ションを通し</u>	た運動種	+6;=	L±T/A	F	(+ /\	め方について、学習	カード
2		て、学習の進め	目特有の	担与	と評価	Щ О)—.	年1 6	した具体例を挙げて	
	【砲丸投げ】	方及び体力の高	技能を高	l				いる。(知)	
3	・復習	め方を学ぶ。	めよう。		A				
		砲丸投げ特有	・互いに				<u></u>	 <u></u>	
4		の技能を高め	助け合い					・互いに助け合い高	(関)観察
		る。	高め合っ					め合おうとしてい	(知)学習
5	・技術の名称や行	前年度までの	て課題解					る。(関)	カード
	い方	復習をする。	決に取り					・学習した	
	・課題別練習	新しい内容を	組もう。	L				技術の名称	
		学習する。						状況の や行い方に	
		・課題を明確に		評価の				く、評 ついて、学	
		する。						価は行 習した具体指導に 習した具体	
	細胞の日本した			生かす					
	・課題の見直し方	・技能習得に向		ェ/5・/ 6 時間					
	中ツのイナ	けた課題別練習				0, 3,	, , ,	(7.17)	
6	・審判の仕方	を行う。							
		・学習ノートを			•				
7		用いて学習状況				_		・準備動作を用いる	(技)観察
		を確認する。			/	*		場合には、準備動作	(3.1,11
8		記録会を行う。						で得た勢いを投げの	
	「運動の	技能」の観点のみ、『	時間の区切りを	示す》	按線			動作に移すことがで	
		る。これは、運動の						きる。(技)	
		継続して行っていると			J			・足の地面への押し	
1 1							I	~02.6円(0214.0)	1

9	・学習の進め方・体力の高め方	オリエンテー ションを通し				や上半身のひねり戻 しを使って砲丸を突 き出すことができ る。(技)	
10	【ハードル】	て、学習の進め 方及び体力の高					
12	・復習・技術の名称や行	め方を学ぶ。 ハードル特有 の技能を高め				│ │・グループの話合い │に、責任をもって関	(関)観察 (知)学習
13	い方	る。 前年度までの				た、質はをもって関 わろうとしている。 (関)	カード
	+BB= D1/+ 77	復習をする。 新しい内容を				・学習した技術の名称や行い方につい	
14	・課題別練習 ・課題の見直し方	学習する。 ・課題を明確に する。				て、学習した具体例 を挙げている。(知)	
15	・審判の仕方	・技能習得意に 向けた課題別練				・インターバルで	(
16		習を行う。 ・学習ノートを 用いて学習状況				は、3歩のリズムを 最後のハードルまで 維持して走ることが	(知)学習 カード
		を確認する。 記録会を行う。				できる。(技) ・ハードリングとイ	
		『学習	■動の技能」の 習指導要領解説)』の例示を₹	(保健体育	· [ンターバルの走り方 を滑らかにつなぐこ とができる。(技)	
		る。	「学習活動に は、これを基に	即した評価規	現	・審判の方法について、学習した具体例	
17	・主体的に取組む	課題を見直	・ 各自で			を挙げている。(知)	
18	意義	し、各自の計画 を立案する。	立案した 練習計画			・練習や競技の場面	(考)学習
19	・危険回避の活動 の仕方	安全を確保し、仲間と主体的に学習する。	で課題。 解決し、 仲間と学			で、自己や仲間の危 険を回避するための 活動の仕方を選んで	カード (関)観察
		・課題を見直し、解決方法を	習を進め			│いる。(思) │・陸上競技の学習に	
20		見付けたり、危 険回避の活動の	よう。			主体的に取り組もう としている。(関)	
21		仕方を確認した りする。					
22		・練習や記録の 計測を行う。 ・競技会の準備 と運営を行う。				・課題解決の過程を 踏まえて、自己や仲 間の課題を見直して いる。(思)	(考)学習 カード
23		****					
24 25	・競技会の仕方	競技会の企画・係分担・ルール等を決める。	・競技会を自分を企業			・競技会の仕方について、学習した具体例を挙げている。	(知)学習
26	・自己に適した関わり方	る。 競技会を通し て、陸上競技を 生涯にわたっの と 楽しか仲間に た た た た た た た た た た た た た た た た た た た	画しに陸をう。	^		(知) ・陸上競技を生涯に わたって楽しむため の自己に適した関わ り方を見付けている。(思)	(考)学習 カード
		た関わり方を見 付ける。		を経た上で、		」 評価しているのは、知識、 習活動を設定する等、評価	

1)表中の観点について

 関 ... 関心・意欲・態度
 思 ... 思考・判断

 技 ... 運動の技能
 知 ... 知識・理解

2)参考として1時間目から8時間目までの指導と評価の機会、評価期間・評価方法を示す。

	時間	1	2	3	4	5	6	7	8				
	技能		・中指付	け根付近	準備動	作からの			•				
			の保持(復習)	投げ		指導内容の定着に時間がかかるこの						
指			・首に付	けた姿勢	足や上	半身の動	│ から、指導後に一定の学習期間及び評 │ 価期間を設ける工夫をしている。						
導			・突き出	しの効率	作								
ے			と角度(復習)									
評					指	導) /			平価)	観察			
価	態度		互いに	助け高め									
の			合うこと										
機					A CH	価				観察			
会	知識	必要	な体力、 (指導	技術の	名称や行			審判				
•		関連し	て高まる		い方				の仕方				
評		体力											
価		Įį.	導		指	導			評価	学習			
方		評	通		R	至価			百十1四	カート゛			
法	思考			10.66			課題の	見直し					
	• 判断		価を行うこ	カード等の とから、指	導から期間		 評(ж		学習			
	ナリビ川		をおかずに	評価している	5.	ل	高 千 1	Щ		カート・			

(6)教科としての評価に関する留意事項

学習指導要領における体育の運動に関する領域の指導内容は、(1)技能(体つくり運動は(1)運動)、(2)態度、(3)知識、思考・判断で示されている。これらの指導内容に対応した学習状況を「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「運動の技能」、「知識・理解」の四つの(体つくり運動は三つ)観点で評価する。

体育の知識に関する領域の「H 体育理論」は、大項目の「内容のまとまり」ごとにねらいを設定し、 学習活動を工夫した上で、「運動の技能」を除いた3観点で評価する。

各観点について

- ・「関心・意欲・態度」: 『学習指導要領解説(保健体育・体育)』に愛好的(価値的)態度、公正、協力、責任、参画、健康・安全に対する体育固有の指導内容が示されている。 まず、これらの意欲を育むための知識について理解させることが大切である。 また、「健康・安全」に関する事項については、意欲をもつことにとどまらず、実践することが求められていることに留意する。そのため、単元の評価規準、「健康・安全」に係る文末の標記が「~している」となっている。
- ・「思考・判断」: 知識の内容を確実に指導した上で、『学習指導要領解説(保健体育・体育)』の例 示を手がかりに、知識を活用する場面を設定し、思考力・判断力を高めた上で評価を することが大切である。特に、話合いの活動などでは、課題を明確にして課題の焦点 化を図るなどの指導の工夫が大切である。

- ・「運動の技能」: 学習指導要領解説の例示等を手がかりに、領域の内容ごとに、身体表現や瞬時の判断 を含む動きとして、評価規準を設定することが大切である。
- ・「知識・理解」: すべての学習の基礎となるため、基礎的・基本的な内容を確実に指導することが大切である。

体育理論について、「知識・理解」は小項目ごとに評価規準を設定する。「関心・意欲・態度」、「思考・判断」については大項目を通して評価規準を設定し、意欲を促したり、知識を活用したりする学習機会を確保した上で、複数の評価機会を設けるなどの工夫が大切である。

観点別学習状況の評価の総括について

(5)の「指導と評価の計画」にある「陸上競技」27時間(本事例)の総括を例示する。

	関心・意欲・態度						思考・判断			技能					知識・理解						単元の
					総括				総括					総括						総括	総括
生徒	S	С	В	В	В	В	Α	Α	Α	В	В	Α	Α	А	С	В	С	В	В	В	Α
生徒	Τ	В	Α	Α	Α	Α	В	В	В	Α	В	В	В	В	В	В	В	С	С	В	В
生徒	U	В	В	С	В	В	В	В	В	Α	Α	Α	В	Α	В	С	В	В	С	В	В

ある観点でいくつかのまとまりごとに何回か行った評価結果のA・B・Cの数で総括を考えた場合であり、学習の実現状況を最もよく表している考え方に立つ総括の方法である。

生徒 S の「運動の技能」は、B・B・A・Aだが、BとAが同数の場合は、単元の後半の成果を重視することを各学校(保健体育科の教員相互)で申し合わせ、総括をAとしたものである。

例えば、評価が同数の場合や三つの評価が混在する場合の総括の仕方をあらかじめ決めておく必要がある。

関心・意欲・態度						思考	・半	刂断	技能						;	単元の					
					総括				総括					総括						総括	総括
生徒	S	1	2	2	В	2	3	3	Α	2	2	3	3	В	1	2	1	2	2	В	В
生徒	Τ	2	3	3	Α	3	2	2	В	3	2	2	2	В	2	2	2	1	1	В	В
生徒	U	2	2	1	В	2	2	2	В	3	3	3	2	Α	2	1	2	2	1	В	В

評価結果を数値化して考える方法もある。

A=3、B=2、C=1として記録し、合計したり、平均したりすることで総括する。

例えば、観点ごとの総括について、各学校(保健体育科の教員相互)で申し合わせ、

[1.50 平均値 2.50]をBとするなど、総括の仕方をあらかじめ決めておく必要がある。

科目「保健」

(4)単元の評価規準について

科目の目標を踏まえて示された、「評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を「(1) 現代社会と健康」で例示する。

・【科目の目標(保健)】 —

個人及び社会生活における健康・安全についての理解を深めるようにし,生涯を通じて自らの健康を適切に管理し,改善していく資質や能力を育てる。

「(1)現代社会と	「(1)現代社会と健康」における評価規準に盛り込むべき事項										
関心・意欲・態度	現代社会と健康について、健康を保持増進するためには、自らの健康を適切に管										
	理すること及び環境を改善していくことが重要であることに関心をもち , 学習活動										
	に意欲的に取り組もうとしている。										
思考・判断	現代社会と健康について,健康を保持増進するための課題の解決を目指して,知										
	識を活用した学習活動により,総合的に考え,判断し,それらを表している。										
知識・理解	現代社会と健康について、健康を保持増進するための課題の解決に役立つ自らの										
	健康を適切に管理すること及び環境を改善していくための基礎的な事項を理解して										
	いる。										

いる。		
単元の評価規準の設定例(「学習評価参考資料」より一部抜粋)	
関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
健康の考え方 ・国民の健康水準と疾病構造の変化,健康の考え方と成り立ちについて,資料を探したり,見たり, 読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。・健康に関する意志決定や行動選択,健康に関する環境づくりについて,課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	健康の考え方 ・国民の健康水準と疾病構造の変化,健康の考え方と成り立とを切りて,健康の考え方と成り立とをしいて,資料等で調べたことをして,課題を見付けたり,を整説に見いる。・健康に関する意志決定や行りる。・健康に関することを、の人したりなどとといり、分析の道をできる。また,ののはは世界を表現した。	健康の考え方 ・健康の考え方は,国民の健康水 準や疾病構造の変化に伴って会わってきていること,健康は様体の要因の影響を受けながら,主なの影響を受けながらり立ていること,健康の保持増進に意力の保持増進に関するのとは受けるでは、理解したのでは、現までは、記述したり、記述と応信の条件を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表
健康の保持増進と疾病の予防・生活習慣病と日常の生活行動について,資料を探したり,見たり,読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。・喫煙,飲酒と健康,薬物乱用と健康,感染症とその予防について,課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	健康の保持増進と疾病の予防・生活習慣病と日常の生活行動にったことを調査を見付けたり、整理によるとして、それらを説明といまる。・・喫煙、飲酒と健康、薬物乱用といる。・・喫煙、飲酒と健康、薬物にして、強力を強力を強力を受けると比較したり、評価したりするなどもしたり、評価したりするなどもいる。また、筋道を立てている。を説明している。	健康の保持増進と疾病の予防病の保持増進と疾病の予防病の保持増進と生活習慣進と生活習慣養した。 予問の保持事、正、主、主、主、主、主、主、主、主、主、主、主、主、主、主、主、主、主、主、
精神の健康 ・欲求と適応機制,心身の相関に ついて,資料を探したり,見たり,読んだりするなどの学習活動 に意欲的に取り組もうとしてい る。 ・ストレスへの対処,自己実現に ついて,課題の解決に向けての話 合いや意見交換,体験活動などの 学習活動に意欲的に取り組もうと している。	精神の健康 ・欲求と適応機制,心身の相関に ついて,資料等で調べたことを基 に,整理したり,自分の考えを導 さ出したりして,それらを説明したいる。 ・ストレスへの対処,自己実現人 でいて,学習したことを,したり び社会生活や事例と比較したり が付したり もまた,筋道を立ててそ れらを説明している。	精神の健康 ・人間の欲求と適応機制には,様々な種類があること,精神と身体には,密接な関連があること,精神の健康を保持増進するには,欲求やストレスに適切に対処するとともに,自己実現を図るよう努力していくことが重要であることについて,理解したことを発言したり,記述したりしている。

交通安全

- ・交通事故の現状,交通社会で必要な資質と責任について,資料を探したり,見たり,読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
- ・安全な社会づくりについて,課題の解決に向けての話合いや意見 交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。

応急手当

- ・応急手当の意義について,資料を見たり,読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
- ・日常的な応急手当,心肺蘇生法について,実習,話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。

交通安全

- ・交通事故の現状,交通社会で必要な資質と責任について,資料等で調べたことを基に,課題を見付けたり,整理したりするなどして,それらを説明している。
- ・安全な社会づくりについて,学習したことを,個人及び社会生活や事例と比較したり,分析したりするなどしている。また,筋道を立ててそれらを説明している。

応急手当

- ・応急手当の意義について,資料等で調べたことを基に,課題を見付けたり,整理したりするなどして,それらを説明している。
- ・日常的な応急手当,心肺蘇生法について,分析したり,評価したりするなどしている。また,筋道を立ててそれらを説明している。

交通安全

・交通事故を防止するには,車両の特性の理解,安全な運転や歩行など適切な行動,自他の生命を尊重する態度,交通環境の整備などが関わること,交通事故には責任や補償問題が生じることについて,理解したことを発言したり,記述したりしている。

応急手当

・適切な応急手当は,傷害や疾病の悪化を軽減できること,応急手当には,正しい手順や方法があること,心肺蘇生等の応急手当は,傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから,速やかに行う必要があることについて,理解したことを発言したり,記述したりしている。

単元の評価規準については、ここで示した単元の評価規準の設定例 (「(1)現代社会と健康」)を参考に作成する。また、必要に応じて資料を修正して活用する。

「(1)現代社会と健康」以外の内容のまとまりごとにおける<u>評価規準に盛り込むべき事項及び単元の評</u>価規準の設定例は、「学習評価参考資料」に掲載されている。

(5)単元の指導と評価の計画について(「学習評価参考資料」を一部改編)

「保健」の大項目「(1)現代社会と健康」は、五つの中項目で構成されている。ここでは、この中項目 を単元として捉え、単元の評価規準を設定することとする。

「(1)現代社会と健康 エ 交通安全」の単元の「指導と評価の計画」を例示する。

学習活動に即した評価規準(15頁及び85頁を参照)

時	学習	学習活動	ねらい	関	- 思	知	評価規準	評価
	内容							方法
1	・交通	1 交通事故の発生状	・交通事故の現	•			・ 交通事故の現状、交通社会	観察
交	事故の	況を資料で調べる。	状を知り、事故				で必要な資質と責任につい	
通	現状	2 資料で交通事故の	には、車両の特				て、資料を見たり、読んだり	観察
事故		特徴を調べる。	性、当事者の行				するなどの学習活動に意欲的	
の		3 事例から、交通事	動や規範を守る				に取り組もうとしている。	
現		故の要因を挙げ、グル	意識、周囲の環				(関)	
状		ープで話し合う。	境などが関連し					
			ていることを理				・交通事故には、車両の特	
		4 交通事故発生の要	解できるように				性、当事者の意識や行動、周	
		因を当事者、車両、環	する。			,	囲の環境が関連していること	
		境に分類し、整理す				/	について、理解したことを発	
		る。					言したり、記述したりしてい	
		5 交通事故の現状と					る。(知)	観察
		要因について発表し、						ワーク
		まとめる。						シート

2	・交通	1 事故に関する自分	・交通事故を防	•	1			観察
	社会で	の体験や事例を挙げ、	止するには、自				で必要な資質と責任につい	ワーク
交通	必要な	その時の心身の状態や	他の生命を尊重				て、資料を見たり、読んだり	シート
社	資質	行動を振り返り、ワー	するとともに、				するなどの学習活動に意欲的	
会で		クシートに記入する。	自分自身の心身				に取り組もうとしている。	
必			の状態や車両の				(関)	
要		の欠如が引き起こす危	特性などを把握				(1-3)	
な資		険運転について考え	すること及び個				│ │ ,・交通事故を防止するには、	
質		る。	 人の適切な行動				/ 自他の生命を尊重するととも	
と責		3 3 運転者に必要な資	が必要なことを			∳	 に、自分自身の心身の状態や	ワーク
任		 質について記述する。	理解できるよう				車両の特性の把握、個人の適	シート
(1)			にする。				切な行動が必要であること及	
		4 グループで発表					び交通事故には責任や補償問	
		し、まとめる。					題が生じることについて、理	
							解したことを記述している。	
							(知)	
3	・交通	 1 交通事故に伴う、	・交通事故には	•			│ ├─・交通事故の現状、交通社会	観察
	事故に	社会的責任について調	責任や補償が生				で必要な資質と責任につい	E7025
交通	伴う責	べる。	じることを理解				て、資料を見たり、読んだり	
社	任	2 交通事故に伴う補	し、近い将来、				するなどの学習活動に意欲的	
会で		償と保険について調	 運転者として交				 に取り組もうとしている。	
必必		べ、社会的責任の視点	 通社会の一員と				(関)	
要か		 で意見交換する。	なることを考慮					
な資		3 交通事故に伴う社	し、加害事故を				│ ├─・交通社会で必要な資質と責	ワーク
質		会的責任以外の責任を	起こさないこと				任について、交通事故の現状	シート
と責		考える。	が重要であるこ				を踏まえ、資料等で調べたこ	
任		4 運転者としての責	とを理解できる				とを基に、課題を見付けた	
(2)		任について、グループ	ようにする。				り、整理したりするなどし	
		で話し合い、まとめ					て、それらを説明している。	
		る。					(思)	
4	・交通	1 交通事故が減少し	・安全な社会づ				· 交通事故や自然災害などに	
安	事故を	ている要因や背景につ	くりには、環境				/よる傷害がない安全な社会づ	
全	防止す	いてグループで話し合	の整備が重要で			/	くりについて、学習したこと	
な 社	る安全	う。	あり、特に交通				を、個人及び社会生活や事例	
会	な社会	2 社会的な対策につ	事		,	7	と比較したり、分析したりす	
づ	づくり	いて調べ、整理する。	故を防止するに				るなどして、筋道をたててそ	
\ \ (1)		3 より安全な交通社	は、法的な整				れらを説明している。(思)	ワーク
(1)		会の実現に向けた対策	備、施設設備の					シート
		を考える。	充実、車両の安					[]

5 安全な社会づくり(2)	・災どるをす全会り自害に被防るなづ然なよ害止安社く	4 交通事故のないないないに発表されている。 1 音段がある。 1 音段がある。 2 被害を安いのでは、一つでは、一つでは、一つでは、一つでは、一つでは、一つでは、一つでは、一つ	あることを理解 できるようにす る。 ・自然災害など	 	・・安全な社会づくりには、環境の整備が重要であることについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。(知) ・交通事故や自然災害などにうる傷害がない安全な社会である。とにが、学習したことを発言したり、分析したりではなどしているができなどであらを説明している。(思知の解決のは、関いでは、関いでは、関いでは、関いでは、関いでは、関いでは、関いでは、関いで	ワシ 観ー
		4 安全な社会づくり に関わっていく必要性 ついてグループで話し 合い、全体で意見交換 する。		 		観察

1)表中の観点について

関 ... 関心・意欲・態度 思 ... 思考・判断 知 ... 知識・理解

2)「学習活動に即した評価規準」の設定方法の一例

関心・意欲・態度

「(単元名)について、(実際の学習活動の姿)するなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている」 思考・判断

「(単元名)について、(実際の学習活動の姿)するなどして、筋道を立ててそれらを説明している」

知識・理解

- 「(学習指導要領解説の説明文)について、理解したことを言ったり、書き出したりしている」
 - * (実際の学習活動の姿)には、具体的な活動を記載。
 - * (学習指導要領解説の説明文)には、「~理解できるようにする。」の内容を記載。

【『学習指導要領解説(保健体育・体育)』の読み取り方】

(1)現代社会と健康

イ 健康の保持増進と疾病の予防

(イ) 喫煙,飲酒と健康

喫煙,飲酒は,生活習慣病の要因となり健康に影響があることを理解できるようにする。その際,周 囲の人々や胎児への影響などにも触れるようにする。また、(中略)その際、好奇心、自分自身を大切 にする気持ちの低下,周囲の人々の行動,マスメディアの影響,ニコチンやエチルアルコールの薬理作 用などが、喫煙や飲酒に関する開始や継続の要因となることにも適宜触れるようにする。

- 「~理解できるようにする。」は、原則として必ず取り扱う内容(主となる学習内容)
- *「~の面から」や「取り上げる」「関連付ける」などの表記が付帯している場合もある。
- 「~など」と表記されている場合は、
- *健康保持の重要性に応じて、具体的な実例は最近の健康問題や事象等を例に別途取り扱うこともできることを表している。
- 「触れるようにする」は、主となる学習内容を扱った上で触れる内容である。
- 「<u>必要に応じて扱う程度とする</u>」、「<u>関連付けて扱う程度とする</u>」は、伝える程度にとどめる内容である。(他教科との関連や、時間数への配慮等から)

保健学習ハンドブック改訂版(体育センター)より一部抜粋

(6)教科としての評価に関する留意事項

保健の内容を単に知識や記憶としてとどめるのではなく、健康に関する興味・関心や課題解決への意欲を高めるとともに、知識を活用する学習活動を重視して、生徒の思考力・判断力等の育成を目ざす。そのため、「知識・理解」のみではなく、以下の3観点で評価する。

観点別学習状況の評価の各観点で評価すること

・「関心・意欲・態度」: 保健が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとす

る意欲や態度を生徒が身に付けているかどうかを評価する。

・「思考・判断」 : 保健の知識を活用して課題を解決すること等のために必要な思考力・

判断力等を生徒が身に付けているかどうかを評価する。

・「知識・理解」 : 保健において習得すべき知識や重要な概念等を生徒が身に付けている

かどうかを評価する。

1時間で行う評価は、2観点までにとどめておき、評価のための授業にならないように留意することも大切である。

観点別学習状況の評価の総括について

(5)の「指導と評価の計画」にある単元「エ 交通安全」5時間(本事例)の総括を例示する。

							総括	単元の総括
	関心・意欲・態度	В	В	А		Α	А	
生徒S	思考・判断			А	С	В	В	В
	知識・理解	Α	В		В		В	

「学習活動に即した評価規準」に照らし、「十分満足できる」状況をA、「おおむね満足できる」状況をB、「努力を要する」状況をCとして評価し、その組み合わせ等で総括を考えた場合である。

Aが半数以上の場合はA、Cが半数を超える場合はC、それ以外をBとするといった総括の仕方を各学校(保健体育科の教員相互)であらかじめ決めておく必要がある。

							総括	単元の総括
	関心・意欲・態度	2	2	3		3	В	
生徒S	思考・判断			3	1	2	В	В
	知識・理解	3	2		2		В	

評価結果を数値化して考える方法もある。

A=3、B=2、C=1 として記録し、合計したり、平均したりすることで総括を行う。 例えば、観点ごとの総括について、各学校(保健体育科の教員相互)で申し合わせ、 [1.50 平均値 2.50]をBとする等、総括の仕方をあらかじめ決めておく必要がある。

(7)Q&A(保健体育)

- Q 1 保健体育において、「表現」はどのように考えたらよいか。
- A 1 学習指導要領の体育、保健体育の指導内容として、例えばダンスにおいては「動きに変化を付けて即興的に表現したり」等が規定されています。

このような場合の「表現」は体育、保健体育における技能を示すことであることから、現在「運動の 技能」で評価しており、今後も技能の観点で評価します。

- Q 2 「体つくり運動」の評価の観点は、どのように考えたらよいか。
- A 2 「体つくり運動」の体ほぐしの運動は、技能の習得・向上を直接のねらいとするものではないこと、体力を高める運動は、運動の計画を立てることが主な目的となることから、「運動の技能」は設定せず、学習指導要領に示されている(1)運動(他の領域は、技能)の指導内容については、「思考・判断」に整理して評価します。このことから「体つくり運動」は3観点となります。

7 芸術(音楽)

(1)教科の目標

芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、 感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を 養う。

(2)教科の評価の観点及びその趣旨

改	正	従	前
<u>音楽への</u> 関心・意	音楽活動の喜びを	関心・意欲・態度	芸術を愛好し,芸
欲・態度	味わい、音楽や音楽		術文化を尊重すると
A	文化に関心をもち	<u> </u>	ともに,個性を生か
	主体的に音楽表現や		して意欲的,主体的
	鑑賞の学習に取り組		に表現や鑑賞の活動
	もうとする。		を行い,その喜びを
			味わおうとする。
音楽表現の創意工夫	音楽を形づくって	芸術的な感受や表現	感性を働かせて芸
	いる要素を知覚し,	の工夫	術のよさや美しさを
	それらの働きを感受_)	感じ取り、創造的に
	しながら,音楽表現		表現を工夫する。
	を工夫し,表現意図		
	をもっている。	<u> </u>	
音楽表現の技能	創意工夫を生かし	創造的な表現の技能	創造的な芸術表現
	た音楽表現をするた		をするために必要な
	めの技能を身に付		技能を身に付けてい
	け,創造的に表して		る。
	いる。		
鑑賞の能力	音楽を形づくって	鑑賞の能力	芸術を幅広く理解
	いる要素を知覚し、	1	し , そのよさや美し
観点名変更なし	それらの働きを <mark>感受</mark> _		さを深く味わう。
	しながら,解釈した		
	り価値を考えたりし		
	て,音楽に対する理	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	
	解を深め、よさや美		
	しさを創造的に味わ		
J	っている。	% J	

改訂のポイント

従前は観点が芸術科で共通であったが、芸術科(音楽)として、中学校音楽科や専門教 科音楽と共通の観点に改められ、これらの教科との系統的な関連が図られた。

文化的・歴史的背景などの広い視野で音楽に目を向けて、音楽文化の理解を深めていくことを目ざしている。

「音楽を形づくっている要素」とは、中学校音楽科で示している〔共通事項〕のことで、 音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成などをさす。

「感受」とは、音や音楽の特質や雰囲気などを感じ、受け入れることであり、「音楽表現の創意工夫」と「鑑賞の能力」の両方に位置付けている。従前の鑑賞の学習では 音楽的な感受 の部分を「芸術的な感受や表現の工夫」の観点で把握していたが、「鑑賞の能力」に含めて評価する。

音楽的な感受 に基づきながら音楽表現を工夫し、どのように音楽で表すかについて 表現意図をもっている状況を評価することが大切である。

音楽的な感受 に基づきながら楽曲や演奏を解釈したり価値を考えたりして、音楽のよさや美しさを創造的に味わって聴いている状況を評価することが大切である。

「音楽表現の創意工夫」と「鑑賞の能力」は観点「思考・判断・表現」に相当する。

表現力には、<思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて表す力としての表現力>と<歌唱、器楽、創作で表す力としての〔音楽〕表現力>があるが、後者の表現力こそが本来的に表現領域の学習で育成する力である。

(3)「科目の目標」と「科目の評価の観点の趣旨」(「学習評価参考資料」より抜粋) 「音楽」、「音楽」の評価の観点の趣旨については、「学習評価参考資料」において示され ていないので、「音楽」の評価の観点の趣旨を基に、学習指導要領に示された「音楽」、「音楽」それぞれの目標を踏まえて作成する。

音楽 : 音楽の幅広い活動を通して,生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに,感性を高め,創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし,音楽文化についての理解を深める。

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
音楽や音楽文化に関	音楽を形づくってい	創意工夫を生かした	音楽を形づくってい
心をもち,歌唱,器	る要素を知覚し,それ	音楽表現をするために	る要素を知覚し,それ
楽,創作,鑑賞の学習	らの働きを感受しなが	必要な歌唱,器楽,創	らの働きを感受しなが
に主体的に取り組もう	ら,歌唱,器楽,創作	作の技能を身に付け、	ら,楽曲や演奏を解釈
とする。	の音楽表現を工夫し,	創造的に表している。	したり,それらの価値
	どのように歌うか,演		を考えたりして,音楽
	奏するか,音楽をつく		に対する理解を深め,
	るかについて表現意図		よさや美しさを創造的
	をもっている。		に味わって聴いてい
			る。

音楽 : 音楽の諸活動を通して,生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに,感性を高め,個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし,音楽文化についての理解を深める。

音楽 : 音楽の諸活動を通して,生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに,感性を磨き,個性豊かな音楽の能力を高める。

(4)内容のまとまりごとの評価規準について(「学習評価参考資料」より一部抜粋)

音楽 においては、学習指導要領の内容の「A 表現・歌唱」「A 表現・器楽」、「A 表現・ 創作」及び「B 鑑賞」を内容のまとまりとした。学習指導要領における「A 表現・歌唱」の指導 事項は次のとおりである。

- ア 曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り,イメージをもって歌うこと。
- イ 曲種に応じた発声の特徴を生かし、表現を工夫して歌うこと。
- ウ 様々な表現形態による歌唱の特徴を生かし,表現を工夫して歌うこと。
- エ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して歌うこと。

「音楽」の内容のまとまり「A 表現・歌唱」の評価規準に盛り込むべき事項を示す。

音楽への関心・意欲・態度 音楽表現の創意工夫 音楽表現の技能 曲想と歌詞の内容や楽曲の背景との 音楽を形づくっている要素を 創意工夫を生かした音楽 関わり、曲種に応じた発声の特徴、 知覚し,それらの働きを感受し 表現をするために必要な歌 様々な表現形態による歌唱の特徴など ながら,曲想を歌詞の内容や楽 唱の技能を身に付け,創造 的に表している。 に関心をもち, 歌唱の学習に主体的に 曲の背景と関わらせて感じ取っ 取り組もうとしている。 たり, 曲種に応じた発声の特徴 を生かしたり、様々な表現形態 による歌唱の特徴を生かしたり して音楽表現を工夫し,どのよ うに歌うかについて表現意図を もっている。

「音楽」の内容のまとまり「A表現・歌唱」の評価規準の設定例を示す。

音楽への関心・意欲・態度

・曲想(その音楽固有の表情や味わいなど)と歌詞の内容(歌詞の言葉の意味,歌詞が表す情景や心情,歌詞の成立の背景など)や楽曲の背景(文化的・歴史的背景など)との関わりに関心をもち,イメージをもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。(指導事項ア+エ)

- ・曲種に応じた発声の特徴(民謡,長唄などの我が国の伝統的な歌唱を含む我が国や諸外国の様々な音楽について,それぞれの曲種がもつ発声の特徴)に関心をもち,それらを生かして歌う学習に主体的に取り組もうとしている。(イ+エ)
- ・様々な表現形態による歌唱の特徴(我が国や諸外国の様々な音楽における独唱,二重唱や四重唱などの小アンサンブル,クラス全体での合唱,無伴奏や伴奏付きのものなどの形態によるそれぞれのよさや持ち味)に関心をもち,それらを生かして歌う学習に主体的に取り組もうとしている。(ウ+エ)

音楽表現の創意工夫

- ・音楽を形づくっている要素(音色,リズム,速度,旋律,テクスチュア,強弱,形式,構成など)を知覚し,それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら,曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取り,音楽表現を工夫し,どのように歌うかに、おりで表現意図をもっている。(指導事項ア+エ)
- ・音楽を形づくっている要素(同上)を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、曲種に応じた発声の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて表現意図をもっている。(イ+エ)
- ・音楽を形づくっている要素(同上)を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、様々な表現形態による歌唱の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて表現意図をもっている。(ウ+エ)

-

音楽表現の技能

- ・曲想を歌詞の内容や楽曲 の背景と関わらせて感音 り、イメージをもって音 表現をするために必要な 唱の技能(発声,言葉の発 音、呼吸法,姿勢や身体の 使い方,読譜の仕方に表) を身に付け、創造的に表し ている。(指導事項ア+エ)
- ・曲種に応じた発声の特徴を生かした音楽表現をするために必要な歌唱の技能(同上)を身に付け、創造的に表している。(イ+エ)
- ・様々な表現形態による歌唱の特徴を生かした音楽表現をするために必要な歌唱の技能(同上)を身に付け、創造的に表している。(ウ+エ)

学習指導要領の内容のア,イ,ウについては,エと関連付けて指導することが重要である。そのため,エについては、他の事項と合わせて「音楽表現の創意工夫」の観点を中心に評価するものとする。

なお,「音楽を形づくっている要素を知覚し,それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受している。」と「知覚・感受しながら,曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取り、音楽表現を工夫し,どのように歌うかについて表現意図をもっている。」(事項ア,エの場合。他の事項も同様。)のように二つの評価規準を設定することも可能である。

「音楽」における他のすべての内容のまとまりごとの<u>評価規準に盛り込むべき事項</u>及び題材<u>の</u> 評価規準の設定例は、「学習評価参考資料」に記載されている。

(5)題材の指導と評価の計画について(「学習評価参考資料」を一部改編)

「音楽 」の内容のまとまり「A 表現・歌唱」と「B 鑑賞」を関連付けた題材構成による「指導と評価の計画」を例示する。「A 表現・歌唱」領域の学習状況は、「音楽への関心・意欲・態度」、「音楽表現の創意工夫」、「音楽表現の技能」の三つの観点で、「B 鑑賞」領域の学習状況は、「音楽への関心・意欲・態度」、「鑑賞の能力」の二つの観点で評価をする。したがって、「A 表現」と「B 鑑賞」の両領域の内容を関連付けて指導する計画においては、「音楽への関心・意欲・態度」、「音楽表現の創意工夫」、「音楽表現の技能」、「鑑賞の能力」の観点ごとに評価規準を設定することになる。

題材名「日本歌曲の味わい~山田耕筰の作品に親しもう~」

時	学習 内容	学習活動	ねらい	関	創	技	鑑	評価規準	評価 方法
1	「赤とんぼ」の曲想や歌詞の内容に関心を持とう。	・たな自・のイの「嫁の考い・田曲とい交シ様速るれる・基うの特曲をいうでは、から、というでは、のを、していり、というでは、というでは、というでは、では、いいでは、というでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、ないが、では、ないが、では、ないが、では、ないが、では、ないが、では、ないが、では、ないが、では、ないが、では、ないが、では、ないが、では、ないが、では、ないが、では、ないが、では、ないが、では、ないが、では、ないが、では、ないが、では、ないが、ないが、では、ないが、ないが、では、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが	曲想と歌詞の内容、楽曲の背景 との関わりなど					心度「のが心背りみ音にち鑑る的うる音・ 赤曲表情景、出楽関、賞学にと。楽意 と想す、と曲し的心歌し習取へ欲 んと情楽の想てな心ったにりしの・ ぼ歌景曲関をい特をたり主組て関態 」詞やのわ生る徴もりす体もい	観察ワークシート

2		「この学 のロブノ 立言か	「一の学 ナポ		立 少 丰 田 ふ	도B 호교
2	7	・「この道」のリズム、音高な			音楽表現の	
	こ	どを意識して歌う。さらに、歌	ったり聴いたり		創意工夫	ワークシート
	の	詞が表す情景や心情を思い浮か	して、音楽を形		「この道」の	•
	道	べながら歌う。	づくっている要		リズム、速	
	_	・「この道」を歌ったり聴いた			度、旋律、強	
	<u>ب</u>	りしながら、楽譜(旋律、各種			弱を知覚し、	
	賁	の記号)を手掛かりに、前時の			それらの働き	
	楽	1	_			
	∂ -	学習も想起して「この道」のリ			が生み出す特	
	の音楽を形づ	ズム、速度、旋律、強弱の特徴	感受する。		質や雰囲気な	
	7	を考える。			どを感受して	
	<u>ر</u> ح	・歌詞を朗読し、言葉のリズム			いる。	
	て	や抑揚を捉え、「ああそうだ				
	Ñ	よ」の歌詞と旋律について気付				
	る	いたことを ワークシート				
	る要素を知覚	一に書く。				
	素	│ └─ ■ ヽ。 │ ・速度の設定や速度の変化が異				
	を					
	知	なる2種類の演奏を聴き、それ				
		ぞれのアゴーギクの特徴を ワ				
	•	ークシート にまとめる。				
	竖	・ ワークシート ・ に書				
	又	いたことを基に学級全体で意見				
	感受しよう。	交換したり、2種類の演奏に合				
	Š	わせて歌ったりして、「この				
	٦,	道」のリズム、速度、旋律、強				
		弱の知覚・感受を深める。				
		・歌詞の内容や抑揚、旋律の音				
		│の高低、速度などを基に、曲想				
		について自分の考えをまとめ、				
		ワークシートに書く。				
			l	 	1	

3	「この道」の歌唱表現を創意工夫しよう。	・自ず歌の・に律ー錯 ・名、一と ・名にい子ブ夫よつ楽シーと ・名し拍や工のに(クータのがいー込書にいが ・者し拍や工のに(クータの分のがいー込書にいかった。 ・者し拍や工のに(クータの分のがいー込書にいいる。 ・者し拍や工のに(クータの分のがいー込書にいいる。 ・者し拍や工のに(クータの分のでは、できる。 ・者にい子ブ夫よつ楽シーと ・も述のレしうい譜ー	「情詞心しわをのつ こやが情たし工表。 の味表な楽い夫現 」い情をに楽、図 、景生ふ表自を	心度「曲表情景なもジう的うる 創知なのをやと感曲い工よに意いク音・ こ想す、とどちを学にと。 音意覚が道歌楽関じに音夫うつ図るシ楽意 のと情楽のに、も習取 楽工・ら」詞曲わ取ふ楽しにいを。一へ欲 道歌景曲関関イっにり 表夫感、のののらりさ表、歌ても トの・ 」詞やのわ心メて主組で 現 受「曲内背せ、わ現どう表っワ関態 のが心背りを一歌体もい の しこ想容景て楽しをのか現て一・関態	切-クシート
4	「この道」を独唱し、互いに聴き合おう。	・内など「る・内・各べ自すで・くをてクーインという。 適容が自てがる聴演りと歌、シークメ、いる。 つってなーいが、 いってがのこ。 適容が自てがるできるがのこ。 適容が自てがるできるとのでは、 1 現に、独体 一とのことをできる。 1 現に、独体 一とのことをできる。 2 はいる。 2 はいる。 2 はいる。 3 はいる。 4 はいる。 5 はいる。 5 はいる。 6 はいる。 6 はいる。 6 はいる。 7 はいる。 7 はいる。 7 はいる。 8 はいる。 8 はいる。 8 はいる。 8 はいる。 9 はいる。	目ざす表現や自 己の表現意図を 意識して、「こ	《創同 技「曲楽関じー音るな語吸どに的る音意上 音能こ想曲わ取ジ楽た発の法の付に。楽工 楽 のをのらりを表め声発、技け表表夫 表 道歌背せ、も現に、音読能、し現 明 」詞景てイっを必日、譜を創ての》 の のやと感メてす要本呼な身造い	演奏

「からたちの花」を鑑賞しよう。	・どに鑑やる・立らに・演楽でた的し・づ楽曲徴のに・し道方演比よ考の話背 類た道か音で をり、の花 空に出れる ち資文解ち、りこのつ 詞る的奏、 内「たり異られ表 ち資文解ち、りこのつ 詞る的奏、 内で異られ表 ち資文解ち、りこのつ 詞る的奏、 内で異られ表 ち資文解ち、りこのつ 詞る的奏、 内「たっぱった。 では、 の料的。 では、 とて文びま文。 文めからなたぞ現 では、 では、 とで文がま文。 でのから、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	を踏まえてで、まない。というでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ない	心度「花文的なよ徴ち学にと 「花ム律覚の出囲受楽音・ か」化背るるに、習取し 鑑 か」、、し働す気し曲楽意 らの的景演表関鑑にりて 賞 ら 速強、き特ななのへ欲 た楽・や奏現心賞主組い の たの度弱そが質どがのの・ ち曲歴、者のをす体も。 能 ちリ、をれ生やをら文関態 のの史異に特もる的う 力 のズ旋知らみ雰感、化関態	観察 ワークシート
	で学習したことを基に、「から たちの花」の歌詞の内容や音楽		としている。	
			鑑賞の能力	ワークシート
	・曲想と歌詞の内容や音楽を形 づくっている要素との関わり、 楽曲の文化的・歴史的背景、作 曲者及び演奏者による表現の特 徴を踏まえ、ワークシート の紹介文を ワークシート に書く。 ・紹介文の内容を基に意見交換 し、改めて「赤とんぼ」「この		花ム律覚の出囲受の度弱そが質どがり、をれ生やをらり、をれ生やをらくが質ががいたがいたがいたがいたがいたがいたが、	
			め、よさや美	

1)表中の観点について

関 … 音楽への関心・意欲・態度 創 … 音楽表現の創意工夫

技 … 音楽表現の技能 鑑 … 鑑賞の能力

2)「指導と評価の計画」については第1章「8 指導計画の作成について」(8~12頁参照)の中でその作成に係る留意点等について解説しているので参照する。

いている。

日本歌曲の味わい~山田耕筰の作品に親しもう~

『赤とんぼ』の曲想と歌詞の内容や楽曲の背景との関わり、曲想を生み出している音楽的な特徴 こついて、自分の考えを書こう。クラスで話し合った内容も参考にしよう。

について、目分の考えを書こう。クラスで話し合った内容も参考にしよう。
(曲想が)(なのは、)
(からです。)
「ああ そうだよ」を朗読したときの抑揚を線で表そう。また、歌詞と旋律について気付いたことを書こう。
(気付いたこと)
あ あ そ う だ よ
2種類の演奏を聴いて、速度の設定や変化の違いについて考えよう。速度の変化については、特にたっぷりと歌っているところに を付けよう。(Aの演奏は音符に を、Bの演奏は歌詞にを付ける。)
実際のワークシートは旋律の楽譜全体と1番の歌詞を掲載。
『この道』の曲想について、歌詞の内容や抑揚、旋律の音の高低、速度などを基に、自分の考え
をまとめよう。
自分が担当する歌詞を楽譜に書き入れよう。また、グループとして目ざす表現を書こう。 (グループとして、)(を表現したい。) 実際のワークシートは旋律の楽譜全体を掲載。
グループとして目ざす表現を受けて、自分はどのように歌いたいかについて書こう。 の楽譜に も書き込もう。
(私は、)
演奏を振り返り、自己評価を簡潔に書こう。また、自分と同じところを歌った友達の表現についる。 また、自分と同じところを歌った友達の表現につい
て、よいと思ったことを簡潔に書こう。
自己評価
う。
キーワード:山田耕筰 AとBの演奏 歌詞 リズム 速度 旋律 強弱 (『からたちの花』)は、
(ぜひ、聴いてみてください。)

(6)教科としての評価に関する留意事項

音楽への関心・意欲・態度

評価の視点

表面的な学習態度等ではなく、音楽の学習内容に関心をもち、音楽表現や鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする意欲や態度を見取り、その状況を評価することが大切である。例えば、(5)の事例の第1時の「音楽への関心・意欲・態度」の「おおむね満足できる」状況(B)と判断するポイントは、話し合う場面や意見交換する場面において「赤とんぼ」の曲想と歌詞の内容や楽曲の背景との関わり、曲想を生み出している音楽的な特徴などについて、自ら発言をしたり、他者の発言を聞き、それに対して反応をしたりしているか 観察 。また、曲想と歌詞の内容や楽曲の背景との関わり、曲想を生み出している音楽的な特徴(リズム、速度、旋律、強弱など)について ワークシート に書いているか。その際、すべての生徒の発言内容を確認することは難しいので、他者の発言に対する反応の様子を観察することも含めて、学習内容への関心や意欲などを見取るとともに、 観察 と ワークシート を組み合わせて評価を行う。

指導の工夫例

導入時では、生徒が楽しみながら「赤とんぼ」を歌ったり聴いたりして、山田耕筰の音楽に親しむことのできるような雰囲気を大切にする。また、感じたことや考えたことを自由に話し合い、学習を進めるにつれて、曲想、歌詞の内容、楽曲の背景、曲想を生み出している音楽的な特徴に対する興味・関心が深まっていくように指導を工夫する。

音楽表現の創意工夫

鑑賞の能力

評価の視点

それぞれの観点の趣旨に《音楽的な感受》に相当する 音楽を形づくっている要素の知覚・感受 に係る内容を共通に位置付けている。

「音楽表現の創意工夫」では、《音楽的な感受》に基づきながら音楽表現を工夫し、どのように音楽で表すかについて表現意図をもっている状況を評価する。例えば、(5)の事例の第3~4時の「音楽表現の創意工夫」の(B)と判断するポイントは、「この道」の曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取ったことを基にして、リズム、速度、旋律、強弱などに触れながら、自分はどのように歌いたいかの表現意図について、 ワークシート (楽譜への書き込み)と ワークシート に書いているか、である。

「鑑賞の能力」は、《音楽的な感受》に基づきながら楽曲や演奏を解釈したり価値を考えたりして、音楽のよさや美しさを創造的に味わって聴いている状況を評価する。例えば、(5)の事例の第5時の「鑑賞の能力」の(B)と判断するポイントは、リズム、速度、旋律、強弱などに関わらせながら、「からたちの花」の曲想、楽曲の背景、作曲者及び2種類の演奏の特徴などに触れて、楽曲の紹介文として適切な内容を書いているかということである。

なお、自分にとっての価値を判断するためには、学習の対象となる音楽について、多くの人たちが普遍的に認めているようなよさや特徴などを学ぶことが大切である。

指導の工夫例

ワークシート 、 、 、 (はグループとして目ざす表現) に書いた内容を手掛かりにさせるとともに、特につまずきが見られる生徒については、楽曲の一部分に絞って様々な音楽表現を試行錯誤させて、自分なりの表現意図をもつことができるように促す。

「この道」を歌うときにどのような点を工夫したかを想起させるなど、題材の学習全体の中から 記述のヒントを見いだすように伝える。なお、紹介文を書くための思考・判断が、音楽のよさや美 しさを主体的、創造的に味わって聴くことにつながっていくようにする。

音楽表現の技能

評価の視点

学習の展開等に応じて「音楽表現の創意工夫」に係る力の育成と関わらせながら、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、創造的に表している状況を評価する。例えば、歌うために必要な技能を身に付ける学習も「私はこのように歌いたい」という表現意図を育てることと関わらせることによって、生徒にとって意味あるものになる。

観点別学習状況の評価の工夫



学習指導と学習評価は表裏一体の関係

授業の改善充実

言語活動の充実

音楽の表現や鑑賞の学習を充実するために言語活動を適切に取り入れることが重要である。例えば、気付いたこと・感じたこと・自分の考えを発言する、ワークシートに記入・整理する、ペア・グループ・学級全体などで話し合う、批評文にまとめるなどの活動を、音楽表現を創意工夫したり音楽を聴いてよさを考えたりする学習活動の過程に組み込むようにする。

題材の指導計画について

「題材」とは、育成する力を明らかにして、一定のまとまりのある学習を行う教育課程を構成する実質的な単位である。題材ごとの指導計画を作成する際は、意図的・計画的に学力を育成する視点から、〔題材の目標、ねらい〕、〔学習指導要領の指導事項、指導内容〕、〔教材〕、〔題材に即した評価規準〕及び〔実際の学習活動の展開と評価規準の位置付け及び評価方法〕などを明確にするとともに、計画全体の整合性・一貫性を確保する必要がある。

(7) Q & A〔芸術(音楽)〕

Q 1 授業の中でいくつもの評価規準で生徒の状況を把握できるか。

A 1 生徒の状況を常に把握して工夫のある指導を十分に行う中で、評価結果として記録する評価を行う場面等を精選することが必要です。そこで、題材における学習全体を俯瞰して、どの「観点」のどのような「評価規準」を設定し、学習活動のどこに位置付けるか、さらに、どのような評価方法(観察、ワークシート、演奏、作品など)を用いて実現状況を把握するか十分に検討します。1時間当たりの評価規準は1~2個に精選して位置付けます。評価場面等を精選することによって、「題材の評価規準」をそのまま実際の学習評価に用いることができます。評価の回数が多いことにより、楽しく充実した質の高い音楽の学習活動が窮屈になってしまっては本末転倒です。

Q 2 評価規準の文言がとても長いように思うが、必要なのか。

A 2 その題材における学習のねらいが実現されたとは、どのような生徒の姿なのか、各観点の切り口から示したものが評価規準なので、ある程度の情報量が必要です。これを短くすればよりよくなるということではなく、題材の目標、指導内容、教材、学習の展開などにふさわしい評価規準を設定することが大切です。評価規準をどのような文言で設定するかがよりよい学習評価につなげる大きな鍵となります。

	カシン カル・カー・カー・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・カン・	の目標						
	••••	の日候 長術を愛好する心情を育てるとともに,感性を高						
目	め,芸術の諸能力を伸ばし,芸術文化についての理解を深め,豊かな情操を養う。							
標	「充冰、の日梗(「充冰、笠は吸)							
	「音楽」の目標(「音楽」等は略) 音楽の幅広い活動を通して,生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに,感性を高							
	め,創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし,音楽な	文化についての理解を深める。						
	「 A 表現」領域の学習のポイント	「 B 鑑賞」領域の学習のポイント						
		I						
学	〔共通事項〕の学習を支えとして・・・	「共通事項〕の学習を支えとして・・・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						
習	音楽表現を工夫し・・・ 必要な技能を身に付け・・・	・ 音楽を解釈し,価値などを考え, 判断して・・・						
指	どのように表すかについて思いや	よさや美しさなどを味わって聴く・・・						
導	意図をもち・・・	I						
	歌唱,器楽,創作で表す・・・	l I						
	<u>!</u>							
	観点別学習状況の評価のイメージ							
	音楽表現の ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	I I ・ 鑑賞の能力						
	技能創意工夫							
		1						
	〔共通事項〕に	/						
	<u>i</u>							
学	音楽への関心	・意欲・態度						
習								
評	各観点の趣旨 矢印、波下線	、 ~ は本資料用に付したもの。						
価	7	・						
	音楽表現の技能 音楽表現の創意工夫	1						
	創意工夫を生かる 音楽を形づくっている ・ たき楽ま現ちま							
	した音楽表現をす <u>き素を知覚し,それらの</u> るための技能を身く働きを感受しながら,	I らの働きを感受しながら , 解釈したり価 │ I 値を考えたりして , 音楽に対する理解を深 │						
	に付け、 創造的 音楽表現を工夫し、 表	·						
	に表している。 現意図をもっている。	l 」 る。						
		喜びを味わい,音楽や音楽文化に対する関心をも						
	ち,主体的に音	楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。						

8 芸術(美術)

(1)教科の目標

芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、 感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を 養う。

(2)教科の評価の観点及びその趣旨

改	E	従,前				
美術への関心・意	美術の創造活動の	関心・意欲・態度	芸術を愛好し,芸			
欲・態度	喜びを味わい,美術		術文化を尊重すると			
	や美術文化に関心を		ともに,個性を生か			
	もち、主体的に表現		して意欲的,主体的			
	や鑑賞の創造活動に		に表現や鑑賞の活動			
	取り組もうとする。		を行い,その喜びを			
			味わおうとする。			
発想や構想の能力	感性や想像力を働	芸術的な感受や表現	感性を働かせて芸			
	かせて,主題を生成	<u>の工夫</u>	術のよさや美しさを			
	∫し,創造的な表現の		感じ取り、創造的に			
	構想を練っている。		表現を工夫する。			
<u>مارید این بارید</u>	会性的な学供の書		会以生的 45 共 45 丰 TB			
創造的な技能		<u>創造的な表現の技能</u> ■	創造的な芸術表現			
A	現をするために必要		をするために必要な			
	な技能を身に付け、		技能を身に付けてい			
	表現方法を工夫して		る。			
	表している。					
鑑賞の能力	美術や美術文化を	鑑賞の能力	芸術を幅広く理解			
	幅広く理解し,その	\	し , そのよさや美し			
観点名変更なし	よさや美しさを創造		さを深く味わう。			
	的に味わっている。	§ J				

改訂のポイント

従前は観点が芸術科で共通であったが、芸術科(美術)として、中学校美術科や専門教 科美術と共通の観点に改められ、系統的な関連が図られた。

第一観点が「美術への関心・意欲・態度」に改められ、表面的な学習態度等ではなく、これ以外の3観点に示される資質や能力を身に付けようとしたり、発揮しようとしたりすることへ向かう関心・意欲・態度であることが明確にされた。

第二観点が「発想や構想の能力」、第三観点が「創造的な技能」に改められ、学習指導要領の指導事項との関連が図られた。(例えば、美術のA表現(1)絵画・彫刻ではア、イが「発想や構想の能力」に関する指導事項、ウ、エが「創造的な技能」に関する指導事項)

「発想や構想の能力」においては、感性を働かせて思考・判断し、自己の美意識や価値 観、社会との関係性等に基づいて主題を生成することを重視して指導し評価する。

「鑑賞の能力」においては、感じ取ったことを基に、自分の思いや考えを大切にしながら、自分なりの意味や価値を発見するなどの、創造活動としての鑑賞を重視して指導し評価する。

(3)科目の評価の観点の趣旨(「学習評価参考資料」より抜粋)

美術			
美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
美術の創造活動の喜	感性や想像力を働か	創造的な美術の表現	美術作品などの表現
びを味わい,多様な表	せて,感じ取ったこと	をするために必要な技	の工夫や美術文化など
現方法や美術文化に関	や考えたこと,目的や	能を身に付け,意図に	を理解し,そのよさや
心をもち、主体的に表	機能,美しさなどから	応じて,表現方法をエ	美しさを創造的に味わ
現や鑑賞の創造活動に	主題を生成し,創造的	夫して表している。	っている。
取り組もうとする。	な表現の構想を練って		
	いる。		
美術			
美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
美術の創造活動の喜	感性や想像力を働か	創造的な美術の表現	美術作品などの表現
びを味わい,多様な表	せて,自然,自己,社	をするために必要な技	の工夫や心豊かな生き
現方法や美術文化に関	会などを深く見つめ主	能を身に付け,主題に	方の創造に関わる美術
心をもち、主体的に個	題を生成し,創造的な	合った表現方法を工夫	の働き,美術文化など
性豊かな表現や鑑賞の	表現の構想を練ってい	し , 創造的に表してい	の理解を深め,そのよ
創造活動に取り組もう	る。	る。	さや美しさを多様な視
とする。			点から創造的に味わっ
			ている。
美術			
美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
美術の創造活動の喜	感性や想像力を働か	創造的な美術の表現	美術作品などの表現
びを味わい,多様な表	せて,独創的な主題を	をするために必要な技	の工夫や国際理解に果
現方法に関心をもち、	生成し,創造的な表現	能を身に付け,主題に	たす美術の役割,美術
美術文化を尊重し,主	の構想を練っている。	合った表現方法を工夫	文化などの理解を一層
体的に個性豊かな表現		し,個性を生かして創	深め,自己の価値観や
や鑑賞の創造活動に取		造的に表している。	美意識を働かせて,そ
り組もうとする。			のよさや美しさを創造
			的に味わっている。

(4)内容のまとまりごとの評価規準について(「学習評価参考資料」より一部抜粋) 「美術」の中の四つの内容のまとまり(「A表現(1)絵画・彫刻」、「A表現(2)デザイ

ン」、「A表現(3)映像メディア表現」及び「B鑑賞」)のうち、「A表現(1)絵画・彫刻」における評価規準に関する例示を行う。学習指導要領で示された科目の目標を踏まえ、「評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を示している。

【科目の目標(美術)】 ―

美術の幅広い創造活動を通して,美的体験を豊かにし,生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに,感性を高め,創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし,美術文化についての理解を深める。

「美術」の内容のまとまり「A表現(1)絵画・彫刻」における指導事項と<u>評価規準に盛り込</u>むべき事項である。

「A表現(1)絵画・彫刻」の指導事項

- ア 感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成すること。
- イ 表現形式の特性を生かし,形体,色彩,構成などを工夫して創造的な表現の構想を練ること。
- ウ 意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと。
- エ 表現方法を工夫し,主題を追求して表現すること。

「A表現(1)絵画・彫刻」の評価規準に盛り込むべき事項						
美術への関心・意	美術への関心・意美術の創造活動の喜びを味わい、絵画や彫刻の多様な表現に関心をもち、主					
欲・態度	体的に主題を生成して構想を練ったり,主題を追求して表現したりしようとし					
	ている。					
発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて,感じ取ったことや考えたこと,夢や想像などから					
	主題を生成し,表現形式の特性を生かして,形体,色彩,構成などを工夫して					
	創造的な表現の構想を練っている。					
創造的な技能	意図に応じて材料や用具の特性を生かし,表現方法を工夫して,主題を追求					
	し表現している。					

「美術」の内容のまとまり「A表現(1)絵画・彫刻」の評価規準の設定例を示す。

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能
・感じ取ったことや考えたこと,	・対象や自己の内面を見つめて感	・技法や材料,用具の特性を理解
夢や想像などから表現することに	じ取ったことや考えたこと,夢や	│ し,目的や意図に応じて,特性や │
関心をもち、主体的に主題を生成	想像などから主題を生成してい	効果を生かして表現している。
し,形体,色彩,構成などを創意	る。	
工夫して構想を練ろうとしてい		・表現したい意図を大切にして,
る。	・主題を効果的に表現するために	より効果的な表現方法を選択・活
	表現形式の特性を生かし,形体,	用するなど創意工夫し , 主題を追 │
・技法や材料,用具の特性や効果	色彩,構成などを工夫して創造的	求して表現している。
を主体的に生かし,表現方法を創	な表現の構想を練っている。	
意工夫しながら主題を追求して表		
現しようとしている。		

「美術 」の内容のまとまり「B鑑賞」における指導事項と評価規準に盛り込むべき事項である。

「B鑑賞」の指導事項

- ア 美術作品などのよさや美しさ,作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り,理解を深めること。
- イ 映像メディア表現の特質や表現の効果などを感じ取り,理解すること。
- ウ 自然と美術とのかかわり,生活や社会を心豊かにする美術の働きについて考え,理解を深めること。
- エ 日本の美術の歴史や表現の特質,日本及び諸外国の美術文化について理解を深めること。

「B鑑賞.	の評価担準に成り込むべき事項

美術への関心・意	美術の多様な表現に関心をもち、主体的に作品のよさや美しさを感じ取り、
欲・態度	自然と美術の関わりや生活や社会を心豊かにする美術の働き,美術文化などに
	ついての理解を深めようとしている。

鑑賞の能力

美術作品などのよさや美しさ,作者の心情や意図と表現の工夫,映像メディア表現の特質や表現の効果などを感じ取り,自然と美術との関わり,生活や社会を心豊かにする美術の働きや日本及び諸外国の美術文化についての理解を深めている。

「美術 」の内容のまとまり「B鑑賞」の<u>評価規準の設定例</u>を示す。

美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
・美術作品などのそのよさや美しさ,作者の心情や 意図と表現の工夫などに関心をもち,作品などにつ いて理解しようとしている。	・美術作品などのよさや美しさ,作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り,その特徴を捉えて分析するなどして,作品に対する見方や感じ方,考えなどをもち,理解している。
・映像メディア表現の特質や多様な表現効果に関心をもち,作品や作者について理解しようとしている。	・映像メディア表現の特質や視覚的効果を生かした 独自の表現効果などを感じ取り,作品の主題や作者 の表現意図,効果的な表現の工夫などを読み取り, 作品や作者について理解している。
・生活や自然の中にある造形的なよさや美しさなどに関心をもち,生活や社会を心豊かにする美術の働きについて考え,理解しようとしている。	・生活や自然の中にある造形的なよさや美しさなど を感じ取り,生活や社会を明るく心豊かにし,向上 させる上で美術がもつ意義や働きを理解している。
・日本の伝統的な美術の表現の特質に関心をもち, 日本及び諸外国の美術文化について理解しようとし ている。	・日本の伝統的な美術の表現の特質や様式,主題や 表現方法,日本及び諸外国の美術文化について理解 している。

「美術」の他のすべての内容のまとまりにおける<u>評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の</u> 設定例は、「学習評価参考資料」に記載されている。

(5)題材の指導と評価の計画について(「学習評価参考資料」を一部改編)

「美術 」の内容のまとまり「A表現(1)絵画・彫刻」及び「B鑑賞」を含む題材「私と居場所」の「指導と評価の計画」を例示する。

【題材の目標】

私と居場所というテーマを基に、自己の内面を深く見つめ、主題を生成し、造形的な効果を生かし 創造的に表現するとともに、他の生徒の作品から作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ 取り味わう。

時	学習内容	学習活動	ねらい	関	発	創	鑑	学習活動に即した 評価規準	評価方法
1 2 3	1.課題 の把握・構 想	・ど作意工いべ・となれ意力とな意う。・大で合える・大でのので・大でのので・大でのので・大でのので・大でのので・大でのので・大でのので・大でのので・大でのので・大でのので・大でのので・大でのので・大でのので・大でのので・大でのので・とのので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので・・とので	課題について理解する。 自己の内面や自分を取り巻く状					関 「私と居場所」と 「私と居場所」と 「一マを見ってたる で見っている。 を見っている。 にい。 にいる。 にい	意 見 合 ろ フ ー ク ー ト
		日果でなりた。 り、作品の夕 イトルを考え。 たり、アイデ アスケッチを 描いたりして 主題を生成す					発 「私と居場所」というテーマを基に、自己の内面を見つめて感じ取ったことや考えたことから主題を生成している。	ワークシ ート , ア イデアよ ケッチな ど	

		る。		[]	-	発し主題を効果的に表現	アイデア
		・にスに色ど構るをデな体成しとをデな体成しとをする。	主題を基に構想を練る。			するために表現形式の特性を生かし、形体、色彩、構成などを工夫して創造的な表現の構想を練っている。	スケッチなど
4 5 6 7 8 9	2 . 制作	・構想を の意図やした を が は に の に が は に の に り に り に り に り に り に り に り に り に り	構想を基に自分 の表現意図に合 う表現方法をエ 夫する。			関 技法や材料、用具の 特性や効果を主体的に生 かし、表現方法を創意工 夫しながら主題を追求し て表現しようとしてい る。	制作の様子
		る。 ・主題を追求 し、表現方法が を工夫しなす ら 制 作 を す	主題を追求し、 表現を深める。			<u>創</u> 技法や材料、用具の 特性を理解し、目的や意 図に応じて、特性や効果 を生かして表現してい る。	制作途中 の作品
		ි				創 表現したい意図を大切にして、より効果的な表現方法を選択・活用するなど創意工夫し、主題を追求して表現している。	制作途中 の作品
						発 (上に同じ)	制作途中 の作品
10	3.鑑賞	・ 自 分 イ 、 て 現 表 明 を 、 て 現 意 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記	他者の作品から、作者の直 題、意図、創造的な表現の工 と などを感じり、 理解する。			関生徒の作品のよさや 美しさ、作者の心情や意 図と表現の工夫などに関 心をもち、作品などにつ いて理解しようとしてい る。	鑑賞の活 動やグル ープ活動 の様子
		・を評・作美のとをトる・相鑑し 他品し心表りにび作、 徒さ作意エシと作、 徒さ作意エシと				鑑 他の生徒の作品のよ さや美しさ、作者の心情 や意図と表現の工夫など を感じ取り、作品に対す る見方や感じ方、考えな どをもち、理解してい る。	発言内容 ワークシ ート
	業内での評 修正する。	後、完成作品か 呼価を確認し、必 主題の意図や構 ごと併せて見取る	ら再度評価し、授 要に応じて評価を 想の工夫をワーク などの工夫も必要			発 (上に同じ) 創 創 (上に同じ) 鑑 (上に同じ)	アイデア スケッチ 完成作品 ワークシ ート

1)表中の観点について

関 … 美術への関心・意欲・態度 発 … 発想や構想の能力

創 … 創造的な技能 鑑 … 鑑賞の能力

- 2)「指導と評価の計画」については第1章「8 指導計画の作成について」(8~12頁参照)の中でその作成に係る留意点等について解説しているので参照する。
- 3)「学習活動に即した評価規準」は、「評価規準の設定例」を基に、具体的な学習活動に即 して言葉を省略したり変更したりして作成している。(下線部は変更箇所)
- 4)表中の の評価は総括の資料とするが、 は指導に生かす評価であり、総括に用いない。

(6)教科としての評価に関する留意事項

観点別学習状況の評価を効果的に行うためには、題材を通して育成する資質や能力は何かということを起点として授業を考え、学習のねらいを明確にすることが大切である。新しい学習指導要領の指導事項は、育成すべき資質・能力との関連を整理していることから、指導内容が学習指導要領のどの指導事項に位置付けられたものであるかを明確にする必要がある。

(5)の題材例「私と居場所」における観点別学習状況の評価の総括の一例を示す。

	学習活	舌 評 価 方 法					数値化した場合の満点		観点別学習状況
	動に即	活動	アイデ	ワーク	制作中	完成	十分満足 3		の評価の総括
	した評	観察	アスケ	シート	の作品	作品	おおむね満足	2	
	価規準		ッチ				努力を要する	1	
観点								_	
美術への							3		8以上 A
関心・意欲・							3	9	5以上8未満 B
態度							3		5未満 C
発想や構想の							3		6.5以上 A
光思や構想の							3×1.5	7.5	4以上6.5未満 B
月ピノゴ							(重み付け)		4未満 C
創造的な							3		6.5以上 A
対能							3×1.5	7.5	4以上6.5未満 B
1又 形							(重み付け)		4未満 C
									3 A
鑑賞の能力							3	3	2 B
									1 C
	合 計								

複数の評価機会がある評価規準については、それらを平均して数値を算出することも考えられる。 上記の表は評価結果を数値で表し総括に結び付けた例であるが、これ以外にも評価機会ごとにA、 B、Cで記録し、その数の多いものがその観点の学習の実現状況を最もよく表しているとする考え 方に立つ総括方法も考えられる。

「美術への関心・意欲・態度」は、活動観察やワークシートの記載事項などから判断することが 考えられる。その際、表面的な学習態度等ではなく、美術の学習内容に関してそれらを身に付けよ うとしたり発揮したりしようとする様子を見取る。この観点は、ある時点で実現状況が高まればよ いというものではなく、ある程度継続して実現することが大切であることから、題材の指導経過に おいて、前半の実現状況と後半の実現状況を同等に扱い評価する。

「発想や構想の能力」、「創造的な技能」については、アイデアスケッチ、制作途中の作品など

を中心に見取り、判断することが考えられる。また、これらの能力については、制作が進む中で徐々に高まっていく場合があることから、授業終了後に完成作品からも再度評価したりするなど、 その高まりを読み取ることが大切である。

「鑑賞の能力」については、ワークシートの記述や発言内容などから判断することが考えられる。 授業中に鑑賞の指導をしながらすべての生徒を評価することは困難であることから、授業中は、鑑賞が深まっていない視点等についての指導のために学習状況を把握することに重点を置き、授業終了後にワークシートの記述を基に個々の生徒を評価する方法などが考えられる。なお、鑑賞の活動を行う場合でも、例えば発想や構想を高めることがねらいである場合は、「鑑賞の能力」ではなく、「発想や構想の能力」で評価する。

表現及び鑑賞の活動を通して、育成すべき資質や能力をより確かに育むため、学習活動の過程や 学習の結果を題材の目標に照らして見取ることで実現状況を把握し、指導の改善に生かすことが大 切である(指導と評価の一体化)。実技指導の場面が多い美術の授業においては、努力を要すると 考えられる生徒に対しての、個別の具体的な指導の手立てを用意しておくことや、作業が遅れがち な生徒に対して放課後等に補充の時間を設けることも大切である。

評価の目的の一つは、教科の学習への意欲を高めることにあることから、学期末や年度末にその 結果を生徒に知らせることだけではなく、日常の指導の場面において生徒の取組のよいところや改 善すべき部分を見取り、口頭で、あるいは成果物へのコメントなどで伝える工夫も必要である。

(7)Q&A〔芸術(美術)〕

- Q 1 美術作品は多様な見方ができるので、客観的な評価は難しいのではないか。
- A 1 学習活動の結果としての作品の出来具合のみにとらわれることなく、ワークシートやアイデアスケッチ、行動観察など、評価方法も工夫しながら、観点別学習状況の評価の趣旨に基づき、各観点の評価規準に照らして適切に生徒の状況を見取ることが重要です。また、「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」では評価の妥当性、信頼性等を高めることが重要であるとされていますが、そのためには題材を通して育成すべき資質や能力を「題材の目標」等に示して明確にし、評価結果と評価しようとした目標を関連付けることや、評価規準や評価方法等についてあらかじめ示しておくこと、作品やワークシートへのコメントなどから生徒が自らの達成状況を随時に把握できるようなことも必要です。
- Q 2 授業中は指導で手一杯なので生徒一人ひとりの状況を評価することができない。
- A 2 授業中に、生徒一人ひとりの状況についてこと細かく把握しようとして、指導がおろそかになるような状況は望ましくありません。そのため、1回の授業の中において評価結果を記録する回数は1~2回程度に抑えるように計画します。また、例えば、「発想や構想の能力」の観点では、授業中には生徒全体を見渡して、発想が広がらない生徒を把握し必要な手立てを講じることに重点を置き、授業終了後にワークシートや制作中の作品などから評価を確定させていくなど、評価を効果的・効率的に行う工夫が必要です。

9 芸術(工芸)

(1)教科の目標

芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、 感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を 養う。

(2)教科の評価の観点及びその趣旨

改	正	従	前
工芸への関心・意)	工芸の創造活動の	関心・意欲・態度	芸術を愛好し,芸
欲・態度	喜びを味わい,工芸		術文化を尊重すると
	や工芸の伝統と文化		ともに,個性を生か
	に関心をもち,主体		して意欲的,主体的
	的に表現や鑑賞の創		に表現や鑑賞の活動
	造活動に取り組もう		を行い,その喜びを
	とする。		味わおうとする。
		<u> </u>	
発想や構想の能力		芸術的な感受や表現	感性を働かせて芸
	/かせて,心豊かな発	の工夫	術のよさや美しさを
	想をし,よさや美し		感じ取り,創造的に
	さなどを考え制作の		表現を工夫する。
	構想を練っている。		
創造的な技能		<u>創造的な表現の技能</u> ■	創造的な芸術表現
A	作をするために必要		をするために必要な
	な技能を身に付け、		技能を身に付けてい
	表現方法を工夫して		る。
	表している。		
AFL 244 - Ale I		ATLANA - ALC I	
鑑賞の能力	工芸や工芸の伝統	登買の能力 と	芸術を幅広く理解
	と文化を幅広く理解		し,そのよさや美し
観点名変更なし	し,そのよさや美し		さを深く味わう。
	さを創造的に味わっ		
	ている。		

⇨ 改訂のポイント

従前は観点が芸術科で共通であったが、芸術科(工芸)として、第二観点から第四観点までが中学校美術科と共通の観点に改められ、系統的な関連が図られた。

第一観点が「工芸への関心・意欲・態度」に改められ、表面的な学習態度等ではなく、 これ以外の3観点に示される資質や能力を身に付けようとしたり、発揮しようとしたりす ることへ向かう関心・意欲・態度であることが明確にされた。 第二観点が「発想や構想の能力」、第三観点が「創造的な技能」に改められ、学習指導要領の指導事項との関連が図られた。(例えば、工芸のA表現(2)社会と工芸ではア、イが「発想や構想の能力」に関する指導事項、ウ、エが「創造的な技能」に関する指導事項)

「発想や構想の能力」においては、自己の思いや使う人々の心情、社会や生活環境との 調和を考えて、生活を心豊かにする発想をすることなどを重視して指導し評価する。

「鑑賞の能力」においては、感じ取ったことを基に、自分の思いや考えを大切にしながら、自分なりの意味や価値を発見するなどの、創造活動としての鑑賞を重視して指導し評価する。

(3)科目の評価の観点の趣旨(「学習評価参考資料」より抜粋)

工芸			
工芸への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
工芸の創造活動の喜	感性や想像力を働か	創造的な工芸の制作	工芸作品などの表現
びを味わい,身近な生	せて,身近な生活や社	をするために必要な技	の工夫や工芸の伝統と
活及び社会における工	会的な視点から心豊か	能を身に付け,表現方	文化などを理解し , そ
芸や工芸の伝統と文化	な発想をし,よさや美	法を創意工夫して表し	のよさや美しさを創造
に関心をもち,主体的	しさなどを考え制作の	ている。	的に味わっている。
に表現や鑑賞の創造活	構想を練っている。		
動に取り組もうとす			
る。			
工芸			
工芸への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
工芸の創造活動の喜	感性や想像力を働か	創造的な工芸の制作	工芸作品などの表現
びを味わい,身近な生	せて,身近な生活や社	をするために必要な技	の工夫や心豊かな生き
活及び社会における工	会的な視点から創造的	能を身に付け,表現方	方に関わる工芸の働
芸や工芸の伝統と文化	で心豊かな発想をし,	法を創意工夫して創造	き,工芸の伝統と文化
に関心をもち,主体的	よさや美しさなどを考	的に表している。	などの理解を深め,そ
に個性豊かな表現や鑑	え,心豊かな制作の構		のよさや美しさを多様
賞の創造活動に取り組	想を練っている。		な視点から創造的に味
もうとする。			わっている。
工芸			
工芸への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
工芸の創造活動の喜	感性や想像力を働か	創造的な工芸の制作	工芸作品などの表現
びを味わい,身近な生	せて,身近な生活や社	をするために必要な技	の工夫や国際理解に果
活や社会における工芸	会的な視点から独創的	能を身に付け,表現方	たす工芸の役割,工芸
に関心をもち,工芸の	に発想をし,よさや美	法を創意工夫し,個性	の伝統と文化などの理
伝統と文化を尊重し,	しさなどを考え,美的	を生かして創造的に表	解を一層深め,自己の
主体的に個性豊かな表	で心豊かな制作の構想	している。	価値観や美意識を働か
現や鑑賞の創造活動に	を練っている。		せて , そのよさや美し
取り組もうとする。			さを創造的に味わって
			いる。

(4)内容のまとまりごとの評価規準について(「学習評価参考資料」より一部抜粋)

「工芸」の中の三つの内容のまとまり(「A表現(1)身近な生活と工芸」、「A表現(2)社会と工芸」及び「B鑑賞」)のうち、「A表現(2)社会と工芸」における評価規準に関する例示を行う。学習指導要領で示された科目の目標を踏まえ、「評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を示している。

【科目の目標(工芸)】 一

工芸の幅広い創造活動を通して,美的体験を豊かにし,生涯にわたり工芸を愛好する心情と生活を心豊かにするために工夫する態度を育てるとともに,感性を高め,創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし,工芸の伝統と文化についての理解を深める。

「工芸」の内容のまとまり「A表現(2)社会と工芸」における指導事項と<u>評価規準に盛り込</u>むべき事項である。

「A表現(2)社会と工芸」の指導事項

- ア 社会的な視点に立って,使う人の願いや心情,生活環境などを考え,心豊かな発想をすること。
- イ 使用する人や場などに求められる機能と美しさを考え,制作の構想を練ること。
- ウ 制作方法を理解し,意図に応じて材料や用具を活用すること。
- エ 手順や技法などを吟味し、創意工夫して制作すること。

「A表現(2)社会と工芸」の評価規準に盛り込むべき事項						
工芸への関心・意	工芸の創造活動の喜びを味わい、社会における工芸に関心をもち、主体的に					
欲・態度	発想して制作の構想を練ったり,制作方法を理解し,創意工夫して制作したり					
	しようとしている。					
発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて、社会的な視点に立って、使う人の願いや心情、生					
	活環境などを考え,心豊かに発想し,使用する人や場などに求められる機能と					
	美しさを考えて制作の構想を練っている。					
創造的な技能	制作方法を理解し,意図に応じて材料や用具を活用したり,手順や技法など					
	を吟味するなどし,創意工夫して制作している。					

「工芸」の内容のまとまり「A表現(2)社会と工芸」の評価規準の設定例を示す。

工芸への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能
・社会的な視点に立って、使う人	・社会や生活環境を広く観察し、	・制作するものの構造,材料の特
の願いや心情,生活環境などを考	使う人や用いる場面 , 求められる	性,用具の使用法などを理解し,
えて制作することに関心をもち、	条件を考え , 他者の視点に立って	意図に応じてそれらの効果を生か
主体的に発想し,使用する人や場	発想している。	して制作している。
に求められる機能と美しさなどを		
考えて構想を練ろうとしている。	・使用する人や場に求められる機	・制作全体を見通し,効率的な制
	能や条件 , 美しさなどを整理し ,	作手順や制作に適した技法などを
・材料の特性,用具の使用法など	形や色彩,材質などの造形要素や	吟味し,計画に基づいて工夫しな
│に関心をもち,主体的にそれらの	構造について考え,客観的な視点	がら制作している。
効果を生かし,手順や技法などを	に立って構想を練っている	
吟味しながら制作しようとしている。		

「工芸」の内容のまとまり「B鑑賞」における指導事項と評価規準に盛り込むべき事項である。

「B鑑賞」の指導事項

- ア 工芸作品などのよさや美しさ,作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り,理解を深めること。
- イ 制作過程における工夫や素材の生かし方,技法などを理解すること。
- ウ 自然と工芸とのかかわり,生活や社会を心豊かにする工芸の働きについて考え,理解を深めること。
- エ 日本の工芸の特質や美意識に気付き,工芸の伝統と文化について理解を深めること。

「B鑑賞」の評価規準に盛り込むべき事項					
工芸への関心・意	工芸の創造活動の喜びを味わい,工芸作品などに関心をもち,主体的に作品				
欲・態度	のよさや美しさを感じ取り,素材や技法,自然と工芸との関わり,工芸の伝統				
	と文化などについての理解を深めようとしている。				
鑑賞の能力	工芸作品などのよさや美しさ,作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取				
	り,制作過程における工夫や素材の生かし方,自然と工芸との関わり,生活や				
	社会を豊かにする工芸の働きや工芸の伝統と文化についての理解を深めてい				
	వ 。				

「工芸」の内容のまとまり「B鑑賞」の評価規準の設定例を示す。

工芸への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
・形や色彩,素材などの美しさと用途や機能との調	・形や色彩,素材などの美しさと用途や機能との調
和,作者の心情や意図と表現の工夫などに関心をも	和,作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取
ち,作品などについて理解しようとしている。	り,分析するなどして作品についての考えなどをも
	ち , 理解している。
│・制作過程における素材の生かし方 , 道具や技法の	
工夫,熟練した技術などに関心をもち,工芸の手仕	│・制作過程における素材の生かし方,道具や技法の│
事のよさについて理解しようとしている。	工夫 , 熟練した技術のすばらしさなどを感じ取り ,
	工芸の手仕事のよさについて理解している。
・工芸と自然や人々の生活との関わりに関心をも	
ち,工芸が生活や社会の中で果たしている役割など	・工芸が自然や人々の生活にどのように関わってい
について理解しようとしている。	るかを考え,工芸が生活や社会の中で果たしている
	役割などについて理解している。
・日本の伝統的な工芸の特質や美意識,表現方法な	in the second of
どに関心をもち、工芸の伝統と文化について理解し	・日本の美意識や自然観,創造的精神,表現方法の
しようとしている。	特質などを感じ取り,工芸の伝統と文化について理
& JC U CVI & 0	符員などを窓り取り,工芸の仏紀と文化にういて達 解している。
	用けている。

「工芸」の他のすべての内容のまとまりにおける<u>評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の</u> 設定例は、「学習評価参考資料」に記載されている。

(5)題材の指導と評価の計画について(「学習評価参考資料」を一部改編)

「工芸」の内容のまとまり「A表現(2)社会と工芸」及び「B鑑賞」の題材「誰のためのカップ?-使い手を想定したカップの提案-」の「指導と評価の計画」を例示する。

【題材の目標】

カップの制作に関心を持ち、社会的な視点に立って使う人や場などに求められる機能を考え、意図に応じて創意工夫し作品を制作するとともに、他の生徒の作品から作者の意図と表現の工夫を感じ取り、生活や社会を豊かにする工芸の働きについての理解を深める。

時	学習内容	学習活動	ねらい	関	発	創	鑑	学習活動に即した 評価規準	評価方法
1 2	1 . 課題 の把握と 発想	・カし徴用どグで合ちプルでる場の人面しなどの場にしなどである。	課題について理 解する。					関 社会的な視点に立って、使う人のの気持ちで使用する場合であることに発力がある。 対を制作することに発想がある。 心をもち、主体のとのではといる。 はなどを考えて構想を はなどを考えて構想を 練ろうとしている。	意見 を び そ ワ ー ク ー ト
		・ワークシー ト (何のため に、どういう ものをつくる か。) などか	や実際に使用す					発 社会や生活環境を広く観察し、カップを使う人や用いる場面、求められる条件を考え、他者の視点に立って発想している。	ワークシ ートなど

		ら発想する。	を考え、発想す る。		
3 4 5 6	2 . 構想	・企画書や図面などにまとめながら構想を練る。	発想したことを 基に立っな代 点に立っ条件を整 点にか条件を要素構 を を を を を を を を を を を を を き る の の の の の の の の の の の の の の の の の の	発 使用する人や場に求められる機能や条件、美しさなどを整理し、形や色彩、質感などの造形要素や構造について考え、客観的な視点に立って構想を練っている。	(コンセ プトやア
7 8 9 10 11 12 13 14	3 . 制作	・面しる。 ・面しる。 書を形 ・素品。間 ・大き施焼に ・大きが焼に ・大きが焼に ・大きが焼に ・大きが焼に	粘土や用具の特性を生かし、効果的な手順や技法などを検討して制作する。	関本土の特性、用具の 使用法などに関いらの を生かしにそれらの まを生かし、しながい。 を生かしている。 別本土の特性、用しの がらしている。 別本土の特性、用しの がらしている。 別本はどでそれらし、 がらしている。 別本はどでで がらしている。 の特性の の意果 でしたがし、 がらし、 がらし、 がらしている。 のも はいし、 がらしている。 がった。 がらしている。 のも はいし、 がらしている。 がった。 がらしている。 のも はいし、 がらしている。 がった。 がらし、 がらし、 がらし、 がらし、 がらし、 がらし、 がらし、 がらし、	子制作途中
15 16	4.鑑賞	・に完賞合じる・トえるのかでが成しい方。ワにを書ー品批方を ク分まを フタまる カイカ とを アを評や広 シのと おり を で 楽し あげ ー 考め まて 楽し 感げ ー 考め	作品の意図や表 の意図とで表 の で の の い は 活 は た て と と で と と で と と と で と り い て り い て り い り い り り り り り り り り り り	関 を が が が が が が が が が が が が が	動やグル
	業内での記 修正する。	『価を確認し、必 客観的な視点や - トなどと併せて	ら再度評価し、授 要に応じて評価を 構想の工夫などを 見取るなどの工夫	発 (上に同じ)創 (上に同じ)鑑 (上に同じ)	企画書 完成作品 ワークシ ート

1)表中の観点について

関 … 工芸への関心・意欲・態度 発 … 発想や構想の能力

創 … 創造的な技能 鑑 … 鑑賞の能力

2)「指導と評価の計画」については第1章「8 指導計画の作成について」(8~12頁参照)の中でその作成に係る留意点等について解説しているので参照する。

- 3)「学習活動に即した評価規準」は、「評価規準の設定例」を基に、具体的な学習活動に即 して言葉を省略したり変更したりして作成している。(下線部は変更箇所)
- 4)表中の の評価は総括の資料とするが、 は指導に生かす評価であり、総括に用いない。

(6)教科としての評価に関する留意事項

観点別学習状況の評価を効果的に行うためには、題材を通して育成する資質や能力は何かということを起点として授業を考え、学習のねらいを明確にすることが大切である。新しい学習指導要領の指導事項は、育成すべき資質・能力との関連を整理していることから、指導内容が学習指導要領のどの指導事項に位置付けられたものであるかを明確にする必要がある。

(5)の題材例「誰のためのカップ?」における観点別学習状況の評価の総括の一例を示す。

	学習活 評 価 方 法						数値化した場合の満点		観点別学習状況
	動に即	活動	企画書	ワーク	制作中	完成	十分満足 3)	の評価の総括
	した評	観察	・図面	シート	の作品	作品	おおむね満足	2	
	価規準						努力を要する	1	
観点									
工芸への							3		8以上 A
関心・意欲・							3	9	5以上8未満 B
態度							3		5未満 C
発想や構想の							3		6.5以上 A
光忠と構造の							3×1.5	7.5	4以上6.5未満 B
日ピノブ							(重み付け)		4未満 C
									3以上 A
創造的な技能							3	3	2以上3未満 B
									2未満 C
									3 A
鑑賞の能力							3	3	2 B
			-						1 C
	合 計								

複数の評価機会がある評価規準については、それらを平均して数値を算出することも考えられる。 上記の表は評価結果を数値で表し総括に結び付けた例であるが、これ以外にも評価機会ごとにA、 B、Cで記録し、その数の多いものがその観点の学習の実現状況を最もよく表しているとする考え方 に立つ総括方法も考えられる。

「工芸への関心・意欲・態度」は、活動観察やワークシートの記載事項などから判断することが考えられる。その際、表面的な学習態度等ではなく、工芸の学習内容に関してそれらを身に付けようとしたり発揮したりしようとする様子を見取る。この観点は、ある時点で実現状況が高まればよいというものではなく、ある程度継続して実現することが大切であることから、題材の指導経過において、前半の実現状況と後半の実現状況を同等に扱い評価する。

「発想や構想の能力」、「創造的な技能」については、企画書やワークシート、制作途中の作品 などを中心に見取り、判断することが考えられる。また、これらの能力については、制作が進む中 で徐々に高まっていく場合があることから、授業終了後に完成作品からも再度評価したりするなど、 その高まりを読み取ることが大切である。

「鑑賞の能力」については、ワークシートの記述や発言内容などから判断することが考えられる。 授業中に鑑賞の指導をしながらすべての生徒を評価することは困難であることから、授業中は、鑑 賞が深まっていない視点等についての指導のために学習状況を把握することに重点を置き、授業終 了後にワークシートの記述を基に個々の生徒を評価する方法などが考えられる。なお、鑑賞の活動 を行う場合でも、例えば発想や構想を高めることがねらいである場合は、「鑑賞の能力」ではなく、 「発想や構想の能力」で評価する。

表現及び鑑賞の活動を通して、育成すべき資質や能力をより確かに育むため、学習活動の過程や 学習の結果を題材の目標に照らして見取ることで実現状況を把握し、指導の改善に生かすことが大 切である(指導と評価の一体化)。実技指導の場面が多い工芸の授業においては、努力を要すると 考えられる生徒に対しての、個別の具体的な指導の手立てを用意しておくことや、作業が遅れがち な生徒に対して放課後等に補充の時間を設けることなども大切である。

評価の目的の一つは、教科の学習への意欲を高めることにあることから、学期末や年度末にその 結果を生徒に知らせることだけではなく、日常の指導の場面において生徒の取組のよいところや改 善すべき部分を見取り、口頭で、あるいは成果物へのコメントなどで伝える工夫も必要である。

(7)Q&A〔芸術(工芸)〕

- Q 1 工芸は制作するための技能が重要なので、「創造的な技能」を重視した評価でよいのか。
- A 1 観点により重み付けをすることは可能ですが、表現領域の指導であっても、例えば「工芸」の「A表現(2)社会と工芸」では、ア、イが「発想や構想の能力」、ウ、エが「創造的な技能」についての指導事項になっていることから、技能的側面だけではなく、二つの観点からバランスよく指導を行うことが必要です。また、科目の目標に、「生涯にわたり工芸を愛好する心情と生活を心豊かにするために工夫する態度を育てる」ことが示されていることから、「工芸への関心・意欲・態度」を高める指導も必要であり、指導の結果これらの資質や能力が身に付いたかどうかを、それぞれの観点できちんと評価する必要があります。なお、「創造的な技能」の指導に当たっては、授業が単に制作のための技術を獲得する場にならないように、生徒が自らの表現意図に応じて手順や技法などを吟味し、創意工夫して制作できるよう題材設定を工夫することも必要です。
- Q 2 授業中は指導で手一杯なので生徒一人ひとりの状況を評価することができない。
- A 2 授業中に、生徒一人ひとりの状況についてこと細かく把握しようとして、指導がおろそかになるような状況は望ましくありません。そのため、1回の授業の中において評価結果を記録する回数は1~2回程度に抑えるように計画します。また、例えば、「発想や構想の能力」の観点では、授業中には生徒全体を見渡して、発想が広がらない生徒を把握し必要な手立てを講じることに重点を置き、授業終了後にワークシートや制作中の作品などから評価を確定させていくなど、評価を効果的・効率的に行う工夫が必要です。

10 芸術(書道)

(1)教科の目標

芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、 感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を 養う。

(2)教科の評価の観点及びその趣旨

改	Ϊ́Ε	従前			
<u>書への</u> 関心・意欲・	書の創造的活動の	関心・意欲・態度	芸術を愛好し,芸		
態度 🛕	喜びを味わい,書の		術文化を尊重すると		
	伝統と文化に関心を		ともに,個性を生か		
	もって,主体的に表		して意欲的,主体的		
	現や鑑賞の創造的活		に表現や鑑賞の活動		
	動に取り組もうとす		を行い,その喜びを		
	る。	<u> </u>	味わおうとする。		
書表現の構想と工夫	書表現の諸要素を	芸術的な感受や表現	感性を働かせて芸		
	感受し,感性を働か	<u>の工夫</u>	術のよさや美しさを		
	せながら,自らの意		感じ取り、創造的に		
	図に基づいて構想	}	表現を工夫する。		
	し,表現を工夫して				
	いる。	<u>J</u>			
創造的な <u>書</u> 表現の技	創造的な書表現を	創造的な表現の技能	創造的な芸術表現		
能	するために,書の効		をするために必要な		
	果的な表現の技能を	}	技能を身に付けてい		
	身に付け表してい	J	る。		
	る。	<u> </u>			
鑑賞の能力	文字や書の伝統と	鑑賞の能力	芸術を幅広く理解		
	文化について幅広く		し , そのよさや美し		
観点名変更なし	理解し,その価値を		さを深く味わう。		
	考え,書のよさや美				
	しさを創造的に味わ				
	っている。				

☆ 改訂のポイント

従前は芸術科で共通の観点としていたが、各科目の特性を踏まえ、書道科独自の観点となった。これに併せて趣旨も変更されている。

書表現の諸要素を感受し、自分の意図に合った表現を構想し、工夫を重ねながら表現を深めていく一連の制作過程を評価する観点であることが、明記された。

臨書活動等を通して、書の効果的な表現の技能を身に付け、「技能」が、制作した作品の中に具体的にどのように表されているかを把握する観点であることが明記された。

(3)「科目の目標」と「科目の評価の観点の趣旨」(「学習評価参考資料」より抜粋)

「書道」、「書道」の評価の観点の趣旨については、「学習評価参考資料」において示されていないので、「書道」の観点の趣旨を基に、学習指導要領に示された「書道」、「書道」、それぞれの目標を踏まえて作成する。

書道 : 書道の<u>幅広い活動</u>を通して,生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに, 感性を高め,<u>書写能力の向上を図り</u>,表現と鑑賞の<u>基礎的な</u>能力を伸ばし,書の伝統と文 化についての理解を深める。

書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
書の創造的活動の喜	書のよさや美しさ	創造的な書表現をす	日常生活の書の効用
びを味わい,書の伝統と	を感じ取り , 感性を	るために , 基礎的な能	や書の伝統と文化につ
文化に関心をもって,主	働かせながら,自ら	力を生かし,効果的な	いて幅広く理解し,そ
体的に表現や鑑賞の創	の意図に基づいて構	表現の技能を身に付け	の価値を考え,書のよ
造的活動に取り組もう	想し,表現を工夫し	表している。	さや美しさを創造的に
とする。	ている。		味わっている。

書道 : 書道の<u>創造的な諸活動</u>を通して,生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに,感性を高め,<u>個性豊かな表現</u>と鑑賞の能力を伸ばし,書の伝統と文化についての理解を深める。

書道 : 書道の創造的な諸活動を通して,生涯にわたり書を愛好する心情と<u>書の伝統と文</u> 化を尊重する態度を育てるとともに,感性を磨き,個性豊かな書の能力を高める。

(4)単元の評価規準について(「学習評価参考資料」より一部抜粋)

学習指導要領における「書道」の内容と評価規準は次のように位置付けられている。

領域	分野	評価規準
A 表現	(1)漢字仮名交じりの書 (2)漢字の書 (3)仮名の書	・書への関心・意欲・態度 ・書表現の構想と工夫 ・創造的な書表現の技能
B 鑑賞		・書への関心・意欲・態度 ・鑑賞の能力

	B 鑑賞		
(1)漢字仮名交じりの書	(2)漢字の書	(3)仮名の書	D与妇具
ア 用具・用材の特徴を理解し、適切に扱うこと。	ア 用具・用材の特徴を 理解し,適切に扱うこ と。	ア 用具・用材の特徴を 理解し,適切に扱うこと。	ア 日常生活における書 への関心を高め,その 効用を理解すること。
イ 漢字と仮名の調和した 線質の表し方を習得する こと。	イ 古典に基づく基本的 な点画や線質の表し方 を理解し,その用筆・ 運筆の技法を習得する こと。	イ 古典に基づく基本的 な線質の表し方を理解 し,その用筆・運筆の 技法を習得すること。	イ 見ることを楽しみ, 書の美しさと表現効 果を味わい,感じ取る こと。
ウ 字形,文字の大きさと 全体の構成を工夫すること。 エ 名筆を生かした表現を 理解し,工夫すること。 オ 目的や用途に即した形式,意図に基づく表現を 工夫すること。	ウ 字形の構成を理解 し、全体の構成を工夫 すること。 エ 意図に基づく表現を 構想し、工夫すること。	ウ 単体,連綿の技法を 習得し,全体の構成を 工夫すること。 エ 意図に基づく表現を 構想し,工夫すること。	ウ 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解すること。 エ 漢字の書体の変遷, 仮名の成立等を理解すること。

すべての単元ごとに上記の指導事項をすべて行わなければならないものではなく、以上の内容と指導事項を一年間の授業時数の中で行うことが求められる。

書道における「単元」は、「内容のまとまり」とそこで扱う指導事項に即して各学校で設定することになる。各単元の指導に当たっては、「A 表現」と「B 鑑賞」の関連を図りながら展開することが多い。そこで、「漢字仮名交じりの書」、「漢字の書」、「仮名の書」の学習の中で「鑑賞」の学習が合わせて展開されることを踏まえ、以下の記述においては、二つの領域を合わせて示している。

【「(1)漢字仮名交じりの書」の評価規準に盛り込むべき事項】と【「(1)漢字仮名交じりの書」の評価規準の設定例】を示す。

【「(1)漢字仮名交じりの書」の評価規準に盛り込むべき事項】

書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
表現 漢字仮名交じりの	漢字仮名交じりの書の	創造的な書表現をす	日常生活の書の効
<u>書</u> の創造的活動の喜びを	よさや美しさを感じ取	るために, <u>漢字仮名交</u>	用 ,文字及び書の伝統
味わい ,書の伝統と文化に	り ,感性を働かせながら ,	<u>じりの書</u> の基礎的な能	と文化について幅広
関心をもって ,主体的に表	自らの意図に基づいて構	力を生かし,効果的な	く理解し ,その価値を
現や鑑賞の創造的活動に	想し,表現を工夫してい	表現の技能を身に付け	考え 書のよさや美し
取り組もうとする。	る。	表している。	さを創造的に味わっ
鑑賞 日常生活の書の効			ている。
用や書の伝統と文化につ			
いて関心をもち ,書のよさ			
や美しさを感じ取り ,主体			
的に鑑賞の創造的活動に			
取り組もうとしている。			

これを基に「単元の評価規準」を作成する。

____線部分をそれぞれ「漢字の書」「仮名の書」に置き換えると「(2)漢字の書」「(3)仮名の書」の評価規準に盛り込むべき事項になる。

【「A 表現(1)漢字仮名交じりの書」の評価規準の設定例】

書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
表現 ア・関連 表現 では では では では では では では で		ア・	

・漢字と仮名の文字や字 ・漢字と仮名の字形や文 ・文字や文字群と余白と 字の大きさなどが全体 形について関心をも の関係を理解し,全体 ち,自らの構想に基づ の構成に関わることを の構成を考えた表現の いて意欲的,主体的に 理解し,表現を工夫し 技能を身に付け表して 活動を行おうとしてい ている。 いる。 る。 エ ・名筆のよさや美しさを ・名筆のよさや美しさに ・名筆のよさや美しさを 関心をもち,表現技法 感じ取り,自らの意図 生かして表現する技能 を高めようとしてい に基づいて構想し,表 を身に付け表してい 現を工夫している。 る。 オ オ ・目的や用途に即した形 オ ・芸術的な表現や実用的 ・目的や用途に即した芸 式と表し方を判断し, な表現をするために、 文字の大きさ,配列, 形式や表し方を理解 術的・実用的な表現に し,目的や用途に即し ついて基礎的な事項を 書体など、それぞれに 適した表現を工夫して 理解し,自ら表現活動 て表現する技能を身に 付け表している。 を楽しんで表現を行お いる。 うとしている。 ・自己の表現のねらいを ・創造的な書表現をする ・表現の構想から完成に 達成するために,自ら ために,用具・用材, 至るまで,意欲的,主 の表現意欲を高め,用 線質,字形,全体の構 具·用材,線質,字形, 成などの表現の技能を 体的に表現活動に取り 組もうとしている。 全体の構成などについ 身に付け表している。 て工夫している。 鑑賞 ・書の魅力や日常生活に ・書が生活の中で果たし おける書の効用など ている役割を知り,書 書への興味・関心をも の効用を理解してい っている。 る。 ・日常生活における手書 き文字のよさや美しさ を感じ取ろうとしてい る。 ・地域の文化財や美術館 などに関心を持ち,活 用しようとしている。 ・書の美しさと表現効果 ・鑑賞と表現は相互に関 を味わい,見ることを 連していることを理解 楽しむことで,書への し,書のよさや美しさ 関心を高めようとして を感じ取っている。 いる。 ゥ ・日本及び中国等の文字 ・日本及び中国等の文字 と書の伝統と文化につ と書の伝統と文化につ いて幅広く理解してい いて関心をもち、その よさや美しさを感じ取 る。 ろうとしている。 ・漢字の書体の変遷,仮 ・漢字の書体の変遷,仮 名の成立等に関心をも 名の成立等を理解して ち,意欲的,主体的に いる。

これを基に「学習活動に即した評価規準」を作成する。

理解しようとしてい

る。

(5)単元の指導と評価の計画(「学習評価参考資料」を一部改編)

「書道」の「漢字仮名交じりの書」の「指導と評価の計画」を例示する。

単元名 漢字仮名交じりの書の表現 - 唐代の古典を参考として -

時	学習 内容	学習活動	ねらい	関	構	技	鑑	評価規準	評価方法
12(第1次)	漢名りにて解代のじ書い理唐古	・漢字仮名交じりの 書の制作過程を理 解し、漢字と仮名 の字形や文字に いて関心的、 で、意欲的、 で、意習活動を行	漢りの程にるもい。 で書をにるもいで の過程にるもいで が出まるがでする。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、					・漢字と仮名の文字や字形について関心をもち、自らの構想に基づいて意欲的、主体的に活動を行おうとしている。	観察
	典の鑑り	う。 ・校歌の歌詞の自合の歌詞の自合の歌が ・校の大変ののでは ・校の大変ののでは ・でのでで ・でので ・でので ・でのの ・での ・での ・での ・での ・で	作品を構想す る。					・鑑賞と表現は相互に関連 していることを理解し、 書のよさや美しさを感じ 取っている。	作品構想カード
		・校歌の歌詞のイメ ージを大切にしする がら、参もとにする 古典をもて作品を構 想する。						・参考とする名筆の字形や 文字の大きさなどが全体 の構成に関わることを理 解し、表現を工夫してい る。	観察・ ノート ・作品
34 (第2次	唐古参し歌 のをに校一	・自らの構想に基づ いて、表現する校 歌の一節を参考と する古典を踏まえ 幅広く表現する。	生徒一人ひと りが自らの意 図に基づいて 構想し、幅広 い技能を身に					・参考とする名筆の美しさに関心をもって、表現の構想から完成に至るまで、意欲的、主体的に取り組もうとしている。	観察
	節を漢 字仮名 交じり の書で		付け、心豊かに表現する。					・参考とする名筆のよさや 美しさを生かして表現す る技能を身に付け表して いる。	観察・ 作品
	書く	・表現する古典を生かし、生徒一人ひとりが自己評価をして豊かな表現を身に付ける。						・唐代の古典や古筆のよさ や美しさを感じ取り、自 らの意図に基づいて構想 し、表現を工夫している。	観察・ 作品
56 (第3次)		・参考とする名筆の よさや美しさを生 かしながら、全体 の構成を工夫す る。	漢字の書表の記述 学の書表の記述 なるのでである。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、					・参考とする名筆の字形や文字の大きさなどが全体の構成に関わることを理解し、表現を工夫している。	観察・ ノート ・作品
		・相互評価する中で、 互いの作品を理解 し、自らの作品制 作に生かし、名筆 を踏まえて幅広く 表現する。	的に創作する。さらに、					・参考とする名筆の美しさ と表現効果を味わい、見 ることを楽しむことで、 書への関心を高めようと している。	鑑賞力
7 8	自作品 に関す る発表	・制作の意図を明ら かにし、自分の作 品について発表す る。	漢字と仮名の 美しさを創造 的に表現し、 各自の作品に					・文字や文字群と余白との 関係を理解し、全体の構 成を考えた表現の技能を 身に付け表している。	作品

1)表中の観点について

関 ... 書への関心・意欲・態度 構 ... 書表現の構想と工夫

技 … 創造的な書表現の技能 鑑 … 鑑賞の能力

2)「指導と評価の計画」については第1章「8 指導計画の作成について」(8~12頁参照)の中でその作成に係る留意点等について解説しているので参照する。

(6)教科としての評価に関する留意事項

評価の観点の考え方について

~「書への関心・意欲・態度」~

生徒が「書表現の構想と工夫」で試行錯誤しながら表現を工夫したり、「創造的な書表現の技能」、「鑑賞の能力」を身に付けようとすることへ向かう「関心・意欲・態度」を評価する。特に表現活動においては、参考とする古典のよさや美しさを感じ取ろうとしたり、素材にあった表現を構想し、工夫しようとする作品制作の過程の中で表れることが多い。机間指導等を通して、生徒が表現の構想や工夫へと取り組む姿を捉えながら指導と評価を行うことが大切である。

生徒の出席状況や授業態度だけで判断するものではなく、「創造的な書表現の技能」、「鑑賞の能力」といった単元における具体的な能力を身に付けようとする「関心・意欲・態度」を評価するものであることに留意する。

~「書表現の構想と工夫」~

背景とする古典や古筆などの名筆の表現のよさや美しさを感受し、自らの意図に基づき心豊かに構想したり、文字の大きさや全体の構成等をどのように工夫したかという表現の過程を評価する。制作する意図を大切にし、自己評価や相互評価を通して、表現の工夫による作品の変容の過程を学習するよう指導していくことが大切である。

一連の表現を深めていく制作過程を評価する観点であり、完成作品という結果評価にとどまることなく、机間指導による観察、作品構想カード等のワークシート、表現の工夫と作品の変容関係などを適切に評価することが重要である。

~「創造的な書表現の技能」~

自分の意図する題材を表現しながら、豊かな技能を身に付け表しているかを評価する。学習過程の中で創造的な思いや技能の高まりが確認されるよう、表現の構想から作品の完成に至るまでの技能の高まりを捉えることが大切である。

臨書活動等を通して、書の効果的な表現の技能を身に付け、技能が制作した作品の中に具体的にどのように表されているかを把握する。用具・用材と表現効果、線質、字形、全体の構成等の視点を明確にして適切に評価するようにしたい。

~「鑑賞の能力」~

生徒のもつ身近な題材や書の効用について幅広く理解し、その価値を考え、書の文字や書の伝統と文化について背景を知り、そのよさや美しさを創造的に味わうことを評価する。

文字や書の伝統と文化について理解したり、古典や生徒の作品のよさや美しさを根拠をもって 批評したり、創造的に味わっているかを評価する観点である。ここでは、鑑賞カードにおける批 評、グループ学習による交流や発表等により生徒の実現状況を適切に把握するようにしたい。 以上を踏まえ、評価する際には、書の表現や鑑賞を通して育成する資質や能力は何かを常に念頭に 置く。

「単元」の指導と計画について

書道においては、表現領域の三分野と鑑賞領域は「内容のまとまり」として位置付けられており、 指導にあたっては、一年間で三つの分野を学習する中でそれぞれの指導事項が学習されるように計画 を立てる。例えば、ある場面では、「漢字仮名交じりの書」における指導事項「ア」と「イ」につい て学習する単元を設定するというように、すべての単元ごとにすべての指導事項を指導しなければな らないというものではない。

(7)Q&A[芸術(書道)]

- Q 1 今回の改訂で「書道 」は三つの分野すべてを学習することとなったことなどを考えると、2 単位の学習時間の中でこれらすべてをきちんと指導することには無理があるのではないか。
- A 1 「書道 」について学習指導要領では、「総合的に書に対する理解を深められるようにした」とされており、「書道 」における発展的な学習の基礎を養う科目という性格に位置付けられています。したがって、指導する内容については、生徒の実態等に応じて軽重をつけるなど時間配分の工夫により、幅広い活動を通して、基礎的な能力を伸ばすという科目の目標を踏まえ対応してください。
- Q 2 書道 において「篆刻、刻字等を扱うよう配慮するものとする」とあるがどういうことか。
- A 2 篆刻、刻字について「扱うよう配慮する」とは、「可能な限り扱うようにする」ということであり、「書道 」で「篆刻を扱うものとする」となっていることを踏まえ、段階的な学習の進化を図るための位置付けとし、基礎的な内容のものを中心に取り扱い、他の芸術分野との関連について考える機会とするものであることに留意してください。
- Q3 中学校書写との関連をどのように考えたらよいのか。
- A 3 今回の学習指導要領では、「中学校の国語科『書写』からの円滑な接続を図ること」が改訂のポイントとして示されています。「書写」では、文字を正しく、整えて、速く書くことができること、文字文化についての理解をすることが示されています。高等学校の書道担当教員が国語科書写の指導事項について理解を深めることが重要です。次に中学校学習指導要領国語編より書写に関する事項を示しますので参考にしてください。

中学校学習指導要領 国語編 各学年における書写に関する事項

第1学年	第2学年	第3学年
ア 字形を整え,文字の大きさ,	ア 漢字の行書とそれに調和した	ア 身の回りの多様な文字に関心
配列などについて理解して,楷	仮名の書き方を理解して,読み	をもち,効果的に文字を書くこ
書で書くこと。	やすく速く書くこと。	Ł。
イ 漢字の行書の基礎的な書き方	イ 目的や必要に応じて,楷書又	
を理解して書くこと。	は行書を選んで書くこと。	

11 外国語

(1)教科の目標

外国語を通じて,言語や文化に対する理解を深め,積極的にコミュニケーションを 図ろうとする態度の育成を図り,情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたり するコミュニケーション能力を養う。

(2)教科の評価の観点及びその趣旨

改	ΙΈ	従	前
コミュニケーション	コミュニケーショ	関心・意欲・態度	コミュニケーショ
<u>への</u> 関心・意欲・態	ンに関心をもち,積		ンに関心をもち,積
度	極的に言語活動を行		極的に言語活動を行
T	い,コミュニケーシ		い,コミュニケーシ
	ョンを図ろうとす		ョンを図ろうとす
	る。		る。
<u>外国語</u> 表現の能力	外国語で話したり	表現の能力	外国語を用いて,
	書いたりして,情報		情報や考えなど伝え
	や考えなどを適切に		たいことを話した
	伝えている。		り,書いたりして表
	,		現する。
外国語理解の能力 /	外国語を聞いたり	理解の能力	外国語を聞いた
	読んだりして,情報		り,読んだりして,
	や考えなどを的確に		情報や話し手や書き
)	理解している。		手の意向など相手が
			伝えようとすること
			を理解する。
言語や文化について	外国語の学習を通	知識・理解	外国語の学習を通
<u>の</u> 知識・理解	して,言語やその運		して,言語やその運
	用についての知識を		用についての知識を
T	身に付けているとと		身に付けるとともに
	もに,その背景にあ		その背景にある文化
	る文化などを理解し		などを理解してい
	ている。		る。

⇨ 改訂のポイント

- ・「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」の双方において、計画的にバランスよく評価を行う。
- ・4技能を総合的に育成するよう指導する。
- ・4技能を統合的に活用できるよう、言語活動を充実させる。
- ・文法指導を言語活動と一体化させる。
- ・「言語や文化についての知識・理解」が、単なる知識の暗記ではなく、コミュニケー ションを目的とした言語運用に資する形で身に付くよう指導する。

(3)科目の評価の観点の趣旨(「学習評価参考資料」より抜粋)

コミュニケーション英語基礎				
コミュニケーションへ	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化について	
の関心・意欲・態度	が凹曲な塊の配力	外国品注解の扱力	の知識・理解	
コミュニケーション	英語で話したり書い	英語を聞いたり読ん	英語やその運用につ	
に関心をもち,積極的	たりして , 自分の考え	だりして , 話し手や書	いての知識を身に付け	
に言語活動を行い,コ	などを表現している。	き手の意向などを理解	ているとともに , 言語	
ミュニケーションを図		している。	の背景にある文化など	
ろうとする。			を理解している。	
コミュニケーション英語	5			
コミュニケーションへ	 外国語表現の能力	 外国語理解の能力	言語や文化について	
の関心・意欲・態度	が国品な塊の配力	アドロロエ州の形/	の知識・理解	
コミュニケーション	英語で話したり書い	英語を聞いたり読ん	英語やその運用につ	
に関心をもち,積極的	たりして , 情報や考え	だりして,情報や考え	いての知識を身に付け	
に言語活動を行い,コ	などを適切に伝えてい	などを的確に理解して	ているとともに , 言語	
ミュニケーションを図	る。	いる。	の背景にある文化など	
ろうとする。			を理解している。	
コミュニケーション英語	<u> </u>			
コミュニケーションへ	 外国語表現の能力	 外国語理解の能力	言語や文化について	
の関心・意欲・態度	71国品役塊の配力	711日日11年所97日27月	の知識・理解	
コミュニケーション	英語で話したり書い	英語を聞いたり読ん	英語やその運用につ	
に関心をもち,積極的	たりして , 情報や考え	だりして,情報や考え	いての知識を身に付け	
に言語活動を行い,コ	などを適切に伝えてい	などを的確に理解して	ているとともに , 言語	
ミュニケーションを図	る。	いる。	の背景にある文化など	
ろうとする。			を理解している。	
コミュニケーション英語	5			
コミュニケーションへ	 外国語表現の能力	 外国語理解の能力	言語や文化について	
の関心・意欲・態度	71日田代がの65万	71日中2年719573	の知識・理解	
コミュニケーション	英語で話したり書い	英語を聞いたり読ん	英語やその運用につ	
に関心をもち,積極的	たりして , 情報や考え	だりして,情報や考え	いての知識を身に付け	
に言語活動を行い,コ	などを適切に伝えてい	などを的確に理解して	ているとともに , 言語	
ミュニケーションを図	る。	いる。	の背景にある文化など	
ろうとする。			を理解している。	

英語表現			
コミュニケーションへ	が国気実現の総力	外国語理解の能力	言語や文化について
の関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国品理解の能力	の知識・理解
コミュニケーション	事実や意見などを多		英語やその運用につ
に関心をもち,積極的	様な観点から考察し,		いての知識を身に付け
に言語活動を行い,コ	論理の展開や表現の方		ているとともに , 言語
ミュニケーションを図	法を工夫しながら英語		の背景にある文化など
ろうとする。	で伝えている。		を理解している。
英語表現			
コミュニケーションへ	外国語表現の能力	 外国語理解の能力	言語や文化について
の関心・意欲・態度	が国語表現の能力	外国品注解の形力	の知識・理解
コミュニケーション	事実や意見などを多		英語やその運用につ
に関心をもち,積極的	様な観点から考察し,		いての知識を身に付け
に言語活動を行い,コ	論理の展開や表現の方		ているとともに , 言語
ミュニケーションを図	法を工夫しながら英語		の背景にある文化など
ろうとする。	で伝えている。		を理解している。
英語会話			
コミュニケーションへ	 外国語表現の能力	 外国語理解の能力	言語や文化について
の関心・意欲・態度	外国品表現の能力	外国品注解の形力	の知識・理解
コミュニケーション	日常生活の身近な話	日常生活の身近な話	英語やその運用につ
に関心をもち,積極的	題について、情報や考	題について,英語を聞	いての知識を身に付け
に言語活動を行い,コ	えなど自分が伝えたい	いて,情報や考えなど	ているとともに , 言語
ミュニケーションを図	ことを英語で話して伝	相手が伝えようとする	の背景にある文化など
ろうとする。	えている。	ことを理解している。	を理解している。

(4)内容のまとまりについて(「学習評価参考資料」より一部抜粋)

【科目の目標(コミュニケーション英語)】 ―――

英語を通じて,積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するととも に,情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。

「コミュニケーション英語 」においては、学習指導要領の内容に示されている言語活動を基に 内容のまとまりを設定した。すなわち、次のとおりである。

- ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉え たりする。
- イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。
- ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。
- エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。

以上、アは「聞くこと」、イは「読むこと」、ウは「話すこと」、工は「書くこと」と捉え、これらを内容のまとまりとした。

「コミュニケーション英語 」の内容のまとまりごとの<u>評価規準に盛り込むべき事項</u>は次のとおりである。

「聞くこと」の評価	「聞くこと」の評価規準に盛り込むべき事項		
コミュニケーションへ	「聞くこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。		
の関心・意欲・態度			
外国語表現の能力			
外国語理解の能力	英語を聞いて,情報や考えなどを理解したり,概要や要点を捉えたりするこ		
	とができる。		
言語や文化につい	英語の仕組み,使われている言葉の意味や働きなどを理解しているととも		
ての知識・理解	に , 言語の背景にある文化を理解している。		

「読むこと」の評価	「読むこと」の評価規準に盛り込むべき事項			
コミュニケーションへ	「読むこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。			
の関心・意欲・態度				
外国語表現の能力	聞き手に伝わるように英語で音読することができる。			
外国語理解の能力	英語を読んで,情報や考えなどを理解したり,概要や要点を捉えたりするこ			
	とができる。			
言語や文化につい	英語の仕組み,使われている言葉の意味や働きなどを理解しているととも			
ての知識・理解	に , 言語の背景にある文化を理解している。			

「話すこと」の評価	「話すこと」の評価規準に盛り込むべき事項			
コミュニケーションへ	「話すこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。			
の関心・意欲・態度				
外国語表現の能力	情報や考えなどについて,英語で話し合ったり意見の交換をしたりすること			
	ができる。			
外国語理解の能力				
言語や文化につい	英語の仕組み,使われている言葉の意味や働きなどを理解しているととも			
ての知識・理解	に , 言語の背景にある文化を理解している。			

「書くこと」の評価	「書くこと」の評価規準に盛り込むべき事項				
コミュニケーションへ	「書くこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。				
の関心・意欲・態度					
外国語表現の能力	情報や考えなどについて,英語で簡潔に書くことができる。				
外国語理解の能力					
言語や文化につい	英語の仕組み,使われている言葉の意味や働きなどを理解しているととも				
ての知識・理解	に , 言語の背景にある文化を理解している。				

「コミュニケーション英語 」の内容のまとまりごとの<u>評価規準の設定例</u>は、「学習評価参考資料」に掲載されているので参照する。

(5)単元の指導と評価の計画について

「コミュニケーション英語」の中の単元の「指導と評価の計画」を例示する。

単元の目標

間違うことを恐れず、会話を続ける。

読んだ内容について、自分の意見を述べる。

英文を読んで概要を理解する。

英語の仕組み、使われている言葉の意味や働きを理解する。

、 の用法を理解する。

単元を通して身に付けさせたい力 (学校の果たすべき役割及び教育目標を踏まえて記載)

(各学校で設定)

単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
・トピックについて、関心をもち、ペアで意見を 交換している。 ・トピックについて、間違うことを恐れず、会話を続けている。	・トピックについて、相 手に理解できる英語を使って、自分の考えを伝え、質問に答えることが できる。	・英文を読んで、特に重要な事実を捉えることを通じ、パラグラフの要旨を理解することができる。	・英語の仕組み、使われている言葉の意味や働きを理解している。 ・ の用法について理解している。

時	学習内容	学習活動	ねらい	関	表	理	知	評価規準	評価方法
1	レッスン のタイト ル (Garbage will change the world)に ついて	・ルクき質ど内理・っ2表が・シ、問し容解ペた~なのンョ師答、つ深で、ペーロをらる元て。し語がーロをらる元て。し語がってを別しなの、一句をがある。	レッスンの概要 を理解する。					トピックについて関心を もち、ペアで意見を交換 している。	活動の観 の の り り ト
	Part 1の 内容理解 (前半)	・ チ マ 大 で 大 で 大 で た た れ の の の の の の の の の の の の の	生ゴミが資源に なることを理解 する。					英文を読んで、特に重要な事実を捉えることを通じ、パラグラフの要旨を理解することができる。	筆記テスト (後日)
2	Part 1の 内容理解 (後半)	・ に 投る・ ち 女 、・ ち 英 え、か の が な の が を で い で を で い で を で で い で を で で い で を で で い で を で で い で を で で い で と を す で に 容 め こ の る。	作者が進路につ いて悩んでいた ことを理解す る。					英文を読んで、特に重要な事実を捉えることを通じ、パラグラフの要旨を理解することができる。	筆記テスト (後日)
	語彙・語 法、 の用法に ついて	語彙・語法、 の用法につい て理解する。	語彙・語法、 の用法につい て理解する。					・英語の仕組み、使われ ている言葉の意味や働き を理解している。 ・ の用法について理 解している。	筆記テスト (後日)
3	Part 2の 内容理解		作者がゴミ処理 会社を設立する ことになったき っかけについて 理解する。					英文を読んで、特に重要な事実を捉えることを通じ、パラグラフの要旨を理解することができる。	(後日)
	語彙・語 法、 の用法に ついて	語彙・語法、 の用法につい て理解する。	語彙・語法、 の用法につい て理解する。					・英語の仕組み、使われ ている言葉の意味や働き を理解している。 ・ の用法について理 解している。	筆記テスト (後日)

4	Part 3の 内容理解	(Part 1と同じ)	作者が生ゴミを 資源として活用 するようになっ たきっかけにつ いて理解する。		英文を読んで、特に重要な事実を捉えることを通じ、パラグラフの要旨を理解することができる。	筆記テスト (後日)
	生資てる係点てぎと用と問つに題い	・ペアで話し合 った後、英語 で、2~3ペア が発表する。	環境問題を解決 することに係る 問題点について 意見を交換す る。		トピックついて関心をも ち、ペアで意見を交換し ている。	活動の観 察及びワ ークシー ト
5	Part 4の 内容理解	(Part 1と同じ)	作者が生ゴミを 資源として活用 するシステムを 確立したことに ついて理解す る。		英文を読んで、特に重要な事実を捉えることを通じ、パラグラフの要旨を 理解することができる。	筆記テスト (後日)
	再れずらる 利がらる 再方 いる 再方法 での 用に れる 利法 で の の い い の の い い の の り い い い い い い い い い	・ペアで話し合 った後、英語 で、2~3ペア が発表する。	再利用されずに 捨てられている ものの再利用の 方法について意 見を交換する。		トピックについて関心を もち、ペアで意見を交換 している。	活動の観 察及びワ ークシー ト
6 7	再れずいののカン 利がいる再方と のののののののののののののののののののののののでは、 では、 のののののののののの	インタビューテ スト ・トピックにつ いて自分の考え を伝える ・質 問 に 答 え る。	学習した語彙や 文法事項等を活 用して、自分の 考えを伝える。		トピックについて間違う ことを恐れず、会話を続けている。 トピックについて、相手 に理解できる英語を使っ て、自分の考えを伝え、 質問に答えることができ る。	インタビ ューテス ト
	語彙・語 法 、 の用法に ついて	インタビューテ ストを受けてい ない生徒は、ワ ークシートの課 題に取り組む。	語彙・語法、 の用法 について理解す る。		・英語の仕組み、使われ ている言葉の意味や働き を理解している。 ・ の用法につ いて理解している。	筆記テス ト (後日)

1)表中の観点について 関 … コミュニケーションへの関心・意欲・態度

表 ... 外国語表現の能力

理 ... 外国語理解の能力

知 … 言語や文化についての知識・理解

2)「指導と評価の計画」については第1章「8 指導計画の作成について」(8~12頁参照)の中でその作成に係る留意点等について解説しているので参照する。

(6)教科としての評価に関する留意事項

「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」の総括について

「単元の指導と評価の計画」の例示においては、活動の観察、ワークシート及びインタビューテストで評価することとしているが、第1時から第7時における生徒の取組についてもプラスの評価をする判断材料として積極的に活用して総合的に判断する。したがって、生徒の活動の様子について単にA、B、Cを付けるのではなく、生徒個々の取組状況の変容などを把握し、それを生徒にフィードバックするなどして、個に応じながらクラス全体の関心・意欲・態度の高まりを目ざすことが重要である。

「外国語表現の能力」の評価について

単元の「指導と評価の計画」の例示においては、インタビューテストで評価することとしているが、 単元によっては、グループで発表させたり、意見や感想などを英語で書かせたりするなどして評価することも考えられる。

「外国語表現の能力」に係る学習活動は、年間授業計画の中で、他の観点に係る学習活動とのバランス を考えて、設定されなければならない。次に年間授業計画(一部)を例示する。

平成25年度 年間指導計画

教科・	外国語・コミュニケ	学年	教科書	
科目	ーション英語	単位数	副教材	

_							
学習目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えな どを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。						
学習方法	(各学校で設定)						
	評価の観点 当該科目の評価の観点の趣旨						
	а	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行 い、コミュニケーションを図ろうとする。				
学習	b	外国語表現の能力	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝 えている。				
評価	c 外国語理解の能力 英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。						
	d 言語や文化についての 英語やその運用についての知識を身に付けているととも 知識・理解 に、言語の背景にある文化などを理解している。						
		定期テストについては、上記b	、c、dの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。				

単元 評価の観点 学習活動 単元の評価規準 評価方法 期 (題材) b С グループで a: 授業を通して学んだことや、日常生活の ・グルー 前 発表する。 中で学んだり経験したことを積極的に活用 プ発表 期 英文を読ん して話している。 ・ 筆 記 テ で概要を理 b: トピックについて、相手に理解できる英 スト Lesson 1 解する。 語を使って、自分の考えを伝え、質問に答 Japanese えることができる。 tradition c:英文を読んで、特に重要な事実を捉える ことを通じ、パラグラフの要旨を理解する について理 解する。 ことができる。 d: について理解している。 要約する。 a:うまく表現できないことがあっても、既 ・ワーク シート 英文を読ん 知の語句や表現を用いるなどして書き続け ・筆記テ で概要を理 ている。 解する。 b: 読んだ内容を、平易な表現に置き換えた スト Lesson 2 World り、情報の順番を変えるなどして、読み手 に分かりやすい文章を書くことができる。 Heritage Sites c:英文を読んで、特に重要な事実を捉える について理 ことを通じ、パラグラフの要旨を理解する 解する。 ことができる。 について理解している。 a:聞き取れない箇所や未知の語句があって ・ワーク 英文を聞い Lesson 3 も、推測するなどして聞き続けている。 シート The て概要を理 man ・リスニ 解する。 who

sailed across the Pacific Ocean	、 について理 解する。	c:出来事や物事についての説明を聞いて、 重要な語句などを手がかりにして概要や要 点を理解することができる。 d: について理解している。	ングテス ト ・筆記テ スト
Lesson 4 Garbage	自分の考え を伝える。 英文を読ん で概要を理 解する。	a: 間違うことを恐れず、会話を続けている。 b: トピックについて、相手に理解できる英語を使って、自分の考えを伝え、質問に答えることができる。	・ イュー スト ネト
change the world	、 の用法につ いて理解す る。	c: 英文を読んで、特に重要な事実を捉える ことを通じ、パラグラフの要旨を理解する ことができる。 d: の用法について理解してい る。	
Lesson 5 Everyone	自分の意見 を書く。 英文を読ん で概要を理 解する。	a: 授業を通して学んだことや、日常生活の中で学んだり経験したことを積極的に活用して書いている。b: 自分が伝えたいことについて、話題を明示した上で、それに関する意見やその理由	・ワーク シート ・筆記テ スト
loves music	について理 解する。	を書くことができる。	

(7)Q&A(外国語)

- Q 1 「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」はどのように総括すればよいのか。
- A 1 125頁に掲載の通り、生徒の日常の取組状況をプラスの評価をする判断材料として積極的に活用した上で、活動の観察、ワークシート及びインタビューテスト等の評価から総合的に判断し、「十分満足できる」状況(A)、「おおむね満足できる」状況(B)、「努力を要する」状況(C)の3段階で評価します。
- Q 2 「外国語表現の能力」の評価のために、すべての単元でインタビューテストを実施する必要があるか。
- A 2 126頁に掲載の通り、単元によっては、グループで発表させたり、意見や感想などを英語で書かせた りするなどして評価することも考えられます。なお、「外国語表現の能力」は、情報や考えなどを適 切に伝える能力を評価することから、文法的な知識を問う筆記テストのみで評価することは適切 ではありません。
- Q3 一つの単元においてすべての観点を評価する必要があるか。
- A 3 「学習評価参考資料」に記載されている通り、単元によっては、特定の観点を中心に評価することもあります。

12 家庭(共通教科)

(1)教科の目標

人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。

(2)教科の評価の観点及びその趣旨

改	Œ	従	前
関心・意欲・態度	家庭や地域の生活	関心・意欲・態度	家庭や地域の生活
	について関心をも		について関心をも
観点名変更なし	ち,その充実向上を		ち,その充実向上を
	目指して主体的に取		目指して意欲的に取
	り組むとともに,実		り組むとともに,実
	践的な態度を身に付	<u>}</u>	践的な態度を身に付
	けている。	<u></u>	けている。
思考・判断・表現	家庭や地域の生活	<u>思考・判断</u>	家庭や地域の生活
	について課題を見い		について見直し,課
	だし,その解決を目		題を見付け,その解
	指して思考を深め,		決を目指して思考を
	適切に判断し工夫し		深め,適切に判断
	創造する能力を身に		し,工夫し創造する能
	付けている。		力を身に付けている。
<u>技能</u>	家庭や地域の生活	技能・表現	家庭や地域の生活
	を充実向上するため		を充実向上するため
	に必要な基礎的・基		に必要な基礎的・基
	本的な技術を身に付		本的な技術を身に付
	けている。		けている。
知識・理解	家庭生活の意義や	知識・理解	家庭生活の意義や
	役割を理解し,家庭		役割を理解し,家庭
観点名変更なし	や地域の生活を充実		や地域の生活を充実
	向上するために必要		向上するために必要
	な基礎的・基本的な		な基礎的・基本的な
	知識を身に付けてい		知識を身に付けてい
	る。	<u> </u>	る。

改訂のポイント

今回の改訂では、生活を主体的に営む能力と実践的な態度を育てること、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力を育てることなどを目ざしている。

知識と技術などを活用して、学習や実際の生活において課題を発見し解決できる能力を育成するために、自ら課題を見いだし解決を図る問題解決的な学習をより一層充実することとなった。

(3)科目の評価の観点の趣旨(「学習評価参考資料」より抜粋)

家庭基礎			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
人の一生と家族・家	人の一生と家族・家	人の一生と家族・家	人の一生と家族・家
庭及び福祉,衣食住,	庭及び福祉,衣食住,	庭及び福祉,衣食住,	庭及び福祉,衣食住,
消費生活などについて	消費生活などについて	消費生活などに関する	消費生活などに関する
関心をもち,その充実	課題を見いだし,その	基礎的・基本的な技術	基礎的・基本的な知識
向上を目指して主体的	解決を目指して思考を	を身に付けている。	を身に付けている。
に取り組むとともに,	深め,適切に判断し,		
実践的な態度を身に付	工夫し創造する能力を		
けている。	身に付けている。		
家庭総合			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
人の一生と家族・家	人の一生と家族・家	人の一生と家族・家	人の一生と家族・家
庭,子どもや高齢者と	庭,子どもや高齢者と	庭,子どもや高齢者と	庭,子どもや高齢者と
の関わりと福祉,消費	の関わりと福祉,消費	の関わりと福祉,消費	の関わりと福祉,消費
生活,衣食住などにつ	生活,衣食住などにつ	生活,衣食住などに関	生活,衣食住などに関
いて関心をもち,その	いて生活の充実向上を	する技術を総合的に身	する知識を総合的に身
充実向上を目指して主	図るための課題を見い	に付けている。	に付けている。
体的に取り組むととも	だし,その解決を目指		
に,実践的な態度を身	して思考を深め,適切		
に付けている。	に判断し,工夫し創造		
	する能力を身に付けて		
	いる。		
生活デザイン			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
人の一生と家族・家	人の一生と家族・家	人の一生と家族・家	人の一生と家族・家
庭及び福祉,消費生	庭及び福祉,消費生	庭及び福祉,消費生	庭及び福祉,消費生
活,衣食住などについ	活,衣食住などについ	活,衣食住などに関す	活,衣食住などに関す
て関心をもち,その充	て課題を見いだし,そ	る技術を実験・実習な	る知識を実験・実習な
実向上を目指して主体	の解決を目指して思考	どの体験的な学習を通	どの体験的な学習を通
的に取り組むととも	を深め,適切に判断	して身に付けている。	して身に付けている。
に,実践的な態度を身	し,工夫し創造する能		
に付けている。	力を身に付けている。		

(4)単元(題材)の評価規準について

「家庭総合」の中の八つの内容のまとまり 1 のうち、「(2)子どもや高齢者とのかかわりと福祉」における単元の評価規準に関する例示を行う。学習指導要領で示された科目の目標を踏まえ、「評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を示している。

^{1 「}家庭総合」における学習指導要領の内容の大項目(1)、(2)、(3)、(5)、及び(4)の中項目ア、イ、ウ、エの合計八つを内容のまとまりとする。

【科目の目標(家庭総合)】

人の一生と家族・家庭,子どもや高齢者とのかかわりと福祉,消費生活,衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得させ,家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに,生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

「家庭総合」の内容のまとまり「(2)子どもや高齢者とのかかわりと福祉」における<u>評価規準</u>に盛り込むべき事項である。(「学習評価参考資料」より一部抜粋)

-					
「(2)子どもや高	「(2)子どもや高齢者とのかかわりと福祉」における評価規準に盛り込むべき事項				
関心・意欲・態度	子どもの発達と保育,高齢者の生活と福祉などについて関心をもち,実践				
	的・体験的な活動を通して主体的に学習活動に取り組んでいる。				
思考・判断・表現	子どもの発達と保育,高齢者の生活と福祉などについて,現代の家庭や地域				
	の生活を見つめて課題を見いだし,その解決を目指して思考を深め,適切に判				
	断し,表現している。				
技能	子どもや高齢者と適切に関わることができたり,子どもの健やかな発達や高				
	齢者の自立生活を支援したりするために必要な技術を身に付けている。				
知識・理解	子どもの発達と保育,高齢者の生活と福祉などについて理解し,家族及び地				
	域や社会の果たす役割を認識するために必要な知識を身に付けている。				

「家庭総合」の内容のまとまり「(2)子どもや高齢者とのかかわりと福祉」は、三つの単元で構成されている。これらの<u>単元の評価規準の設定例</u>を示す。(「学習評価参考資料」を一部改編)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
【子どもの発達と保育・ 福祉】 ・実践的・体験的な活動 を通して,保育に関心を もち,学習に取り組もう としている。		・幼稚園や保育所等での 実習で,子どもと触れ合ったり,子どもの発達の 実際の姿について,観察 したりすることができ る。	・子どもは生活の中で人 との関わりを通して育つ ことを理解している。
	・遊びの意義や児童文化 の子どもへの影響につい て考え,まとめたり,発 表したりしている。		・乳幼児期が人間の発達 段階において重要な時期であることを理解している。・子どもの生活の概要を理解している。・子どもの発達と遊びや環境との関わりについて理解している。
・保育の重要性や社会の 果たす役割について考え ようとしている。	・親の役割や子どもを生 み育てることの意義につ いて考え,まとめたり, 発表したりしている。		・乳幼児期における親やまが見りである。 ・乳幼児はおける親における親における。 ・乳幼児はいるでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、の
	・近年の少子社会における子どもを取り巻く環境の変化やそれに伴う課題について考え,まとめたり,発表したりしている。	・子どもの権利や福祉について,具体的な法律や制度などの情報を収集・整理することができる。	・子どもを取り巻く環境整備と社会全体で子育てを支援する必要性を理解している。 ・子どもの権利と福祉について理解している。

【高齢者の生活と福祉】 ・実践的・体験的な活動 を通して,高齢者に関心 をもち,学習に取り組も うとしている。		・高齢者と実際に触れ合い,話すなど,高齢者と 関わることができる。	
・生涯を見通して高齢期 の生活について考えよう としている。	・高齢者や高齢者を取り 巻く社会の課題につい て,具体的に考え,まと めたり,発表したりして いる。		・高齢者の身体的特徴と 心理的特徴の概要につい て理解している。
	・高齢者が人間としての 尊厳を保ち,人生を全う するためのケアの在り方 などについて考え,まと めたり,発表したりして いる。	・日常生活に必要な基礎 的介助ができる。	・高齢者が社会の一員として自立した生活を送ることの重要性について理解している。 ・人間の尊厳・意思の尊重・・残存能力
・地域社会の一員として,地域福祉の充実に関心をもち,住民相互の助け合いやボランティア活動に参加することの意義について考えようとしている。	・高齢社会の現状と高齢者を取り巻く社会の課題について考え,まとめたり,発表したりしている。	・自分の住む地域の高齢者福祉サービスについて,調査したり,整理したりすることができる。	・我が国の高齢化の特徴 の高齢化の特徴 の高齢化の物の高齢の高齢を強力を強力を強力を強力を強力を対して、 のののののののでは、 ののののののでは、 ののののでは、 のののでは、 のののでは、 ののののでは、 ののののでは、 のののののでは、 ののののののでは、 のののののののののの
【共生社会における家庭や地域】 ・共生社会における家庭や地域の一員として主体的に行動しようとしている。	・共生社会を実現するために,社会の一員として何ができるか考え,工夫している。	・居住する地域のコミュニティ活動やNPOの活動などについて,情報を収集・整理したり,参加したりすることができる。	・共生社会の重要性について理解している。 ・ノーマライゼーションの理念 ・人と人とのネットワーク ・社会的制度

太い点線は単元の区切りであり、単元を項目ごとに細い点線で区切って、単元の評価規準の設定例を示している。

「家庭総合」の他のすべての内容のまとまりにおける<u>評価規準に盛り込むべき事項及び単元の評価規準の設定例</u>は、「学習評価参考資料」に記載されている。

(5)単元(題材)の指導と評価の計画について(「学習評価参考資料」を一部改編)

「家庭総合」の内容のまとまり「(2)子どもや高齢者とのかかわりと福祉」の中の単元「高齢者の生活と福祉」の「指導と評価の計画」を例示する。

時	学習内容	学習活動	ねらい	関	思	技	知	評価規準	評価方法
1 2 3 4	高齢者の 心身の特 徴と生活	・高齢者の身体的な 特徴のイメージを図 示し、文章で説明す る。 ・老いとは何かを理 解し、高齢者につい	高かりといいる。高齢者のといいといい。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、					・加齢にともなう身体的な特徴のイメージを図と文章で自分なりに表現している。	ワークシ -ト
		て自分の考えをまと める。 ・新聞記事を読ん で、高齢者から学ぶ ことについてまとめ	ることがで きる。					・高齢者の心身の特徴と 生活に関心をもち、高齢 者を肯定的に捉えようと している。	観察 ワークシ ート

	上明の黄	る。・現在と50年と50年後の中後の中後の中では、大学のでは、立まり、立まり、立まり、立まり、立まり、立まり、とそれのでは、とそれのでは、とそれのでは、とそれのでは、とのでは、とのでは、とのでは、というでは、これが、というでは、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが	古松≯が土		・高齢期のでは、 ・高齢期のでは、 ・高齢期のでは、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	テスト ペーパー パスト 観察 クト
5 6 7 8	人厳とののの分別である。	・つ衣を・助に思を在り、の表を・助に思を生り、通実に付の生りで、動している。の事とのでは、動して、動には、動は、動には、動いでは、動には、動いでは、重ないででである。では、でのでは、でのでは、でのでは、でのでは、でのでは、でのでは、でのでは、で	てかのて生会した もし、員立を送 を生会したる要	 	・高齢者の意思の尊重を 残存能力を生かいて で在り方についる。 ・日常生活の基礎的けて ・日の技術を身に付けて ・日の技術を身にがして ・一日のかったりのでは、 ・一日のでは、 ・一のでは、 ・一のでは、 ・一のでは、 ・一のでは、 ・一のでは、	ート 観察 ワート 観ワート ペーパー
9 10 11 12	高齢 お合 い	・校でにを概・訪者験かなュののみし、た験庭訪視用を齢し触動た齢をのき高いを対して解雇実合参合にるいいに等てたが、対するがでは、といいに場合をはいれて、出いに等では、が生る施に、で、ン〔、や是〕分と(動のな習。設高(き身夕幼現楽非)かを学等前どのを齢体な近ビ少在し話っま	高へや高イーての心高切こる。齢の、齢ンを、生を齢にと者訪近へビ通齢にちとわで設問なのュし者関、適るき		・高大のでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	ワークシ

13 DE	とめ発表する。 ・豊かな高齢期を迎えるために、な準備を らどのようなに生き ていくか考える。 ・現代社会の高齢者 ・現代に関する現状や 間題点(高齢者福祉	高齢社会の 現状や社会 福祉に関し	 	 	・活動を通して分かった こと、考えたことをまと め、発表している。 ・豊かな高齢期を迎える ために、今をどうときる か考え、発表している。 ・現代社会の高齢者にして、情報を収集し、調	ワークシ ート 観察 ワークシ ート
15 参加	加制度や高が書福祉サービス、地域をでは、地域をでは、地域をでは、地域をできる。といれずりのでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるでは、できるできるが、できるできるが、できるできる。できるできる。できるできる。できるできる。できるできる。できるできる。できるできる。できるできるできる。というできるできる。これは、これは、これは、これは、これは、これは、これは、これは、これは、これは、	てを査レまか発とる発問も研ポとり表が。表意、しト、するでた聞識調てを分くこき、く		 	を収集し、調査・整理することができる。 ・調査したことを基に、自分の考えをレポートにまとめている。 ・作成したレポートを聞きているかりやすく発表している。 ・レポート作成に意欲的に取り組んでいる。	
	そにポ・いとをよいのご考・者す・社に別でにしかで家し分高かとごっ 聞状にあるとえ高といり高かとごっ 聞状て解幅とこえ高といり高かとごっ 聞状て解したがあるにを厳どきがをい。代発 高会といりがあるにを 、社をのついまがのでないがない。代発 高会とがあるにを厳どきがをいるにを 、社をでまる。 しょう こう はい こう はい こう はい こう はい こう はい こう はい こう にん こん こう にん こう にん こう	齢社会の現 状と社会福 祉に関し、 理解し、実 際に地域福			・我が国の高齢化の特徴 や居住地域の高齢を 高高齢を 高高齢齢の ののの高齢の 高齢の を を はな で を を を で の を を の を の を の を の を の に の に の に の に の	テスト

1)表中の観点について

関 … 関心・意欲・態度 思 … 思考・判断・表現

技 … 技能 知 … 知識・理解

2)「指導と評価の計画」については第1章「8 指導計画の作成について」(8~12頁参照)中でその作成に係る留意点等について解説しているので参照する。

(6)教科としての評価に関する留意事項

「関心・意欲・態度」

この観点では、「家庭や地域の生活について関心をもち,その充実向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに,実践的な態度を身に付ける」ことを評価する。そのためには、生徒が主体的に取り組むことができる題材の設定や指導方法を工夫するとともに、学習したことを実生活で活用しようとする態度をワークシートやレポート等を通して効率的に評価することが必要である。

「思考・判断・表現」

この観点では、課題を発見する力、課題解決に向けて工夫したり創造したりする力、分かりやす い資料を作成したり発表したりするといった表現力について評価する。そのためには、言語活動を 一層重視して指導することが必要である。

「技能」

この観点では、衣食住、保育、福祉、消費生活などの各分野において身に付けた技術を評価したり、各分野に関する情報を調査及び収集・整理したりする力について評価する。そのためには、客観性の高い評価ができるような評価方法の工夫が必要である。

「知識・理解」

この観点では、衣食住、保育、福祉、消費生活などの各分野において必要な基礎的・基本的な事項を理解し、知識を身に付けているかを評価する。

教科の特質上、「努力を要する」状況(C)と判断される生徒への対応が遅れないよう、毎時間の授業における活動状況を把握し、その場で一人ひとりの生徒に応じた助言や具体例の提示などを行ったり、グループの取組に積極的に参加するように働きかけたり、学習の状況からグループ編成を工夫したりすることが重要である。

題材又は単元ごとの観点別学習状況の評価及びその総括について

各題材や単元で身に付ける資質や能力を明確にし、題材又は単元ごとの評価計画を作成して具体的な評価規準を設定する。その際、題材又は単元によって重視する観点や評価規準があれば、評価計画作成の段階から評価回数を多くしたり、重み付けをしたりするとともに、観点の趣旨にふさわしい評価方法を適切に選択し組み合わせるなど、多元的に評価することが必要である。

学期及び学年の各科目の観点別学習状況の評価

学期及び学年の各科目の観点別学習状況の評価では、題材又は単元ごとの観点別学習状況の評価を行い、観点ごとに総括して、学期ごとの観点別学習状況の評価とする。その際、補充指導の成果を生かして修正するなど生徒の進歩の状況について配慮する必要がある。

この他にも、観点別学習状況の評価の総括については様々な考え方があり、各学校において工夫 することが望まれる。

(7)Q&A〔家庭(共通教科)〕

- Q 1 単元の評価規準の設定例で空欄になっているところは、評価規準を設定してはいけないのか。
- A 1 家庭科では、あえてすべての評価規準を示していません。評価する場面を明確にし、効率的な 設定例としています。空欄の部分に評価規準を設定してはいけないということではなく、学習活動によっては、評価規準を設定することは可能です。
- Q 2 単元を組み合わせた題材を構成して指導する場合の評価規準の設定はどのようにすればよいか。
- A 2 家庭科では、例えば、食生活と消費生活、高齢者の生活と住生活など、内容相互の関連を図り、題材を構成して指導することも多く、その場合は、「題材の評価規準」とし、題材の指導目標を明確にして複数の内容の「評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を参考にして設定します。

13 情報(共通教科)

(1)教科の目標

情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得させ、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。

(2)教科の評価の観点及びその趣旨

2:	Z IE	:	従 前
関心・意欲・態度	情報や情報社会に関	関心・意欲・態度	情報や情報社会に関
	心をもち , 身のまわり		心をもち,身のまわり
観点名変更なし	の問題を解決するため		の問題を解決するため
	に,自ら進んで情報及		に進んで情報及び情報
	び情報技術を活用し,		技術を活用し,情報社
	社会の情報化の進展に	>	会に主体的に対応しよ
	主体的に対応しようと		うとする。
	する。		
思考・判断・表現	情報や情報社会にお	<u> 思考・判断</u>	情報活用の方法をエ
	ける身のまわりの問題		夫したり,改善したり
	を解決するために , 情		するとともに,情報モ
	報に関する科学的な見		ラルを踏まえた適切な
	方や考え方を活かすと		判断をする。
	ともに情報モラルを踏	>	
	まえて,思考を深め,		
	適切に判断し表現して		
	いる。	<i>J</i>	
<u>技能</u>	情報及び情報技術を	技能・表現	情報の収集・選択・
	活用するための基礎		処理を適切に行うとと
	的・基本的な技能を身		もに,情報を目的に応
	に付け,目的に応じて		じて表現する。
	情報及び情報技術を適		
	切に扱っている。	<u>J</u>	
知識・理解	情報及び情報技術を	知識・理解	情報及び情報技術を
	活用するための基礎		活用するための基礎
観点名変更なし	的・基本的な知識を身		的・基本的な知識を身
	に付け、社会における	<u>}</u>	に付けるとともに,現
	情報及び情報技術の意		代社会における情報の
	義や役割を理解してい		意義や役割を理解して
	る。		いる。



改訂のポイント

「関心・意欲・態度」

- ・「意欲」の観点の趣旨をより明確にするために「自ら」となった。
- ・教科の目標の記述に合わせて、「社会の情報化の進展に主体的に対応しようとする」となった。 「思考・判断・表現」
- ・「関心・意欲・態度」の観点の趣旨の記述を踏まえ、ねらいとする取組を明確化するため に、冒頭部分が「情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために」をなった。
- ・思考し、判断し、表現する活動の前提を明確化するために、教科の目標にある「情報に関する科学的な見方や考え方を活かす」が加わった。
- ・現行の「思考・判断」の観点の趣旨には、「思考」や「表現」に関する観点の趣旨が記述 されていなかったので、それらが加わった。 「技能」
- ・「知識・理解」の観点の趣旨の記述を踏まえ、冒頭部分が「情報及び情報技術を活用する ための基礎的・基本的な技能を身に付け」となった。
- ・「技能」の観点として、「目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱っている」が加わった。 「知識・理解」
- ・教科の目標の記述を受け、「及び情報技術」が加わった。

(3)科目の評価の観点の趣旨(「学習評価参考資料」より抜粋)

社会と情報			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
情報の特徴と情報化	情報や情報社会にお	情報機器や情報通信	情報機器や情報通信
が社会に果たす役割や	ける身のまわりの問題	ネットワークなどを適	ネットワークなどを適
及ぼす影響に関心をも	を解決するために,情	切に活用して情報を収	切に活用して情報を収
ち,身のまわりの問題	報の特徴と情報化が社	集,処理,表現するた	集,処理,表現するた
を解決するために,情	会に果たす役割と及ぼ	めの技能を身に付け,	めの知識を身に付け、
報機器や情報通信ネッ	す影響について,思考	効果的にコミュニケー	情報の特徴と情報化が
トワークを活用し,情	を深め,適切に判断し	ションを行っている。	社会に果たす役割と及
報社会に積極的に参画	表現している。		ぼす影響を理解してい
しようとする。			る。
情報の科学			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
情報社会を支える情	情報社会を支える情	情報及び情報技術を	情報及び情報技術を
報や情報技術の役割や	報や情報技術の役割や	問題の発見と解決に効	問題の発見と解決に効
影響に関心をもち,身	影響及び身のまわりの	果的に活用するための	果的に活用するための
のまわりの問題を解決	問題を解決するために	技能を身に付けて,効	知識を身に付け,情報
するために , 情報及び	情報及び情報技術を活	果的に活用している。	社会を支える情報と情
情報技術を活用し,情	用することについて,		報技術の役割や影響を
報社会の発展に主体的	科学的な考え方を生か		理解している。
に寄与しようとする。	し,思考を深め,適切		
	に判断し表現してい		
	る。		

(4)単元の評価規準について

「情報の科学」の中の三つの内容のまとまりのうち、「(3)情報の管理と問題解決」における単元の評価規準に関する例示を行う。学習指導要領で示された科目の目標を踏まえ、「評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を示している。

【科目の目標(情報の科学)】 -

情報社会を支える情報技術の役割や影響を理解させるとともに、情報と情報技術を問題の発見と解決に効果的に活用するための科学的な考え方を習得させ、情報社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を育てる。

「情報の科学」の内容のまとまり「(3)情報の管理と問題解決」における<u>評価規準に盛り込む</u>べき事項である。(「学習評価参考資料」より一部抜粋)

「(3)情報の管理と問題解決」における評価規準に盛り込むべき事項						
関心・意欲・態度	問題解決において,情報の共有や再利用に関心をもち,情報通信ネットワーク					
	やデータベースを問題解決に活用し,結果に基づき評価し,改善しようとしている。					
思考・判断・表現	問題解決において,情報通信ネットワークやデータベースを活用する方法を工					
	夫し,それらの有効性を評価し,改善している。					
技能	情報を共有し,再利用するために情報通信ネットワークやデータベースを活用					
	するための技能を身に付け,活用することができる。					
知識・理解	情報を共有したり,再利用するために情報通信ネットワークやデータベースを					
	活用するための知識や,問題解決を評価し改善するための知識を身に付けている。					

「情報の科学」の内容のまとまり「(3)情報の管理と問題解決」は、三つの単元で構成されている。これらの単元の評価規準の設定例を示す。(「学習評価参考資料」より一部抜粋)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
【情報通信ネットワークと	└問題解決】		
・問題解決において,情報通信ネットワークを活用しようとしている。 ・問題解決において,情報を共有することに関心をもっている。	・問題決においての考えにおいての考えにおいる表現である適切にいる表現である。 おいのでは、 はいのでは、 はいのでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	・電子を活動では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	・電子メールや電子場では、 大田 では、 大田 では、 本田 できる。 できる
【情報の蓄積・管理とデー	・タベース】		
・身のまわりの情報を蓄 で、まからなった。 では、	・データベースを設計すったかに、情報の蓄きえている。・問題解決における。・問題スの働き、データベース考察し、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは、そのでは	・データベースの作成方 法を身に付けている。 ・問題解決の目的や状況 に応じてデータベースを 効果的に活用することが できる。	・データベースの特徴や機能について理解している。 ・問題解決の目的や状況に応じてデータベースを設計し,活用する方法を理解している。
【問題解決の評価と改善】 ・問題解決を振り返り, 評価し,改善することに 関心をもっている。 ・問題解決の評価手法と してのアンケート調査に ついて,その設計を工大 し,活用しようとしている。	・問題解決の各段階での評価の観点を明らかにしている。 ・問題解決の各段階において,評価の観点に即して評価項目を設定し,評価し,改善している。	・アンケート調査の実施,回収や集計などに際して,情報手段を選択してデータを処理することができる。	・問題解決の過程と結果 について評価し、改善す ることの重要性を理解し ている。 ・アンケート調査を実施 するための知識を身に付 けている。

「情報の科学」の他のすべての内容のまとまりにおける<u>評価規準に盛り込むべき事項及び単元の</u> <u>評価規準の設定例</u>は、「学習評価参考資料」に掲載されている。

(5)単元の指導と評価の計画について(「学習評価参考資料」を一部改編)

「情報の科学」の内容のまとまり「(3)情報の管理と問題解決」の中の単元「『環境と情報の関係を考える高校生会議』を企画しよう」の「指導と評価の計画」を例示する。

п±	学羽市宗	学习注册	th E L L	- 19	思	++	£Π	☆/無担淮	☆/無七:+
時	学習内容 ネットワー	学習活動 Wiki によるペ	ねらい	関	芯	技	知	評価規準 問題解決において、情報	評価方法
1	イットワー クを活用し	WIKIによるへ ージの新規作	Wikiの基本的 な活用を通じ					向起解決にあいて、情報 通信ネットワークの活用	Wiki の活 用場面や
	た Wiki の	成、編集、有	てWikiの活用					方法を探ったり、試した	活用状況
	使い方	用な書式、コ						りしようとしている。	の観察か
		メントなどの	を高める。						ら評価す
		基本的な機能							る。
	W:L:左江田	を活用する。	日日 日百 仏刀 さも ノー					明明の会にもしまれて Wilei	
	Wikiを活用 したグルー	Wiki を活用し て行うグルー	問題解決に Wikiを活用す					│問題解決において、Wiki │などの情報技術を目的や	
	プ分け	プ分けや構						状況に即して活用するた	
		成,活動方針	な知識を身に					めの知識及び利便性や限	
		を決定する。	付け、理解す					界について理解してい	
	Wikiによる	Wiki による会	る。					│る。 │問題解決において、Wiki	提出物と
2	会議の趣旨	獣にによる云						│ 同趣解状にあいて、WIKI │ などの情報技術を目的や	しての企
	の検討	果について討	に必要な情報					状況に即して活用し、情	画提案書
		議する。	を共有し、蓄					報を共有し、蓄積するこ	の内容か
			積する。		ļ			とができる。	ら評価す
	Wikiによる	Wikiによる会	グループで討					企画提案書などを作成、	る。
	グループで 討議	議のテーマ、 期日、会場、	議した内容を 共有し、企画					発表する際に、問題解決 に必要な情報を信頼性や	
	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	新日、云场、 参加者、運営						信憑性、著作権やプライ	
		などについて						バシーに配慮して収集し	
		グループで討						たり、その結果を表現し	
		議した内容を	する。					たりするために必要な知	
	共有する情	共有する。 情報の信頼性	│ │収集する情報					識を理解している。	
	報の検証	や信憑性、著							
	112 -5 17 142	作権などを検							
		証する。	などを検証す						
			るために必要						
			な知識を身に 付ける。						
3	Wikiによる	 Wikiによる情						│ │問題解決において、活動	ワークシ
	情報の収集	報収集の効率	ページ構成や					の効率性を向上させるた	
		性やページ構						めに、情報技術の特性を	
		成、活動方法						生かした方法の改善を図	価する。
		を検討する。	考え、適切に 表現する。					り、内容を適切に表現し ている。	
	Wikiによる	 Wiki のコメン	Wikiのコメン					」といる。 問題解決において、Wiki	
	情報の編集	ト機能を活用						による会議などの活動を	
		する。	などに興味を					効率的にしたり、内容を	
			もつ。					深めたり、興味をもって	
	Wikiページ	分かりやすく	分かりやすい					取り組んでいる。 │Wikiを活用した企画や発	Wikiペー
4	のデザイン	説得力のある	Wikiページデ					表を、分かりやすく、説	
		企画提案書を	ザインの方法					得力のあるものにしよう	ターする
		設計する。	に興味をも					としている。	ことや、
	Wiki 6º 5°	ᄩᇷᆉᄰᇬ	一つ。 桂起共徒の性					明明級汁にもいて 洋野	Wikiの活
		情報技術の特 性を生かした						問題解決において、活動の効率性を向上させるた	
I	1 30 7 9 1 7	T G T N. O IC	「正で王ガ・ひん	I	I	I	I		一氏ホルン

	の評価	活動であるか を評価する。	活動であるか を考える。 		めに、情報技術の特性を 評 価 す 生かした方法の改善を図 る。 り、内容を適切に表現し ている。
	Wikiページ のデザイン の改善	問題解決の活動の内容や構成を改善する。			企画提案書などを作成、 発表する際に、問題解決 に必要な情報を信頼性や 信憑性、著作権やプライ バシーに配慮して収集し たり、その結果を表現し たりするために必要な知 識を理解している。
5	Wikiによる 発表のリハ ーサル	Wiki を 活 用 し、問題解決 の活動のプロ セスを含めて 発表する。	るためのスキ ルや態度を考 え,その結果 を適切に表現 している。		問題解決において、情報 活動状況の共有や再利用を考える の観察や際、効果的にWikiを活用 ワークシするためのスキルや態度 ートの内として何が必要なのかを 容から評整理し、考えを適切に 表現している。
6	Wikiによる 発表	問題解決の結果を質えると言語を受ける。考別である。考別である。	いて関心や考 えを広げたり 深めたり、結		情報の信頼性や信憑性、 著作権やプライバシーに 配慮し、問題解決の結果 を表現するために企画提 案書などを作成、発表す ることができる。 の話用場 から評価 する。
7	評価	問題解決の段 階ごとの活動 を評価し、総 括する。			発表など の Wiki の 活用場面 やワーク シートの
	改善	問題解決に Wikiを効果的 に活用するための改善策に ついて考え る。	問題解決に Wikiを効果的 に活用するた		問題解決において、情報 内容からの共有や再利用を考える 評 価 す際、効果的にWikiを活用 る。するためのスキルや態度として何が必要なのかを整理し、考えを適切に表現している。
	まとめ	各自の 学総 をは のりを のりを のりを は のは のは のは のは のは のは のは のは のは	本単元の活動 を振り返り、 学習内容につ		企画提案書などを作成、 発表する際に、問題解決 に必要な情報を信頼性や 信憑性、著作権やプライ バシーに配慮して収集し たり、その結果を表現し たりするために必要な知 識を理解している。

1)表中の観点について

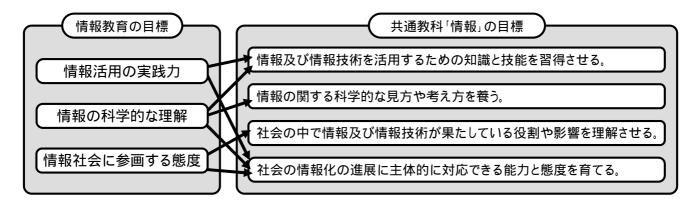
関 … 関心・意欲・態度 思 … 思考・判断・表現

技 … 技能 知 … 知識・理解

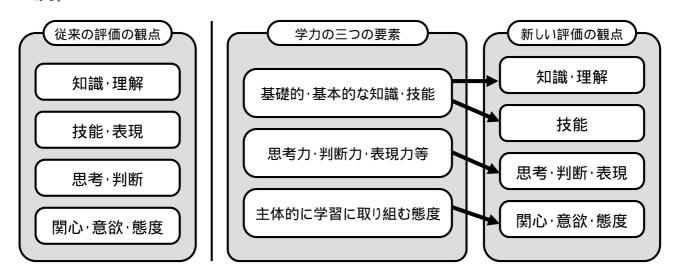
2)「指導と評価の計画」については第1章「8 指導計画の作成について」(8~12頁参照)の中でその作成に係る留意点等について解説しているので参照する。

(6)教科としての評価に関する留意事項

共通教科「情報」の目標は大きく四つに分けられ、情報教育の目標の三つの観点に対応している。



これらは、学力の3要素「基礎的・基本的な知識・技能」、「知識·技能を活用して課題を解決するために必要な思考力·判断力·表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」の育成を踏まえたものである。



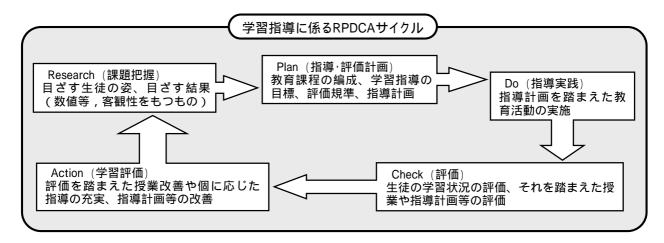
今回の高等学校学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、共通教科「情報」に示された基礎的・基本的な内容を生徒一人ひとりに確実に習得させるためには、共通教科「情報」に示す目標に照らしてその実現状況を見る評価(目標に準拠した評価)を一層重視し、観点別学習状況の評価を基本として、生徒の学習の到達度を適切に評価するとともに、学習指導の改善につなげていくことが重要である。

観点別学習状況の評価の観点を示すに当たっては、基礎的・基本的な知識・技能の習得とこれらを活用する思考力・判断力・表現力等をいわば車の両輪として相互に関連させながら伸ばしていくとともに、学習意欲の向上を図るという改訂の趣旨を反映し、学習指導と学習評価の一体化を更に進めていくため、高等学校学習指導要領等が定める学力の三つの要素に即して評価の観点を整理し、従来の四つの評価の観点の枠組みを基盤としつつ、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」とした。

そこで、基礎的・基本的な知識・技能については「知識・理解」や「技能」において、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等については「思考・判断・表現」において、主体的に学習に取り組む態度については「関心・意欲・態度」においてそれぞれ評価を行うこととした。

学習評価は、生徒が共通教科「情報」の目標に照らしてその実現状況を見ることが求められるものであり、学習指導の改善や学校における教育課程全体の改善に向けた取組と効果的に結び付け、

学習指導に係るRPDCAサイクルの中で適切に実施されることが重要である。



特に、共通教科「情報」の指導に当たっては、きめの細かい学習指導と生徒一人ひとりの学習内容の確実な定着を図るため、生徒の学習状況を分析的に捉える観点別学習状況の評価が、日常の授業においても適切に実施されるべきものであり、生徒の学習状況を総括的に捉える評定と併せて、目標に準拠した評価を適切に実施していくことが求められている。

- (参考)共通教科情報科の言語活動の充実について

- ・ 情報科においては、情報活用能力を育むことをねらいとし、習得した情報に関する知識・技能 や科学的な見方・考え方などを活用して、高度に情報化した社会に積極的に参画したり、その発 展に寄与したりすることができる能力・態度の育成を重視する。言語活動を取り上げる際には、 生徒が主体的に考え、討議し、発表し合う学習活動を取り入れ、言語などを活用して、新たな情 報を創り出したり、分かりやすく情報を表現したり、正しく伝達したり、他者と共同して問題を 適切に解決する学習活動を充実する。その際、「情報教育が目ざしている情報活用能力を育むこ とは、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着とともに、発表、記録、要約、報告といった知 識・技能を活用して行う言語活動の基盤となるものである。」という平成20年答申の提言の趣旨 を十分に踏まえた学習活動とする必要がある。
- ・ 「社会と情報」においては、情報手段などを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的なコミュニケーションを行うために必要な基礎的な知識・技能を習得させるために、情報手段等の目的に応じた適切な選択、情報の信憑性や著作権への配慮の必要性・重要性、望ましい情報社会の在り方と情報技術の適切な活用等について、生徒が主体的に考え、討議し、発表し合う等の学習活動を充実する。
- ・ 「情報の科学」においては、情報や情報技術を問題の発見と解決に効果的に活用するための科学的な考え方を習得させるために、複数の問題解決策の考案と目的・状況に応じた解決策の選択、問題解決の過程と結果の評価・改善、情報技術の進展が社会に果たす役割と影響等について、生徒が主体的に考え、討議し、発表し合う等の学習活動を充実する。

(7)Q&A〔情報(共通教科)〕

- Q 1 新しい学習指導要領において言語活動の充実が求められているが、共通教科「情報」における 言語活動はどのように評価したらよいのか。
- A 1 言語活動そのものを評価するのではなく、その活動で思考力・判断力・表現力等や共通教科「情報」で育成すべき能力が身に付いたかどうかを評価することになります。
- Q 2 生徒たちがグループ内で発表し合う活動での評価はどのようにしたらよいのか。
- A 2 生徒がグループ内で発表を行う場合などでは、生徒の発表活動そのものを評価することは困難です。発表そのものを評価することにとらわれずに、作品やワークシートの評価、生徒による自己評価や相互評価などを通して、発表活動により身に付いた力を評価することができます。また、グループ内の相互評価により選出された生徒がクラス全体で発表する機会を設けることにより、「十分に満足できる」状況を記録することができます。

14 総合的な学習の時間

(1)総合的な学習の時間の目標

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して,自ら課題を見付け,自ら学び,自ら考え,主体的に判断し,よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに,学び方やものの考え方を身に付け,問題の解決や探究活動に主体的,創造的,協同的に取り組む態度を育て,自己の在り方生き方を考えることができるようにする。

(2)評価の観点

評価を行うに当たっての基本的な考え方

総合的な学習の時間の評価においては、従来どおり、各学校が自ら設定した目標や内容を踏まえて 観点を設定し、それに即して文章の記述による評価を行う。

総合的な学習の時間の記録として、「(1)学習活動」の項目には、総合的な学習の時間において行った学習活動を文章で記述する。また、「(2)評価」の項目には、各学校が定めた総合的な学習の時間の目標、内容に基づいて各学校が定めた評価の観点を踏まえて、生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、生徒にどのような力が身に付いたかを文章で記述する。

評価の観点の例

実際に各学校が評価の観点を定める場合においては、「改善通知」において小・中学校に示された次の ~ の例示を参考にすることが考えられる。

学習指導要領に示された総合的な学習の時間の目標、ないしは、それを踏まえて各学校で定めた 目標及び内容を踏まえた観点

(例)「よりよく問題を解決する資質や能力」、「学び方やものの考え方」、「主体的、創造的、協同的に取り組む態度」、「自己の生き方」等

特徴

・ 各観点を通して評価することが、総合的な学習の時間の目標の実現状況を評価することに直接的に つながる。

配慮すべき事項

・ 各学校において評価の観点を定め、評価規準を設定するに当たっては、具体的な学習活動における 学習対象や学習事項などを踏まえることに配慮する必要がある。

学習指導要領に示された「学習方法に関すること」、「自分自身に関すること」、「他者や社会とのかかわりに関すること」等の視点に沿って各学校で定めた、育てようとする資質や能力及び態度を踏まえた観点

- (例1)「学習方法」、「自分自身」、「他者や社会とのかかわり」等
- (例2)「課題設定の力」(学習方法)、「情報収集の力」(学習方法)、「将来展望の力」 (自分自身)、「社会参画の力」(他者や社会とのかかわり)等

特徴

- ・ 各学校で定めた「育てようとする資質や能力及び態度」を踏まえた観点を定めることは、総合的な 学習の時間で実現を目ざす「育てようとする資質や能力及び態度」等について、その実現状況を評 価することになる。
- ・ 学習指導要領に示された「学習方法に関すること」、「自分自身に関すること」、「他者や社会とのかかわりに関すること」及びその具体としての「課題設定の力」、「情報収集の力」、「将来展望の力」、「社会参画の力」などの観点により、実現したい生徒の姿を想起しやすい。 観点ごとの実現状況を評価するに当たって、観点間の重複が生じにくい。

配慮すべき事項

・ と同様に、各学校において評価の観点を定め、評価規準を設定するに当たっては、具体的な学習 活動における学習対象や学習事項などを踏まえることに配慮する必要がある。

各教科の評価の観点との関連を明確にした観点

(例)「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」等 特徴

・ 各教科との関連が明確になるとともに、学習課題や学習対象、学習事項などの内容についての実現 状況を評価しやすい。

配慮すべき事項

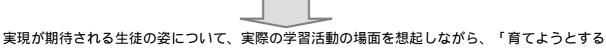
・ 「技能」や「知識・理解」の観点において知識・技能を身に付けているかどうかのみにとらわれたり、「自己の在り方生き方を考えることができるようにする」に関わる観点について、その実現状況を評価することが十分に行われなかったりすることが考えられるため、一人ひとりがどのように知識・技能を獲得していったかを評価することや自己の在り方生き方に関して4観点の中に位置付けることに配慮する必要がある。

(3)評価規準の設定方法

各学校の全体計画を基に、単元で実現が期待される「育てようとする資質や能力及び態度」と「内容」を設定する。



各観点に即して実現が期待される生徒の姿が、単元のどの場面のどのような学習活動において、 どのような姿として実現されるかをイメージする。



(4)指導と評価の計画について

各学校で定めた「育てようとする資質や能力及び態度」を踏まえた観点を定め、評価規準を設定 した「指導と評価の計画」を例示する。(「学習評価参考資料」を一部改編)

単元名

「情報発信・自己探究」(第3学年 全35時間)

資質・能力及び態度」と「内容」に照らし合わせて、具体的に記述する。

年間指導計画における本単元の位置付け

	地域活性化プロジェクト						
	地域探検・課題設定						
1 年	ガイダンス グループワークによる			グループワークによ	2年次の研究		
' -	(3時間)	引) 地域探検 1 (13時間)		地域探検 2 (13時間)	地域探検 2 (13時間)		
						(6時間)	
	課題研究(アンケート・フィールドワーク)						
2年	アンケートと	フィールドワーク	アンケートと	とフィールドワーク 研究のまと		まとめ・発表	
	による調査・	研究 1 (13時間)	時間) による調査・研究 2 (13時間)])	
	情報発信・自己探究						
3年	論文による情報発信 リーフレット。			ここ		3年間の学習のまとめ	
	(10時間)		(18時間)			(7時間)	

単元の目標

地域に関する研究成果の発表活動を、学校内外で繰り返し実施することで、他者の考えを知り、 地域への理解を深め、地域社会に貢献するとともに、自己の在り方生き方を明らかにしようとする。 単元の評価規準

評価の観点 (単元で育てよう	学習方法	自分	自身	他者や社会とのか かわり
とする資質や能力 及び態度)	相手や目的、意図 に応じて、手際よ く論理的に表現す る。 【表現力】	目標を明確にし、 課題の解決に向け て計画的に着実に 行動する。 【計画実行】	自己の将来について具体的に考え、夢や希望をもつ。 【将来展望】	異なる意見や他者 の考えを受け入 れ、尊重し理解し ようとする。 【他者理解】
単元の評価規準	地域貢献に関する 自分の考え及び自 分自身の成長につ いて、相手や目的 に応じて、構成や 展開を工夫し発表 している。	論文のテーマンの 一文の内容を検討でない。 でないが、いいして、 では、いいして、 では、いいしで、 では、いいしで、 では、いいしで、 では、いいしで、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	自分が生活する地域の将来を考え、地域の一員としての自己の在り方生き方について文章にまとめている。	リーフレットの内 容を、地域に役立 つものにするため に、他者の意見を 参考に修正してい る。

指導と評価の計画

小単元名			評価	
(時数)		学習活動	規準	評価方法
「論文に よる情報 発信」	論文の評価 (3時間)	2年次の課題研究の成果をまとめた論文の評価会を開催し、文章表現や内容に関する疑問点や問題点などを指摘し合う。	計画 実行	【自己評価·相互評価】 評価シート
(10時間)	論文の修正 とweb公開 (7時間)	指摘等を踏まえて、改善計画書を作成し、論文を修正する。必要に応じて追加の調査などを行う。 完成した論文(要旨)をWeb上に公開する。		【制作物の評価】 論文改善計画書 論文(要旨)
「リーフ レットに よる情報 発信」 (18時間)	発表 (7時間)	研究成果を地域に役立つ内容のリーフレット (A4サイズ)にまとめる。 評価会を開催し、生徒同士で評価・助言し合うことで、リーフレットをより実践的(実社会で使用可能)なものへと改善する。	他者 理解	【観察評価】 行動観察 【自己評価・相互評価】 評価シート
	校内発表 廊下に掲示 発表 (3時間)	リーフレットを廊下に掲示して、全校生徒と 全職員から、意見(コメント票)をもらい、よ りよいものへと改善する。 他者のリーフレットを見て、コメント票に意 見を書くとともに、他者のまとめ方を自分のリ ーフレットの参考にする。		アドバイスカード
	校外発表 地域の文化 祭に出品 (2時間)	リーフレットの概要や特徴、主な対象年齢や活用例などを記したカードを作成し、研究成果の概要を説明する。 リーフレットを地域の文化祭等に出品し、地域の方に研究成果を紹介する。またコメント票などで助言(評価票への投票、コメント票への記入)をもらう。 第三者評価によるコメントなどを生かして、改善計画書を作成し、リーフレットをより実践的なものへと改善する。	実行	【制作物の評価】 リーフレット 説明文カード 改善計画書 【自己評価】 自己評価シート
	校外発表 研究成果を 地域に紹介	リーフレットの地域への配付を目ざして、研 究成果を役場等に発表に行く。また、より実践 的なものになるように助言をもらう。		

	(6時間)			
3年間の 学習のま とめ (7時間)	学習成果の まとめ (3時間)	3年間の活動で使用した資料(ポートフォリオ)を他者が見たときにも分かりやすいように整理する。(並べ替え、取捨選択、インデックス) ポートフォリオを活用して、3年間の活動を振り返り、学習成果を振り返りシートにまとめる。	将来展望	【制作物の評価】 ポートフォリオ 振り返りシート
	学習成果の 発表 (4時間)	学習成果を下級生等に発表するために、プレゼンテーションソフトを用いてスライド8枚にまとめる。 ポスターセッションにより、学習成果を下級生等に分かりやすく説明する。 ポートフォリオ(論文含む)とリーフレットを活用して研究成果や学んだ内容を説明するともに、パネルに貼り付けたA4スライド8枚を使用して、工夫したことや苦労したこととを使用して高めることができた資質や能力はで記して説明する。また、自分が生活する地にどのように関わりをもとうとしている。この在り方生き方について考えを述べる。	表現力	【制作物の評価】 パワーポイントの スライドを貼り付け たポスター(パネル) 【観察評価】 相手や目的に応じ て、構成や展開を工 夫している生徒の活 動

(5)評価結果の総括と指導要録の記載

指導要録における「総合的な学習の時間の記録」の記述に当たっては、この時間に行った学習活動を記入した上で、それらのうち、生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、生徒にどのような力が身に付いたかを文章で記述するものである。記述に当たっては、単なる活動のみにとどまることがないよう留意する必要がある。

143~144頁に掲載の単元「情報発信・自己探究」について、評価結果の総括の作成例を示す。

学習		評価の	D観点	評価結果の総括(例)	
状況	表現力	計画実行	将来展望	他者理解	計画紀末の総括(例)
生徒 1 の記録	創意工夫に よりたいへ ん分かりや すい表現を 行っていた	質の高い改善計画書を 作成していた	おおむね満 足できる状 況であった	対立する意 見を積極的 に受け止め 改善に役立 てていた	地域貢献に関して他者の意見を十分 に尊重し、質の高い改善計画書の作成 と研究成果の発表を通して、自己の在 り方生き方を意識することができた。
生徒 2 の記録	おおむね満 足できる状 況であった	おおむね満 足できる状 況であった	地域 を は な な の ま の ま の き か に し い た し い た し い た し に い た し に い に れ た し に に に に に に に に に に に に に	おおむね満 足できる状 況であった	地域貢献に関して他者の意見を聞き、改善計画書の作成と研究成果の発表を通して、自己の在り方生き方を明らかにすることができた。

総括(例)の留意点

生徒の学習状況に顕著な事項がある場合その特徴を記録し、このことを踏まえ評価結果の総括を 行う。

(6)Q&A(総合的な学習の時間)

- Q 1 毎時間の授業で評価を行う必要があるか。
- A 1 毎時間評価を行う必要はありません。生徒の学習状況に顕著な事項が現われる場面において行います。
- Q 1 評価結果を総括する際に、評価規準に係る内容だけを記述するのか。
- A 2 評価規準に関わらず教育的に望ましい成長や価値のある学習状況が現れた場合、生徒の姿を価値付け、そのよさを記述することも大切なことです。

第3章

教科別資料(専門教科)

掲載内容

(1)教科の目標

各教科の学習指導要領で示された教科の目標を掲載している。

- (2)教科の評価の観点及びその趣旨 各教科の評価の観点及びその趣旨について掲載している。
- (3)科目の評価の観点の趣旨 教科内の主要な科目における評価の観点の趣旨を掲載している。
- (4)単元(題材)の評価規準について 「学習評価参考資料」には、評価規準を作成する際の参考事項として評価規準に盛り込むべき事項 ²及び評価規準の設定例 ³の二つが示されており、ここではその一部を紹介している。
- (5)単元(題材)の指導と評価の計画について 1 ある単元(題材)の「指導と評価の計画」を例示している。
- (6)教科としての評価に関する留意事項 ¹ 教科別に、評価を行う際の留意事項について解説している。観点別学習状況の評価の総括の具体的方法等を含め、取組の推進につながる話を盛り込んでいる。

(7)Q&A

- 1 「9 理数」、「10 体育」、「11 音楽」、「12 美術」、「13 英語」に 関しては、(4)~(7)は掲載していない。
- 2 「評価規準に盛り込むべき事項」 新しい学習指導要領の各教科の目標、各科目の目標及び内容、「改善通知」で 示されている「教科の評価の観点及びその趣旨」を踏まえた「科目の評価の観点 の趣旨」を基に内容のまとまりごとに示したものである。
- 3 「評価規準の設定例」

「評価規準に盛り込むべき事項」をより具体化したものである。新しい学習指導要領の各教科の目標、各科目の目標及び内容の他に、当該部分の学習指導要領解説の記述を基に示したものである。

1 農業

(1)教科の目標

農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、農業の社会的な意義や役割について理解させるとともに、農業に関する諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、持続的かつ安定的な農業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

(2)教科の評価の観点及びその趣旨

改	ΙΕ	従	前
関心・意欲・態度	農業に関する諸課	関心・意欲・態度	農業に関する諸問
	題について興味・関		題について関心をも
観点名変更なし	心をもち,その改		ち,その改善・向上
	善・向上を目指して		を目指して意欲的に
	主体的に取り組もう	<u>} </u>	取り組むとともに,
	とするとともに,実		創造的,実践的な態
	践的な態度を身に付		度を身に付けてい
	けている。		る。
思考・判断・表現	農業に関する諸課	<u>思考・判断</u>	農業に関する諸問
	題の解決を目指して		題の解決を目指して
	思考を深め,基礎		自ら思考を深め,基
	的・基本的な知識と		礎的・基本的な知識
	技術を基に,農業に		と技術を活用して適
	携わる者として適切		切に判断し,創意工
	に判断し,表現する		夫する能力を身に付
	創造的な能力を身に		けている。
	付けている。	<u> </u>	
<u>技能</u>	農業の各分野に関	<u>技能・表現</u>	農業の各分野に関
	する基礎的・基本的		する基礎的・基本的
	な技術を身に付け、		な技術を身に付け,
	農業に関する諸活動		実際の仕事を合理的
	を合理的に計画し、		に計画し,適切に処
	その技術を適切に活	<u> </u>	理するとともに,そ
	用している。		の成果を的確に表現
		<u></u>	する。
知識・理解	農業の各分野に関	知識・理解	農業の各分野に関
	する基礎的・基本的		する基礎的・基本的
観点名変更なし	な知識を身に付け、		な知識を身に付け,
	農業の意義や役割を	<u> </u>	農業の意義や役割を
	理解している。		理解している。

改訂のポイント

従前の「諸問題」から、「諸課題」へと改められた。「諸課題」には、多様化する消費者ニーズ、生産から加工、流通までを目ざす農業の6次産業化、ITやコンピュータ制御等を活用した植物工場等に見られる生産技術の高度化、輸出を意識した高品質で安全・安心な農産物の流通などが挙げられる。

農業に関する課題を見付け、自分自身や社会のものとして解決することの重要性を理解 し、主体的な態度で取り組むことが重要であるとされた。

確かな知識と技術に裏付けされた思考力や判断力、創造力や実践力が必要であると同時に、食や環境に関わる職業に従事する者として求められる職業人としての規範意識に基づく倫理観が必要であるとされた。

(3)科目の評価の観点の趣旨

原則的に履修することとなっている「農業と環境」の評価の観点の趣旨を例示する。(「学習評価参考資料」より抜粋)

農業と環境			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
農業生物の育成と環	農業生物の育成と環	農業生物の育成と環	農業生物の育成と環
境の保全など農業と環	境の保全など農業と環	境の保全など農業と環	境の保全など農業と環
境について興味・関心	境に関する諸課題の解	境に関する基礎的な技	境に関する基礎的な知
をもち,課題の探究に	決を目指して思考を深	術を身に付け,農業生	識を身に付け,農業生
意欲的に取り組むとと	め,基礎的な知識と技	物の育成と環境の保全	物の特性と栽培・飼育
もに,その課題を科学	術を基に,課題を適切	に関するプロジェクト	環境や環境保全・創造
的に捉えて合理的に解	に判断するとともに、	を合理的に計画し,そ	の重要性を理解してい
決しようとする実践的	科学的に捉えて合理的	の技術を適切に活用し	る 。
な態度を身に付けてい	に解決し表現する創造	ている。	
る。	的な能力を身に付けて		
	いる。		

(4)単元(題材)の評価規準について

「農業と環境」の中の四つの内容のまとまりのうち、「(2)農業生産の基礎」における単元の評価規準に関する例示を行う。学習指導要領で示された科目の目標を踏まえ、「評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を示している。

【科目の目標(農業と環境)】 —

農業生物の育成と環境の保全についての体験的,探究的な学習を通して,農業及び環境に関する学習について興味・関心を高めるとともに,科学的思考力と課題解決能力を育成し,農業及び環境に関する基礎的な知識と技術を習得させ,農業の各分野で活用する能力と態度を育てる。

「農業と環境」の内容のまとまり「(2)農業生産の基礎」における<u>評価規準に盛り込むべき事</u>項である。(「学習評価参考資料」より一部抜粋)

「(2)農業生産の基礎」における評価規準に盛り込むべき事項					
関心・意欲・態度	農業生産の基礎について興味・関心をもち,農業生物の育成と栽培・飼育環				
	境について探究しようとしている。				
思考・判断・表現	農業生産に関する諸課題の解決を目指して思考を深め,基礎的な知識と技術				
	を基に合理的に判断し,その過程や結果を適切に表現している。				
技能	農業生産に関する基礎的な技術を身に付け,農業生物の育成に関するプロジ				
	ェクトを合理的に計画し,その技術を適切に活用している。				
知識・理解	農業生産に関する基礎的な知識を身に付け,農業生物の育成と栽培・飼育環				
	境を関連付けて理解している。				

「農業と環境」の内容のまとまり「(2)農業生産の基礎」は,五つの単元で構成されている。 これらの単元の評価規準の設定例を示す。(「学習評価参考資料」を一部抜粋)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
【農業生物の種類と特性】 ・農業生物の種類と特性 について興味・関心をも ち,生理・生態的な特性 と生育の規則性について 探究しようとしている。	・農業生物の種類と特性 に関する諸課題の解決を 目指して思考を深め,基 礎的な知識と技術を基に 合理的に判断し,その過 程や結果を適切に表現し ている。	・農業生物の種類と特性 に関する基礎的な技術を 身に付け,農業生物の育 成に関するプロジェクト を合理的に計画し,その 技術を適切に活用してい る。	・農業生物の種類と特性 に関する基礎的な知識を 身に付け,生理・生態的 な特性と生育の規則性を 理解している。
【農業生物の栽培・飼育】・農業生物の栽培・飼育】・農業生物の栽培・飼育について興味・関心をもち,農業生物の特性,栽培・飼育環境及びそれらの管理技術が相互に関係していることについて探究しようとしている。	・農業生物の栽培・飼育 に関する諸課題の解決を 目指して思考を深め,基 礎的な知識と技術を基に 合理的に判断し,その過 程や結果を適切に表現し ている。	・農業生物の栽培・飼育 に関する基礎的な技術を 身に付け,農業生物の育 成に関するプロジェクト を合理的に計画し,その 技術を適切に活用してい る。	・農業生物の栽培・飼育 に関する基礎的な知識を 身に付け,農業生物の特 性,栽培・飼育環境及び それらの管理技術が相互 に関係していることを理 解している。
【育成環境の要素】 ・育成環境の要素につい て興味・関心をもち,育 成環境の各要素が農業生 物の生育に影響を及ぼす ことについて探究しよう としている。	・育成環境の要素に関する諸課題の解決を目指して思考を深め,基礎的な知識と技術を基に合理的に判断し,その過程や結果を適切に表現している。	・育成環境の要素に関する基礎的な技術を身に付け、農業生物の育成に関するプロジェクトを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	・育成環境の要素に関する基礎的な知識を身に付け,育成環境の各要素が 農業生物の生育に影響を 及ぼすことを理解している。
【農業生産物の利用】 ・農業生産物の利用について興味・関心をもち、生産物の良否が食品や加工原料の良否に関係することについて探究しようとしている。	・農業生産物の利用に関する諸課題の解決を目指して思考を深め,基礎的な知識と技術を基に合理的に判断し,その過程や結果を適切に表現している。	・農業生産物の利用に関する基礎的な技術を身に付け,農業生物の育成に関するプロジェクトを合理的に計画し,その技術を適切に活用している。	・農業生産物の利用に関する基礎的な知識を身に付け,生産物の良否が食品や加工原料の良否に関係することを理解している。
【農業生産の計画・管理・評価】 ・農業生産の計画・管理・評価について興味・ 関心をもち,その方法に ついて探究しようとして いる。	・農業生産の計画・管理・評価に関する諸課題の解決を目指して思考を深め,基礎的な知識と技術を基に合理的に判断し,その過程や結果を適切に表現している。	・農業生産の計画・管理・評価に関する基礎的な技術を身に付け,農業生物の育成に関するプロジェクトを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	・農業生産の計画・管理・評価に関する基礎的な知識を身に付け,その方法を理解している。

「農業と環境」の他のすべての内容のまとまりにおける<u>評価規準に盛り込むべき事項及び単元の</u> <u>評価規準の設定例は、「学習評価参考資料」に掲載されている。</u> (5)単元(題材)の指導と評価の計画について(「学習評価参考資料」を一部改編)

「農業と環境」の内容のまとまり「(2)農業生産の基礎」の中の単元「トウモロコシの栽培と利用」の「指導と評価の計画」を例示する。

次	学習内容	学習活動	ねらい	関	思	技	知	評価規準	評価方法
第3次(2時間扱い)	トコのェ回方 ロキジョン リカリン リカリン リカリン リカリン リカリン リカリン リカリン リカ	トウモロコシ の栽培計画を ワークンで作成 する。	トウモロシの 生育 過程を まった 音過 せい という という という ない まった という はい					トウモロコシの生育過程 や管理作業を踏まえて、 栽培計画を考え、作成し ている。	ワークシ -ト
第4次(2時間扱い	トウモロ コシの栽 培環境	圃場の土壌の土壌を までは の土壌を は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	トウモロコシの 栽培環境につい て理解させる。					圃場の土壌状態を理解し、生育に適した肥料や土壌の基礎的な知識が身に付いている。	小テスト
2)		三相分布測定 のためのサン プル採集と土 壌PHを測定す る。	三相分布の測定と土壌pHの測定・調整の方法を身に付ける。					土の三相分布の測定、土 壌pH測定や調整に関する 基礎的な技術を身に付け ている。	実習レポート
第5次(2時間扱い)	トコ培(・整ルたウシ(耕施地チねモの(う)をありません。	耕うんや施肥、 整地、マルチ ングにつな技術 を基に作業を 行う。	トウモロ(栽培・では、 地・マルまきが についてでする。 がでいていてでする。 にいていているがでする。					耕うんや施肥、整地、うね立て、マルチング、たねまきなどを適切に行い、使用する農具や肥料を適切に扱っている。	立て状態、 マルチン グ仕上が り・たね まき状況)
		トウモロコシ の栽培 て フロート・実習 レポート等を使って で復習する。	トウモロコシの 栽培や農業学習 への興味・関心を高める。					トウモロコシの栽培に関心をもち、栽培や環境要素に関する学習に意欲的に取り組んでいる。	実習レポート
第6次(2時	トウモロ コシ栽培 の土壌環 境	三相分布の測 定方法を確認 し、中和によ る土壌pHの変 化を調べる。	土壌の三相分布 と中和後の土壌 pHの変化・地温 について理解さ せる。					土壌の三相分布と中和後の土壌PHの変化・地温と生育環境について理解している。	実習レポート
問扱い)		土の三相分 一の 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、 一、	土の三相分布や 土壌内は、果を 別にまれる いたででは を は を は を は を は を は を は を は を り り に り に り り り り り り り り り り り り り り					土の三相分布や土壌pH、 地温の測定結果を科学的 に考察し、トウモロコシ の生育に及ぼす相互関係 を表現している。	実習 レポート

1)表中の観点について

関 … 関心・意欲・態度 思 … 思考・判断・表現

技 … 技能 知 … 知識・理解

2)「指導と評価の計画」については第1章「8 指導計画の作成について」(8~12頁参照)の中でその作成に係る留意点等について解説しているので参照する。

3)全体で25次(35時間)ある単元の指導と評価の計画のうち、第3次~6次までを例示した。

(6)教科としての評価に関する留意事項

関心・意欲・態度

本観点では、生徒が農業に興味・関心をもち、学習に意欲的に関わり、それらを科学的に探究しているかを、発言や行動の観察、記述内容などから状況を把握する。

思考・判断・表現

本観点では、生徒が農業に関する問題を見いだし、目的意識をもって観察、実験などを行い、 その結果を多面的に分析して解釈するなど、科学的に探究する過程において思考したことなどを、 記述や発言の内容、ペーパーテストなどから状況を把握する。

技能

本観点では、生徒が農業に関する観察、実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理、資料の活用の仕方などを身に付けているかどうかを、行動の観察や記述の内容、パフォーマンステスト、ペーパーテストなどから状況を把握する。

知識・理解

本観点では、生徒が農業に関する基本的な知識を身に付け、農業の社会的な意義を理解しているかを、実習レポートの記述や発言、ペーパーテストなどから状況を把握する。

(7)Q&A(農業)

- Q 1 テストによる評価については、「知識・理解」の評価だけを行えばよいのか。
- A 1 小テストや定期テスト等において実施するペーパーテストについては、「知識・理解」の評価だけを行うのではなく、他の3観点についても評価することができるペーパーテストを作成することが望まれます。確実に身に付けさせたい「技能」については、パフォーマンステストを行うことも有効です。
- Q 2 「農業と環境」以外の科目の評価規準は、どのように設定すればよいか。
- A 2 本手引きに掲載されている科目以外の各科目の評価規準を設定する場合には、第1章や「学習評価参考資料」を参考にして、学習指導要領に定められた目標や内容、教科「農業」の評価の観点及びその趣旨を踏まえて、「単元(題材)の評価規準」を設定します。なお、科目の評価の観点の趣旨の考え方については、第1章の8~9頁を、単元の評価規準の設定については、第1章の14頁を参照してください。

2 工業

(1)教科の目標

工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ,現代社会における 工業の意義や役割を理解させるとともに,環境及びエネルギーに配慮しつつ,工業技 術の諸問題を主体的,合理的に,かつ倫理観をもって解決し,工業と社会の発展を図 る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

(2)教科の評価の観点及びその趣旨

7/7	ΙĒ	·····································	前
関心・意欲・態度	工業技術に関する	<u> </u>	工業技術に関する
(表)(D) (总)(A) (高)(A) (\alpha)(A) (諸課題について関心	> 因心:思以:思友	諸問題について関心
観点名変更なし	語味趣に Jい C 関心 をもち , その改善・		商の趣に うい (関心 をもち , その改善・
	, , , , , , , , ,		
	向上を目指して主体	<u>} </u>	向上を目指して意欲し
	的に取り組もうとする		的に取り組むととも
	るとともに , 実践的		に,創造的,実践的
	な態度を身に付けて		な態度を身に付けて
	いる。	The Mediate	いる。
思考・判断・表現	工業技術に関する	② <u>思考・判断</u> ■	工業技術に関する
A	諸問題の解決を目指		諸問題の解決を目指
	して思考を深め,基		して自ら思考を深
	一礎的・基本的な知識		め,基礎的・基本的
	と技術を基に,技術	<u> </u>	な知識と技術を活用
	者として適切に判断		して適切に判断し,
	し,表現する創造的		創意工夫する能力を
	な能力を身に付けて		身に付けている。
	いる。	<u></u>	
<u>技能</u>	工業の各分野に関	技能・表現	工業の各分野に関
	する基礎的・基本的		する基礎的・基本的
	な技術を身に付け ,		な技術を身に付け、
	環境に配慮し,もの		環境に配慮し,実際
	づくりを合理的に計		の仕事を合理的に計
	画し,その技術を適		画し,適切に処理す
	切に活用している。		るとともに , その成果を
			的確に表現する。
知識・理解	工業の各分野に関	知識・理解	工業の各分野に関
	する基礎的・基本的		する基礎的・基本的
観点名変更なし	な知識を身に付け、		な知識を身に付け、
	現代社会における工		現代社会における工
	業の意義や役割を理		業の意義や役割を理
	解している。		解している。

改訂のポイント

工業技術者として、単に技術的課題を改善するだけでなく、主体的に自らが創意工夫をすることができるとともに、技術者として求められる倫理観を身に付け、より実践的な技術・技能をあわせもち、工業と社会の発展に寄与することができる技術者を育成するということを明確にした。

工業技術者として原材料の選定から加工、組立、廃棄までの過程などにおいて、今日的課題である環境とエネルギーについて配慮することができるとともに、伝統的な技術・技能を継承した上で、ものづくりを合理的に計画し、その技術を適切に活用できることを重視した。

(3)科目の評価の観点の趣旨

「機械工作」の評価の観点の趣旨を例示する。(「学習評価参考資料」より抜粋)

機械工作			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
機械工作に関する諸	機械工作に関する諸	機械工作に関する基	機械工作に関する基
課題について関心をも	課題の解決を目指して	礎的・基本的な技術を	礎的・基本的な知識を
ち,その改善・向上を	思考を深め,基礎的・	身に付け,安全や環境	身に付け,現代社会に
目指して主体的に取り	基本的な知識と技術を	に配慮し , ものづくり	おける工業の意義や役
組もうとするととも	基に,技術者として適	を合理的に計画し,そ	割を理解している。
に,実践的な態度を身	切に判断し,表現する	の技術を適切に活用し	
に付けている。	創造的な能力を身に付	ている。	
	けている。		

(4)単元(題材)の評価規準について

「機械工作」の中の六つの内容のまとまりのうち、「(3)各種の工作法」における単元の評価 規準に関する例示を行う。学習指導要領で示された科目の目標を踏まえ、「評価規準に盛り込むべ き事項」及び「評価規準の設定例」を示している。

【科目の目標(機械工作)】

機械工作に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。

「機械工作」の内容のまとまり「(3)各種の工作法」における<u>評価規準に盛り込むべき事項</u>である。(「学習評価参考資料」より一部抜粋)

「(3)各種の工作法」における評価規準に盛り込むべき事項						
関心・意欲・態度	各種の工作法に関する諸課題について関心をもち,ものづくりに対して主体					
	的に取り組もうとするとともに , 実践的な態度を身に付けようとしている。					
思考・判断・表現	各種の工作法に関する思考を深め,基礎的・基本的な知識と技術を基に,技					
	術者として適切に判断し,表現する創造的な能力を身に付けている。					
技能	各種の工作法に関する基礎的・基本的な技術を身に付け,安全や環境に配慮					
	し,ものづくりを合理的に計画し,その技術を適切に活用している。					
知識・理解	各種の工作法に関する基礎的・基本的な知識を身に付け,現代社会における					
	機械工作の意義や役割を理解している。					

「機械工作」の内容のまとまり「(3)各種の工作法」は二つの単元で構成されている。これらの単元の評価規準の設定例を示す。(「学習評価参考資料」より一部抜粋)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
【主な工作法】 ・鋳造,溶接,切削など 主な工作法の工作機械や 装置の構造,機能及び操 作について関心をもち, 材質や形状に応じた加工 方法について主体的に探 究しようとしている。	・鋳造,溶接,切削など主な工作法に関する思考を深め,基礎的・基本的な知識と技術を基に,適切に判断し,表現している。	・鋳造,溶接,切削など礎主な工作法に関する基金的・基本的な技術やする安全ともに,機械実習と関付けることに活用して対抗を適切に活用している。	・鋳造, 物間などの主などでは、切削などの主な工作法の原理と方法ので発展の動向にでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で
【特殊な工作法】 ・レーザー加工,放電加工などの特殊な工作法について関心をもち,最新の技術について主体的に探究しようとしている。	・レーザー加工,放電加工などの特殊な工作法に関する思考を深め,基礎的・基本的な知識と技術を基に,材質や形状から,適切な工作法を判断し,表現している。	・レーザー加工,放電加工などの特殊な工作法に関する作業内容や操作方法を身に付け,適切に活用している。	・レーザー加工,放電加工などの特殊な工作法の原理と方法について理解している。

「機械工作」の他のすべての内容のまとまりにおける<u>評価規準に盛り込むべき事項</u>及び<u>単元の評価規準の設定例</u>は、「学習評価参考資料」に記載されている。

(5)単元(題材)の指導と評価の計画について(「学習評価参考資料」を一部改編) 「機械工作」の内容のまとまり「(3)各種の工作法」の中の単元「主な工作法」の「指導と評価 の計画」を例示する。

時	学習内容	学習活動	ねらい	関	思	技	知	評価規準	評価方法
1	切削加工 の特徴	・切削の三運 動とその働き についてまと める。	切削の三運動と その働きについ て理解する。					工作機械の構造や切削の 三運動など切削条件の違 いが仕上げ面に及ぼす影響について理解してい る。	ワークシート
2	身近な製 品の切削 加工	・身近な製品 に切削加工が 施されている かを考察す る。	適切な切削方法 について理解す る。					身近な製品を観察することにより、製品の形状・材料との関係について考察し、説明することができる。	観察 ワークシ ート
3	旋盤によ る切削加 エ	・旋盤を使って作業を使ってい、がはいがいがいがいでででである。	切削工具の形状 による用途の違 いについて理解 する。					切削にともなう種々の事象や現象に適切に対応している。 切り屑の形態を観察し、切削条件の違いによる種々の事象や現象について考察し、説明している。	観察 ワークシート
4	工程表の 作成	・行件具工すが成るの場所では、合選表の場所を関するのでは、動物を関するのでは、関係を関係を対しては、対象を表し、成ののでは、対象を表し、成ののでは、対象を表し、成ののでは、対象を表し、成ののでは、対象を表し、成ののでは、対象を表し、成ののでは、対象を表し、成ののでは、対象を表し、成ののでは、対象を表し、成ののでは、対象を表し、成ののでは、対象を表し、成ののでは、対象を表し、成ののでは、対象を表し、成ののでは、対象を表し、成ののでは、対象を表し、成ののでは、対象を表し、対象をまし、対象を表し、対象を、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、対象を表し、なり、なり、なり、なり、なり、なり、なり、なり、なり、なり、なり、なり、なり、	切削加工が製品 の生産性の向上 などに果たして いる役割を確認 する。					切削する各部について、 適する切削工具を選択 し、工程表を作成してい る。 協働学習に主体的に関わ り、課題を解決しようと している。	ワー確ン 観ワート シート
5 6 7	旋盤以外 の切削加 工	・フライス盤 における切削 工具について 考察する。	フライス盤において、切削工具の形状による用途の違いを理解する。					フライス盤について、切削工具の適切な活用方法 を理解している。	- ワークシ -ト

	 形削り盤において、切削工具の 形状による用途 の違いを理解する。		形削り盤について、切削 工具の適切な活用方法を 理解している。	
	 ボール盤において、切削工具の 形状による用途 の違いを理解する。		 ボール盤について、切削 工具の適切な活用方法を 理解している。	

1)表中の観点について

関 … 関心・意欲・態度 思 … 思考・判断・表現

技 … 技能 知 … 知識・理解

2)「指導と評価の計画」については第1章「8 指導計画の作成について」(8~12頁参照)の中でその作成に係る留意点等について解説しているので参照する。

(6)教科としての評価に関する留意事項

「関心・意欲・態度」の評価方法

- ・学習観察だけでなく、確認プリント、ワークシート、レポート等などの記述内容も活用し、多 面的に評価する。
- 「思考・判断・表現」の評価方法
- ・言語活動の充実を図り、思考・判断した過程や結果を適切に説明、表現しているかについて評価する。
 - (例)実習で作品を製作した場合、作品を基に発表させる。また、他の生徒の作品を批評、評価する等。
- 「技能」の評価方法
- ・工作機械や機器が使用できるなどの職業的な技能だけではなく、設問に対する計算、測定した 値を基にグラフを作成、資料から情報を収集・選択して図表にまとめるなどの技能についても 評価する。
- 「知識・理解」の評価方法
- ・ペーパーテストの結果だけではなく、確認プリントやワークシートの記述内容を工夫、活用することにより、生徒の実現状況を多面的に評価する。

(7)Q&A(工業)

- Q 1 ワークシートは知識・理解の評価のために活用すべきなのか。
- A 1 ワークシート等への記述内容は、「知識・理解」の評価だけでなく、「関心・意欲・態度」、 「思考・判断・表現」、「技能」の評価にも活用することが可能であり、生徒の資質や能力の育 成を多面的に把握できるように工夫し、活用することが考えられます。
- |Q 2 「機械工作」以外の科目の評価規準は、どのように設定すればよいのか。
- A 2 本手引きに掲載されている科目以外の各科目の評価規準を設定する場合には、本手引きや「学習評価参考資料」を参考にして、学習指導要領に定められた目標や内容、教科「工業」の評価の観点及びその趣旨を踏まえて、「単元(題材)の評価規準」を設定します。なお、科目の評価の観点の趣旨の考え方については、第1章の8~9頁を、単元の評価規準の設定については、第1章の14頁を参照してください。

3 商業

(1)教科の目標

商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ビジネスの意義や 役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に、かつ倫理 観をもって行い、経済社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

(2)教科の評価の観点及びその趣旨

改	ΙĒ	従	前
関心・意欲・態度	ビジネスの諸活動 に関する諸課題につ いて関心をもち,そ の改善・向上を目指 して主体的に取り組	Ş	ビジネスの諸活動 に関する諸問題につ いて関心をもち,そ の改善・向上を目指 して意欲的に取り組
	もうとするととも に,実践的な態度を 身に付けている。	}	むとともに,ビジネスに対する望ましい 心構えや実践的な態度を身に付けている。
思考・判断・表現	ビジネスの諸活動 に関する諸課題の解 決を目指して思考を 深め,基礎的・基本	思考・判断	ビジネスの諸活動 に関する諸問題の解 決を目指して自ら思 考を深め,基礎的・
	的な知識と技術を基 に,ビジネスの諸活 動に携わる者として 適切に判断し,表現 する創造的な能力を 身に付けている。		基本的な知識と技術 を活用して適切に判 断し、創意工夫する 能力を身に付けてい る。
技能	商業の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け, ビジネスの諸活動を 合理的に計画し,そ の技術を適切に活用 している。	技能・表現	商業の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、 ビジネスの諸活動を 合理的に計画し、適 切に処理するととも に、その成果を的確
知識・理解 観点名変更なし	商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け, ビジネスの意義や役割を理解している。	知識・理解	に表現する。 商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け, ビジネスの意義や役割を理解している。



改訂のポイント

教科目標の改善等を踏まえて文言の見直しを図っている。

「技能・表現」で評価されていた「表現」とは異なり、思考・判断した過程や結果を、 言語活動を通じて生徒がどのように表出しているかを評価するものである。

「技能・表現」としていたものを「技能」としているが、図や表などで表現する技術についてはこれまで同様にこの観点で評価する。この観点では、このほかに、ビジネス計算などの技術や、様々な資料を収集し、情報のもつ意味を読み取り、整理する技術について評価する。

(3)科目の評価の観点の趣旨

「ビジネス基礎」、「マーケティング」、「ビジネス経済」、「簿記」及び「情報処理」の評価の観点の趣旨を例示する。(「学習評価参考資料」より抜粋)

ビジネス基礎			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
ビジネスについて関	ビジネスの諸活動へ	ビジネスに関する基	ビジネスに関する基
心をもち , ビジネスの	の適切な対応を目指し	礎的・基本的な技術を	礎的・基本的な知識を
諸活動への適切な対応	て思考を深め,基礎	身に付け、ビジネスの	身に付け,経済社会の
を目指して主体的に取	的・基本的な知識と技	諸活動への適切な対応	一員としての望ましい
り組もうとするととも	術を基に,ビジネスの	を合理的に計画し,そ	心構えについて理解し
に,経済社会の一員と	諸活動に携わる者とし	の技術を適切に活用し	ている。
しての望ましい心構え	て適切に判断し,表現	ている。	
や実践的な態度を身に	する創造的な能力を身		
付けている。	に付けている。		
マーケティング			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
マーケティングにつ	マーケティング活動	マーケティングに関	マーケティングに関
いて関心をもち,マー	を計画的,合理的に行	する基礎的・基本的な	する基礎的・基本的な
ケティング活動を計画	うことを目指して思考	技術を身に付け,マー	知識を身に付け,マー
的,合理的に行うこと	を深め,基礎的・基本	ケティング活動を合理	ケティングの意義や役
を目指して主体的に取	的な知識と技術を基	的に計画し,その技術	割について理解してい
り組もうとするととも	に,ビジネスの諸活動	を適切に活用してい	る。
に,マーケティング活	に携わる者として適切	る。	
動を行う実践的な態度	に判断し,表現する創		
を身に付けている。	造的な能力を身に付け		
	ている。		
ビジネス経済			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
経済について関心を	経済事象について理	経済事象の考察に関	経済に関する基礎
もち,経済事象につい	解することを目指して	する基礎的・基本的な	的・基本的な知識を身
もち,経済事象につい て理解することを目指	解することを目指して 思考を深め,基礎的・	する基礎的・基本的な 技術を身に付け,経済	的・基本的な知識を身 に付け,経済の仕組み

うとするとともに , 経	基に,ビジネスの諸活	計画し,その技術を適	ている。
済事象を主体的に考え	動に携わる者として適	切に活用している。	
る実践的な態度を身に	切に判断し,表現する		
付けている。	創造的な能力を身に付		
	けている。		
簿記			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
簿記について関心を	適正な会計処理を行	簿記に関する基礎	簿記に関する基礎
もち,適正な会計処理	うことを目指して思考	的・基本的な技術を身	的・基本的な知識を身
を行うことを目指して	を深め,基礎的・基本	に付け,適正な会計処	に付け,その基本的な
主体的に取り組もうと	的な知識と技術を基	理を行うことを合理的	仕組みについて理解し
するとともに,会計処	に,ビジネスの諸活動	に計画し,その技術を	ている。
理を行う実践的な態度	に携わる者として適切	適切に活用している。	
を身に付けている。	に判断し,表現する創		
	造的な能力を身に付け		
	ている。		
情報処理			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
情報の収集・処理・	ビジネスの諸活動に	情報の収集・処理・	情報の収集・処理・
分析・表現について関	おいて情報を主体的に	分析・表現に関する基	分析・表現に関する基
心をもち,ビジネスの	活用することを目指し	礎的・基本的な技術を	礎的・基本的な知識を
諸活動において情報を	て思考を深め,基礎	身に付け,ビジネスの	身に付け、情報の意義
活用することを目指し	的・基本的な知識と技	諸活動における情報の	や役割について理解し
て主体的に取り組もう	術を基に,ビジネスの	活用を合理的に計画	ている。
とするとともに , 情報	諸活動に携わる者とし	し,その技術を適切に	
を活用する実践的な態	て適切に判断し,表現	活用している。	
度を身に付けている。	する創造的な能力を身		
	に付けている。		

(4)単元の評価規準について

「ビジネス基礎」の中の五つの内容のまとまりのうち、「(5)企業活動の基礎」における単元の評価規準に関する例示を行う。学習指導要領で示された科目の目標を踏まえ、「評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を示している。

【科目の目標(ビジネス基礎)】 一

ビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得させ,経済社会の一員としての望ましい心構えを身に付けさせるとともに,ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を育てる。

「ビジネス基礎」の内容のまとまり「(5)企業活動の基礎」における<u>評価規準に盛り込むべき</u> 事項である。(「学習評価参考資料」より一部抜粋)

「(5)企業活動の基礎」における評価規準に盛り込むべき事項						
関心・意欲・態度	企業活動について関心をもち,企業の形態と経営組織,資金調達,企業活動					
	と税及び雇用の形態と雇用に伴う企業の責任について探究しようとしている。					
思考・判断・表現	企業の形態と経営組織,資金調達,企業活動と税及び雇用の形態と雇用に伴					
	う企業の責任について思考を深め,基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に					
	判断し,導き出した考えを表現している。					
技能	企業活動に関する資料を収集し,得られた情報のもつ意味を読み取り,整理					
	している。					
知識・理解	企業活動に関する基礎的・基本的な知識を身に付け,企業の形態と経営組					
	織,資金調達,企業活動と税及び雇用の形態と雇用に伴う企業の責任について					
	理解している。					

「ビジネス基礎」の内容のまとまり「(5)企業活動の基礎」は、四つの単元で構成されている。 これらの単元の<u>評価規準の設定例を示す。</u>(「学習評価参考資料」より一部抜粋)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
【企業の形態と経営組織】 企業の形態と経営組織 などについて関心をも ち,その種類と特徴など について探究しようとし ている。	企業の形態と経営組織 の種類と特徴などについ て思考を深め,基礎的・ 基本的な知識と技術を基 に適切に判断し,導き出 した考えを表現している。	企業の形態と経営組織 などに関する資料を収集 し,得られた情報のもつ 意味を読み取り,整理し ている。	企業の形態と経営組織 などに関する基礎的・基 本的な知識を身に付け, その種類と特徴などにつ いて理解している。
【資金調達】 資金調達について関心 をもち,その方法と特徴 について探究しようとし ている。	資金調達の方法と特徴 について思考を深め,基 礎的・基本的な知識と技 術を基に適切に判断し, 導き出した考えを表現し ている。	資金調達に関する資料 を収集し,得られた情報 のもつ意味を読み取り, 整理している。	資金調達に関する基礎 的・基本的な知識を身に 付け,その方法と特徴に ついて理解している。
【企業活動と税】 企業活動にかかる税について関心をもち,その種類と概要及び申告と納付の概要について探究しようとしている。	企業活動にかかる税の 種類と概要及び申告と納 付の概要について思考を 深め,基礎的・基本的な 知識と技術を基に適切に 判断し,導き出した考え を表現している。	企業活動にかかる税に 関する資料を収集し,得 られた情報のもつ意味を 読み取り,整理している。	企業活動にかかる税に 関する基礎的・基本的な 知識を身に付け,その種 類と概要及び申告と納付 の概要について理解して いる。
【雇用】 雇用について関心をもち,我が国における雇用 形態の特徴と多様化及び 雇用に伴う企業の責任に ついて探究しようとして いる。	我が国における雇用形態の特徴と多様化及び雇用に伴う企業の責任について思考を深め,基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し,導き出した考えを表現している。	雇用に関する資料を収集し,得られた情報のも つ意味を読み取り,整理 している。	雇用に関する基礎的・ 基本的な知識を身に付け, 我が国における雇用形態 の特徴と多様化及び雇用 に伴う企業の責任につい て理解している。

「ビジネス基礎」の他のすべての内容のまとまりにおける<u>評価規準に盛り込むべき事項及び単元</u>の評価規準の設定例は、「学習評価参考資料」に掲載されている。

(5)単元の指導と評価の計画について(「学習評価参考資料」を一部改編)

「ビジネス基礎」の内容のまとまり「(5)企業活動の基礎」の中の単元「企業の形態と経営組織」の指導と評価の計画を例示する。

時	学習内容	学習活動	ねらい	関	思	技	知	評価規準	評価方法
1 2 3 4	企業ととの形営組織と特徴と	・のにるの組及の理こーる総ウ掲日「織び統しとト。務ェ載本産別従計、をに省ブさ統業事業資気ワま統ペれ計、業者料付ーまました。	人企業など企業 の形態の種類と 特徴、経営組織 の種類と特徴に					・企業の形態ごとの事業 所数や従業者数の傾向に ついて、統計資料から読 み取り、整理している。	
		・出資者による 全業の分配を ででいる。 でである。						企業の形態に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、その種類と特徴について理解している。	۲
		・水平的、垂直 的に分化した経 営組織について 理解を深める。						・経営組織に関する基礎 的・基本的な知識を身に 付け、その種類と特徴に ついて理解している。	۲
		・具体的組織とはいいないでは、いるでは、いかでは、いかででは、ないが、でいいでででででいますが、いいではいいでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、						・経営組織について関心をもち、具体的な企業の経営組織について探究しようとしている。	観察
		・織と営機大いクめを長いのとは、後ののとはでは、ままれては、これでは、これでは、これでは、これでは、これが、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は						・経営組織の改善策や経営組織を円滑に機能させる上で大切なことについて思考を深め、適切に判断して導き出した考えを表現している。	
5	起業家精神	・の上方いッしクめで我創げやてトてシーグを別となべトルッとで、に一がまるではりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりま	方や独創性につ いて探究し、起 業家精神の意義					・起業家精神について関心をもち、創業者の考え方や独創性について探究しようとしている。	ワークシート
		・起業家精神と は何か、なぜ大 切かをワークシ ートにまとめ る。						・起業家精神の意義につ いて理解している。	ワークシ ート

6 7	ビジネス の創造	・及えつ話るン活話ビて、帯しらい普統タ用のス、話因こ携に料ッ携や着りがとと帯関やト帯サ目シがとと帯関やト帯サ目シー	・ビジキスの を がと を に を に を に な の の の の の の の の の の の の の		を収集し、 及した要因 ことについ	に関する資料 携帯電話が音 と考えられる て、統計資 み取り、整理	ワークシ ート
		ト・わ創済影る携性性論っま帯ビがどをに電市着、にめ話ネ活よえいののしっよるにスやうてて新創てクとの関の経ない、規造討シめ、規造対シの		 	や経済にど を与えてい て、討論を 深め、適切	の創造が生活 のような影響 いるかに思考 通し判表 に判表現して	ワークシ ート
		る。・造てどやがをシる。が視帯うビと、にるまりでと、にっているまりにと、にいまります。		 	て関心をも な機能やサ あると消費 られ、ビジ	の創造につい ち、どのよう ービスなどが 者に受け入れ ネスの11 について探 ている。	ワークシ ート
8	経営理念の重要性	・経営理念とキャスト (従業員)の行動に関するケース教材を読み、キャス	業活動に大きな 影響を及ぼして いる具体的な事 例を考察し、経 営理念とその重		(従業員) ように生かのがっているが がっている がったいるしめ、適切に	が行かでは、 が行かない。 が行いがでいまりでは、 がでいまでがでいまりでである。 はいではいいでは、 はいではいいでは、 はいではいいできます。 はいでは、 はいではいいできます。 はいでは、 もいでは、 もっとは、 も。 もっとは、 もっとも。 もっとも。 もっとも。 もっとも。 もっとも。 もっとも。 もっとも。 もっとも。 もっとも。 もっと。 もっと	ワークシ -ト
		の・通と経かにワ各ース学ま念ぜてを見、 大りを営、つー自ト でに をご、何かーてシめ		 4		とその重要性 解している。	ワークシ -ト

1)表中の観点について

関 … 関心・意欲・態度 思 … 思考・判断・表現

技 … 技能 知 … 知識・理解

2)「指導と評価の計画」については第1章「8 指導計画の作成について」(8~12頁参照)の中でその作成に係る留意点等について解説しているので参照する。

(6)教科としての評価に関する留意事項

本事例では、観察、ワークシート、テストにより評価を行っているが、その際の留意点をまとめると次のようになる。

・観察

グループで調べ、その結果をまとめる過程における個々の生徒の取組や役割などを観察し、特徴的な様子を見いだして評価するとともに、観察シートに記入する。

・ワークシート

ワークシートについては、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・ 理解」の観点の評価に用いている。

「関心・意欲・態度」の観点で評価を行う場合には、ワークシートの記述から課題に取り組む状況を読み取り評価する。

「思考・判断・表現」の観点で評価を行う場合には、思考の過程を記述できるようワークシートのつくりを工夫し、具体的な課題を見いだしているか、取り上げた課題について思考し、知識や技術を基に判断した過程や結果を表現できているかを評価する。

「技能」の観点で評価を行う場合には、必要な資料を収集し、得られた情報のもつ意味を読み取り、整理しているかを評価する。

「知識・理解」の観点で評価を行う場合には、学習活動を通して必要な知識を身に付け、理解が深まっているかを評価する。

なお、発表やグループ内での討論の状況を、生徒による自己評価や生徒同士の相互評価ができるようにフィードバックできる項目を用いて評価に生かすことも考えられる。

・テスト

各設問への解答を基に、知識の習得や理解の状況を読み取り評価する。本事例では、定期テストで評価しているが、このほかにも、単元ごとの小テストなど様々な場面で実施することが考えられる。

(7)Q&A(商業)

- Q 1 この資料の評価の例をそのまま使用してはいけないのか。
- A 1 使用して構いません。高校の場合、学習目標や学習内容は各学校で定めることになっていますが、それは学習指導要領を踏まえたものであるので、基本的には、この資料の例が使えます。各学校の科目の学習目標や学習内容が学習指導要領と同じであるなら、全く問題ありません。

その際、生徒の状況や学校の状況を踏まえて、細かな部分で生徒に、より適切なものに改良すると、なお良いと考えます。

- Q 2 一つの単元においてすべての観点を評価する必要がありますか。
- A 2 「学習評価参考資料」に記載されている通り、単元によっては、特定の観点を中心に評価する こともあります。
- Q 3 「ビジネス基礎」以外の科目の評価規準は、どのように設定すればよいか。
- A 2 本手引きに掲載されている科目以外の各科目の評価規準を設定する場合には、本手引きや「学習評価参考資料」を参考にして、学習指導要領に定められた目標や内容、教科「商業」の評価の観点及びその趣旨を踏まえて、「単元の評価規準」を設定します。なお、各科目の評価の観点の趣旨の考え方については、第1章の8~9頁を、単元の評価規準の設定については、第1章の14頁を参照してください。

4 水産

(1)教科の目標

水産や海洋の各分野における基礎的・基本的な知識と技術を習得させ,水産業及び海洋関連産業の意義や役割を理解させるとともに,水産や海洋に関する諸課題を主体的,合理的に,かつ倫理観をもって解決し,持続的かつ安定的な水産業及び海洋関連産業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

(2)教科の評価の観点及びその趣旨

改	正	従	前
関心・意欲・態度	水産や海洋に関す	関心・意欲・態度	水産や海洋に関す
	る諸課題について関		る諸問題について関
観点名変更なし	心をもち,その改		心をもち,その改
	善・向上を目指して		善・向上を目指して
	主体的に取り組もう	<u>}</u>	意欲的に取り組むと
	とするとともに,実		ともに,創造的,実
	践的な態度を身に付		践的な態度を身に付
	けている。	<u></u>	けている。
思考・判断・表現	水産や海洋に関す	<u>思考・判断</u>	水産や海洋に関す
	る諸課題の解決を目		る諸問題の解決を目
	指して思考を深め,		指して自ら思考を深
	基礎的・基本的な知		め,基礎的・基本的
	識と技術を基に,水		な知識と技術を活用
	産業や海洋関連産業	}	して適切に判断し,
	に携わる者として適	J	創意工夫する能力を
	切に判断し,表現す		身に付けている。
	る創造的な能力を身		
	に付けている。		
<u>技能</u>	水産や海洋の各分	技能・表現	水産や海洋の各分
	野に関する基礎的・		野に関する基礎的・
	基本的な技術を身に		基本的な技術を身に
	付け,水産や海洋に		付け,実際の仕事を
	関する諸活動を合理		合理的に計画し,適
	的に計画し,その技		切に処理するととも
	術を適切に活用して		に , その成果を的確
	いる。		に表現する。

知識・理解	水産や海洋の各分	知識・理解	水産や海洋の各分
	野に関する基礎的・		野に関する基礎的・
観点名変更なし	基本的な知識を身に		基本的な知識を身に
	付け,水産業や海洋		付け,水産業や海洋
	関連産業の意義や役		関連産業の意義や役
	割を理解している。		割を理解している。

改訂のポイント

従前の「諸問題」から、「諸課題」へと改められた。「諸課題」には、 水産物の持続的生産と安定供給、 水産食品の開発、品質・安全管理、水産流通、 船舶の安全運航、 生命を支える環境や生態系保全、 海洋関連産業の進展や技術革新、 海洋開発や水産物以外の海洋資源の利用、 海象・気象の研究、 メンタルヘルスとしての海洋の役割や海洋性レクリエーション、 水産や海洋関連産業等の施設・設備の開発等が挙げられる。

諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、それぞれの分野における安全の確保等にも十分配慮し、社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てることが重要であるとされた。

食の安全、資源管理や環境保全などの課題においては、社会に生き、社会的責任を担う 職業人としての規範意識や倫理観を育成することが重要であるとされた。

(3)科目の評価の観点の趣旨

「水産海洋基礎」の評価の観点の趣旨を例示する。(「学習評価参考資料」より抜粋)

水産海洋基礎			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
水産や海洋について	水産や海洋に関する	水産や海洋に関する	水産や海洋に関する
関心をもち,その改	諸問題の解決を目指し	基礎的な技術を身に付	基礎的な知識を身に付
善・向上を目指して主	て思考を深め,基礎的	け,水産や海洋に関す	け,水産業や海洋関連
体的に取り組もうとす	な知識と技術を活用し	る諸活動を通して,そ	産業が国民生活に果た
るとともに,実践的な	て適切に判断し,表現	の技術を適切に活用し	している役割を理解し
態度を身に付けてい	する創造的な能力を身	ている。	ている。
る。	に付けている。		

(4)単元(題材)の評価規準について

「水産海洋基礎」の中の三つの内容のまとまりのうち、「(1)海のあらまし」における単元の評価規準に関する例示を行う。学習指導要領で示された科目の目標を踏まえ、「評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を示している。

【科目の目標(水産海洋基礎)】 ――

水産や海洋に関する基礎的な知識と技術を習得させるとともに,水産業や海洋関連産業が国民生活に果たしている役割を理解させる。

「水産海洋基礎」の内容のまとまり「(1)海のあらまし」における<u>評価規準に盛り込むべき事</u>項である。(「学習評価参考資料」より一部抜粋)

「(1)海のあらま	「(1)海のあらまし」における評価に盛り込むべき事項				
関心・意欲・態度	海のあらましについて関心をもち,日本の海,世界の海,海と食生活・文				
	化・社会,海と生物,海と環境について探究しようとしている。				
思考・判断・表現	海のあらましに関する諸課題について思考を深め,基礎的な知識と技術を活				
	用して適切に判断し,その過程や結果を表現している。				
技能	海のあらましに関する様々な資料や情報を収集し,適切に選択して活用して				
	いる。				
知識・理解	海のあらましに関する基礎的な知識を身に付け,それらが国民生活に果たし				
	ている役割を理解している。				

「水産海洋基礎」の内容のまとまり「(1)海のあらまし」は,五つの単元で構成されている。 これらの単元の評価規準の設定例を示す。(「学習評価参考資料」より一部抜粋)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
【日本の海】 ・日本の海について興味・ 関心をもち , それらが果た している役割を探究しよう としている。	・日本の海について思 考を深め,基礎的な知 識と技術を活用して適 切に判断し,その過程 や結果を表現してい る。	・日本の海に関する 様々な資料や情報を収 集し,適切に選択して 活用している。	・日本の海に関する基礎的な知識を身に付け,それらが果たしている役割を理解している。
【世界の海】 ・世界の海について興味・ 関心をもち , それらが果た している役割を探究しよう としている。	・世界の海について思 考を深め,基礎的な知 識と技術を活用して適 切に判断し,その過程 や結果を表現してい る。	・世界の海に関する 様々な資料や情報を収 集し,適切に選択して 活用している。	・世界の海に関する基礎的な知識を身に付け,それらが果たしている役割を理解している。
【海と食生活・文化・社会】 ・海と食生活・文化・社会 について興味・関心をも ち,海,水産物及び船と生 活の関わりについて探究し ようとしている。	・海と食生活・文化・ 社会について思考を深め,基礎的な知識と技 術を活用して適切に判 断し,その過程や結果 を表現している。	・海と食生活・文化・ 社会に関する様々な資 料や情報を収集し,適 切に選択して活用して いる。	・海と食生活・文化・ 社会に関する基礎的な 知識を身に付け,海, 水産物及び船と生活の 関わりについて理解し ている。
【海と生物】 ・海と生物について興味・関心をもち,それらが水産 資源に果たしている役割を 探究しようとしている。	・海と生物について思 考を深め,基礎的な知 識と技術を活用して適 切に判断し,その過程 や結果を表現してい る。	・海と生物に関する 様々な資料や情報を収 集し,適切に選択して 活用している。	・海と生物に関する基礎的な知識を身に付け,それらが水産資源に果たしている役割を理解している。
【海と環境】 ・海と環境について興味・ 関心をもち , それらが果た している役割を探究しよう としている。	・海と環境について思 考を深め,基礎的な知 識と技術を活用して適 切に判断し,その過程 や結果を表現してい る。	・海と環境に関する 様々な資料や情報を収 集し,適切に選択して 活用している。	・海と環境に関する基礎的な知識を身に付け,それらが果たしている役割を理解している。

「水産海洋基礎」の他のすべての内容のまとまりにおける<u>評価規準に盛り込むべき事項及び単元</u>の評価規準の設定例は、「学習評価参考資料」に掲載されている。

(5)単元(題材)の指導と評価の計画について(「学習評価参考資料」を一部改編)

「水産海洋基礎」の内容のまとまり「(1)海のあらまし」の中の単元「世界の海」の指導と評価の計画を例示する。

時	学習内容	学習活動	ねらい	関	思	技	知	評価規準	評価方法
1	世界の海 の概要に ついて	「洋かーー発表船そし学高水」らずト表を、の、習め産と、をにし基水他こへる」いそり記合に産にれのであるが、のではないのである。をいるのでは、一角を、一角のでは	礎の や船をしるさい との でいまして は、 は でいまれる は でいまれる でいまれる でいまれる でいます かいま でいます かいます かいます かいます かいます かいます かいます かいます か					世界の海における海流の 役割及び人間生活との関 わりについて興味・関心 をもち、それらが果たし ている役割を探究しよう としている。	ート 教師によ
2	海の関連 法規と国 際協調に ついて	海での約束事に ついて、グルー プで話し合いり ークシートに記 入し、発表し合	法規を通して 世界の海につ いて興味や関 心を引き出す					国際的な関連法規について思考を深め、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、その過程や結果を表現している。	
		う。	とともに、国 際協調につい ても考えさせ る。					国際的な関連法規を通して世界の海について興味・関心をもち、その役割を探究しようとしている。	る 観 察 (発表・ 質 疑 応 答)
		発界関れの国規つる。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						国際的な関連法規に関する様々な資料や情報を収集し、適切に選択して活用している。	
3 4	海(よ響により、大響により、一般をはいる。	海洋における海におけるのは、大きをはいかでは、大きないでは、大きないができるのは、大きないが、はいいは、はいいは、はいいは、はいいは、はいいは、はいいは、はいいは、は	海流と潮流に ついて、生じ					世界の海における海流の 役割及び人間生活との関 わりについて様々な資料 や情報を収集し、適切に 選択して活用している。	課題レポート
		海洋における海 流及び潮流につ いて、人間生活 への利用や影響 を、課題レポー トにまとめる。	響を 理解さ 世界るのの の 海流割で お流に な 割に と な り の り の り の り の り り の り り り り り り り り					世界の海における海流の 役割及び人間生活との関 わりについて基礎的な知 識を身に付け、それらが 人類に果たしている役割 を理解している。	課題レポート
		世界の海におけ る海流と潮流の 役割などについ て調べ、レポー トにまとめ、発 表する。	心をもたせ る。					世界の海における海流の 役割及び人間生活との関 わりについて興味・関心 をもち、それらが果たし ている役割を探究しよう としている。	る 観 察 (発表・

動 (海	潮、津波などの	津波などの海	役割及び人間生活との関 -	۱ ۱
流、潮汐	海の運動につい	の運動の概	│ │ │ │ │ │ わりについて様々な資料 │	
と潮流、	て課題レポート	要、人間生活	や情報を収集し、適切に	

	波浪)	にまとめる。	への利用や影		選択して活用している。
			響について理		
		人間生活への利 用や影響につい て課題レポート にまとめる。	解させ、海が 気候に及ぼす 影響について 考えさせる。		世界の海における海流の 課題レポ 役割及び人間生活との関 ート わりについて基礎的な知 識を身に付け、それらが 人類に果たしている役割 を理解している。
		海が気候に及ぼ す影響について 考え、課題レポ ートにまとめ る。			世界の海における海流の 課題レポ 役割及び人間生活との関 ート わりについて思考を深 め、基礎的な知識と技術 を活用して適切に判断 し、その過程や結果を表 現している。
6	まとめ	小テストで理解 の程度を確認す る。	本単元がにやてので、生活では間では、本でのでのでのでのででのででのでは、では、またのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ		世界の海における海流の 役割及び人間生活との関 わりについて基礎的な知 識を身に付け、それらが 人類に果たしている役割 を理解している。
					国際的な関連法規に関す 小テスト る基礎的な知識を身に付 け、その役割を理解して いる。
		まとめシートに より自らの授業 への取組状況を 振り返る。			世界の海における海流の まとめシ 役割及び人間生活との関 ート わりについて興味・関心 をもち、それらが果たし ている役割を探究しよう としている。
					国際的な関連法規を通し まとめシ て世界の海について興 ート 味・関心をもち、その役 割を探究しようとしてい る。

1)表中の観点について

関 … 関心・意欲・態度 思 … 思考・判断・表現

技 … 技能 知 … 知識・理解

2)「指導と評価の計画」については第1章「8 指導計画の作成について」(8~12頁参照)の中でその作成に係る留意点等について解説しているので参照する。

(6)教科としての評価に関する留意事項

水産科での「知識・理解」についての評価は、単なる知識の有無のみを評価するだけでなく、 生徒が学習した内容が社会や水産の分野でどのような意義があるのか、またどのような役割を果 たしているのかについて、適切に評価する方法を工夫する必要がある。

また、単元の内容によっては、 四つの観点を均等に評価するのではなく、生徒に身に付けさせたい力を中心に、特定の観点に重点を置いて評価することも考えられる。

水産科の学習評価では、各科目の実験・実習を含めた学習や調査・研究活動の特質、評価の観点や評価規準、評価の場面や生徒の学習における習得状況や発達の段階などに応じて、観察、生徒との対話、発言・発表、ノート、ワークシート、課題レポート、小テスト、まとめテスト、作品等の成果物やその他の提出物などの様々な評価方法の中から、生徒の学習状況を的確に評価で

きる方法を選択していくことが必要である。

例えば、ワークシートや課題レポート等への記述内容は、「知識・理解」を評価するだけでなく、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」を評価することにも活用できることから、生徒の資質や能力を多面的に把握できるよう工夫する必要がある。

観点別学習状況の評価の総括の一例

総括の場面としては、単元における観点ごとの評価の総括、学期末における観点ごとの評価の 総括、学年末における観点ごとの評価の総括が考えられる。

また、評定への総括の場面としては、学期末や学年末が考えられる。

総括の考え方としては、「十分満足できる」状況と判断されるものを(A)、「おおむね満足できる」状況と判断されるものを(B)、「努力を要する」状況と判断されるものを(C)として評価を行いその組合せにより総括する方法、A、B、Cを数値化してその平均値を基にして総括する方法など様々なものがある。

本事例では、単元における観点ごとの評価の総括について、一つの観点に2種類の評価規準がある場合、それぞれの評価規準の評価結果を同等と扱うこととし、2種類の評価規準で評価結果が異なる場合は、次の通りとする。

【評価の総括の考え方】

観点別学習状況の評価の結果がAとBのみの場合はAとする。

観点別学習状況の評価の結果がBとCのみの場合はBとする。

観点別学習状況の評価の結果がAとCのみの場合はBとする。

(7)Q&A(水産)

- Q 1 生徒の学習状況を分析的に捉えるには、どのようにしたらよいか。
- A 1 水産科の指導に当たっては、実験・実習を含めたきめの細かい学習指導と生徒一人ひとりの学習内容の確実な定着を図るためには、単にペーパーテスト及び資格取得の結果にいわゆる平常点を加味した評価では生徒の学習状況を十分に把握することは困難です。目標を設定し、その目標を達成するためにどのような学習指導を行えばよいのかを想定して評価規準を作成し、それに基づいて評価を行ってください。
- Q 2 テストによる評価については、「知識・理解」の評価だけを行えばよいのか。
- A 2 単元が終了した時点で行うテストや定期テストにおいては、ペーパーテストを実施する場合が 多いが、そのような場合においても、単に「知識・理解」の評価だけを行うのではなく、他の3 観点の評価にも活用できるペーパーテストにすることが望まれます。また、確実に身に付けさせ たい「技能」については、パフォーマンステストを行うことも有効です。
- Q3 「水産海洋基礎」以外の科目の評価規準はどのように設定すればよいか。
- A 3 本手引きに掲載されている科目以外の各科目の評価規準を設定する場合には、本手引きや「学習評価参考資料」を参考にして、学習指導要領に定められた目標や内容、教科「水産」の評価の観点及びその趣旨を踏まえて、「単元(題材)の評価規準」を設定します。なお、各科目の評価の観点の趣旨の考え方については、第1章の8~9頁を、単元の評価規準の設定については、第1章の14頁 を参照してください。

5 家庭(専門教科)

(1)教科の目標

家庭の生活にかかわる産業に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ,生活産業の社会的な意義や役割を理解させるとともに,生活産業を取り巻く諸課題を主体的,合理的に,かつ倫理観をもって解決し,生活の質の向上と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

(2)教科の評価の観点及びその趣旨

改	正		前
関心・意欲・態度	生活産業を取り巻	 関心・意欲・態度	生活産業や家庭の
	く諸課題について関		各分野に関する諸問
観点名変更なし	心をもち,その改		題について関心をも
	善・向上を目指して		ち,その改善・向上
	主体的に取り組もう)	を目指して意欲的に
	とするとともに,実		取り組むとともに,
	践的な態度を身に付		創造的,実践的な態
	けている。	J	度を身に付けている。
思考・判断・表現	生活産業を取り巻	<u>思考・判断</u>	生活産業や家庭の
	く諸課題の解決を目	<u> </u>	各分野に関する諸問
	指して思考を深め,		題の解決を目指して
	基礎的・基本的な知		自ら思考を深め,基
	識と技術を基に,生		礎的・基本的な知識
	活産業に携わる者と	}	と技術を活用して適
	して適切に判断し,	J	切に判断し,創意工
	表現する創造的な能		夫する能力を身に付
	力を身に付けている。		けている。
<u>技能</u>	生活産業に関する	技能・表現	生活産業や家庭の
	基礎的・基本的な技		各分野に関する基礎
	術を身に付け,生活		的・基本的な技術を
	産業に関する諸活動		身に付け,実際の仕
	を合理的に計画し、		事を合理的に計画
	その技術を適切に活		し,適切に処理する
	用している。		とともに,その成果
			を的確に表現する。
知識・理解	生活産業に関する	知識・理解	生活産業や家庭の
	基礎的・基本的な知		各分野に関する基礎
観点名変更なし	識を身に付け,生活		的・基本的な知識を
	産業の社会的な意義		身に付け、生活産業
	や役割を理解してい		の社会的な意義や役
	る。	<u> </u>	割を理解している。



改訂のポイント

生活産業における将来のスペシャリストに必要な資質や能力を育成する視点が一層明確に示された。

専門教科「家庭」では、科学技術や産業の発展に主体的に対応できる人間の育成を目ざしており、特に、自ら課題を見いだし、解決の方策を探り、計画を立てて実践するという問題解決的な学習が重要であるとされた。

生活産業に従事する者として求められる職業人としての規範意識に基づいた倫理観をもって、生活産業を取り巻く諸課題を解決できるようにすることが示された。

(3)科目の評価の観点の趣旨(「学習評価参考資料」より抜粋)

家庭に関する学科においてすべての生徒に履修させる科目である「生活産業基礎」の評価の観点の趣旨を例示する。

「消費生活」、「子どもの発達と保育」、「生活と福祉」、「ファッションデザイン」及び「フードデザイン」の評価の観点の趣旨を例示する。

生活産業基礎			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
衣食住,ヒューマン	衣食住,ヒューマン	衣食住,ヒューマン	衣食住,ヒューマン
サービスなどに関する	サービスなどに関する	サービスなどに関する	サービスなどに関する
生活産業や関連する職	生活産業や関連する職	生活産業や関連する職	生活産業や関連する職
業について,関心をも	業について,スペシャ	業に関わる技術を身に	業に関わる知識を身に
ち,スペシャリストと	リストに求められる課	付けている。	付けている。
して必要な知識と技術	題を見いだし,その解		
を進んで習得しようと	決を目指して思考を深		
する意欲と態度を身に	め,適切に判断し,創		
付けている。	意工夫し表現する能力		
	を身に付けている。		
消費生活			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
生活産業の担い手と	生活産業の担い手と	経済社会の変化と消	経済社会の変化と消
して,消費者と企業や	して,消費者と企業や	費生活,消費者の権利	費生活,消費者の権利
行政との連携について	行政と連携し,持続可	と責任,消費者と行政	と責任,消費者と行政
関心をもち , 持続可能	能なライフスタイルの	との関わり及び連携の	との関わり及び連携の
なライフスタイルを確	確立に向けて課題を見	在り方などに関する技	在り方などに関する知
立しようとする意欲と	いだし,思考を深め,	術を身に付けている。	識を身に付けている。
態度を身に付けてい	適切に判断し,創意工		
る。	夫し表現する能力を身		
	に付けている。		

子どもの発達と保育			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
子どもの発達や子育	子どもを生み育てる	子どもと触れ合った	子どもの発達の特性
て支援について関心を	ことや , 家族の役割や	り,子育て支援を行っ	や発達過程,保育など
もち,実際に子どもと	地域の子育て支援など	ている人々と交流を図	に関する知識を身に付
関わろうとする意欲と	について課題を見いだ	ったりする学習を通し	けている。
態度を身に付けてい	し,思考を深め,適切	て,子どもの発達の特	
る。	に判断し,創意工夫し	性や発達過程に対応し	
	表現する能力を身に付	た技術を身に付けてい	
	けている。	る。	
生活と福祉	,		
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
高齢者の健康と生	生活の質を高めると	高齢者の健康と生	高齢者の健康と生
活,介護などに関心を	ともに , 高齢者の健康	活,介護など,高齢者	活,介護など,高齢者
もち,高齢者と積極的	管理や自立生活支援に	の健康管理や自立支援	の健康管理や自立支援
に関わり,適切な生活	ついて課題を見いだ	に関する技術を身に付	に関する知識を身に付
援助や介護をしようと	し,思考を深め,適切	けている。	けている。
する意欲と態度を身に	に判断し,創意工夫し		
付けている。	表現する能力を身に付		
	けている。		
ファッションデザイン			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
ファッションに関心	ファッションに関わ	デザインの発想をフ	ファッションデザイ
をもち,自分のイメー	る商品の企画から販売	ァッション画や各種材	ンの基礎,発想と表現
ジを表現しようとする	について,課題を見い	-	
意欲と態度を身に付け	だし,創造的に思考を	つ創造的に表現する技	を身に付けている。
ている。	深め,デザインし,創	術を身に付けている。	
	意工夫し表現する能力		
	を身に付けている。		
フードデザイン			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
食生活に関する諸問	食生活を総合的に捉	栄養,食品,献立,	
題に関心をもち,食育	えて計画・実践するた	調理,テーブルコーデ	調理,テーブルコーデ
の推進に向けて,積極	めに課題を見いだし,	ィネートなどに関する	ィネートなどに関する
的に取り組もうとする	思考を深め,食育の推	技術を身に付けてい	知識を身に付けてい
意欲と態度を身に付け	進に寄与するために、	る。	る。
ている。	創意工夫し表現する能		
	力を身に付けている。		

(4)単元(題材)の評価規準について

「生活産業基礎」の中の四つの内容のまとまりのうち、「(2)生活の変化に対応した商品・サ

ービスの提供」における単元の評価規準に関する例示を行う。学習指導要領で示された科目の目標 を踏まえ、「評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を示している。

【科目の目標(生活産業基礎)】

衣食住,ヒューマンサービスなどに関する生活産業や関連する職業への関心を高め, 必要な知識と技術を進んで習得し活用する意欲と態度を育てる。

「生活産業基礎」の内容のまとまり「(2)生活の変化に対応した商品・サービスの提供」における<u>評価規準に盛り込むべき事項</u>である。(「学習評価参考資料」より一部抜粋)

「(2)生活の変化	「(2)生活の変化に対応した商品・サービスの提供」における評価に盛り込むべき事項					
関心・意欲・態度	消費者のニーズの把握,商品・サービスの開発及び販売・提供などについて					
	関心をもち,主体的に学習活動に取り組んでいる。					
思考・判断・表現	具体的な事例を通して,生活の変化に対応した商品・サービスの提供につ					
	いて,課題を見いだし,その解決を目指して思考を深め,適切に判断し,表					
	現している。					
技能	具体的な事例を通して,生活の変化に対応した商品・サービスの提供につい					
	て,検討するための技術を身に付けている。					
知識・理解	消費者のニーズの把握,商品・サービスの開発及び販売・提供,関連法規な					
	どについての知識を身に付けている。					

「生活産業基礎」の内容のまとまり「(2)生活の変化に対応した商品・サービスの提供」は、 三つの単元で構成されている。これらの<u>単元の評価規準の設定例</u>を示す。(「学習評価参考資料」 より一部抜粋)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
【消費者ニーズの把握】 ・消費者の多様なニーズ を捉えた商品やサービス の提供について関心をも ち,市場調査などに主体 的に取り組もうとしてい る。	・生活の質の向上につな がる商品やサービスの提 供について考えている。	・市場調査などの具体的な事例を通して,消費者のニーズに関わる最新の情報を収集・整理することができる。	・消費者の多様なニーズ を捉える調査方法や,結 果を商品開発等に活用す る方法について理解して いる。
【商品・サービスの開発 及び販売・提供】 ・商品・サービスの開発 及び販売・提供の仕組み について考えようとして いる。 ・消費者の購買意欲を高 める店舗設計,ディス売 レイ,広告などの販売とし でいる。	・商品・サービスの開発・サービスの開発・サービスの仕組との仕ましたが、発表の開発を表したが、発表の関連を表がある。・あるイのは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	・商品・サービスの市場の高さどの結果で基件したりすることができる。 ・ 消費者 間景 デザー がったい できる。 ・ 消費者 間景 できる。 ・ の間 できる できる できる できる できる できる に関することができる。	・商品・サービスの企画,開発から生産,販売・提供に結び付ける仕組みについて理解している。 ・消費者に信頼される商品やサービスを提供する ためのシステムについて理解している。
【関連法規】			・商品やサービスの販売・提供に関する法規について理解している。 ・資格の根拠となる法規・許認可の必要な業種・商取引に関する基礎的な法的知識等

点線は、単元の区切りである。

「生活産業基礎」の他のすべての内容のまとまりにおける<u>評価規準に盛り込むべき事項及び単元の評価規準の設定例</u>は、「学習評価参考資料」に記載されている。

(5)単元(題材)の指導と評価の計画について(「学習評価参考資料」を一部改編)

「生活産業基礎」の内容のまとまり「(2)生活の変化に対応した商品・サービスの提供」の中の題材「ヒューマンサービスの企画 - 幼児を対象とした質の高いヒューマンサービスの提供 - 」の指導と評価の計画を例示する。

時	学習内容	学習活動	ねらい	関	思	技	知	評価規準	評価方法
1	幼児の生	・近隣の幼稚園や保育	幼児を対					・自らの経験を踏ま	観察
2	活の変化	所での年中行事等を思	象 と し					え、誕生日会において	ワークシート
	に対応し	い出し、誕生日会でど	た、サー					求められるものはどの	
	た質の高	のようなことが行われ	ビスとし					ようなものか、連想す	
		ていたか、自分の経験	ての幼児					る事項をイメージマッ	
	マンサー	等を基に考えたことを	の誕生日					プにまとめようとして	
-	ビス	まとめる。 ・子どもの誕生日会に	会につい て関心を					│いる。 │・誕生日会の例から連	 Π_ <i>h</i> Σ_L
		水められる要素をイメ	もち、商					想する事項を書き出	l I
		ージマップにまとめ	品・サー					し、幼児にとって質の	• • •
		る。	ビスの提					高いサービスとは何か	
			供につい					を考え、まとめてい	
			て考え					る。	
		・誕生日会を企画する	る。					・誕生日会をヒューマ	ワークシート
		ために、必要な事項を						ンサービスとして捉	
		整理する。						え、それを提供する幼	
								稚園教諭や保育士など	
								の職業人としての立場	
								から必要な条件を考	
3	幼児の生	・幼児の心身の発達の	幼児の心					え、まとめている。 ・幼児の身体の発育や	^° 11° =7
4	効児の主 活	・幼児の心身の発達の 特徴について理解す	別なの心					・幼児の身体の発育や	l
5	/	一ついて注解する。	一つかけば、					建 動 機 能 、 口	'
		.	幼児の発					の特徴について理解し	
			達段階を					ている。	
		・幼児の遊びについて	踏まえた					・幼児の発達段階に応	へ゜ーハ゜ーテス
		理解する。(視聴覚教	ニーズな					じた遊びについて理解	ト
		材)	どについ					している。	
		・エキスパート活動	て理解す					・幼児の誕生日会のサ	ワークシート
		(個人)	る。					ービスについて必要な	
		次の4分野に分かれ、						幼児のニーズや最新の	
		各分野について、それ						情報を収集・整理する	
		でれ重点的に情報収集						ことができる。	
		する。 食(献立・テーブルセ						・収集した情報を分析	リークシート
		艮(瞅立・テーフルセ ッティング)						し、幼児の集団に対し て必要な内容について	
		ッティング) 衣(プレゼント)						て必要な内容について 考え、まとめている。	
		住(飾り付け・壁面構						うん、みこのている。	
		成)							
		- ''', 保(遊び・進行)							
		・収集した情報を整理							
		する。(個人)							

	ᄲᄪᄼᅼ	ナナフパ し 江野	休旧の一					白ハが	桂却旧牛!	+_	4 8 25 2
6	幼児の誕	・エキスパート活動	幼児の二						情報収集し	- 1	観察
7 8	生日会の 企画	│(グループ) │ 食(献立・テーブルセ	ーズに応 した誕生						有し、グル 理すること		
9	止回	艮(麻立・ケーノルセ ッティング)、 衣(プ	日会をエ				I	ノ内で窒 できる。	圧りること	\J,	
10		レゼント)、 住(飾り		-					のエキスパ	<u></u>	ワークシート
'		付け・壁面構成)、保	すること						ジエ・スハ ブループ) ご	- 1	,,,,
		(遊び・進行)の4分野							会の企画案		
		に分かれ、個々の調査	る。					考えてい			
		活動について発表し合									
		い、幼児にふさわしい									
		誕生日会の企画案を考									
		える。		-							
		・ジグソー活動					I		スパートが		観察
		ジグソー活動のグルー					I	_	こ企画につ		ワークシート
		プに再編成し、エキス							ープ内で分		
		パート活動の内容を説							説明して	۱۱ ا	
}		明し、誕生日会の企画を考える。				{		る。 、ごグソ	 ーグループ		ワークシート
		でちんる。							ークルーク 日会の4分	- 1	
									ラムや必要		としての
									作などの企		評価)
									考え、まと		H1 164 /
							I	ている。			
		・クロストーク活動							-プで考え	た	観察
		各ジグソー活動のグル					:	プログラ	ムについて	企	ワークシート
		一プで考えた誕生日会							が明確にな	- 1	
		の企画をプレゼンテー					-	ように発	表している。		
		ションする。		-							- <u>-</u>
		・投票を行い、実施す					I		に自分の考		ワークシート
		る案について上位二つ							、記入して	۱۱ ا	
		を決定する。		-			J	る。 		<u>.</u>	
		・決定した二つのプロ					I		の調理や製		観祭
		グラムに必要な品物を							に取り組ん	C	
		調理、制作する。 食(献立・テーブル					'	いる。			
-		艮(魞立・ナーノル セッティング)、 衣				{		. ÷+ //- □	を正確に作		п на ь
		(プレゼント)、 住							を正確に正		
		(飾り付け・壁面構							こる。(LL こ基づいて		価表
		成)、保(遊び・進							している、		ЩХ
		行)の各グループに分					I		ゼントする		
		かれ、企画決定された							して、てい		
		事項について確認し、							げている等)	- 1	
		試作し、演出に必要な						-	/		
		物やプレゼント等を完									
		成させる。		-]	
		・2グループで幼児役					I		プ内で役割		観察
		を交代しながら、誕生							極的にリハ		
		日会のリハーサルを行							Vリ組んで	۱۱ ا	
		う。		-				る。	± 0		п нь
									れのリハー		ワークシート
									や表現方法 て、自分の	- 1	リハ-サル評 価表
									て、ロカの をまとめて	-	IIII 1X
								んたここ る。		٠'	
<u> </u>	<u></u>	ļ	ļ	L L	1			o 0			

11	幼児の誕	・保育所や幼稚園等に	幼児の多					・幼稚園や保育所等で	観察
12	生日会の	おいて、誕生日会を実	様なニー					自分たちの企画を実演	
	提供	演する。	ズを的確					することができる。	
		・VTRなどにより、各自	に捉え、	[]]]		・幼児や保育者、保護	レポート
		が幼児に提供した誕生	サービス					者がどのように感じて	
		日会について振り返	の提供を					いるかを観察したり想	
		る。	実践し、					定したりして分析し、	
			質の高い					まとめている。	
		・まとめのレポートを	商品・サ	[1			・幼稚園教諭や保育士	レポート
		作成する。	ービスの					の立場から、幼児につ	
			提供につ					いての質の高い商品や	
			いて分析					ヒューマンサービスに	
			する。					ついて考え、発表して	
								いる。	

1)表中の観点について

関 … 関心・意欲・態度 思 … 思考・判断・表現

技 … 技能 知 … 知識・理解

2)「指導と評価の計画」については第1章「8 指導計画の作成について」(8~12頁参照)の中でその作成に係る留意点等について解説しているので参照する。

(6)教科としての評価に関する留意事項

専門教科「家庭」においては、少子高齢社会の進展やライフスタイルの多様化、食育の推進などの社会の要請に対応し、衣食住、ヒューマンサービスなどに関わる生活産業への消費者ニーズの的確な把握や必要なサービス提供等を行う企画力・マネジメント能力を身に付け、生活文化を伝承し創造する人材を育成することを重視している。

特に、生活産業における将来のスペシャリストに必要な資質や能力として、次の三つの力を育成することが求められている。

- 1 衣食住、ヒューマンサービスなどに関わる生活産業の各分野で職業人として必要とされる資 質や能力
- 2 生活文化の伝承と創造に寄与する能力と態度
- 3 生活産業を取り巻く諸課題を倫理観をもって解決し、生活の質の向上と社会の発展を図る能力と態度

生徒には、専門教科「家庭」における学習を通して、人や生活に対する理解を深め、衣食住、 ヒューマンサービスに関わる専門的な知識や技術、コミュニケーション能力を身に付けるととも に、人々の生活の安心や安全を守る高い規範意識や倫理観を兼ね備えることが求められている。

これらは、ペーパーテストを中心とした評価では生徒の学習状況を十分把握することはできない。 創造性や問題解決能力の育成などを一層重視し、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような、実験や実習等の実践的・体験的な学習がより必要となる。

そのためには、観点別学習状況の評価が必要となる。観点別に評価規準を設定し指導することにより、教師にとっては、学習指導計画や各学習指導の方法に合わせた評価場面や評価方法等が適切であったかを確認することが可能となり、生徒の学習状況を正確に分析することができる。また、生徒にとっては、自分が学習したことが科目の目標をどの程度達成しているかを知ることができる。

(7)Q&A[専門教科(家庭)]

- Q 1 単元の評価規準の設定例で、空欄になっているところは、評価規準を設定してはいけないのか。
- A 1 家庭科では、あえてすべての評価規準を示していません。評価する場面を明確にし、効率的な 設定例としています。空欄の部分に評価規準を設定してはいけないということではなく、学習活動によっては、評価規準を設定することは可能です。
- Q 2 「子どもの発達と保育」や「フードデザイン」の評価規準は、どのように設定すればよいか。
- A 2 本手引きに掲載されている科目以外の各科目の評価規準を設定する場合には、本手引きや「学習評価参考資料」を参考にして、学習指導要領に定められた目標や内容、専門教科「家庭」の評価の観点及びその趣旨を踏まえて、「単元(題材)の評価規準」を設定します。なお、単元(題材)の評価規準の設定については、第1章の14頁を参照してください。

6 看護

(1)教科の目標

看護に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ,看護の本質と社会的な意義 を理解させるとともに,国民の健康の保持増進に寄与する能力と態度を育てる。

(2)教科の評価の観点及びその趣旨

改	Œ	従	前
関心・意欲・態度	看護に関する諸課	関心・意欲・態度	看護に関する諸問
	題について関心をも		題について関心をも
観点名変更なし	ち,その改善・向上		ち,その改善・向上
	を目指して主体的に		を目指して意欲的に
	取り組もうとすると		取り組むとともに,
	ともに,実践的な態		実践的な態度を身に
	度を身に付けてい		付けている。
	る。		
思考・判断・表現	看護に関する諸課	思考・判断	看護に関する諸問
	題の解決を目指して		題の解決を目指して
	思考を深め,基礎		自ら思考を深め,基
	的・基本的な知識と		礎的・基本的な知識
	技術を基に,看護に		と技術を活用して適
	携わる者として適切		切に判断し,創意工
	に判断し,表現する		夫する能力を身に付
	創造的な能力を身に	J	けている。
	付けている。		
技能	看護の各分野に関	技能・表現	看護の各分野に関
A	する基礎的・基本的		する基礎的・基本的
	な技術を身に付け,		な技術を身に付け,
	看護に関する諸活動		実際の仕事を合理的
	を合理的に計画し、		に計画し,適切に処
	その技術を適切に活		理するとともに,そ
	用している。	J	の成果を的確に表現
			する。
知識・理解	看護の各分野に関	知識・理解	看護の各分野に関
知上公本王かり	する基礎的・基本的		する基礎的・基本的
観点名変更なし	な知識を身に付け、	** ***********************************	な知識を身に付け、
	看護の意義や役割を		看護の意義や役割を
	理解している。	* * *	理解している。

☆ 改訂のポイント

看護に関する基礎的・基本的な知識と技術を踏まえた上で、演習などを通して看護上の

諸課題を見いだし、その課題を解決するために、科学的に思考し、適切な看護を考え、判断し、表現するという過程を発言や記述内容から把握する。

実習などを通して、体験的・実践的に技術を習得するとともに、看護過程については、 患者の情報を把握して、看護の必要性を判断し、解決すべき看護上の問題点を明確にし、 援助方法を検討して対策を立て、実施し、その結果を評価するという一連の看護の展開を 言動、記録などから把握する。

(3)科目の評価の観点の趣旨

「基礎看護」の評価の観点の趣旨を例示する。(「学習評価参考資料」より抜粋)

基礎看護			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
看護の意義と保健・	看護の意義と保健・	日常生活の援助及び	看護の意義と保健・
医療・福祉における看	医療・福祉における看	診療における看護に関	医療・福祉における看
護の役割に関心をも	護の役割について思考	する基礎的・基本的な	護の役割を理解し,日
ち,よりよい看護を目	を深め,日常生活の援	技術を身に付け,その	常生活の援助及び診療
指して主体的に取り組	助及び診療において,	技術を適切に活用して	における看護に関する
もうとするとともに、	よりよい看護を行うた	いる。	基礎的・基本的な知識
看護を適切に行う実践	めに適切に判断し,表		を身に付けている。
的な態度を身に付けて	現する創造的な能力を		
いる。	身に付けている。		

(4)単元の評価規準について

「基礎看護」の中の四つの内容のまとまりのうち、「(2)日常生活と看護」における単元の評価規準に関する例示を行う。学習指導要領で示された科目の目標を踏まえ、「評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を示している。

・【科目の目標(基礎看護)】 ――

看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割を理解させ,日常生活の援助及び診療における看護に関する基礎的な知識と技術を習得させるとともに,看護を適切に行う能力と態度を育てる。

「基礎看護」の内容のまとまり「(2)日常生活と看護」における<u>評価規準に盛り込むべき事項</u>である。(「学習評価参考資料」より一部抜粋)

「(2)日常生活と	「(2)日常生活と看護」における評価規準に盛り込むべき事項				
関心・意欲・態度					
	目指して主体的に取り組もうとするとともに,看護を適切に行う実践的な態度				
	を身に付けている。				
思考・判断・表現	患者の状態に応じた日常生活の援助について科学的に思考を深め,安全と安				
	楽に配慮し,患者の自立を目指して適切に判断し,考えを表現している。				
技能	患者の状態に応じた日常生活の援助に関する基礎的な技術を身に付け,その				
	技術を適切に活用している。				
知識・理解	日常生活が人の健康や成長・発達に大きく関わりをもつことを理解し,患者				
	の状態に応じて,健康の回復に役立つ日常生活の援助に関する基礎的な知識を				
	身に付けている。				

「基礎看護」の内容のまとまり「(2)日常生活と看護」は、十の単元で構成されている。これらの単元の<u>評価規準の設定例を示す。</u>(「学習評価参考資料」より一部抜粋)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
【・・増生活の理解】 ・・増生活行動とは ・・増生活行動の保持の ・・増生活行動の保持の ・・増生で ・・クロックを ・・増生で ・・クロックで ・・増生で ・・クロックで ・・クロックで ・・クロックで ・・クロックで ・・クロックで ・・クロの ・・クロックで ・・クロの ・クロの	・ 日常生活行動と成長・増 生活行動と成長・増 進との関わりのでいるでいる。 ま者の安全の自然を動き自動に安全の自然を ま者の安全の自然を は助の必要を が、これで 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	・日常生活行動と成長・増 発達及び健康の保持・者の 安全との関わり及び患し、 安全と向けた援助に関する 資料を収り、 を読み取り、 を き き き が で い の は の は の は り の は り の は り の は り の は り り の り り り り	・発進解・生にめ理・場楽に助解ける活行のでは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
【食生活の援助】 ・人間にとっての食事の 意味や食事に影響を及 す心身の状態や環境を 等に関心をもち, で 状態に応じた安全で な食事の援助にうとな な的に取り組もうな とと身に付けている。	・患者の状態に応じた安全で安楽な食事の援助を行う方法について科学的に思考を深め,適切に判断し,考えを表現している。	・患者の状態に応じた安 全でう方法に関する味を 行う方法に関する味を 切り、を理し、ま 取り、整理し、ま とめ、 いる。 ・体験・実習を通しして を 全とと 要の援助に関する な技術を身に付けている。	・食事の意味や食事に影響を及ぼす心身の状態や環境条件等について理解している。 ・食事の種類や主な治療食,摂取方法について理解している。 ・安全と安楽に配慮した食事の援助に関する基礎的な知識を身に付けている。
【排泄の援いとのでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	・患者では、 ・患者の援助者を表えて、 ・患者の援助者を表えて、 ・患者のがにして、 ・患者のが、 ・患者のが、 ・患者を、 ・患者のが、 ・患者を、 ・まる、 ・まる、 ・まる、 ・まる、 ・まる、 ・まる、 ・まる、 ・まる	・患者では、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	・子因て・助を援プのを・泄助をといる。 おいり は でいる は でいる は でいる は がいる は は は は は は は は は は は は は は は は は は は
【活動・運動の援助】 ・活動・運動が健康に及 ぼす影響に関心をもち 安静を強いられる患者 廃用症候群のある患者の 援助について主体的と り組もうとすると に,実践的な態度を身に 付けている。	・安静を強いられる患者 や廃用症候群のある患者 の心身の苦痛と障害の間 助について,科学的に思 考を深め,ボディメカー クスの原理に基づいて 適切に判断し,考えを 現している。	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・ に ・ に ・ に ・ に ・ に ・ に ・ に ・ で ・ に ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で で ・ で ・ で ・ で ・

		一礎的な技術を身に付けて いる。	移送,床上運動に関する 基礎的な知識を身に付け ている。
【睡眠と休息の援助】 ・睡眠と休息の意義に関 心をもち,不眠への対版 や安静を保つための援助 について主体的に取り組 もうとするとともに,実 践的な態度を身に付けて いる。	・不眠への対応や安静を 保つための援助について 科学的に思考を深め,適 切に判断し,考えを表現 している。	・不眠への対応や安静を 保つための援助に関意、 資料を収集し、そのし、 を読み取り、整理したのし、 をあている。 ・体験・実習を通して 不眠へのが援助にでいる。 ・体験の対対にでいる。 ではな技術を身に付けて でいる。	・睡眠と休息の意義,睡眠の生理とリズム,睡眠の生理とリズム,睡眠と活動のバランス,睡眠に影響を及ぼす因とで、子解している。 ・不眠への対応や安静を保ついて理解がある。 ・不既なの援助に関けてなりない。 基礎的な知識を身に付けている。
【身体の清潔の援助】 ・人間にとっての清潔の 意義とは「関心をもた」 を表表して関心がある。 者の状態についてをもた。 者の状態に等の清潔取り を表している。 を身に付け はもうとともに付け でいる。	・患者の状態に応じた皮膚・毛髪や口腔等の身体の清潔の援助の方法について科学的に思考を深め,適切に判断し,考えを表現している。	・患者の状態に応じます。 体の清潔なし、そのした関語が、 を表すでは、まます。 体の表すでは、まます。 を表すでは、まます。 ・は、まますが、まます。 ・は、まますが、まます。 ・は、まますが、まます。 ・は、まますが、まます。 ・は、まますが、まます。 ・は、ままずが、まます。 ・は、ままずが、まます。 ・は、ままずが、まます。 ・は、ままずが、まます。 ・は、ままが、まます。 ・は、ままが、まます。 ・は、ままが、ままが、ままが、ままが、ままが、ままが、ままが、ままが、ままが、まま	・身体の清潔と健康との関連,人間にとって持って現の意義,清潔解して理解してのいる。 ・患者の状態に応じた皮膚・毛髪関するを増加した関するを関する場合である。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
【衣生活の援助】 ・衣生活の援助】 ・衣生活の意義及び衣服と健康との関わりについて関心をもち,患者脱心にの状態について主体的に取り組もうとするとともにけている。	・患者の状態に応じた寝 衣の着脱方法について科 学的に思考を深め,適切 に判断し,考えを表現し ている。	・患者の状態に応じた寝る おいま できる	・衣生活の意義及び衣服 と健康との関わりについ て理解している。 ・寝衣の条件及び寝衣交 換の必要性について理解 している。 ・患者の状態に応じたる である である である である である である である である である であ
習,生産的な活動,レクリエーションの意味と必要性及び看護者の役割に関心をもち,主体的に取り組もうとするとともに,実践的な態度を身に付けている。	╷・療養生活における学	・療養生活における学習,生産的な活動,レクリエーションの意味と必要性及び看護者の役割に関する資料を収集し,その意味を読み取り,整理し,まとめている。	・療養生活における学習,生産的な活動,レクリエーションの意味と必要性及び看護者の役割を理解している。
【・ま件では、	・患者の状態に応じた病 床環境の調整について科 学的に思考を深め,適切 に判断し,考えを表現し ている。	・患者の状態に応じする ましい に応じする に応じまし、整 を表めている。 ・本様の を表めて ・本様の ・本様の ・ない ・本の ・ない ・ない ・ない ・ない ・での ・での ・での ・での ・での ・での ・での ・での	・・大しい ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

【安全と医療事故】

・安全と医療事故に関心をもち,安全管理や危機管理の方法について主体的に取り組もうとするとともに,実践的な態度を身に付けている。

・医療事故の危険性を予測し,医療事故の危険性を予測し,医療事故の安全管理で事故発生時の危機管理の方法について科学的に思考を深め,基礎的な知識と技術を基に適切に知断し,考えを表現している。

- ・安全管理や危機管理の方法に関する資料を収集し、その意味を読み取り、整理し、まとめている。
- ・事例研究や演習などを 通して,医療事故防止に ついての基礎的な技術を 身に付けている。
- ・医療事故の発生要因・ 種類,医療事故防止につ いての基礎的な知識を身 に付けている。
- ・医療事故の発生を回避するための安全管理や事故発生時の危機管理の方法について理解している。

「基礎看護」の他のすべての内容のまとまりにおける<u>評価規準に盛り込むべき事項及び単元の評</u>価規準の設定例は、「学習評価参考資料」に掲載されている。

(5)単元の指導と評価の計画について(「学習評価参考資料」を一部改編)

「基礎看護」の内容のまとまり「(2)日常生活と看護」の中の単元「安全と医療事故」の指導と評価の計画を例示する。

時	学習内容	学習活動	ねらい	関	思	技	知	評価規準	評価方法
1	安全を守 るための 取組み	・安全対策を強 化するきっかけ となった重大事 故 に つ い て 調 べ、まとめる。	・安全対策を強 化するきっかけ となった医療事 故の概要とその 後の医療安全対					・インターネットを活用 して事故の概要と原因、 背景について主体的に調 べ、まとめている。	観察 ワークシ ート
		・他のするでは、療質に関べるなどとは、療力のでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	策の経緯と内容 について理解を 深める。					・医療事故に係る基本的 な用語の定義を理解して いる。	定期試験
		・っま医取と医や策を重かっま医取と医や策要と国全調頻故といるといる。をて的策るす種の理をののでののののののののののののののののののののののののののののののののの						・医療事故防止のための 医療安全対策の取組を理 解している。	一卜 定期試験
2 3	事故防止対策	・ヒューマンエ ラーにで機能評価 機構の統計資料 と理論に基づい て学ぶ。	・けエ調をの要いでいる。というでは、いては、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいで					一つの重大な事故の背景に多くの軽微な事故があり、「人間はみんなエラーを起こす」ということを理解している。	ワークシ ート
		・けエ日価料会ジベ医るラー医構田の療統看しの療機の本をといる。といるないでは、まないのでは、まといる。	వ 。					医療事故におけるヒューマンエラーについて事故の種類、発生要因などを調べ、まとめている。	ワークシ -ト

		・事故情報を収集し、共有するとの関わりにまとの関わりにまた。				・医療事故を予防するた ワーめには、発生している事 ート故の分析とその結果を共有し、活用することが大切であることについて思考を深め、適切に判断し、表現している。	クシ
		・イン ・イを者が関係で ・イを者が関係を ・イを者がある。 ・イを者がある。				・看護者が関わる医療事 ワー 故とその安全対策につい ート て考察を深め、適切に判 断し、表現している。	クシ
		・医療現場におけるヒーを防みといるというのでは、				・TQM、QCサークル 観察 活動、5S活動などにつ ワー いて関心をもち、調べ、 ート まとめている。	クシ
4	医療事故 発生時の 基本的な 対応	・医療事故発生 時の初期対応に ついての取組を 学ぶ。	・医療事故発生 時の対応と医療 事故による紛争 化の防止方法や			・医療事故発生時の初期 定期対応についての取組を理解している。	試験
		・医療事故による紛争化の防止 についての取組 を学ぶ。	看護者への支援 について理解を 深める。			・医療事故による紛争化 定期 の防止についての取組を 理解している。	試験
		・専門職として の看護者への支 援についての取 組 に つ い て 考 え、まとめる。				・専門職としての看護者 発表 への支援の取組について 定期 考え、適切に判断し、表 現している。	
5 6	医療事故 予法 策	・予グ資されめを、ド測)料れをかる予方ルとのでは、できるがのがは、できるができるができるができるができる。	・患者の状態や環境に対し、 環境に対し、 事故の方法や方法やのいて またい			・医療事故の発生を予測 観察 ロ、事故を予防するため の環境整備や患者の状態 に応じた対策について具体策を考え、発表している。	クシ

1)表中の観点について

関 … 関心・意欲・態度 思 … 思考・判断・表現

技 … 技能 知 … 知識・理解

2)「指導と評価の計画」については第1章「8 指導計画の作成について」(8~12頁参照)の中でその作成に係る留意点等について解説しているので参照する。

(6)教科としての評価に関する留意事項

看護科の学習活動は既習内容や他科目との関連、体験を重視することが多いので、そのような学習活動では、評価の観点の趣旨を踏まえ、学習のねらいに応じて、4観点のどれかに重点をおくなど、適切に設定することが重要である。

関心・意欲・態度

この観点は、生徒が看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割に関心をもち、よりよい看護を目ざして主体的に取り組み、望ましい看護観・職業観・倫理観を探究しようとするとともに看護を適切に行うための実践的な態度を身に付けているかという視点から学習状況を把握する。そのためには、生徒が関心をもって主体的に取り組めるように題材や事例の選択・設定を工夫し、生徒の身近な体験等を生かしながら、他科目の既習内容との関連に留意する必要がある。学習時の態度や発表・課題への取組状況などを通して総合的に把握する。

思考・判断・表現

この観点は、生徒が看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割に関する認識を踏まえて、日常生活の援助及び診療において、よりよい看護を行うために、適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けているかという視点から学習状況を把握する。そのためには、看護に関する基礎的・基本的な知識と技術を踏まえた上で、演習などを通して看護上の諸課題を見いだし、その課題を解決するために、科学的に思考し、適切な看護を考え、判断し、表現するという過程を発言や記述内容から把握する。

技能

この観点は、生徒が日常生活の援助及び診療における看護に関する基礎的・基本的な技術及び一連の看護過程を身に付けているかという視点から学習状況を把握する。そのためには実習などを通して、体験的・実践的に技術を習得するとともに、看護過程については、患者の情報を把握して、看護の必要性を判断し、解決すべき看護上の問題点を明確にし、援助方法を検討して対策を立て、実施し、その結果を評価するという一連の看護の展開を言動、記録などから把握する。

知識・理解

この観点は、生徒が看護の意義と役割を理解し、日常生活の援助及び診察における看護に関する基礎的・基本的な知識を身に付けているかという視点から学習状況を把握する。看護の意義や役割は時代や社会背景による影響も大きいため、その理解については資料なども活用し、断片的な知識ではなく、相互に関連付けられる知識を身に付けられるように工夫する必要がある。また、援助に関する知識も体験や実習を通して学習し、汎用性のある理解を目ざすことが重要である。その把握は発言や記述、ペーパーテストなどを通して行う。

(7)Q&A(看護)

- Q 1 この資料の評価の例をそのまま使用してはいけないのか。
- A 1 使用して構いません。高校の場合、学習目標や学習内容は各学校で定めることになっていますが、それは学習指導要領を踏まえたものであるので、基本的には、この資料の例が使えます。各学校の科目の学習目標や学習内容が学習指導要領と同じであるなら、全く問題ありません。

その際、生徒の状況や学校の状況を踏まえて、細かな部分で生徒に、より適切なものに改良すると、なおよいと考えます。

- Q 2 一つの単元においてすべての観点を評価する必要があるか。
- A 2 「学習評価参考資料」に記載されている通り、単元によっては、特定の観点を中心に評価することもあります。
- Q3 「基礎看護」以外の科目の評価規準は、どのように設定すればよいか。
- A 3 本手引きに掲載されている科目以外の各科目の評価規準を設定する場合には、本手引きや「学習評価参考資料」を参考にして、学習指導要領に定められた目標や内容、教科「看護」の評価の観点及びその趣旨を踏まえて、「単元の評価規準」を設定します。なお、各科目の評価の観点の趣旨の考え方については、第1章の8~9頁を、単元の評価規準の設定については、第1章の14頁を参照してください。

7 情報(専門教科)

(1)教科の目標

情報の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における情報の意義や役割を理解させるとともに、情報社会の諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、情報産業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

(2)教科の評価の観点及びその趣旨

2:	文 正	}	従 前
関心・意欲・態度	情報の各分野に関す	関心・意欲・態度	情報の各分野に関す
	る諸課題について関心		る諸問題について関心
観点名変更なし	をもち,その改善・向	}	をもち,その改善・向
	上を目指して主体的に	J	上を目指して意欲的に
	取り組もうとするとと	<u>}</u>	取り組むとともに,創
	もに,実践的な態度を		造的,実践的な態度を
	身に付けている。	<u></u>	身に付けている。
思考・判断・表現	情報の各分野に関す	思考・判断	情報の各分野に関す
	る諸課題の解決を目指		る諸問題の解決を目指
	して思考を深め,基礎		して自ら思考を深め,
	的・基本的な知識と技		基礎的・基本的な知識
	術を基に,情報産業に		と技術を活用して適切
	携わる者として適切に	}	に判断し,創意工夫す
	判断し,表現する創造		る能力を身に付けてい
	的な能力を身に付けて	J	る。
	いる。	<u> </u>	
<u>技能</u>	情報の各分野に関す	技能・表現	情報の各分野に関す
A	る基礎的・基本的な技	,	る基礎的・基本的な技
	術を身に付け、情報の		術を身に付け,実際の
	各分野に関する諸活動		仕事を合理的に計画
	を合理的に計画し、そ		し,適切に処理すると
	の技術を適切に活用し		ともに,その成果を的
	ている。	<u>J</u>	確に表現する。
知識・理解	情報の各分野に関す	知識・理解	情報の各分野に関す
	る基礎的・基本的な知	<u> </u>	る基礎的・基本的な知
観点名変更なし	識を身に付け,現代社		識を身に付け,現代社
	会における情報及び情		会における情報及び情
	報産業の意義や役割を	\$	報産業の意義や役割を
	理解している。		理解している。

◇ 改訂のポイント

「関心・意欲・態度」

- ・教科目標の記述を踏まえ、「課題」に変更した。
- ・「意欲」の観点の趣旨をより明確にするために「主体的に」を書き加えた。 「思考・判断・表現」
- ・教科目標の記述を踏まえ、「課題」に変更した。
- ・教科目標に書き加えられた「倫理観をもって」の内容を、「情報産業に携わる者として適切に判断し」と具体化し、書き加えた。
- ・「表現」の観点の趣旨に関する記述を書き加えた。
- ・「思考・判断・表現」の観点の趣旨に「創造的」を書き加えた。 「技能」
- ・現行の「技能・表現」の観点の趣旨にある「実際の仕事」をより具体化するために「情報 の各分野に関する諸活動」に書き改めた。
- ・「技能」の観点の趣旨として、「その技術を適切に活用している」を書き加えた。

(3)科目の評価の観点の趣旨

「情報産業と社会」、「情報の表現と管理」、「情報と問題解決」及び「情報テクノロジー」の評価の観点の趣旨を例示する。(「学習評価参考資料」より抜粋)

情報産業と社会			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
情報産業に興味と関	情報化と情報産業の	情報技術者が業務を	情報技術者に求めら
心をもち,情報技術者	発展によってもたらさ	遂行するために必要と	れる基礎的な知識を身
として情報に関する幅	れる現代社会への影響	なる基礎的な技術を身	に付け、その役割や業
広い視野と情報活用能	や情報モラル等の必要	に付け,その技術を適	務内容,情報モラルの
力を身に付けることに	性,情報産業の諸課題	切に活用している。	必要性や情報セキュリ
意欲的に取り組み,情	や情報技術者の役割や		ティの重要性について
報産業の発展に主体的	責任について思考を深		理解している。
に寄与しようとする態	め,適切に判断し,表		
度を身に付けている。	現している。		
情報の表現と管理			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
情報の表現と管理に	情報を目的に応じて	情報の表現と管理に	情報の表現と管理に
関心をもち , 情報の分	適切に表現し,管理	必要な表現方法や情報	関する基礎的な知識を
かりやすい表現や発信	し,活用することを目	の発信及び管理に関す	身に付け,情報の役割
及び適切な管理に,情	指して思考を深め,情	る基礎的な技術を身に	や特性及び情報を取り
報技術を積極的に活用	報の特性に応じた表現	付け,その技術を適切	扱う上での責任を理解
することを目指して主	や管理及び情報技術の	に活用している。	している。
体的に取り組もうとす	活用方法を適切に判断		
るとともに,実践的な	し,表現している。		
態度を身に付けてい			
る。			

情報と問題解決			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
社会や情報産業にお	情報技術を活用して	情報手段を活用した	情報技術を活用した
ける問題解決の仕組み	適切に問題解決を行う	問題の発見と解決に関	問題の発見と解決に関
について関心をもち,	ことを目指して思考を	する基礎的な技術を身	する基礎的な知識を身
情報技術を活用して適	深め,問題の内容に応	に付け,問題の発見か	に付け,一連の作業の
切に問題解決を行うこ	じた解決手法や分析結	ら解決までの過程にお	意義や役割について理
とを目指して主体的に	果を適切に判断し,表	いて,その技術を適切	解している。
取り組もうとするとと	現している。	に活用している。	
もに,実践的な態度を			
身に付けている。			
情報テクノロジー			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
情報産業を支える情	今後の情報テクノロ	情報産業を支える情	情報産業を支える情
報技術について関心を	ジーの進展の方向性な	報機器や通信ネットワ	報技術の基礎的な知識
もち,それらを実際に	どについて思考を深	ーク及びハードウェア	を身に付け,コンピュ
活用することを目指し	め,情報技術者として	やソフトウェアの利用	ータや情報通信ネット
て主体的に取り組もう	適切に判断し,表現し	に関する基礎的な技術	ワークの活用に関わる
とするとともに,実践	ている。	を身に付け,その技術	基礎的なハードウェア
的な態度を身に付けて		を適切に活用してい	やソフトウェア及び身
いる。		る。	近な情報システムの特
			徴や役割を理解してい
			る。

(4)単元の評価規準について

「情報産業と社会」の中の三つの内容のまとまりのうち、「(3)情報産業と情報モラル」における単元の評価規準に関する例示を行う。学習指導要領で示された科目の目標を踏まえ、「評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を示している。

【科目の目標(情報産業と社会)】 ---

情報産業と社会とのかかわりについての基礎的な知識と技術を習得させ、情報産業への興味・関心を高めるとともに、情報に関する広い視野を養い、情報産業の発展に寄与する能力と態度を育てる。

「情報産業と社会」の内容のまとまり「(3)情報産業と情報モラル」における<u>評価規準に盛り</u> 込むべき事項である。(「学習評価参考資料」より一部抜粋)

「(3)情報産業と	「(3)情報産業と情報モラル」における評価規準に盛り込むべき事項				
関心・意欲・態度	情報技術者の使命と責任,情報モラルと情報セキュリティ,情報産業に関わる				
	法規などに関心をもち,情報技術者の社会的責任を踏まえ,職業人として法規を				
	守って正しく行動する態度を身に付けようとしている。				
思考・判断・表現	情報技術者が担っている社会的な責任,情報セキュリティ対策の必要性と重要				
	性について考え,情報モラルや関連する法規に基づいて適切に判断し,表現して				
	いる。				

技能	情報モラルと情報セキュリティ,情報産業に関わる法規などを踏まえて,情報 リスクに適切に対応するために必要な基礎的な技術を身に付け,目的に応じて適 切に利用している。
知識・理解	情報技術者に求められる責任,守らなければならない情報モラルと情報セキュリティ,情報産業に関わる法規について基礎的な知識を身に付けている。

「情報産業と社会」の内容のまとまり「(3)情報産業と情報モラル」は、三つの単元で構成されている。これらの単元の評価規準の設定例を示す。(「学習評価参考資料」より一部抜粋)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
【情報技術者の業務と責任・情報技術者の職務内容や業務上の責任について関心をもち,実践らしている。・職業人として適切の必意ではでする。で、職業ではでいる。で、職を遂行するこののでは、実践のではでいる。	・情報技術者の職務上の 責任や情報技術者が担っ 責任や情報技術者が担っ ている社会的な責任,職 業人として適切に業務を 遂行することの必要性や 重要性について考えしてい 切に判断し,表現してい る。	・情報技術者の職務と責任,職業人として適切に 業務を遂行することの必 要性や重要性について情報を収集し,体系的にま とめている。	・情報技術者の職務内容 とそれを遂行する際に求 められる業務上及び社会 的な責任について理解している。 ・職業人として適切に業 務を遂行することの必要 性や重要性について理解 している。
【情報モラルと情報セキュ・情報社会を構成になるを構成になる。 ・ はよらとするではいる。 ・ はないに適切している。 ・ はないに適切してできるがいる。 ・ 応としている。 ・ 応としている。	リティ】 ・業正い・信活プいる・る損し対つので、大いので、大いのので、大いので、大いので、大いので、大いので、大いので、大	・信活を扱・・信活を扱・・信託を扱・・情報の現で、情報で、情報ででである。 セス・リース・リース・リース・リース・リース・リース・リーのでは、とは、カーのでは、というのでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	・び誹謗のでは、のに必要をできます。というでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、の
【情報産業と法規】 ・情報産業に関わる法規 に関心をもち, いいででは 性や重要性についる。 性や重要性に実践して がででは がいるがで がいる がいるがで がいるがで がいるがで がいるがで がいるがで がいるがで がいるがで がいるがで がいるがで がいるがで がいるがで がいるがで がいるがで がいるがで がいるがで がいるがで がった がった がっと がっと がっと がっと がっと がっと がっと がっ がっと がっ がっ がっと がっ がっ がっ がっ がっ がっ がっ がっ がっ がっ がっ がっ がっ	・情報技術者に求められる法令遵守の考え方を身に付け,法令に基づいて判断している。 ・法規を守ることの意義と重要性について考えている。	・情報の収集,処理,発信,表現などの基本的な活動場面において,法規を守って適切に情報を扱っている。	・知的財産や情報セキュリティ対策に関する法規など、情報を業に関わりに関する法規を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を

「情報産業と社会」の他のすべての内容のまとまりにおける<u>評価規準に盛り込むべき事項及び単元の評価規準の設定例</u>は、「学習評価参考資料」に掲載されている。

(5)単元の指導と評価の計画について(「学習評価参考資料」を一部改編)

「情報産業と社会」の内容のまとまり「(3)情報産業と情報モラル」の中の題材「『ソーシャルネットワーキングサービス』の利用規約を考案しよう」の「指導と評価の計画」を例示する。

時	学習内容	学習活動	ねらい	関	思	技	知	評価規準	評価方法
1	SNS の利用 規約につい て調べる	・約うる提ともイワ利のが称対用とのである。 利と例名、利Webでクリックがある。 がは事、者るめでクリックがはいる。 がながが対用もいている。 は、おいのがながが、している。 が、おいのがない。 は、おいのがない。 は、おいのがない。 は、おいのがない。 は、おいのがない。 は、おいのがない。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	SNSのは事別に対している。 おからが心報になか、対理を対すでは事ができませる。	 	, LL.	1X		SNSの利用規約の重要性に関心をもち、各種SNSの利用規約について主体的に調べ、ワークシートにまとめている。 実際のSNSにどのような利用規約が規定されているのか、その特徴と内容を理解している。	・生徒の行動観察・ワート・ワークシート
2	実習用 SNS を使用する	にまと名 ・ク方録事を ・ク方録事を ・実の者、な ・実の者、な ・実のある。 ・実のある。 ・実のある。 ・シスカーの者、な ・の者、な ・の者、な ・の者、か のものものものものものものものものものものものものものものものものものものも	実ネでである。 とム用いのではいる との者を行れのでいる を行れのという を行いのがある。 を持続している。					SNSの利用規約に沿った利用者登録ができ、適切なプロフィール設定をしている。 ユーザIDやパスワードについて、情報セキュリティに配慮して管理している。	・ SNS 上 の 制報 ・ SNS ・ SNS の 投確認 の確認
3	グループで SNS の 利用 規約を考案 する	・つ動動動なてSNSを用で がくや、な題SNSの り生同ど材の り も、徒窓、を名 しに しに で がの が も に が の り に の は の り に の り に の り に り に り に り に り に り に り	・グループで の話合いを基 に、 SNS の利 用規約を考え る。					グループ協議や名グループの説明に対していたり、 利利のに意見を述べる。 を考えようとしている。 不としている。 不としている。 不決している。 不決している。 不決している。 不決している。 不決している。 不決している。 不決している。	行動観察 ・ワーク
4	各グループ で考案の内 を説明する	・約なめ内る他のきなを・踏った約SNと事、容との説、ど深発まプNSののし項考をとグ・質しめ表えがの見利てを案説もル・問てる内、考利直用必まし明に一をす議・容グ案用し規要とたす、プ聞る論・をルし規を	要性について 考えを積極的 に述べ、情報 技術者とし りに判断					グループ協議や各グループ協議や日本では、 プループはでは、 別ののの意見を述べる。 一でがある。 一ででは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	行動観察
5	SNS における情報リスクについて考える	行う。 ・一ででは、 ・ででは、 ・でででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・でででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・でででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・でででは、 ・ででは、	権保護など、 SNSにおける					個人のプライバシー侵害 や著作物などの知的財産 の不正利用を回避するた めのソフトウェア機能を 考えている。	・ワークシート

1	, ,
・実際のSNSの	│
利用規約には	│ │ │ │正アクセスや情報の漏洩│シート │
プライバシー	│ │ │ │ │防止など、情報リスクへ│
の侵害や著作	│ │ │ │ │ │ の対策が含まれているこ│
権保護に関す	とを理解している。
る事項につい	
て、必ず明示	
されている事	
を確認する。	

1)表中の観点について

関 … 関心・意欲・態度 思 … 思考・判断・表現

技 … 技能 知 … 知識・理解

2)「指導と評価の計画」については第1章「8 指導計画の作成について」(8~12頁参照)の中でその作成に係る留意点等について解説しているので参照する。

(6)教科としての評価に関する留意事項

「関心・意欲・態度」に関する評価活動

「関心・意欲・態度」の観点についての評価は、授業ごとの生徒の行動観察が主体となる。 1 時間に全ての生徒の活動を、観察により記録することは困難な場合もあることから、「十分に満足できる」状況(A)と判断される場合のみ記録する方法もある。また、ワークシートへの書き込み内容によって評価することもできる。

「思考・判断・表現」に関する評価活動

本事例の3時限目における「思考・判断・表現」に関する評価については、生徒がグループによる話合いに主体的に参加し、協議した結果に基づいて、思考した結果をまとめたワークシートへの書き込み内容を評価の対象としている。このような場合には生徒の実態を踏まえ、考えをまとめさせる時間を十分取る必要がある。

「技能」に関する評価活動

専門教科「情報」の学習では、実践的な活動を通した技術の習得が重要であるが、他の観点との関連性を意識して評価規準を設定することが望ましい。 2 時限目のSNSを脱会する操作について、脱会だけではデータベース内の情報が消去されないことや、投稿したコメントの削除を行ってもバックアップなどにより、情報漏洩などの危険性が完全には無くならないことを補足することにより、単元の学習目標をより深化・定着させることができる。

「知識・理解」に関する評価活動

本事例の1時限目及び5時限目に設定した「知識・理解」に関する評価については、ワークシートへの書き込み内容から判断することとしている。ワークシートを集め、確認する際に、評価のポイントになる事項について、アンダーラインやコメントを記入して返却することによって、読み直しや記述内容の振り返りにつながり知識の深化・定着を図ることの一助となる。

(7) Q & A [情報(専門教科)]

- Q 専門教科「情報」の13科目のうち、各科目の評価の観点の趣旨が示されているのは、「情報産業と社会」「情報の表現と管理」「情報と問題解決」「情報テクノロジー」の4科目だけで、その他の9科目は示されていないが、どのように考えたらよいか。
- A 参考として示されている上記4科目の評価の観点の趣旨を参考に、他の専門教科情報科の各科目の評価の観点を作成してください。

-(参考)専門教科情報科の言語活動の充実について -

情報科においては、情報の各分野に関する知識・技術の習得や情報の意義や役割の理解などを通して、情報産業が求める創造力、問題解決力や統合力、職業倫理等の創造的な能力と実践的な態度を身に付けた人材の育成を重視する。言語活動を取り上げる際には、生徒が主体的に考え、討議し、発表し合う学習活動を取り入れ、言語などを活用して、新たな情報を創り出したり、分かりやすく情報を表現したり、正しく伝達したり、他者と共同して問題を適切に解決する学習活動を充実する。

基礎的分野においては、高度な情報技術者が共通に身に付けるべき情報の表現と管理、問題の発見・解決、情報技術等に関する基礎的な知識・技能や態度を身に付けさせるために、情報技術者の役割や使命・責任、情報技術の適切な選択・活用、情報の文書化の重要性・必要性、問題解決の過程と結果の評価・改善等について、生徒が主体的に考え、討議し、発表し合う等の学習活動を充実する。

システムの設計・管理分野においては、システム全体の設計・構築や管理・運営を担う等の高度な情報技術者が必要とする知識・技術や態度を身に付けさせるために、問題解決の目的に応じたアルゴリズムの選択・改善、ネットワークやデータベースの運用管理・セキュリティ管理・障害管理の重要性・必要性、情報システムの開発過程や結果の評価・改善等について、生徒が主体的に考え討議し、発表し合う等の学習活動を充実する。

情報コンテンツの制作・発信分野においては、様々な表現メディアを駆使して情報コンテンツを制作するとともに適切に発信できる高度な情報技術者が必要とする知識・技術や態度を身に付けさせるために、情報メディアの社会や情報産業における役割や影響、社会生活における情報デザインの目的・役割や重要性、情報コンテンツの開発過程や結果の評価・改善等について、生徒が主体的に考え、討議し、発表し合う等の学習活動を充実する。

「言語活動の充実に関する指導事例集 ~ 思考力・判断力・表現力等の育成に向けて~ 【高等学校版】」より(平成24年6月 文部科学省)

8 福祉

(1)教科の目標

社会福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を総合的,体験的に習得させ,社会福祉の理念と意義を理解させるとともに,社会福祉に関する諸課題を主体的に解決し,社会福祉の増進に寄与する創造的な能力と実践的な態度を育てる。

(2)教科の評価の観点及びその趣旨

改	正	従	前
関心・意欲・態度	社会福祉に関する	関心・意欲・態度	社会福祉に関する
	諸課題について関心		諸問題について関心
観点名変更なし	をもち,その改善・	<u> </u>	をもち,その改善・
	向上を目指して主体		向上を目指して意欲
	的に取り組もうとす	}	的に取り組むととも
	るとともに,実践的	J	に,創造的,実践的
	な態度を身に付けて		な態度を身に付けて
	いる。		いる。
思考・判断・表現	社会福祉に関する	<u>思考・判断</u>	社会福祉に関する
	諸問題の解決を目指		諸問題の解決を目指
	して思考を深め,基		して自ら思考を深
	礎的な知識と技術を		め,基礎的・基本的
	基に,福祉に携わる		な知識と技術を活用
	者として適切に判断	}	して適切に判断し、
	し,表現する創造的		創意工夫する能力を
	な能力を身に付けて	J	身に付けている。
	いる。	<u> </u>	
<u>技能</u>	社会福祉の各分野	技能・表現	社会福祉の各分野
A	に関する基礎的・基		に関する基礎的・基
	本的な技術を身に付		本的な技術を身に付
	け,福祉に関する諸		け,実際の仕事を合
	活動を合理的に計画		理的に計画し,適切
	し,その技術を適切	}	に処理するととも
	に活用している。)	に , その成果を的確
		<u></u>	に表現する。
知識・理解	社会福祉の各分野	知識・理解	社会福祉の各分野
	に関する基礎的・基		に関する基礎的・基
観点名変更なし	本的な知識を身に付		本的な知識を身に付
	け,社会福祉の意義		け,社会福祉の意義
	や役割を理解してい		や役割を理解してい
	る。		る。

\Rightarrow

改訂のポイント

福祉社会の一員として生活上の問題に関心をもち、その改善・向上を目ざして主体的に取り組むことを評価することとしている。

社会福祉関連の職業に従事する者として、社会福祉に関する諸課題の解決を目ざした取組等に対する思考を深め、適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けていることを評価することとなった。

福祉に関する諸活動に対応することを目ざして、身に付けた技術を適切に活用していることについて評価することとしている。

(3) 各科目における評価の観点の趣旨

福祉に関する学科が原則的に履修することとなっている「社会福祉基礎」の評価の観点の趣旨を例示する。(「学習評価参考資料」より抜粋)

社会福祉基礎			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
社会福祉に関心をも	日常生活から派生す	社会福祉に関する基	現代社会における社
ち,福祉社会に向けた	る社会福祉に関する諸	礎的な技術を身に付	会構造の変容や特色に
課題に主体的に取り組	課題の解決を目指して	け , 福祉に関する諸活	ついて理解し,社会福
むとともに,社会福祉	思考を深め,基礎的な	動に対応することを目	祉に関する基礎的な知
に関する幅広い視野と	知識と技術を基に,福	指してその技術を適切	識を身に付けるととも
福祉観や社会福祉の向	祉に携わる者として適	に活用している。	に,社会福祉の意義や
上を図る実践的な態度	切に判断し,表現する		役割を理解している。
を身に付けている。	創造的な能力を身に付		
	けている。		

(4)単元(題材)の評価規準について

「社会福祉基礎」の中の四つの内容のまとまりのうち、「(3)社会福祉思想の流れと福祉社会への展望」における単元の評価規準に関する例示を行う。学習指導要領で示された科目の目標を踏まえ、「評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を示している。

【科目の目標(社会福祉基礎)】

社会福祉に関する基礎的な知識を習得させ,現代社会における社会福祉の意義や役割を理解させるとともに,人間としての尊厳の認識を深め,社会福祉の向上を図る能力と態度を育てる。

「社会福祉基礎」の内容のまとまり「(3)社会福祉思想の流れと福祉社会への展望」における<u>評</u> 価規準に盛り込むべき事項である。(「学習評価参考資料」より一部抜粋)

「(3)社会福祉思	思想の流れと福祉社会への展望」における評価に盛り込むべき事項
関心・意欲・態度	社会福祉思想や地域福祉について関心をもち、外国における社会福祉、日本
	における社会福祉,地域福祉の進展について探究しようとしている。
思考・判断・表現	外国における社会福祉,日本における社会福祉,地域福祉の進展について思
	考を深め,基礎的な知識と技術を基に適切に判断し,その過程や結果を適切に
	表現している。
技能	社会福祉思想の流れと福祉社会への展望に関する様々な資料や情報を収集
	し,適切に選択して活用している。

知識・理解

社会福祉思想の流れと福祉社会への展望に関する基礎的な知識を身に付け, 社会福祉思想が発展してきた過程,地域福祉の意義や役割を理解している。

「社会福祉基礎」の内容のまとまり「(3)社会福祉思想の流れと福祉社会への展望」は、三つの単元で構成されている。これらの<u>単元の評価規準の設定例</u>を示す。(「学習評価参考資料」より一部 抜粋)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
【外国における社会福祉】 ・外国における社会福祉 について関心をもち,既 国の福祉国家形成国の社 要,アメリカ合衆国の社 会福祉発展の概要,北成 における福祉国家形域の における福祉の現状や課題 で で が近年の状況にいる。	・英国の福祉国家形成のの 概要,アメリカ合衆要, 社会福祉との概要要, 社会福はないでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	・外国における社会福祉 に関する様々な資料や情 報を収集し,適切に選択 して活用している。	・英国 では、 ・英国の福出ののの を表現のでは、 を表現のでは、 を表現のでは、 を表現では、 を表記では、 を表記では、 でのののののののののののののののののののののののののののののののののののの
【日本における社会福祉】 ・日本における社会名会 ・日本に関心をもちける ・で関心をもち、 関連をは、 ・で関心をもち、 ・で関心をもち、 ・でで関心をもち、 ・でで関心をもち、 ・でで関心をもいる。 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・でいる。 ・でいる。	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・日本における社会福祉 に関する様々な資料や情 報を収集し,適切に選択 して活用している。	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
【地域福祉の進展】 ・地域福祉の考え方や進展について関心をもち, 地域福祉の意義や役割に ついて探究しようとしている。	・地域福祉の意義や役割について思考を深め,基礎的な知識と技術を基に適切に判断し,その過程や結果を適切に表現している。	・地域福祉の進展に関する様々な資料や情報を収集し,適切に選択して活用している。	・地域福祉の進展に関する基礎的な知識を身に付け、地域福祉の意義や役割を理解している。

点線は、単元の区切りである。

「社会福祉基礎」の他のすべての内容のまとまりにおける<u>評価規準に盛り込むべき事項及び単元の</u> 評価規準の設定例は、「学習評価参考資料」に記載されている。

(5)単元(題材)の指導と評価の計画について(「学習評価参考資料」を一部改編)

「社会福祉基礎」の内容のまとまり「(3)社会福祉思想の流れと福祉社会への展望」の中の単元 「外国における社会福祉」の指導と評価の計画を例示する。

時	学習内容	学習活動	ねらい	関	思	技	知	評価規準	評価方法
1 2 3	ヨパ福会はとの祉展ーの祉福じ英社の)ツ会社のりで福発	・相互扶助と自動を主要を対しては、はいる。主要を対している。主要を対している。主要を対している。主要を対している。主要を対している。主要を対している。主要を対している。主要を対している。主要を対している。	の展開、福祉 国家体制の歴					・相互扶助や慈善事業の実施を通りでは、 の理解を通して、、 をもちいまでは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のない。 のないない。 のないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	ワークシ -ト
		・エリザベス教育法 対対 ない ない がい ない						・英国における救貧法 の内容に関する理解に そのもして、その問題の問題は 関する思考を深め事業 の結果民間社会を 発生したことを し、その過程を しまとめている。	ワークシ -ト
		・「ゆりという りかごれる がうで報告、の内 はサービスの内 は世ので は世ので は世ので はいる はいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる に						・ベバリッジ報告や国民保健サービスに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、英国の福祉国家体制構築の過程について理解している。	
		・英アマネテスを 域アマネテスを では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、						・地域ケアやケアマネジメントの考えが登場した過程に関心をもち、具体的な各国の取組について意欲的に探究しようとしている。	観察
5	ヨパ福ウン欧国成展ーの祉・なの家と) いく いいしょ いいしょ いいしょ いいしょ いいしょ いいい はいい はいい はい はいい はいい はいい はいい はいい はいい	・ノーマライででででででいる。シリーである。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	先福ーシのどめし祉に的制ラン成調こ、想いな度イの過べと社のて社のでと社のてるのとなりである。					・ノーマライゼーションの考え方などの先進的な考え方や取組などの情報を収集し、社会への活用場面についてまとめている。	ワークシ ート
		・在宅福祉や在宅ケアの取組が普及した背景について理解を 深める。	解を深める。					・在宅福祉や在宅ケア の取組を通して地域性 や個別性を重視した社 会福祉制度の意義を理 解している。	

6	ア合社(会先界会法ソ鬼福間業との保)	・モタ用ト アドカッ調と リカーに リカーを リカーが リカーが リカーが リカーが カカーの アけ取り カターの アカーの アカーの アカーの アカーの アカーの アカーの アカーの アカ	慈動の性メチ躍こ理る 語の意にアモをと解 組発義つード察通を 化や重てリのすし深 運そ要、ッ活るてめ	展を、メアリー=リッ チモンドの活躍を通し て考え、現在の社会福 祉に与えた意義につい て探究しようとしてい る。
7	アナリカの社(最会) (社の動物)	・公民権運動では、 生活アンに過らが状況では、 生活アンな理のでは、 かまでは、 かまでは、 かまでは、 かまでは、 かまでは、 かまでは、 かまでは、 かまが、 からに、 からに、 からに、 からに、 からに、 からに、 からに、 からに	公自のをカのである。 を主組つな法義解を を対成のでる。	差別禁止につながり、 ート その後の自立活動運動 に発展し、障害をもつ アメリカ人法が成立し た過程を理解した上
8	ア社(の齢会課題)	・アジア諸国の福祉 の現状や課題を、リー アチルマンに考えいる アートナーで 大田の でである。 でである。 でである。	ア社状福発の方解を深める。 の現、やへり理 を深める。	・韓国や中国の福祉制 ワークシ 度についての基礎的・ ート 基本的な理解の上で、 少子高齢化の現状やそ の解決のための取組を 理解している。

1)表中の観点について

関 … 関心・意欲・態度 思 … 思考・判断・表現

技 … 技能 知 … 知識・理解

2)「指導と評価の計画」については第1章「8 指導計画の作成について」(8~12頁参照)の中でその作成に係る留意点等について解説しているので参照する。

(6)教科としての評価に関する留意事項

「関心・意欲・態度」

この観点では、特に、社会福祉に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目ざして主体的に取り組むことを評価する。また、実践的な態度を身に付けていることを踏まえて評価する。

「思考・判断・表現」

この観点では、社会福祉に関する諸課題の解決を目ざした取組等に対する思考を深め、適切な判断をし、表現する創造的な能力を身に付けていることを、特に言語活動を重視して適切に評価する。

「技能」

社会福祉に関するコミュニケーション技術や社会福祉援助活動などの対人援助技術の内容についてはこれまで同様にこの観点で評価する。この観点では、このほかに、社会福祉に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、福祉に関する諸活動に対応することを目ざしてその技術を適切に活用していることについて評価する。

「知識・理解」

この観点では、社会福祉に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、社会福祉の意義や役割を理解しているかを評価する。

(7)Q&A(福祉)

- Q 1 福祉科における観点別学習状況の評価の留意点はどのようなことか。
- A 1 福祉科では、知識と技術の習得にとどまらず、社会福祉関連の職業に従事する者として求められる福祉観や倫理観を高めるための生活上の問題点を取り上げた具体的事例を通した考察や討論、介護場面を想定した演習や実習など様々な学習を行う必要があります。そのため、社会福祉に関する基礎的な知識を習得させ、社会構造の変容などが社会福祉の進展にどのように影響し、どのような変化をもたらしているのかを考えさせることを評価するための評価規準を作成し、それに基づく評価を行い、生徒の学習状況を分析し、的確な把握をすることが必要です。
- Q 2 「社会福祉基礎」以外の科目の評価規準は、どのように設定すればよいか。
- A 2 本手引きに掲載されている科目以外の各科目の評価規準を設定する場合には、第1章や「学習評価参考資料」を参考にして、学習指導要領に定められた目標や内容、教科「福祉」の評価の観点及びその趣旨を踏まえて、「単元(題材)の評価規準」を設定します。なお、各科目の評価の観点の趣旨の考え方については、第1章の8~9頁を、単元の評価規準の設定については、第1章の14頁を参照してください。

9 理数

(1)教科の目標

事象を探究する過程を通して,科学及び数学における基本的な概念,原理・法則などについての系統的な理解を深め,科学的,数学的に考察し表現する能力と態度を育て,創造的な能力を高める。

(2)教科の評価の観点及びその趣旨

ユ お	I ←		前
		\$	
関心・意欲・態度	自然の事物・現象	以別心・思欲・忠岌	自然の事物・現象
観点名変更なし	や数学的事象に関心		や数学的事象に関心
既示口交叉なり	をもち、積極的にそ		や探究心をもち,意
	れらを探究しようと		欲的,積極的にそれ
	するとともに,事象	* *	らを探究するととも
	を科学的・数学的に		に、事象を科学的・
	考察し表現する態度	** }	数学的に考察し処理
	を身に付けている。		しようとする態度を
		<u> </u>	身に付けている。
思考・判断・表現	自然の事物・現象	思考・判断	自然の事物・現象
A	の中に問題を見いだ		の中に問題を見いだ
	し探究する過程を通		し,観察,実験など
	して,事象を科学		を行うとともに,事
	的,創造的に考察		象を実証的 , 論理的
	し,導き出した考え		に考えたり,分析
	を的確に表現してい		的,総合的,創造的
	る。また,数学的な		に考察したりして問
	見方や考え方を身に		題を解決し,事実に
	付け,事象を数学		基づいて科学的に判
	的,創造的に考察し		断する。また,数学
	的確に表現してい	<u>}</u>	的な見方や考え方を
	る。		身に付け,事象を数
			学的にとらえて論理
			的,発展的,創造的
			に考察する。
	観察,実験の基本	観察・実験の技能・	観察,実験の技能
	操作及び自然の事		及び自然の事物・事
T	物・現象を探究する	<u> </u>	象を探究する方法を
	技能を身に付けてい		身に付け,それらの
	る。また,事象を数		過程や結果及びそこ
	学的に表現・処理す		から導き出した自ら
	る仕方や推論の方法		の考えを的確に表現
I	- 12/3 ; JEHIN 47/3/4	??	3/C C F J F L C C C // C

	などの技能を身に付けている。		する。また,事象を 数学的に考察し,表 現し処理する仕方や 推論の方法を身に付 け,よりよく問題を 解決する。
知識・理解	科学や数学におけ	知識・理解	一自然科学や数学に
	る基本的な概念や原	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	おける基本的な概念
観点名変更なし	理・法則などを系統	<u> </u>	や原理・法則を系統
	的に理解し,知識を		的に理解し,知識を
	身に付けている。		身に付けている。



改訂のポイント

従前は理科と同じ名称の観点が設定されていたが、改正後の観点の名称は評価の4観点 (「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」及び「知識・理解」)となっ ている。

従前で使用していた「自然科学」は「科学」と改められており、自然科学に限定せずに 社会科学や人間科学なども含めた領域に広げた上で生徒一人ひとりの個性や能力の多様化 に応じた適切な教育を進めることとなった。

(3)科目の評価の観点の趣旨(例)

原則として理数科のすべての生徒が履修する科目のうち「理数数学」、「理数物理」、「理数 化学」、「理数生物」及び「理数地学」の評価の観点の趣旨を例示する。

(神奈川県教育委員会作成)

理数数学			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
数学における系統	数学における系統	数学における系統	数学における基本
化された基本的な概	化された基本的な概	化された基本的な概	的な概念や原理・原
念や原理・原則に関	念や原理・原則につ	念や原理・原則を基	則を系統的に理解
心をもち、積極的に	いて数学的な見方や	に、事象を数学的に	し、知識を身に付け
それらを探究しよう	考え方を身に付け、	表現・処理する仕方	ている。
とするとともに、事	事象を数学的、創造	や推論の方法などの	
象を数学的に考察し	的に考察し的確に表	技能を身に付けてい	
表現する態度を身に	現している。	z	
衣以りる忠反を分に	兄している。	る。	
で表現する態度を身に 付けている。	兄のでいる。	్ ఫ	
	兄のでいる。	ు	
付けている。	思考・判断・表現	技能	知識・理解
付けている。 理数物理			知識・理解 物理的な事物・現
付けている。 理数物理 関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	
付けている。 理数物理 関心・意欲・態度 物理的な事物・現	思考・判断・表現物理的な事物・現	技能 物理的な事物・現	物理的な事物・現
付けている。 理数物理 関心・意欲・態度 物理的な事物・現 象についての観察、	思考・判断・表現 物理的な事物・現 象についての観察、	技能 物理的な事物・現 象についての観察、	物理的な事物・現 象についての観察、

それらを探究しよう	る過程を通して、事	現象を探究する技能	などを系統的に理解
とする。	象を科学的、創造的	を身に付けている。	し、知識を身に付け
	に考察し、導き出し		ている。
	た考えを的確に表現		
	している。		
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
化学的な事物・現	化学的な事物・現	化学的な事物・現	化学的な事物・現
象についての観察、	象についての観察、	象についての観察、	象についての観察、
実験などを通して自	実験などから自然の	実験などを通して、	実験などを通して、
然の事物・現象に関	事物・現象の中に問	観察、実験の基本操	科学における基本的
心をもち、積極的に	題を見いだし探究す	作及び自然の事物・	な概念や原理・法則
それらを探究しよう	る過程を通して、事	現象を探究する技能	などを系統的に理解
とする。	象を科学的、創造的	を身に付けている。	し、知識を身に付け
	に考察し、導き出し		ている。
	た考えを的確に表現		
	している。		
理数生物			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
生物や生物現象に	生物や生物現象に	生物や生物現象に	生物や生物現象に
ついての観察、実験	ついての観察、実験	ついての観察、実験	ついての観察、実験
などを通して自然の	などから自然の事	などを通して、観	などを通して、科学
事物・現象に関心を	物・現象の中に問題	察、実験の基本操作	における基本的な概
もち、積極的にそれ	を見いだし探究する過	及び自然の事物・現	念や原理・法則など
らを探究しようとす	程を通して、事象を科	象を探究する技能を	を系統的に理解し、
る。	学的、創造的に考察	身に付けている。	知識を身に付けてい
	し、導き出した考えを		る。
	的確に表現している。		
理数地学			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
地学的な事物・現	地学的な事物・現	地学的な事物・現	地学的な事物・現
象についての観察、	象についての観察、	象についての観察、	象についての観察、
実験などを通して自	実験などから自然の	実験などを通して、	実験などを通して、
然の事物・現象に関	事物・現象の中に問	観察、実験の基本操	科学における基本的
心をもち、積極的に	題を見いだし探究す	作及び自然の事物・	な概念や原理・法則
それらを探究しよう	る過程を通して、事	現象を探究する技能	などを系統的に理解
とする。	象を科学的、創造的	を身に付けている。	し、知識を身に付け
	に考察し、導き出し		ている。
	た考えを的確に表現		
	している。		

10 体育

(1)教科の目標

心と体を一体としてとらえ,スポーツについての専門的な理解及び高度な技能の習得を目指した主体的,合理的,計画的な実践を通して,健やかな心身の育成に資するとともに,生涯を通してスポーツの振興発展に寄与する資質や能力を育て,明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。

(2)教科の評価の観点及びその趣旨

改	ΙĒ	従	前
関心・意欲・態度	スポーツ文化を尊	関心・意欲・態度	体育・スポーツに
	重し,主体的,合理		関する諸課題に関心
観点名変更なし	的,計画的に,各科		をもち,自ら進んで
	目の学習に取り組も		解決しようとする。
	うとする。		また,運動の特性に
			応じた実践に必要な
			態度を身に付け,積
			極的に取り組もうと
			する。
思考・判断	生涯を通してスポ	思考・判断	高度な運動技能の
	ーツの振興発展に寄		習得や体育・スポー
観点名変更なし	与することを目指し	-	ツに関する諸課題の
	て,各科目の課題に		解決を目指して,運
	応じた運動や学習の		動の合理的な行い方
	取り組み方 , 健やか		や計画的な活動の仕
	な心身の高め方や維		方を考え,工夫して
	持の仕方を工夫して		いる。
	いる。		
運動の技能	高度な技能の習得	運動の技能	高い水準で競技
	を目指して,各科目		し,運動をする楽し
観点名変更なし	の運動の特性に応じ		さや喜びを深く味わ
	た段階的な技能を身		うために必要な高度
	に付けている。		な運動技能や運動の
			合理的な実践の仕方
			を身に付けている。
知識・理解	スポーツ <u>の</u> 専門的	知識・理解	変化する現代社会
	な実践に関する具体)	における体育・スポ
観点名変更なし	的な事項及びスポー		ーツの意義や必要性
	ツの振興発展に寄与	}	を理解するととも
	するための理論につ	J	に,運動の特性と合
	いて理解している。	<u> </u>	理的で安全な行い方

及び体育・スポーツ
の運営管理などの基
礎的事項を理解し,
知識を身に付けてい
る。

改訂のポイント

専門教科「体育」における評価の観点に変更はないため、改訂の趣旨のポイントを記載する。

「生涯を通してスポーツの振興発展に寄与する」資質や能力を育てることを重視し、体 育科の目標及び科目の名称、目標が改善された。

科目の名称については、スポーツが競技の名称のみならず身体運動や野外活動など幅広い概念として用いられている現状から、すべての科目が、広義な意味でのスポーツに関する学習として整理された。

(3)科目の評価の観点の趣旨(例)

「スポーツ」の評価の観点の趣旨を例示する。

(神奈川県教育委員会作成)

スポーツ			
関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
スポーツ文化を尊	生涯を通してスポ	高度な技能の習得	「スポーツ 」に
重し、主体的、合理	ーツの振興発展に寄	を目指して、「スポ	関して、スポーツの
的、計画的に、「ス	与することを目指し	ーツ 」の運動の特	専門的な実践に関す
ポーツ 」の学習に	て、「スポーツ 」	性に応じた段階的な	る具体的な事項及び
取り組もうとする。	の課題に応じた運動	技能を身に付けてい	スポーツの振興発展
	や学習の取り組み	る。	に寄与するための理
	方、健やかな心身の		論について理解して
	高め方や維持の仕方		いる。
	を工夫している。		

11 音楽

(1)教科の目標

音楽に関する専門的な学習を通して、感性を磨き、創造的な表現と鑑賞の能力を高めるとともに、音楽文化の発展と創造に寄与する態度を育てる。

(2)教科の評価の観点及びその趣旨

改	Ē	従	前
<u>音楽への</u> 関心・意	音楽文化を尊重	関心・意欲・態度	音楽文化を尊重
欲・態度	し,主体的,創造的		し,意欲的,主体
4	に音楽の学習に取り		的,創造的に音楽活
	組もうとする。		動をしようとする。
音楽表現の創意工夫	音楽を形づくって	音楽的な感受や表現	音楽のよさや美し
	いる要素を知覚し、	の工夫	さを感じ取り,創造
T	それらの働きを感受)	的に表現を工夫す
	しながら , 音楽表現		る。
	を工夫し,表現意図		
	をもっている。	<u></u>	
音楽表現の技能	創意工夫を生かし	創造的な表現の技能	創造的な音楽表現
	た音楽表現をするた		に必要な技能を身に
	めの技能を身に付		付けている。
	け,創造的に表して		
	いる。		
鑑賞の能力	音楽を形づくって	鑑賞の能力	音楽を幅広く理解
	いる要素を知覚し、		し,それぞれの音楽
観点名変更なし	それらの働きを感受		の特徴を的確に聴取
	しながら,価値判断		するとともに , その
	し,音楽に対する理		よさや美しさを深く
	解を深め、よさや美		味わう。
	しさを創造的に味わ		
	っている。	J	

☆ 改訂のポイント

芸術科(音楽)や、中学校音楽科と共通の観点に改められ、これらの教科との系統的な関連が図られた。

「音楽を形づくっている要素」とは、中学校音楽科で示している〔共通事項〕のことで、 音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成などをさす。

「感受」とは、音や音楽の特質や雰囲気などを感じ、受け入れることであり、「音楽表現の創意工夫」と「鑑賞の能力」の両方に位置付けている。従前の鑑賞の学習では 音楽的な感受 の部分を「音楽的な感受や表現の工夫」の観点で把握していたが、「鑑賞の能力」に含めて評価する。

音楽的な感受 に基づきながら音楽表現を工夫し、どのように音楽で表すかについて 表現意図をもっている状況を評価することが大切である。 音楽的な感受 に基づきながら楽曲や演奏を解釈したり価値を考えたりして、音楽のよさや美しさを創造的に味わって聴いている状況を評価することが大切である。

また、表現に必要な知識や技術を習得することに加えて、表現と鑑賞の両面にわたる諸能力を高めていくことを重視していることに留意する。

(3)科目の評価の観点の趣旨(例)

原則として音楽科に関する学科において、すべての生徒が履修する科目である「ソルフェージュ」の評価の観点の趣旨を例示する。学校及び生徒の実態に応じて学習活動が異なることから、次の例はあくまでも一つの例として示すものとする。

(神奈川県教育委員会作成)

ソルフェージュ				
音楽への	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	 鑑賞の能力	
関心・意欲・態度	日来权机07周忠工八	日米代兆071X能		
音楽性豊かな表現を	音楽を形づくってい	創意工夫を生かした	音楽を形づくってい	
するための基礎的な能	る要素を知覚し、それ	音楽表現をするために	る要素を知覚し、それ	
力を養う学習に関心を	らの働きを感受しなが	必要な視唱、視奏の技	らの働きを感受しなが	
もち、視唱、視奏、聴	ら、要素の働きを正し	能を身に付け、創造的	ら、要素の働きを正し	
音の学習に主体的に取	く捉え、音楽性豊かな	に表している。	く聴き取りそれを記譜	
り組もうとする。	表現を工夫し、どのよ		し、音楽に対する理解	
	うに歌うか、演奏する		を深めている。	
	かについて表現意図を			
	もっている。			

12 美術

(1)教科の目標

美術に関する専門的な学習を通して,美的体験を豊かにし,感性を磨き,創造的な表現と鑑賞の能力を高めるとともに,美術文化の発展と創造に寄与する態度を育てる。

(2)教科の評価の観点及びその趣旨

改	ΙΕ	従	前
美術への関心・意	美術文化を尊重	関心・意欲・態度	美術文化を尊重
欲・態度	し,主体的,創造的		し,意欲的,主体
	に美術の学習に取り		的,創造的に表現や
	組もうとする。		鑑賞の活動に取り組
	\		もうとする。
発想や構想の能力	感性や想像力を働	発想や構想の能力	感性や想像力を働
	かせて感じ取ったこ		かせて感じ取ったこ
観点名変更なし	とや考えたことなど		とや考えたことなど
	を基に豊かに発想		を基に豊かに発想
	し,よさや美しさな		し , よさや美しさな
	どを考え,創造的・		どを考え,創造的・
	機能的で個性豊かな		機能的で個性豊かな
	表現の構想を練って		表現の構想をする。
	เาล。		
創造的な技能	創造的な表現活動	創造的な表現の技能	創造的な表現活動
	をするために必要な		をするために必要な
	造形感覚や専門的な		造形感覚や専門的な
	技能を身に付け,表		技能を身に付け,表
	現方法を創意工夫し		現方法を創意工夫し
	て表現している。		て創造する。
鑑賞の能力	美術作品や文化遺	鑑賞の能力	美術作品や文化遺
	産,美術文化などに		産などについて幅広
観点名変更なし	ついて理解を深め,		く理解し,感性や想
	感性や想像力を働か		像力を働かせてよさ
	せて価値や美意識を	<u> </u>	や美しさなど深く感
	感じ取り,創造的に		じ取ったり味わった
	味わっている。	<u>}</u>	りする。

约

改訂のポイント

「関心・意欲・態度」が「美術への関心・意欲・態度」に改められ、表面的な学習態度等ではなく、これ以外の3観点に示される資質や能力を身に付けようとしたり、身に付けた力を発揮しようとしたりすることに対する関心・意欲・態度であることが明確にされた。

「鑑賞の能力」においては、美術文化を理解することや、価値や美意識を感じ取ることなどを重視して指導し評価する。

(3)科目の評価の観点の趣旨(例)

美術に関する学科のすべての生徒が原則として履修する科目である「美術史」及び「素描」の評価の観点の趣旨を例示する。

(神奈川県教育委員会作成)

美術史				
美術への関心	・意欲・態度	鑑賞の能力		
美術文化を尊重し、ヨ	上体的、創造的に美術の	美術作品や文化遺産、	美術文化などについて	
変遷に関する学習に取り)組もうとする。	理解を深め、感性や想像	象力を働かせて価値や美	
		意識を感じ取り、創造的	に味わっている。	
素描				
美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力	
造形表現の基礎とな	対象のイメージや空	対象のイメージや空	素描の作品について	
る観察力と描写力を高	間を把握して主題を生	間を把握し、造形表現	理解を深め、感性や想	
める学習に取り組もう	成し、よさや美しさな	の基礎となる観察力と	像力を働かせて価値や	
とする。	どを考え、創造的で個	描写力を高め、表現方	美意識を感じ取り、創	
性豊かな表現の構想を		法を創意工夫して表現	造的に味わっている。	
	練っている。	している。		

13 英語

(1)教科の目標

英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図るうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。

(2)教科の評価の観点及びその趣旨

改	正	従	前
コミュニケーション	コミュニケーショ	関心・意欲・態度	コミュニケーショ
<u>への</u> 関心・意欲・態	ンに関心をもち,積		ンに関心をもち,積
度	極的に言語活動を行		極的に言語活動を行
	い,コミュニケーシ		い,コミュニケーシ
	ョンを図ろうとす		ョンを図ろうとす
	る。		る。
<u>英語</u> 表現の能力	英語で話したり書	表現の能力	英語を用いて,情
4	いたりして,情報や		報や考えなど伝えた
	考えなどを適切に伝		いことを場面や目的
	えている。		に応じて話したり,
	/		書いたりして表現す
			る。
英語理解の能力	英語を聞いたり読	理解の能力	英語を聞いたり,
A	んだりして,情報や		読んだりして,情報
)	考えなどを的確に理		や話し手や書き手の
	解している。		意向など相手が伝え
		<u> </u>	ようとすることを場
			面や目的に応じて理
			解する。
言語や文化について	英語の学習を通し	知識・理解	英語の学習を通し
<u>の</u> 知識・理解	て,言語やその運用		て,言語やその運用
	についての知識を身		についての知識を身
	に付けているととも	_ [に付けるとともにそ
	に,その背景にある		の背景にある文化な
	文化などを理解して		どを理解している。
	いる。		

改訂のポイント

- ・「英語表現の能力」と「英語理解の能力」の双方において、計画的にバランスよく評価を行う。
- ・4技能を総合的に育成するよう指導する。
- ・4技能を統合的に活用できるよう、言語活動を充実させる。
- ・文法指導を言語活動と一体化させる。

・「言語や文化についての知識・理解」が、単なる知識の暗記ではなく、コミュニケーションを目的とした言語運用に資する形で身に付くよう指導する。

(3)科目の評価の観点の趣旨(例)

原則として英語に関する学科のすべての生徒が履修する科目である「総合英語」及び「異文化理解」の評価の観点の趣旨を例示する。

(神奈川県教育委員会作成)

総合英語				
コミュニケーションへ			言語や文化について	
の関心・意欲・態度	英語表現の能力	英語理解の能力	の知識・理解	
コミュニケーション	英語で話したり書い	英語を聞いたり読ん	英語やその運用につ	
に関心をもち、積極的	たりして、情報や考え	だりして、情報や考え	いての知識を身に付け	
に言語活動を行い、コ	などを適切に伝えてい	などを的確に理解して	ているとともに、言語	
ミュニケーションを図	る。	いる。	の背景にある文化など	
ろうとする。			を理解している。	
異文化理解				
コミュニケーションへ	学売主用の能力	*** 田舎の代表	言語や文化について	
の関心・意欲・態度	英語表現の能力	英語理解の能力	の知識・理解	
異なる文化をもつ	英語で話したり書い	英語を聞いたり読ん	英語やその運用及び	
人々とのコミュニケー	たりして、外国の事情	だりして、外国の事情	外国の事情や異文化に	
ションに関心をもち、	や文化と我が国の事情	や異文化についての情	ついての知識を身に付	
積極的に言語活動を行	や文化との相違や類似	報や考えなどを的確に	けているとともに、外	
い、コミュニケーショ	性などを適切に伝えて	理解している。	国の事情や文化と我が	
ンを図ろうとする。	いる。		国の事情や文化との相	
			違や類似性などについ	
			て理解している。	

高 第382号 平成19年3月30日

各県立高等学校長 殿

高校教育課長

「目標に準拠した評価・観点別評価」の実施について(通知)

現行の学習指導要領は、知識や技能に加え、自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に 判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力、また学ぶ意欲まで含めた「確かな学力」をはぐくむことを基本的なねらいとしています。

そこで、生徒の学習状況の記録である高等学校生徒指導要録の各教科・科目の評定は、その目標や内容に照らし、実現状況を総括的に評価(「目標に準拠した評価」)して5段階で表示すること、併せて「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」の四つの観点による評価(「観点別評価」)を十分踏まえることが、平成13年4月27日の文部科学省初等中等教育局長通知で示されています。

本県ではこれまで、「確かな学力」の向上のため、シラバスの作成と評価規準の研究などを進めてきましたが、平成 19 年度から全県立高等学校で「目標に準拠した評価・観点別評価」を実施しますので、通知します。

なお、別紙のとおり、基本的な留意事項をまとめた実施指針を定めましたので、本指針に基づき、適正に実施するようお願いします。

また、これまで「確かな学力」の育成をめざし、県立高等学校学習状況調査、生徒による授業評価、神奈川県公立高等学校入学者選抜学力検査の結果の公表を実施し、その結果を活用しながら、各学校において授業改善や教員の指導力向上に取り組むようお願いしてまいりましたが、今後は「目標に準拠した評価・観点別評価」の実施を含め、「確かな学力」の育成に取り組むようお願いします。

問い合わせ先 教育指導担当 電話 (045)210-8260(直通) 各県立高等学校長 殿 各県立中等教育学校長 殿

高校教育指導課長

県立高校及び中等教育学校(後期課程)における「目標に準拠した評価・観点別評価」の取組及び評価結果の通知方法について(通知)

このことについて、平成19年度から、全ての県立高校で「目標に準拠した評価・観点別評価」を実施し、観点別学習状況の評価結果については、通知表に記載することなどにより、生徒・保護者に対し、原則として学期ごと、成績処理支援システムによる帳票にて、通知にお取り組みいただいているところです。

学習評価については、周知のとおり、平成22年5月11日付け文部科学省初等中等教育局長通知「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」(以下、「通知」という。)において、目標に準拠した評価・観点別学習状況の評価を引き続き実施し、きめの細かい学習指導と生徒一人ひとりの学習の確実な定着を図ることが必要とされました。

そのため、各学校においては、引き続き「目標に準拠した評価・観点別評価」にお取り 組みいただくとともに、「通知」を踏まえ、学習評価をとおして学習指導のあり方を見直し、 個々の生徒に応じた指導の充実にお取り組みいただくことが必要です。

また、生徒・保護者への観点別学習状況の評価結果の通知方法については、これまで各学校に概ね一律の方法でお取り組みいただいてまいりましたが、年度末(半期ごとに単位修得認定及び通知を実施している学校においては各学期末)に各教科・科目の評定及び修得単位の認定を通知する際を除き、学校ごとに効果的な通知方法を検討し、実施していただきたいと考えます。

ついては、平成23年度以降の観点別学習状況の評価結果の通知方法について、別添の各項を踏まえて御検討いただき、適切にお取り組みいただくようお願いします。なお、御決定いただいた観点別学習状況の評価結果の通知方法及び開始時期を把握させていただくため、別紙のとおり調査を行いますので、庁内照会回答システムにより平成23年3月18日(金)までに御回答くださるようお願いします。

送付資料

- 〇(別添)県立高校及び中等教育学校(後期課程)における「目標に準拠した評価・観点 別評価」の取組及び評価結果の通知方法に係る留意事項
 - (別紙)県立高校及び中等教育学校(後期課程)における「目標に準拠した評価・観点 別評価」の生徒・保護者への通知に係る調査票

問い合わせ先 教育課程指導グループ 電話 045-210-8260(直通)

印刷 平成25年1月31日

発 行 平成25年1月31日

編集者神奈川県教育委員会教育局教育指導部

高校教育指導課長 久保田 啓一

保健体育課長 田中 不二夫

発行者 神奈川県教育委員会

〒231-8509 横浜市中区日本大通33 TEL(045)210-8260 (高校教育指導課) TEL(045)210-8312 (保健体育課)

